

人間関係とコミュニケーション/Human Relations and Communication

CF101

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年 前期
2単位 前期
講義・演習

寺門 正顕

〔授業の概要〕

ケアを受ける人にとっては、ケアを提供する人に「安心・安全・信頼」などを求めることは当然のことで、だからこそ、ヒューマンケアを目指す人にはケアを受ける人との良好な人間関係の構築が必要となる。そのためには適確で穏やかなコミュニケーションの実践が重要なキーワードになるが、本講座では、ヒューマンケアを目指す人に必要なコミュニケーションの様々な形、ケアの対象に応じた多様なコミュニケーション（言語・非言語的）のあり方と活用方法について学ぶ。このような学習を通して、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。

〔到達目標〕

1. 人間関係におけるコミュニケーションの意味と構成要素が理解できる。
2. 医療・福祉の専門職として対人コミュニケーションに取り組めることを目標にする。
3. 多様なコミュニケーションの活用方法を理解して他者との関係性を発展できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP2

〔授業計画〕

- 第 1 回（講義）ガイダンス
人間関係とは：人間関係を理解するための基礎的な概念や理論
- 第 2 回（講義・演習）コミュニケーションの基本的スキル
コミュニケーションの基本的スキルを学び、実際にワークを通して演習する
- 第 3 回（講義・演習）客観的な理解
コミュニケーションの阻害要因に気づく
- 第 4 回（講義・演習）チームをつなげるコミュニケーション
構成的グループエンカウンター演習
- 第 5 回（演習）コミュニケーションゲーム演習 1
ゲーム形式のワークを通じた、グループによるコミュニケーション演習（1）
- 第 6 回（講義・演習）青年期の自己形成
アイデンティティの形成、日本人の文化的特徴、自己形成との関連
- 第 7 回（講義・演習）考え方に気づく
原因の帰属、楽観的・悲観的などの自己の思考特徴に気づく
- 第 8 回（講義・演習）自己分析
エゴグラム等の性格検査による自己の性格や対人傾向の分析

- 第 9 回（講義）社会・集団・組織心理学からみた人間関係
人間関係に影響を及ぼす心理的諸要因について
- 第 10 回（講義・演習）SSTの体験演習
SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）の理論と体験演習
- 第 11 回（講義・演習）アサーションとは
アサーティブ・コミュニケーションの概要と演習
- 第 12 回（講義・演習）人間関係トラブルのケースワーク
人間関係におけるトラブル事例をもとに、多面的に考えるグループワーク
- 第 13 回（講義）ストレスへの対処
ストレスのメカニズム、ストレス要因と対処方法について
- 第 14 回（演習）コミュニケーションゲーム演習 2
ゲーム形式のワークを通じた、グループによるコミュニケーション演習（2）
- 第 15 回（講義・演習）幸せとは何か
ポジティブ心理学から見た幸せ・幸福の要因

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：適宜資料を配布します。

参考書

1. 岡堂哲雄編著「人間関係論入門」金子書房,2010.
2. 石川ひろの著「保健医療専門職のためのヘルス コミュニケーション学入門」大修館書店,2020.

〔成績評価の方法・基準〕

振り返りシート（リアクションペーパー）（30％） 最終レポート（40％） 授業・演習参加状況（30％）

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

授業後に復習をしてください。毎回の振り返りシートを記述する体験の言語化が重要です。ワークや演習での体験が重要になりますので、皆さんの積極的な参加を求めます。図書館等を利用し、広くコミュニケーションに関する知識を得てください。

〔オフィスアワー〕

授業終了後教室で質問を受けつけ、その他についてはメールで受けつけます（mterakad@sjc-nagano.ac.jp）。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

毎回、グループによるワークや演習を実施するので、必ず、ネームホルダーを持参してください。

信仰と文化/Faith and Culture

CF102

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年
2単位 後期
講義

矢嶋 雅人、風早 康恵

〔授業の概要〕

人間社会がつくり出した文化を、その価値を共有するためには、何よりも一人ひとりの精神的価値（宗教、理念など）を束ねることが重要な課題であった。この現象は、古代から現代まで、中東からアジアの国に至るまで時代と国境を越えた人間歴史が共通する痕跡で、人間社会の本質を知る上で必須不可欠な学びである。特に信仰には、文化圏で育まれた世界観や倫理感を反映した枠組みを必ず持つが、本講座では、信仰対象の多様性と文化の成り立ちから日本の伝統精神を理解し、日本人らしさとは何かを学ぶ。さらに、日本人の生活様式、価値観、倫理観、死生観等の形成に大きく影響してきた神道、仏教の考えについて理解する。「人の生命の現場」に向きあいながら、人生の中で「ケア」の道を目指す学生と「仏教の生命観・死生観」に視点を置きながら学びを深める。

〔到達目標〕

1. 自然・風土・生活のうちに醸成される「信仰」の根幹にあるものは、「命をはぐくみ、守り、再生させる」希求であり、他者とともに共同体・組織を支えようとするエネルギーといえる。共同体に根づく「信仰」は、「共存」「共生」の祈りが形を得たものであることを実感するとともに、「人間」を理解するために有用かつ重要なアプローチのひとつが「信仰」であることを理解する。
2. 仏教は「人はいかに生きるべきか」を説く一方で、葬送儀礼を通じた「死」の現場の担い手でもあった。必ず訪れる「死」に対して、仏教や社会、先人や地域はどのように向き合ってきたのかを学びつつ、「死」が照射する日々の「生」の充実について理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
・仏教の出発点「無常」について。釈尊はなぜ「生老病死」を四苦と位置づけたか。
- 第2回 死の受容について
・人は「死」をどう迎え、どう受け入れてきたか。仏教説話からエンディングノートまで。
- 第3回 死を弔うことについて
・人をどう送ってきたか。歴史的経緯、弔いの変遷、地域の役割の変化。
- 第4回 釈尊が最期に遺したもの
・涅槃図と遺経から考える。「生老病死」の海を渡る「堅牢の船」とは。
- 第5回 利他という生き方①
「四摂法（布施・愛語・利行・同事）」を学ぶ。

- 第6回 利他という生き方②
「四摂法（布施・愛語・利行・同事）」を学ぶ。
- 第7回 災害と向き合う。まとめ
・江戸期の大水害「戊の満水」と地域習俗。
・これまでの授業のまとめ
- 第8回 オリエンテーション
「信仰」「神道」「宗教」等のキー・ワードに対する印象を聞き取る。
世界宗教・民俗宗教に関しても、以後の授業で折々に簡単な解説を行う。
「人の生命、生活と向き合う」専門職を目指すにあたって、なぜ「信仰」「文化」の知識が必要なのか、という点についても、適宜、機会をもうけて説明する。
- 第9回 日本における、共同体の信仰の源流を学ぶ（世界の宗教とともに）
・「信仰」と「宗教」と
・自然・風土・生活のうちの、共同体の信仰
・遺跡にみる原始信仰
・日本の風土において、「神」「神道」はどのように理解できるか
- 第10回 風土の諸相と、生み出される信仰・祭祀とを学ぶ
・山宮－里宮－田宮の構造
・「町」「国」「日本一国」の祭祀の構造
・「子守り・命を守る」祭祀
- 第11回 神社－「社」の源流を学ぶ
・神社の起源
・「モリ」と「森」と「社（モリ）」
・様々な祈り、様々な神社と生命観
- 第12回 四季の神事・祭礼を学ぶ（1）
・祭りの春夏秋冬
・共同体の春夏秋冬
・人生の春夏秋冬
・命を守り・はぐくみ・再生させる祭り
- 第13回 四季の神事・祭礼を学ぶ（2）
・神事・祭礼を支える集落の心
- 第14回 来訪神－災禍と予祝と。古典に学ぶ
・『常陸国風土記』の富士と筑波
・大和の三輪山と二神山
- 第15回 授業のまとめ・映像に学ぶ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

矢嶋：使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。
風早：授業ごとに、講師作成の資料を配布する。有用と考える書籍等は、授業のさいに紹介してゆく（購入を義務づけず）。
〔成績評価の方法・基準〕
矢嶋：レポート（50％）授業への参加態度等（50％）
風早：レポート（40％）授業参加状況（60％）
課題に対するフィードバックの方法については授業時に説明する。

〔課題に対するフィードバック〕

矢嶋：レポートにはコメントを付けて返却する。

風早：原則、毎回記入のリアクション・ペーパーを授業に還元させ、理解を助けてゆく。

〔授業時間外学修〕

矢嶋：予習は不要。授業の中で事例を多く紹介するので、復習として「自分ならこう考える、こう対応する」という視点からまとめておく（30分程度）。

風早：学びのポイントについては授業時に説明し、資料紹介を行う。

授業ごとに生じる「疑問」を大切に。

〔オフィスアワー〕

矢嶋：授業終了後教室で質問を受け付け、その他についてはメールで受け付ける（kaiouin@gmail.com）

風早：毎回、授業終了後に教室にて質問を受ける。さらに質問に答える必要があれば学生と相談のうえ指示を行う。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

曹洞宗の僧侶として約20年間、海應院住職として10年間、地域社会の中で与えられたつとめを担ってきた。坊さんとして接した人、取り組んできたことなどを通して得られた具体的な事例を中心に講義する。（矢嶋）

神職資格を有し、神社での実務を経験。国文学研究ののち再度、大学院にて儀礼・信仰・伝統芸能に関する研究を継続中。民俗芸能学会常務理事。（風早）

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

矢嶋：医療や看護・介護の領域は、遠い近いの違いはあってもいずれ訪れる「死」と地続きの側面があります。近年ますます隔離され遠ざけられる「死」について、多様な視点から考えるきっかけを得る機会を提供できればと思います。

風早：皆さんと一緒に、わが国の共同体の信仰と死生観、神観念などを具体的に検証し、それらを「ともに生きる」実感に繋げてゆきたいと思っています。国際化がすすむ現代ですから、世界三大宗教（イスラームなど）、三大民族宗教（ヒンドゥー教など）の概念についても、簡潔にふれます。全国の神社、個性的な神事、ユニークな祭祀についても、映像を活用しつつ紹介します。

ケアと人権/Care and Human Rights

CF103

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位 前期
講義

上西 一貴

〔授業の概要〕

ソーシャルケアの対象となる人々は、その生成過程での社会的孤立や排除、無権利や無救済などに加え、生活、社会的地位と権利などの面でいわゆる「弱者」の位置に置かれることが多い。従って、制度、サービスの運用面で最大の「配慮」を必要とするだけでなく、ケアの実践の場面におい

ても人間の尊厳を踏まえた倫理的・道義的配慮と、人権の尊重が求められる。ハンセン病、被爆者、子どものいじめ・虐待、精神疾患者・認知症者等の身体拘束と隔離などの、歴史的、現代的課題を学ぶことで、ケアの基本目標のひとつである基本的人権の確保と尊重についての理解を深める。

〔到達目標〕

①差別されたり社会的に排除されたケアの対象者に共感できる。

②ケアと人権の結びつきを自分の言葉で表現できる。

③自分の身近なところにある差別や社会的排除の事例の構造を説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

第1回 ケアと人権の当事者

〔KW：ケア〕ケアにおける人権侵害のさまざまな主体について理解する。

第2回 人権と尊厳

〔KW：人権〕人権や尊厳について一般的な考え方を理解する。

第3回 人権問題（1）

〔KW：生活保護〕生活保護バッシングなどを例に、人権侵害に関する抑圧構造を理解する。

第4回 人権侵害（2）

〔KW：身体拘束〕身体拘束などを例に、人権侵害に対するケアの当事者の葛藤を理解する。

第5回 人権侵害（3）

〔KW：ハンセン病〕ハンセン病などを例に、誰もが人権侵害の当事者であることを理解する。

第6回 人権侵害の根幹（1）

〔KW：自立〕自立に着目して、ケアとの関連の歴史、現在直面している課題を理解する。

第7回 人権問題の根幹（2）

〔KW：優生思想〕優生思想に着目して、ケアとの関連の歴史、現在直面している課題を理解する。

第8回 人権侵害に対抗するケア

〔KW：承認〕人権侵害に対抗するケアの意義について理解する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

◆テキスト

使用しません。manabaに資料を掲載しますので印刷物は配布しません。各自PC等を持参するか印刷して持参することを推奨します。

◆参考書

授業内で提示します。

〔成績評価の方法・基準〕

各回のmanabaふりかえり [50%]、レポート課題 [50%]

※各評価の詳細な基準については講義内で提示します。

〔課題に対するフィードバック〕

manabaふりかえりについては、次の回の講義で取り上げ、コメントします。

レポート課題については要望があれば個別に点数をお知らせします。

〔授業時間外学修〕

◆予習（8時間）

各回の最後に提示される次回のキーワードについて講義前までに調べておく。授業終了時に提示するお題について次回講義までに自分なりの考えを整理してくる。

◆復習（8時間）

振り返り票を記入する。講義資料を必ず読み返す。必要に応じて参考文献を読む。

〔オフィスアワー〕

個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。k-jonishi@saku.ac.jp

※メールアドレスの●は@に置き換えて下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

人間存在と世界観/Human Existence and Worldview

CF104

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年
2単位 前期
講義

江口 建

〔授業の概要〕

人間は、長い進化の歴史の中で常に存在の意味や価値を問いかけ、その答えを宗教や理念、文化などのあらゆる面から見つけ出そうとしてきた。その中で個人と世界との関連性に意味を与え、客観的かつ社会的存在としての意識も高まっているが、本講座では、その社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考えることにより、社会的行為の意味を理解する。また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、個々を尊重し合う社会環境の創成と自らの関わり方について視野の拡大を考える。

〔到達目標〕

1. 多様な視点を獲得することによって、自分の中にある判断基準を相対化し、**偏見や固定観念に囚われない物の見方**を醸成することができる。
2. 表面的な価値観を透かして、物事の根底にある「**本質**」を**洞察する力**を身につけることができる。
3. 雑多な情報が氾濫し、善悪の基準が多様化している現代において、**倫理観と責任感の意味**を理解し、自分のふるまいを批判的に吟味しながら、**善悪とは何かを見極める判断力**を培うことができる。
4. 仮想空間やデジタルツールが浸透している現代社会において、自己と世界との関係、社会的存在の意義、生命の価値について改めて考え、**自由、権利、義務、共存**といった概念について理解を深めることができる。
5. 自分とは異なる意見についての理解を深め、自己と他者との差異を認めながら、他者に対して**寛容の精神**をもって応答する資質を養うことができる。

6. 互いに「問いかけ」、共に「考え」、自分の言葉で他者に「伝え」、さらに他者の考えに真摯に「耳を傾ける」という**対話的姿勢**を涵養すると同時に、「共に考える」という**共同的思考**の意義を理解することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の目的と心得： 哲学的・倫理的に思考するとは？

第 2 回 思考実験①

自分の生存のためなら他人を犠牲にすることも許されるか

——「カルネアデスの舟板」

第 3 回 思考実験① 続き

論点整理、問いの掘り下げ

第 4 回 思考実験②

犠牲になる命を選べるか

——「密室の爆弾」とトリアージ

第 5 回 思考実験② 続き

ディスカッション

第 6 回 思考実験② 続き

論点整理、問いの掘り下げ

第 7 回 思考実験③

少数の命 vs. 多数の命

——「トロッコ問題」

第 8 回 思考実験③ 続き

ディスカッション

第 9 回 思考実験③ 続き

論点整理、問いの掘り下げ

第 10 回 思考実験③ 続き

再考： 変形バージョン

第 11 回 思考実験④

社会的に公平な殺人は存在しうるか

——「臓器くじ」

第 12 回 思考実験④ 続き

ディスカッション

第 13 回 思考実験④ 続き

論点整理、問いの掘り下げ

第 14 回 思考実験④ 続き（再考）

社会的正義のための殺人？

——『イキガミ』、『ギフト±』

崇高な目的のためなら道徳を踏み越えてもよいか

——『罪と罰』、『デスノート』

第 15 回 まとめ

講義全体を通したテーマのまとめと振り返り、哲学レポートの書き方

〔テキスト・参考書・参考文献〕

使用しない。必要に応じてプリント等の資料を配布する。参考文献は、議論の展開に応じて、そのつど授業中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

・レポート：70%

・毎回のリフレクションシート：15%

・授業中の課題および授業参加状況：15%
(積極的な発言、意欲的に取り組む姿勢、授業への貢献度など)

【課題に対するフィードバック】

フィードバックとして、毎回または定期的によりフレクシオンシートを返却し、考えや意見を全員で共有します。レポートについては、後日、全体講評をmanabaに掲載します。質問へのフィードバックは、随時、授業中に行います。

【授業時間外学修】

1. 事前に配布(掲載)するプリントに十分に目を通して、テーマや問題について正確に理解したうえで、分からない概念や用語があれば、下調べをして授業に臨んでください(1回の授業につき、1.5時間程度の予習が必要)。

2. 毎回の授業後に、所定の期日までにリフレクションシートを書いて提出してもらいます。また、その日の授業内容のまとめをWebに掲載しますので、次週の議論にスムーズに参加できるように頭の中を整理し、自分の考えを深めておいてください(1回の授業につき、1.5時間程度の復習が必要)。

※自分なりに問題意識を所有して授業に臨んでください。時間のあるときに(自宅で、あるいは登下校の途中などに)絶えず考える習慣を身につけることをお勧めします。普段からアンテナを張り巡らせて、時事的・社会的な問題に敏感になっておくと、レポートを執筆するときに必ず役に立ちます。

【オフィスアワー】

随時、メールで質問・相談を受け付ける。

Mail: philosophooh●gmail.com (送信するときは、●の部分を変えてください)。

【実務経験のある教員等による授業科目】

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

【教員よりメッセージ】

現代は、価値観が多様化し、容易に「正解」が導き出せない時代です。命の価値も無条件に信じられなくなっているように感じます。そういう時代において、他者の命をいかに扱うべきか、また、いかなる条件のもとで倫理が成立するのかを徹底的に見極めることは大事です。授業では、「**道徳的ジレンマ**」と呼ばれる幾つかの究極的な思考実験を通じて、「命」について自問し、自己と社会との関係を見つめながら、倫理的な行動の可能性を探ります。

例えば、「一人の大切な命」と「見知らぬ千人の命」、どちらが大事でしょうか？ 私たちが何らかの行動を起こすとき、大別して二つの考え方があります。一つは、「他人のために自分が損をするのは馬鹿らしい」と考える立場です。もう一つは、「たとえ自分が犠牲になっても、全体の幸福を考えるべきだ」とする立場です。これを、社会心理学や数理経済学では、**個人的合理性**と**集団的合理性**という立場で表現します。例えば、満員のエレベーターの中で、「他の人が降りてくれないかな・・・」と無意識のうちに願ったことはないでしょうか。あるいは、友達と旅行の計画を立て、

行き先や日程の希望が分かれたとき、自分の都合を優先したいと思うのは自然な欲求です。

でも、これが「命」に関わる出来事である場合、その行動次第で、あなたの倫理性が問われます。震災に巻き込まれたとき、自分ひとりで避難するか、それとも瓦礫の下に埋まっている人々を助けたいと思うか。船が沈没したときに、自分が真っ先にボートに乗るのか、それとも子どもやお年寄りなど、体力のない人を先にボートに乗せるのか。自分の命を捨ててまで他人を救うのは不合理だと考えるか、それとも、たとえ自分の命を犠牲にしても、被害は「最小限」にとどめるべきだと考えるか。あなたが総理大臣だったら、「自分の家族」の命と「国民全員」の命、どちらを優先するのか。

命と向き合う仕事に就く前に、一度は本気で考えておきませんか？

【履修上の留意点】

※受講人数にかかわらず、教員と学生が対話しながら授業を進めます。積極的な発言を高く評価します。

※授業中は、必要に応じて歴史上の優れた哲学者や倫理学者の考え方を紹介しますが、知識の伝授を目的とはしません。したがって、「暗記」を重視しません。それよりも、各自がみずからの動機に応じて自分なりの「問題意識」を持って、それについてねばり強く「考える」ことを第一目的としますので、そのつもりで参加してくださると嬉しいです。簡単に「答えが出る」問題よりも、「答えが出ない」問題を一緒に考えてみましょう。価値観が多様化し、未来予測が困難な時代にあっては、一見「正解」のように見えるものに飛びつくよりも、他者と対話しながら、多くの「答え」の背後にある多様な「考え方」を知り、その根拠を「**深掘り**」する能力が重宝されます。手頃な「正しい答え」に飛びつくよりも、「**正しさ**」の**基準**や、「**正しい**」と思うときの**判断の根拠**について深く考えるほうが、意義があります。また、「答え」の前に、そもそも「**本当の問題**」とは何なのかを発見する力が重要になります。この講義では、容易に一つの答えを導けない問題について、「**考え方**」や「**問い方**」、「**論点の見つけ方**」を学びます。

宇宙と生命の起源/The Universe and the Origin of Life

CF105

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目

1年

1単位 前期

講義

坪根 徹

【授業の概要】

生命はどのように誕生し、地球環境にどのような形で応答しながら進化してきたのか？本講座では、地球46億年の歴史と生命の発生と進化の連続性について、分子生物学的な視点から生命現象を理解する。また、近年の天文観測では、生命の起源となる地球の生命の構成要素がすべて宇宙に存在することが確認されている。宇宙における生命の起源、

進化、伝播、および未来を探求するアストロバイオロジー（宇宙生物学）という新たな知見からも学びを深める。

〔到達目標〕

宇宙史、地球史の概要をつかみ、その中での現代科学における生物、生命の位置づけを理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<介>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

第1回 「宇宙のすがた」

天体観測施設「うすだスタードーム」の紹介と、そこで撮影・作成した豊富な天体写真、資料を使いながら、天文の楽しさと天文学が描き出す宇宙の姿と歴史について概観する。

第2回 「天文と地球環境」

天文観測は地球の大気環境等に大きな影響を受けるため、宇宙の観測と同時に地球環境の観測をしているという側面がある。また天文学の知見は、地球環境を「外から」見るという視点を与えてくれる。天文学と環境学との意外な関わりを紹介する。

第3回 「地球史・生命史と宇宙（1）」

現代までに明らかとなった地球史を概観し、その中で起こった生命の大量絶滅などのイベントが、実は宇宙と深い関わりがあったことを概説する。

第4回 「地球史・生命史と宇宙（2）」

白亜紀末の大量絶滅など、宇宙起源と考えられているいくつかの地球史イベントと、それによってもたらされた生命史への大きな影響を概説する。

第5回 「分子生物学と宇宙」

分子生物学の歴史と内容を概観し、生命の構成要素となる化合物や元素について概説する。また、そうした物質が宇宙で生まれ、宇宙の進化とともに作られてきたものであることを概説する。

第6回 「宇宙と生命起源物質」

地球生命の構成要素となる物質が、地球外でも多く発見されている。現代天文学の観測研究によって明らかになってきている、宇宙空間に存在する生命起源物質とその生成過程について概説する。

第7回 「アストロバイオロジーとは」

近年、学際的な研究分野として注目を集めているアストロバイオロジー（宇宙生命学）について、その歴史と概要、展望について紹介する。

第8回 「生命・人間と宇宙」

これまでの内容を振り返り、生命と地球宇宙が宇宙との関わりの中で生まれ、進化してきたことを総括する。また、地球外生命発見の可能性も含め、人間の生命への理解について、天文学も大きな役割を担っていることを概説する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特になし。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート 80%、授業参加態度等 20%

〔課題に対するフィードバック〕

レポートは採点を付して返却する。

〔授業時間外学修〕

予習については講義のたびにその内容を指示する。

1回の授業につき1時間程度の復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

公開天文台の職員として24年勤務。実務経験をもとに天文学とその周辺の学術的、教養的事項について講義する。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

授業への積極的参加を望みます。疑問点、知りたい点等あれば、どんどん質問・発言してください。

国際事情と社会貢献/International Affairs and Social Contribution

CF106

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目

1年

1単位 前期

講義

駒村 哲、東田 吉子

〔授業の概要〕

二国間、あるいは多国間における分断・対立と協調の狭間で変動する国際社会の今日的課題を理解する。OECD・WHO・ILOなど様々な分野の活動組織について学び、同時に国際経済情勢などがどのように国際的な活動へ影響を与えるか、また、国際的な社会貢献のあり方について学ぶ。さらに個人、佐久大学・佐久市、JICA等が行っている国際的な社会貢献の実践について学び、国際交流に参加し、国際理解を図る。

〔到達目標〕

（駒村）1. 戦争と平和について基本的な事実を再確認し、論証することができる。

2. 現代国際社会の諸問題を多角的・総合的に捉える視野をもつことができる。

（東田）1. 日本と世界とのつながりを日々の暮らしを通して具体的に理解できる。

2. 多様な文化について理解を深める。

3. 日本の保健・福祉の国際協力について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP5、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

第1回 国際関係論とは何か

駒村 哲

第2回 国民国家とは何か

駒村 哲

第3回 国際社会とは何か

駒村 哲

第4回 第1次世界大戦と第2次世界大戦について学ぶ

- 駒村 哲
- 第 5 回 冷戦とは何か
駒村 哲
- 第 6 回 持続可能な開発目標 (SDGs) を基本に海外との
つながりを考える
東田吉子
- 第 7 回 国内外における宗教と文化についてジェンダーや
社会へ与える課題を考える
東田吉子
- 第 8 回 日本の看護、および地域保健における国際協力と
国際貢献について知る (サウジアラビア、ナイジ
ェリア、タイ等)
東田吉子

〔テキスト・参考書・参考文献〕

駒村

テキスト：国際紛争—理論と歴史 原書第10版、有斐閣
ナイ、ジュニア、ジョセフ・S. 〈Nye, J r., J o s
e p h S.〉/ウエルチ、デイヴィッド・A.【著】〈W e l
c h, D a v i d A.〉/田中明彦/村田晃嗣【訳】

東田

講師が必要に応じて配布

参考文献：国際看護学 (看護の実践と統合3) 田村 やよひ
(編集) メヂカルフレンド社

国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめ
ざして 大橋一友 メディカ出版、他

〔成績評価の方法・基準〕

教員2名による総合評価とする。

駒村：筆記試験 (80%)、授業参加状況 (20%)

東田：筆記試験 (80%)、授業参加状況 (20%)

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

指定したテキストを事前に読んでおくこと。教員が提示す
る課題について調べておくこと。

テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず
復習すること。

1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了時に質問に対応。下記のメールでも対応可能

E-mail: y-tsukada@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

主体的かつ積極的に取り組むこと。他国の事情を知ること
は、同時に自国についても学習することであり、視野を広
げることができます。

多文化理解/Multicultural Understanding

CF108

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位 前期
講義

稲葉 景

〔授業の概要〕

国家とは異なる文脈で世界の歴史を形づくってきた民族と
文化の意味を学ぶ。また、国際的な異文化の理解にとどま
らず、あらゆる文化背景を持った人を尊重し、共存してい
くためにどうしたらよいかを考える。本講義を通して、多
文化共生社会の中で異なる文化背景を持った人との円滑な
コミュニケーションの方法を実施し、互いを理解・尊重し、
共存する体験の機会となることを期待する。

〔到達目標〕

文化学の基本的な学知を習得するとともに、現代の日本社
会における文化間の諸問題に関する論理的思考と課題発見
力を養成し、多文化共生への理解、他者尊重の態度を身に
つけることを目標とする。

〔学位授与方針 (ディプロマポリシー: DP) との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第 1 回 はじめに:「タ (他・多)」「文化」を「理解する」
とは
「タ」(他・多)文化を理解するとはどのようなこ
となのかについて、自分の文化/他者の文化の
「違い」を意識し、この科目での到達目標の意味
を理解する。
- 第 2 回 わたしたちにある「壁」:実験「青い目茶色い目」
実験「青い目茶色い目」を通して、他者を理解す
るために、自己意識にある「壁」を認識し、「自
分」と「他者」の壁について考える。
- 第 3 回 グループワーク「ひょうたん島問題」(理論編):
「異文化との出会い」
「ひょうたん島問題」のワークショップを通じて、
文化が異なる者同士での理解の難しさを理解し、
多文化理解の課題と解決策を考える。
- 第 4 回 グループワーク「ひょうたん島」(実践編):「異
文化コミュニケーション」
「ひょうたん島問題」のワークショップを通じて、
文化が異なる者同士での理解の難しさを理解し、
多文化理解の課題と解決策を考える。
- 第 5 回 生活のなかにある「多文化」①:さまざまな宗教か
ら食卓を考える
日本ではあまり意識することが少ない宗教文化に
ついて理解する。特に、宗教における暦や食文化
などから、具体的な生活における宗教への理解を
学ぶ。
- 第 6 回 生活のなかにある「多文化」②:日本語である
「ハーフ」

日本に特徴的な「ハーフ」について考える。多文化になりつつある日本社会での多様な人種への理解を考える。

第 7 回 生活のなかにある「多文化」③：日本に住む外国人労働者

少子高齢化した日本社会において外国人労働者は日本になくなくてはならない存在となっている。日本における外国人労働者の環境について現状を学び、課題と解決策を考える。

第 8 回 まとめ：真の共生社会実現のために私たちが「ワレワレゴト」としてできること

多文化社会となりつつある日本において、真の共生社会となるためには何が必要とされているのか、7回の授業での学びを元にわたしたちに求められている力を考える。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキストは特に設定しない。参考書としては、松尾慎『多文化共生』、藤原孝章『ひょうたん島問題』、指宿昭一『使い捨て外国人』等、その他、適宜資料等を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

各回のリアクション記録45%、期末最終課題55%

〔課題に対するフィードバック〕

毎回のリアクションペーパーに対して、次回コメント、補足、質問への回答を行なう。

〔授業時間外学修〕

予習として、事前課題を行なう。指示された資料等を読み、疑問や意見をまとめ発表を準備する。(2時間)

復習として、補足資料や講義で言及された書籍や映像作品等にあたり、考察を深める。(2時間)

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。リアクションペーパー上の質問には翌週の講義で回答する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

講義の中で適宜グループワークなどを求めます。積極的な参加を期待しています。

ジェンダー論/Gender Studies

CF109

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年 前期 講義
1単位

吉中 季子

〔授業の概要〕

「ジェンダー」は、現在、社会学のみならず多くの学術分野で重要な概念として使用されている。また、「性/性別」に関わるさまざまな社会現象・社会問題について言及する際にも用いられ、マスメディアでも目にする機会が増えてきている。日本は公的・社会的な役割分業、家族などの私人間関係における性別役割分業のジェンダー視点での見直し、

再構築が、先進国の中で最も遅れている。

本講義では日本の現実に触れながら、社会政策・福祉・歴史的にみるジェンダーの構築と構造について、基本的概念を日常的な問いから理解する。また、社会および個人の多様な価値観・文化の違いを理解し、ジェンダーをめぐる諸課題を自分自身の生活と関連付けて考え、表現する力を養う。

〔到達目標〕

- ・社会や生活の中にあるジェンダーとその背景を理解する。
- ・社会構造的に構築された社会システムとその課題について理解する。
- ・ジェンダーを超えた多様な価値観を理解し、自分自身の生活に関連付けて考えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

第 1 回 ジェンダーとは何か

第 2 回 暮らしの中にあるジェンダー

第 3 回 社会保障とジェンダー

第 4 回 女性の貧困

第 5 回 家族とジェンダー：ひとり親世帯から

第 6 回 労働とジェンダー

第 7 回 暴力とジェンダー

第 8 回 ジェンダーを超えて

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：特になし。

レジュメ・参考文献などを配布。

〔成績評価の方法・基準〕

リアクションペーパー 30%、最終レポート 50% 授業への参加態度等 20%

〔課題に対するフィードバック〕

※リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。

※レポートは、採点コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。(事前学習。目安として1時間)

授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。(事後学習。目安として1時間)

〔オフィスアワー〕

授業内で提示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

アジア事情/Asian Affairs

CF110

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年 前期
1単位 講義

廣橋 雅子、李 省翰

〔授業の概要〕

アジアにおいて経済発展を成し遂げている中国・台湾・韓国に着目し、それぞれの社会・文化・生活について基本的知識を学ぶ授業である。各国の成り立ちや、近代社会の発展過程、そして持続可能なアジア社会を維持するために各国の国民が目指す目標や考え方を学ぶ。異なる国の背景を理解することで、学生の自国との比較が期待され、国際的思考や視野を広げることを目的にする授業である。

〔到達目標〕

- ①グローバルな視点からアジアを理解することができる。
- ②中国・韓国・台湾それぞれの国の文化・経済・生活に対する具体的な事情を把握することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP5、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第1回 授業説明・中国の現代事情（地域と文化）
廣橋雅子
- 第2回 中国の現代事情（社会と福祉）
廣橋雅子
- 第3回 韓国の現代事情（社会と経済）
李 省翰
- 第4回 韓国の現代事情（文化と福祉）
李 省翰
- 第5回 韓国と日本における新たな社会問題、そして課題
李 省翰
- 第6回 歴史から学ぶ台湾の社会構造
廣橋雅子
- 第7回 他民族多文化共生の台湾が目指すもの
廣橋雅子
- 第8回 【演習】異文化の紹介（グループ発表）
廣橋雅子

〔テキスト・参考書・参考文献〕

教員自作資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕

授業参加への積極性 20%

個人課題提出 30%

(次の授業で返却します)

グループワーク発表 50%

〔課題に対するフィードバック〕

〔授業時間外学修〕

配布する資料や自ら新聞記事、雑誌、書籍から課題資料に関連する情報を収集し、授業時にディスカッションができる準備をしておくこと。

〔オフィスアワー〕

講義内で周知する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

日中、日韓バイリンガル及び海外生活経験、職務経験など国際的に活動している教員を配置した授業になる。書籍からの情報だけではなく、国際的視野を養うことを目的とし、自文化及び多文化に対する興味を持てるよう最新の情報を収集できるよう指導する。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

8回の授業しかないため、授業で学ぶ内容は基本的な情報に限られていることを理解し、授業時間外の自学を心掛けることを期待する。

文学/Literature

CF111

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目
1年 前期
1単位 講義

松岡 幸司

〔授業の概要〕

東洋と西洋の文学における世界観から、モノ・コトの見方を広げる。特に文学の原点である古典文学は、現代においても高い評価を受けるものである。具体的な作品の分析、また、つくられた時代や文化的背景を理解することで、作品の奥深さを考え知ることができる。なお、主題となる文学(作品)の種類は開講年次によって変わる。この科目を通じて、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解することが期待される。

〔到達目標〕

・「作品との対話」と考えれば、読書という行為は一種のコミュニケーション行為でもある。しかもそれは、作品を通しての「自己理解」にも連動している。このことを理解することが第一の目標である。

・さらに、「自己理解」を通して、作品という「他者の理解」に取り組む。自己理解の後の他者理解は、コミュニケーションにおける独りよがりな理解を避ける上でも重要な過程である。このことを理解することが第二の目標である。

・そして、作品(=他者)を根気よく理解する読書というコミュニケーションの形式を知ること、自己理解と保健・医療・福祉の場における他者理解に役立てる方法を習得するのが本講義の最終的な到達目標である。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第1回 「文学」というあいまいな言葉
- 「文学」というあいまいな概念についての理解を深める。
- 第2回 「読書」という行為
- 読書における自己理解と他者理解について考える。
- 自分にとっての名作に関する自己理解と他者理解について考え、レポートに備える。
- 小レポート出題

第 3 回 日本の文学について、宮沢賢治の世界

- 日本の文学の特徴について概説し、日本人としての感覚の自己理解を進める。
- 宮沢賢治について、その背景を知り、作品を読む際の理解を深める。

第 4 回 「やまなし」を読む

- 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。

第 5 回 「雪渡り」を読む

- 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。

- 小レポート出題

第 6 回 「オツベルと象」を読む

- 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。

第 7 回 「グスコブドリの伝記」を読む

- 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。

第 8 回 「ゼロ弾きのゴーシュ」を読む

- 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。
- 講義全体の内容についてのまとめを行い、各自の理解度をチェックする。
- 最終レポート出題

[テキスト・参考書・参考文献]

・宮沢賢治『ゼロ弾きのゴーシュ』角川文庫（ISBN：9784041040027）

毎回の授業はプリント（配布資料）を用いて進む。プリントは授業動画がアップされる前にWeb上にアップされるので、授業前に内容を確認しておくように。

[成績評価の方法・基準]

受講について：

この授業はオンデマンドで行われる。毎週Web上で授業動画の配信があるので、それを視聴する形で授業を受けることになる。

動画では、個人ワークの指示があり、それに取り組み、毎回の確認課題に取り組むことで出席とみなす。

① 毎回の確認課題 [30%]

毎回の授業で自分が学んだことを「ふりかえる」ために200～300字程度の文章を書く。

② 学期中に2回課される小レポート [合わせて40%]

それまでの授業内容を踏まえ、自分の理解度を確認し、それを適切な文章で伝える。

③ 最終レポート [30%]

学期全体の授業内容を踏まえ、自分の理解度を確認し、それを適切な文章で伝える。

これらを総合して評価する。

・毎回の確認課題：Web上で提出された課題については、採点し、毎回コメントをつけてWeb上で返却する。受講生は、そのコメントを必ず確認して、次の確認課題に取り組む際に参考にするように。

・小レポート：Web上で提出されたレポートについても、採点し、コメントをつけてWeb上で返却する。受講生は、そのコメントを必ず確認して、次の小レポートや最終レポートに取り組む際に参考にするように。

・最終レポート：提出されたものは、チェックしてコメントをつけた後にWeb上で返却する。

[課題に対するフィードバック]

毎回の確認課題および小レポートと最終レポートも、コメントをつけて返却する。確認課題と小レポートについては、しっかりと確認して次の課題に活かすように！

[授業時間外学修]

授業動画の配信、資料の配布、確認課題やレポートの提出は、すべてWeb上で行われる。

このサイトは、高等教育コンソーシアム信州のeChesというシステムの中にある。

初回授業の受講方法やeChesの登録方法については、学期開始時に掲示等で連絡をするので、それを確認するように。

~~~~~

授業後の取り組み

・毎回の授業をふりかえり、自分が学んだことや指定されたテーマについて200～300字程度の文章を書く確認課題に取り組む。その際に、しっかりとメモをとって文章を書き、ちゃんと推敲して提出する。

・第2回以降は、それまでに返却された課題のコメントに目を通し、指摘を活かして取り組む必要がある。

授業に向けた取り組み

・授業後にeChes上で指定された事柄について、自分なりの考えをまとめておく。

・指定された作品をよく読み、与えられたテーマに関して自分の考えをまとめておく。

上記の内容についてしっかりと取り組んでもらいたい。少なくとも毎週60～90分程度は必要と思われる。

[オフィスアワー]

eChes上のフォーラムやメールにて対応する。

メールを送る場合は、必ず件名を書き、本文には佐久大学の学生であることと、氏名を必ず記入すること。

[実務経験のある教員等による授業科目]

[アクティブラーニング]

[その他履修上の留意事項等]

「読書」という行為に決まり（規則）はありません。この授業で伝えたいのは、高校までの国語の授業とは違った読み方です。みんなと同じように読んだり感じたりする必要はなく、自分のために読み、考える、ということをしてみましょう。そして、読書を通して、自分を見つめ直し、人と接する場面で活かしましょう。

文系・理系ということとは関係ありません。とにかく読んで、自由に感じるのがスタートです。

## 芸術学/Study of Art

CF112

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 前期  
1単位 講義

並木 功

### 〔授業の概要〕

時代を表す芸術が示す多様な思想、価値観、表現力から豊かな感性を育む。絵画や彫刻といった視覚芸術から、音楽、演劇、映画、舞台芸術などの多様な表現法に触れることにより、多様な文化を深く理解する。なお、主題となる芸術の種類は開講年次によって変わる。本講義を通して、芸術に自らの心が動かされる機会、芸術を通して他者や文化を理解する機会となることが期待される。

### 〔到達目標〕

美術の社会に対するその役割と重要性を多くの資料を基に学ぶことで、有効かつ発展性を持った利用法を構築できることを到達目標とする。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7、<人>DP1、<人>DP2、<人>DP3、<人>DP4、<人>DP5、<人>DP6、<人>DP7、<人>DP8

### 〔授業計画〕

- 第1回 ゼンタングルの学習 <実習>  
ゼンタングルの誕生と歴史の学習。  
その目的、意図、効果、結果を学び体験する。  
ボールペンを使用
- 第2回 四季の色彩ベルト表現（色彩イメージ課題）  
四季のイメージ色の感情表現。 <実習>  
トータルカラー使用
- 第3回 「形と色の心理」 I <実習>  
形と色との関係を学びそれらの特長を活用した表現方法を学習。
- 第4回 「形と色の原理」 II <実習>  
形と色のイメージ表現の発展表現の実習。
- 第5回 曲のイメージ表現 ①  
課題曲のイメージをトータルカラーにより抽象表現する  
曲から連想表現した自作品に題名をつける。
- 第6回 曲のイメージ表現 ②  
課題曲のイメージをトータルカラーにより抽象表現する  
曲を聴き自作品に題名をつける
- 第7回 自画像色彩表現の実習  
トータルカラーによる自画像抽象表現
- 第8回 自画像色彩表現のプレゼン  
プレゼン実施

〔テキスト・参考書・参考文献〕

著名者：グレッグ・M・ファース

書名：絵が語る秘密

出版社：日本評論社

〔成績評価の方法・基準〕

・レポート——40%

・プレゼン——30%

・授業参加状況——30%

レポート・プレゼンは成績評価後、講義の中で授業資料として扱うことで学生に対し、より講義内容の密度や理解度を深める効果を期待する。

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

授業内容を毎回復習しておく（30分）。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

提出物及びレポートは重要な評価対象となります。

## ボランティア・住民活動論/Introduction to Volunteering and Civic Activities

CF113

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 後期  
2単位 講義・演習

中嶋 智子、田中 夏子

### 〔授業の概要〕

ボランティア活動や地域支援活動の原理・原則、社会的意義などの基本と実際を学ぶ。とくに社会福祉分野（障がい者・子ども・高齢者など）に限らず、教育・環境・文化・スポーツ・災害など、身近な地域でおこなわれている住民主体の活動に焦点をあてて学修する。

### 〔到達目標〕

- (1) ボランティア活動の意義と理念がわかる。
- (2) NPOとは何かがわかる。またその運営方法や行政との協働のあり方について考えられる。
- (3) 市民活動の事業化と実践例について理解できる。
- (4) 企業のCSRの考え方と展開例について理解できる。
- (5) 実際のボランティア活動に関わり、協働の必要性がわかる。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP5、<看>DP6、<人>DP2、<人>DP3、<人>DP4、<人>DP7

### 〔授業計画〕

第1回 コースガイダンス

※出席必須：授業のすすめかた、本科目のDPとの関連について

担当教員：中嶋・田中

第2回 ボランティア活動の理解

- テキスト第1章を読み受講してください。  
担当教員：中嶋
- 第 3 回 ボランティアの歴史と法的制度  
担当教員：田中
- 第 4 回 NPOとその運営  
テキスト第2・3章を読み受講してください。  
担当教員：田中
- 第 5 回 企業のCSRの考え方と展開  
担当教員：ゲスト講師／中嶋
- 第 6 回 市民活動の事業化と行政との連携  
テキスト第5章を読んで受講してください。  
担当教員：田中
- 第 7 回 災害とボランティア  
担当教員：中嶋
- 第 8 回 環境問題と市民活動  
担当教員：田中
- 第 9 回 社会福祉と市民活動（こども・障がい者・高齢者）  
テキスト第7・8章を読んでから受講してください。  
担当教員：田中
- 第 10 回 国際協力や国際ボランティア  
担当教員：ゲスト講師／中嶋
- 第 11 回 ボランティア活動の創発；グループワーク  
担当教員：中嶋
- 第 12 回 ボランティアの実践；個人活動  
担当教員：中嶋
- 第 13 回 ボランティアの実践；個人活動  
担当教員：中嶋
- 第 14 回 ボランティアの実践；個人活動  
担当教員：中嶋
- 第 15 回 まとめ  
担当教員：中嶋・田中

〔テキスト・参考書・参考文献〕

早瀬昇,水谷綾,永井美佳ほか.市民活動論 [第2版], 大阪ボランティア協会(2017)

〔成績評価の方法・基準〕

課題レポート50% (個人)

ボランティア活動の企画書25% (グループ)

授業資料のダウンロード(事前閲覧)、授業後のRespon 15%  
ボランティアアクションセンターへの届出/報告10%

〔課題に対するフィードバック〕

提出された課題レポートは返却しませんが、ご希望があれば個別にコメントを返します。

〔授業時間外学修〕

- ・ 授業テーマに該当する章を事前に熟読し受講して下さい。
- ・ 毎授業につき、30分～1時間程度の予習復習を要します。

〔オフィスアワー〕

授業後または、下記のメールにて個別に日程調整します。

t-nakajima@saku.ac.jp (●を@に変えてください)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

長年ボランティア活動や住民活動に関する実績がある教員が担当します。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

※授業の補足資料は、manabaで配信しますので受講前にダウンロードしてください。

大学生のうちに、ぜひボランティア体験しましょう！すでに経験のある方は、新たな活動をはじめてみましょう。ボランティア活動で自己成長できることをぜひ実感してください。

信州・佐久学/Shinshu and Saku Studies

CF114

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年  
1単位 前期  
講義

市川 正夫, 桜井 達雄

〔授業の概要〕

佐久を中心とした信州の豊かな自然環境と風土、そして歴史や文化、産業、環境問題や社会問題、教育問題、地域の抱える課題など多角的な視点から地域特性を理解する。また、山村・農村地域の風習や特有の暮らし方について理解する。この科目を通じて、長野県、佐久地域を看護や福祉の対象としてとらえ、理解を深める体験をする。さらに、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をより良くつくり上げていく気持ちを持つ。オムニバス形式で、歴史、文化等各専門家が講義を行う。

〔到達目標〕

私たちが生活している地域が、どのように形成されてきたか、その歴史や文化を習得するだけでなく、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をよりよくつくり上げていく気持ちを醸成させる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP5、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第 1 回 「県歌 信濃の国」から見た長野県と佐久地方  
市川正夫
- 第 2 回 長野県と東信、佐久地方の地形  
市川正夫
- 第 3 回 長野県と東信、佐久地方の気候  
市川正夫
- 第 4 回 島崎藤村の『千曲川のスケッチ』からみた佐久地方  
市川正夫
- 第 5 回 佐久地方南部の佐久市白田・川上村・南牧村の地誌  
市川正夫
- 第 6 回 佐久地方北部の御牧・浅間山・八ヶ岳・小諸の地誌  
市川正夫
- 第 7 回 長野県の代表的観光リゾート軽井沢と上高地  
市川正夫

第 8 回 地域を学ぶ意義

桜井達雄

第 9 回 佐久地方の自然・文化の魅力 1 回目

桜井達雄

第 10 回 佐久地方の自然・文化の魅力 2 回目

桜井達雄

〔テキスト・参考書・参考文献〕

市川：『令和版 やさしい長野県の教科書地理』しなのき書房

『千曲川のスケッチ』島崎藤村 新潮文庫

（参考：『ふしぎ発見 長野県の地理』しなのき書房）

桜井：特になし

〔成績評価の方法・基準〕

教員2名による総合評価とする

市川：試験により成績をつける

桜井：各回に配布するプリントに必要事項を記入して講義終了時に提出するレポートの評価（60％）と授業参画に対する姿勢の評価（40％）

〔課題に対するフィードバック〕

市川：授業に用紙を配布して終了時に回収。次の時間に全体に共有する

桜井：授業終了時に提出するレポートに質問等の記入欄を設ける。次の時間に全体に共有する

〔授業時間外学修〕

授業内で指示する

〔オフィスアワー〕

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

市川：

1. 社会的事象は情報を有機的に関連させて考えることによって理解が深まる。

2. より確かな資料によって考えること、出典のはっきりしない不確かなものは疑ってかかることが大切です。

3. 授業中に話を聞いたり、資料を見た時に疑問を持つこと。それを聞いたり、確かめようとする気持ちを持つこと。

桜井：

1. 講義で触れる身近な自然題材を直接訪れ、肌で触れる体験を通して興味関心を深めてほしい。

2. 1回の講義ごとにその中で最も興味を抱いた題材、詳しい専門書籍やネット検索などで理解をより深めてほしい。（ネット検索には不確かな情報も含まれていることにも留意）

消費と経済活動/Consumption and Economic Activity

CF115/CF3002

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目

1 年

1 単位 前期

講義

平尾 勇

〔授業の概要〕

人のライフスタイルの変化やグローバル化など社会経済情勢の変化に伴い、経済社会における消費活動の在り方も変わってきている。特に、消費者問題が多様化・複雑化し、新たな形態の消費者問題が発生している中で、現代社会において自立した消費者として必要な基礎的知識や生活するための知識は重要な学習テーマである。本講義では、消費者問題や消費者教育、消費生活情報などを学習し、人間生活の基礎である生産と消費の現代的な仕組みと課題について学ぶ。

〔到達目標〕

- ・経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。
- ・国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。
- ・経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。
- ・「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。
- ・消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。
- ・現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。
- ・消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。
- ・人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<人>DP 2、<人>DP 7

〔授業計画〕

第 1 回 経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。

講義：お金の流れを中心にそれぞれの主体の役割を明確にし、図表などで解説する。

第 2 回 国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。

講義：国全体の消費の内容を明確にする。

第 3 回 経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。

講義、まとめと演習：価格の決め方が一般的にどのような仕組みになっているかについて説明する。

第 4 回 「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。

講義：価格が下がるのがデフレ、上がるのがインフレだが、その仕組みについて説明する。

第 5 回 消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。

講義：「家計調査」などを用いて、支出の実態を明らかにする。

第 6 回 現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。

講義：消費者問題の現状を国民生活センターの資料などから説明する。

第 7 回 消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。

講義：第6回の消費者問題について事前にどのような教育が必要かを国民生活センターの資料を用いて説明する。

第 8 回 人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。

全体まとめと演習：生活にはお金がかかる。お金を豊かな生活を支えるためいかに使うか、将来の消費のためにどのように分配して豊かな将来を確保するについて検討する。

※最終回は今までの講義内容を前提として参加者全員でディスカッションを行い、できるだけ実践活動に結び付けたい。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：池上彰著「令和新版 しゅくみがわかる やさしい経済学1」（日本経済新聞出版）

「令和新版ニュースがわかる やさしい経済学2」（日本経済新聞出版）

参考 URL：「マンガでわかる 経済入門」 <https://manabow.com/hayawakari/>

参考 URL：独立行政法人 国民生活センター <http://www.kokusen.go.jp/index.html>

〔成績評価の方法・基準〕

レポート 70%、授業参加状況 30%

レポートは今回の講義の中で、今回の講座で学んだことの要約、役立ったこと、疑問に思ったこと、自分の生活で実践していきたいことなどを、文献や資料のコピーではなく、自分の言葉で書くこと。おおよその文字数は3,000字以上4,000字未満、フォントはMS明朝、サイズは10.5で入力して下さい。

〔課題に対するフィードバック〕

レポートの内容について、優秀レポートを紹介するとともに、ユニークなレポートも授業で紹介する。

〔授業時間外学修〕

テキスト「池上彰のやさしい経済学」、参考URL「マンガでわかる経済入門のサイト」及び「国民生活センターのサイト」の該当箇所の予習が必要です。

事前学習では該当部分を通読し、理解ができないところをチェックします。この時点ですべてを理解する必要はありません。わからないところを明確にしておくだけで講義での理解が深まります。

おおよそ、30分程度の事前学習を目途にして下さい。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に、教室で質問を受け付ける。又は下記メールアドレスに随時受け付ける。

isamu.hirao@ace.ocn.ne.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

個人の消費行動は国全体の経済活動に繋がっています。自分の消費行動を振り返ることで身近なところから経済を考え、豊かな消費生活の実践につなげてもらえればありがたいと思います。

---

## 契約と社会のルール/Contracts and Social Rules

CF116

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目

1年

1単位 前期

講義

関 良徳

〔授業の概要〕

現代社会における法とは何か、法が社会生活でどのような役割を果たしているのかを理解し、国民の基本的な人権の保障や社会的弱者の人権保護について学ぶ。民法による家族、契約、物の交換や所有といった日常的な事柄に法が関与することを理解し、生活者に要求される法規範意識を身につける。身近な問題について法の視点からとらえることで、解決への道筋を自ら考える。

〔到達目標〕

私たちの身のまわりの契約や法的な問題について理解を深めると同時に、法的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

第 1 回 契約（1）

売買契約について概説し、事例問題に関するディスカッション・演習を行う。

第 2 回 契約（2）

賃貸借契約について概説し、事例問題の検討を行う。

第 3 回 家族（1）

家族制度について概説し、事例問題に関するディスカッション・演習を行う。

- 第 4 回 家族 (2)  
育児と介護に関する制度について概説し、事例問題の検討を行う。
- 第 5 回 知的財産  
知的財産制度について概説し、事例問題について演習を行う。
- 第 6 回 医療訴訟  
医療訴訟の制度と課題について概説し、事例問題の検討を行う。
- 第 7 回 労働 (1)  
採用・退職の制度について概説し、事例問題についてのディスカッション・演習を行う。
- 第 8 回 労働 (2)  
労働に関する諸問題について概説し、事例の検討を行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。  
参考文献：適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

最終レポート (50%)

授業内レポート (30%)

授業への取り組み状況 (20%)

授業内レポート等のフィードバックは授業内で説明する。

〔課題に対するフィードバック〕

授業時に課題についての解説を行う。

〔授業時間外学修〕

授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。

事例検討の授業では、予習レポートが課される。

1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

随時、メールで質問を受け付ける。

yosseki@shinshu-u.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

法学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。

個と集団/Social Action Theory

CF117

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 前期 講義  
1単位

江連 崇

〔授業の概要〕

社会学の研究対象の範囲は非常に広く、日常生活のなかの人と人との出会いの分析から、世界規模の社会的プロセスの研究にまでおよぶ。本講義はその入門編として、あらゆる社会現象の背後への理解や社会の成り立ち、また、社会の安定性や変化、解体・崩壊などについて学習し、私たちの日常生活の土台となっている社会構造の理解と社会の成り立ちの基礎である個と集団の基本的な視点を学ぶ。

〔到達目標〕

・個と集団をめぐる社会学の基本的な視点や概念を理解する。

・自分の身の回りの物事・現象と社会学の知識を結び付けて考えることができる。

〔学位授与方針 (ディプロマポリシー : DP) との関連〕

<看>DP 1、<人>DP 2、<人>DP 7

〔授業計画〕

第 1 回 相互行為・自己 (1)

第 2 回 相互行為・自己 (2)

第 3 回 コミュニケーションと権力 (1)

第 4 回 コミュニケーションと権力 (2)

第 5 回 個人との関係から集団を考える

第 6 回 集団のメカニズム

第 7 回 集団としての国家

第 8 回 社会運動

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキストは基本的に用いない。

参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

リアクションペーパーやワークシートの提出60%、最終レポート40%

※レポートは中間提出を求め、コメントをふまえた修正版を最終レポートとして提出してもらう。

※リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

授業内で指示する参考資料などを読んでくる。(事前学習。目安として1時間)

授業内で配布した資料をよく復習しておく。(事後学習。目安として1時間)

〔オフィスアワー〕

授業に関する質問・相談は、メールにて随時受け付けます。メールアドレスは初回授業時にお知らせいたします。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

初回授業以外はオンラインでの授業を予定しています。授業日程については授業内での指示およびmanabaコースニュースをよく確認してください。

## 野外活動論/Outdoor Activity Theory

CF118/CF4002

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年  
1単位 前期  
講義・演習

伊藤 光太郎

### 〔授業の概要〕

野外活動論では、自然環境と人との共生関係を知り、ヒューマンケアを学ぶ人材として環境共生社会構築に貢献できる意識を醸成する。そのために、野外活動（キャンプ、登山、スキー・スノーボード等）に必要な基本的知識（関連用語、社会的意義・必要性、用具の使用方法、効果的な指導方法等）や、活動に伴う危険及びそれに対する適切な対処方法について学習する。本講座により、野外活動に関わる基本的知識の習得や野外活動指導者に求められる資質や役割への理解、野外活動に伴うリスクマネジメントのスキルの習得が期待できる。

### 〔到達目標〕

- ① 野外活動の楽しさを体感する。
- ② ①を通して、指導者・支援者として野外活動またキャンプにたずさわる場合（引率や同行などをする場合）の要点を学ぶ。
- ③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した野外活動の技術を得る

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP6、<人>DP7

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 野外ゲーム&キャンプひろばづくり&薪割り  
授業説明、はじめましてレクリエーション、かまどづくり、斧で薪割り、火おこしのデモ・体験などを実施。グラウンド脇に野外活動フィールドを作る。
- 第 2 回 野外ゲーム&キャンプひろばづくり&薪割り  
授業説明、はじめましてレクリエーション、かまどづくり、斧で薪割り、火おこしのデモ・体験などを実施。グラウンド脇に野外活動フィールドを作る。
- 第 3 回 火おこし&かんたん野外料理  
火おこしと火の安全、火を使って災害時に役立つ調理方法で実際に野外料理に挑戦する。居心地の良いフィールドづくりも同時に行う。
- 第 4 回 火おこし&かんたん野外料理  
火おこしと火の安全、火を使って災害時に役立つ調理方法で実際に野外料理に挑戦する。居心地の良いフィールドづくりも同時に行う。
- 第 5 回 刃物・道具を学ぶ&クラフト&焚火スイーツ

ナイフ他道具を使って工作をしながら、小さめの焚火で「焚火スイーツ」を作る。各自のペースで取り組む。のんびり熱中するのも野外活動である。

- 第 6 回 刃物・道具を学ぶ&クラフト&焚火スイーツ  
ナイフ他道具を使って工作をしながら、小さめの焚火で「焚火スイーツ」を作る。各自のペースで取り組む。のんびり熱中するのも野外活動である。
- 第 7 回 キャンプファイアー&キャンプ広場片付け  
フィールドの片づけをし、学生主導のキャンプファイアーでしめくくる。
- 第 8 回 キャンプファイアー&キャンプ広場片付け  
フィールドの片づけをし、学生主導のキャンプファイアーでしめくくる。

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

特になし。授業内容の補足で講師が作成した動画視聴があり得る。

<https://www.youtube.com/channel/UCIT3Xg52uz0ltwJeX90iJFA>

UCIT3Xg52uz0ltwJeX90iJFA

### 〔成績評価の方法・基準〕

授業参加状況（リアクションフォームへの評価含む） 50%  
レポート試験 50%（終講試験はレポート試験を予定）

リアクションフォームへは、必要に応じて返信または授業内でコメントほかで応える。

レポート試験は返却しないが、レポートに対する評価・講評をリスト化して配布することもある。

動画によるフィードバックが有効と判断したものは動画配信もあり得る。

### 〔課題に対するフィードバック〕

リアクションフォームへは、必要に応じて返信または授業内でコメントほかで応える。

レポート試験は返却しないが、レポートに対する評価・講評をリスト化して配布することもある。

動画によるフィードバックが有効と判断したものは動画配信もあり得る。

### 〔授業時間外学修〕

① 使用用具や授業環境を整える授業準備から撤収にできる限り参加する。（30～45分）

② 屋外での授業に安全に参加できるよう、装備や服装をしっかり想定し準備する。（10～20分）

③ 授業で配布した資料を再読し、授業での実技を振り返り自身の行動また技術を自己評価する（30～60分）

### 〔オフィスアワー〕

・授業終了後に授業会場で質問を受け付ける。

・随時、メール（info●dol-camp.org）で質問を受け付ける。

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

### 〔アクティブラーニング〕

○

### 〔その他履修上の留意事項等〕

☆自己負担金1人3～5千円程度が必要です。

資材・食材・機材レンタル・消耗品などの費用負担が必要

になります。費用の確定は受講人数にもよるので、開講と同時に伝えします。

★開講日

隔週で2コマ×4回で実施する。天候判断により延期などもあり得る。

★内容の変更

授業の進度、天候、資料の調達状況、感染拡大の状況などによって、シラバスの内容からの変更があり得ます。

より効果的に楽しく学ぶための変更になりますのでご了承ください。

◎愉快地に

野外活動は愉快でありたいです。チャレンジに満ちた体験型で、災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含んだアウトドア実技・演習中心に授業を進めます。野外活動の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全（野外におけるリスクマネジメント）・支援者の役割を学んでください。

◎確実に

キャンパス内にカマドを作り、薪をつくり、野外料理をするなど、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に体得しましょう。野外活動での安全管理・安全技術は身近な機会から将来の仕事などでも大いに役立ちます。

◎野外での授業により

晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施 または 予備日を使うため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得ます。キャンパス内の資源（剪定木や再利用資源）や周辺で得られる素材も活用し、天候含む自然環境に対応します。授業自体がとても充実した野外活動です。

◎野外での指導・支援の機会は必ずある

どの学生にもいつかきっとアウトドアでの支援活動の機会が待っているはずです。この授業で基本的な技術を身に付け、安全安心の情報を得ることが今後必ず役に立ちます。

その他

・服装は動きやすい服・軍手・帽子・飲み物・虫や紫外線対策などを各自用意してください。

安全のため、活動に適していない服装や持ち物が不十分な場合は授業に参加できないこともあります。

・授業前後に時間のある学生は学びを深めるために、授業前の準備・授業後の撤収（予習復習にもなる）にもぜひ参加してください。

・感染拡大予防のため、飲食を伴う内容から他の内容に変更する可能性があります。

予備：雨天時は基本的に屋内で理論部分を学ぶが、雨天が重なった場合のために予備日程を用意している。前もって予測が経てば事前に周知し、当日の天候でも判断する。

## 災害ボランティア/Disaster Volunteer

CF119

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
2年  
1単位 前期  
講義・演習

山本 克彦、山崎 水紀夫、篠原 辰二

### 【授業の概要】

国内外を問わず、災害が発生すると多くのボランティア（NPO・NGO含む）による様々な被災者・被災地を対象とした活動が行われている。そして、その活動は、災害の経験値を生かす形で、災害後だけではなく「災害サイクルモデル」に基づき事前予防としての防災・減災までその射程を拡げている。本講義では、災害ボランティアの概念、発展史、原理・原則、対象者などについて具体的な事例をもとに学ぶ。

### 【到達目標】

日本における災害ボランティアの発展史を学び、どのような活動が展開されてきたのかについてその概要を理解することができる。また、災害ボランティアの概念と具体的な事例を検討することで災害ボランティアのあり方について自身で考えることができる。さらに、講義での学びを基に演習を行うことでより具体的に災害ボランティアの実践について学ぶことができる。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP3、<人>DP2、<人>DP7

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーション 災害ボランティア理解の導入：長谷川

第2回 災害ボランティアの概説：山本

第3回 災害ボランティアの事例に学ぶ：山本

第4回 災害とフェーズ（時系列ワーク）①：篠原・山本

第5回 災害とフェーズ（時系列ワーク）②：篠原・山本

第6回 多様な災害ボランティア：篠原・山本

第7回 多様な避難のあり方：山崎

第8回 車中泊避難所の設置・運営：山崎

### 【テキスト・参考書・参考文献】

指定テキストはありません。各講義の際に講義資料の提示を行います。

### 参考文献

・山本克彦「災害ボランティア入門:実践から学ぶ災害ソーシャルワーク」ミネルヴァ書房 2018年4月

### 【成績評価の方法・基準】

毎回のリアクションペーパー... 30%

レポート試験... 70%

それぞれの評価やコメントについてはmanabaにて個別に周知する。

### 【課題に対するフィードバック】

〔授業時間外学修〕

毎回の授業内容の復習（90分）のほか、災害時におけるボランティア活動に関する事例を調べ（90分）、災害時支援におけるボランティア活動の実情に触れてください。

〔オフィスアワー〕

授業時に説明します。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

初回講義については平日の空き時間にて実施、2回目～8回目は土曜日補講日の開講予定です。これまでの大規模災害における災害ボランティア活動の経験をお持ちの方をゲストスピーカーに呼び、実際の活動状況について聴くことができる貴重な時間となると思います。

これからの保健・医療・福祉職を目指すものとして、是非災害時の各専門性を考える場として活用してください。日程及び詳細については別途連絡します。

---

情報管理法/Data Management Method

CF201

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
2年  
1単位 前期  
演習

朴 相俊

---

〔授業の概要〕

情報の収集、加工、蓄積、利用、廃棄などの情報管理の手法について学修する。特に収集した情報を整理、加工する二次情報の作成とデータベース検索による情報検索の手法についての基礎的な知識を習得する。また、データソフトSPSSの使い方を習得する。

〔到達目標〕

1. 情報やデータに関する知識を学び、適切な管理方法を習得する。
2. 統計について学び、適切なデータのまとめ方ができるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 情報管理法/Information Management  
オリエンテーション、データの管理について
- 第 2 回 情報管理法/Information Management  
SPSS（統計ソフト）の使い方、代表値（平均・分散・中央値・パーセントタイル）
- 第 3 回 情報管理法/Information Management  
検定の意味、代表値の推定（信頼区間）
- 第 4 回 情報管理法/Information Management  
2群間の比較（対応のないt検定）
- 第 5 回 情報管理法/Information Management  
2群間の比較（対応のあるt検定）
- 第 6 回 情報管理法/Information Management  
2群間の比較（順位和検定）
- 第 7 回 情報管理法/Information Management  
2群の関連分析（カイ2乗検定）

- 第 8 回 情報管理法/Information Management  
2群の関連分析（リスク比・オッズ比）
- 第 9 回 情報管理法/Information Management  
2群間の関連分析（散布図・相関分析）
- 第 10 回 情報管理法/Information Management  
3群以上の関連分析（偏相関分析）
- 第 11 回 情報管理法/Information Management  
2群の関連の推定（回帰分析）
- 第 12 回 情報管理法/Information Management  
3群間以上の比較（分散分析）
- 第 13 回 情報管理法/Information Management  
課題分析①
- 第 14 回 情報管理法/Information Management  
課題分析②
- 第 15 回 情報管理法/Information Management  
まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

- テキスト：指定しない。
- 参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 授業参加状況（30%）
- 課題（70%）

〔課題に対するフィードバック〕

〔授業時間外学修〕

授業した内容については、よく復習をしておくこと。なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

---

表現技法 I /Presentation I

CF121

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年  
1単位 前期  
演習

風早 康恵

---

〔授業の概要〕

大学で主体的に学ぶ方法の基礎として、聴く、話す、読む、書く、調べるといった基本的な能力を身につける。入門演習では、主体的に学ぶ姿勢、情報の検索、情報の読解や要約、問題の明確化、明瞭かつ論理的に表現することについて学ぶ。この学びを通して、日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら考え、適切に自分の考えを表現することができること、また、日常生活や大学での他の授業、実習、ケアの場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようにすることが期待できる。

## 〔到達目標〕

1. 表現の歴史・方法、基本的なテクニックを把握する。
2. 基本的な各種の文章・レポート・論文の書き方の概要を理解し、適切な表現を用いて書くことができる。
3. レポート・論文を纏めるにあたり、情報探索を適切に行うことができる。
4. レポート・論文を書くために必要な他者の手になる論文や文献等を要約し、ルールに則り活用することができる。
5. 自分の感情・知識・思考を、文章で表現し、的確に他者に伝えることができる。
6. TPOに応じて、手紙・書類等をしたためることができる。

## 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 6、<人>DP 2、<人>DP 7

## 〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
今後の授業の進め方について、あらましを説明し、授業に期待する点を聞き取る。
- 第 2 回 表現の歴史・さまざまな技法に関して学ぶ。  
①手紙等の短文 ②レポート ③論文をそれぞれ作成する際に、どのような表現技法が用いられ、どのように活用されるかを検討する。
- 第 3 回 表現の技術を高め、洗練させるための一般教養（節季・年間行事・古典・ことわざ等）を学ぶ。
- 第 4 回 敬語表現（尊敬語・謙譲語・丁寧語）を学ぶ。  
実際に短文の中で敬語表現を用いてみる。
- 第 5 回 授業 2, 3, 4 での学習をもとに、（場面・状況設定を指定して）各自、手紙を書いてみる。  
グループ・ディスカッションによる検討
- 第 6 回 レポート・論文を書くために①  
他者による文章の骨子を、正確に読み取る方法について学ぶ。  
主題、構成、論の展開等を把握しつつ要旨を簡略に纏め、筆者の主張を理解する。
- 第 7 回 レポート・論文を書くために②  
文章の流れを把握し、論の構築を理解するために、「順接」「逆接」「指示代名詞」等について学ぶ。
- 第 8 回 レポート・論文を書くために③  
「キー・ワード」を選び出し、関連する文献を検索する方法について学ぶ。
- 第 9 回 レポート・論文を書くために④  
引用の種類と書き方、資料(グラフや図)の引用方法、図表番号の入れ方を学ぶ。  
さまざまな参考文献リストのスタイルを知り、APAスタイルの書き方を学ぶ。
- 第 10 回 授業 9 の復習。  
加えて、授業 6 の復習を兼ねて、さまざまな要約文の書き方を学ぶ。
- 第 11 回 レポート・論文を書いてみよう①  
テーマの設定、執筆にあたって留意する点を学ぶ。  
情報検索の基本的な方法を知り、大学図書館の活用法を学ぶ。
- 第 12 回 レポート・論文を書いてみよう②

文献の取捨選択のポイントを押さえる。

書籍に関しては「目次」「はじめに」「おわりに」「奥付」等の読み方、「索引」「謝辞」について確認する。

## 第 13 回 レポート・論文を書いてみよう③

入手した文献のリストとメモや現物の整理、論文の骨子、仮タイトルを考える。

## 第 14 回 レポート・論文を書いてみよう④

自宅学習で準備してきたアウトラインをもとに、各自、実際にレポートを書いてみる。  
平仮名と漢字の表記とその割合、あいまい文、口語的な表現などに留意しつつ推敲を行い、提出前に再確認する作業を学ぶ。

## 第 15 回 授業の纏めと再確認を行い、質問に答える。

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

授業時に講師が作成した資料、コピー等を配付する。

参考となる書籍等は、同じく授業時に推薦する。購入は義務づけない。

### 〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験(40%)、授業参加状況(ワーク・提出物含む)(60%)  
試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニング問題の内容や話し合いで得られた解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。

授業の際の提出物は原則、返却しないが、試験前に内容のあらましを提示し、質問等に応じる。

### 〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

### 〔授業時間外学修〕

多彩な表現方法を身につけるとともに、大学での他の授業のレポート・課題・提出物の学習に、表現技法で学んだことを積極的に活かして欲しいと思います。

実際に手紙・メール等を書いてみる、要約を試みみる等、「読む・書く・話す」とともに「考える」スキルを磨いてください。

### 〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

国文学（専門は和歌）の研究に携わる。

「麓短歌会」（昭和51年創設）主宰。

### 〔アクティブラーニング〕

#### 〔その他履修上の留意事項等〕

大学の授業での課題レポートで、困ったりあれこれ悩んだりすることが最初はあるかもしれません。「文章の書き方」の基礎知識を学ぶことによって、課題に積極的に取り組み、考える姿勢を身につけてほしいと思います。さまざまな情報を正しく活用しつつ、自分の感情・知識・思考を伝え、将来に活かしてゆく試みを、大学の学びの中でさらに幅広く、深いものとして行ってください。

自分の中にある「表現したい」ものを文字に置き換えることは、それらを客観的に整理し、検討するよすがとなります。加えて、表現というフィルターを通して自らをさまざまな視点から再認識することにより、万一、ネガティブな要素があったとしても、それをかけがえのない成長の活力へと変えてゆけると考えます。

メールでのやり取りが主流となりつつある現在であるからこそ、手紙・書類のしたため方を学んでおくことは、就職・仕事などの多くの局面で、皆さんの力になるでしょう。

## 中国語 I /Chinese I

CF124

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 前期  
1単位 演習

朱 芸虹

### 〔授業の概要〕

初心者のための中国語授業である。中国語には5つの音の変化があり、地域で使用されている方言もあることなど、言語的基礎知識も学べる。前半では中国語の発音で重要なローマ字表記によるピンインを習得したうえで、数字、時間表現や自己紹介などの表現方法を身に着ける。15回の授業のなかで簡単な挨拶会話ができることを目標とする。

### 〔到達目標〕

中国語の発音の基礎知識がわかる。基本的な読み方（中国語発音ローマ字、声調、発音規則）がわかり、読める。基礎的な会話ができ、次のステップへの土台を築くことを目標とする。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 5、<人>DP 2、<人>DP 7

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス：①計画説明；②中国、中国語について簡単に紹介  
講義・演習
- 第 2 回 単母音、声調（四声）  
講義・演習
- 第 3 回 子音①（唇音、舌尖音）  
講義・演習
- 第 4 回 子音②（舌根音、舌面音）  
講義・演習
- 第 5 回 子音③（舌歯音、そり舌音）  
講義・演習
- 第 6 回 複合母音・前鼻母音  
講義・演習
- 第 7 回 後鼻母音・時間外自習指導：ピンイン規則をまとめてみよう  
講義・演習
- 第 8 回 ピンイン規則のまとめ・覚えておきたい表現  
講義・演習
- 第 9 回 名前の読み・自己紹介  
講義・演習
- 第 10 回 自己紹介①の発表  
講義・演習
- 第 11 回 第1課（挨拶する）（テキスト12ページ～）  
講義・演習
- 第 12 回 第2課（名前を尋ねる）（テキストP.16～19）  
講義・演習

第 13 回 会話演習・時間外自習指導：友人を紹介してみよう

講義・演習

第 14 回 自己紹介②・友人紹介の発表

講義・演習

第 15 回 総合復習

講義・演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」岩井 伸子(著)

胡 興智(著) 白水社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験「40%」小テスト「10%」課題提出「30%」授業態度「20%」

不定期的な小テストがあり、また「テキスト」練習B・本文の暗記を「小テスト」として見なす。

〔課題に対するフィードバック〕

課題には、訂正文・コメントをつけたして返却する。

〔授業時間外学修〕

・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること

（又CDやダウンロードした音声について読んだり、聞き取り、書き取りをしたりしてみよう）

・必要な時間：個人差により、毎日5～20分位

〔オフィスアワー〕

講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

※授業内容は必要に応じて変更することがあります

・予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。

・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

## 中国語 II /Chinese II

CF125

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 後期

1単位 演習

朱 芸虹

### 〔授業の概要〕

中国・台湾からの留学生・研修生との交流で使用できる易しい会話を中心に授業を展開する。生活に密着した中国語会話や中国文化と日本文化の比較を取り入れることで学習意欲を持ち続けられる。実践的かつインタラクティブな会話能力や書く能力を更に身に着けることができる。

### 〔到達目標〕

発音を重視しながら、基礎的な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、基礎的な対話能力や書く能力を身に着けることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 5、<人>DP 2、<人>DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 第3課 (食べたいものを尋ねる)  
講義・演習
- 第 2 回 テキストに基づき実用な会話演習 (下記「会話演習」と略す)  
講義・演習
- 第 3 回 第4課 (近況を尋ねる)  
講義・演習
- 第 4 回 会話演習・「時間外自習指導：復習1」  
講義・演習
- 第 5 回 復習1・作文  
講義・演習
- 第 6 回 第5課 (予定を尋ねる-1)  
講義・演習
- 第 7 回 第5課 (予定を尋ねる-2)  
講義・演習
- 第 8 回 会話演習  
講義・演習
- 第 9 回 第6課 (場所を尋ねる)  
講義・演習
- 第 10 回 会話演習  
講義・演習
- 第 11 回 映画鑑賞 (リラックスで中国文化を味わう)  
講義・演習
- 第 12 回 第7課 (注文する)  
講義・演習
- 第 13 回 会話演習  
講義・演習
- 第 14 回 第8課 (植段の交渉をする) (テキストP.42～45)  
講義・演習
- 第 15 回 「時間外自習指導：復習2(テキストP. 46～47)」・総合復習  
講義・演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」岩井伸子(著)胡興智(著) 白水社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験「40%」小テスト「10%」課題提出「30%」授業態度「20%」

不定期的な小テストがあり、また「テキスト」練習B・本文の暗記・作文を「小テスト」として見なす。

〔課題に対するフィードバック〕

課題には、訂正文・コメントをつけたして返却する。

〔授業時間外学修〕

・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること (又読みながら書くこと)

・必要な時間：個人差により、毎日10～30分位

〔オフィスアワー〕

講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

- ・予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。
- ・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

韓国語Ⅰ /KoreanⅠ

CF126

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 前期  
1単位 演習

金 潤 姫

〔授業の概要〕

初心者のための韓国語講義である。体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅰでは、基本的な韓国語の発音と語彙、類型を中心に学習する。15回の授業のなかで簡単な挨拶・会話ができることを目標に取り組む。

〔到達目標〕

履修生は、ハングルの文字の発音の基礎について学び、読み書きができるようになることを目的とします。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を話せるようになることを目的とします。

〔学位授与方針 (ディプロマポリシー：DP) との関連〕

<看>DP1、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、ハングル・韓国語について  
授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。  
ハングルの成り立ちについて説明します。
- 第 2 回 単母音、ヤ行  
単母音、ヤ行について学びます。
- 第 3 回 ワ行  
ワ行について学びます。
- 第 4 回 平音  
平音について学びます。
- 第 5 回 激音  
激音について学びます。
- 第 6 回 濃音・有声音化  
濃音と有声音化について学びます。
- 第 7 回 これまでのまとめ  
テキスト第1課と第2課をまとめます。
- 第 8 回 パッチム (1)  
鼻音と流音について学びます。
- 第 9 回 パッチム (2)  
口音と日本語のハングル表記について学びます。
- 第 10 回 発音の規則 (1)  
連音化、hの弱音化・無音化について学びます。
- 第 11 回 発音規則 (2)  
濃音化について学びます。
- 第 12 回 発音規則 (3)  
激音化について学びます。

- 第 13 回 発音規則 (4)  
口蓋音化に流音化について学びます。
- 第 14 回 韓国の文化体験  
文化体験を通して韓国語とそれに関わる文化的理解を深めます。
- 第 15 回 講義全体まとめ  
前期で学んだ事項を復習します。
- 〔テキスト・参考書・参考文献〕  
テキスト「おはよう韓国語 1」著者「崔柄珠」出版社「朝日出版社」  
参考文献 適宜お知らせします。
- 〔成績評価の方法・基準〕  
小テスト：20% レポート：10% 定期試験：40% 授業参加状況：30%  
S:授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。  
A:授業の内容を理解しており、成績評価の基準が80%～99%である。  
B:授業の内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70%～79%である。  
C:授業の内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が60%～69%である。
- 〔課題に対するフィードバック〕  
レポートや課題には、採点とコメントを付して返却する。
- 〔授業時間外学修〕  
事前事後に進度に沿って予習と復習をする。毎回30分は確保すること。
- 〔オフィスアワー〕  
授業終了後教室で質問を受けつける。
- 〔実務経験のある教員等による授業科目〕  
〔アクティブラーニング〕  
〔その他履修上の留意事項等〕  
常日頃から韓国のドラマ・映画・歌に興味を持ち、韓国語に親しみましょう。

## 韓国語 II / Korean II

CF127

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 後期  
1単位 後期  
演習

金 潤 姫

### 〔授業の概要〕

韓国語講義では、体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰの学習内容よりからさらに多様な語彙、類型を中心に学習する。言葉と関連して、韓国の文化などについても紹介しながら授業を進めていく。

### 〔到達目標〕

ハングルの基本的な読み書きを習得しているので、語彙、文法、発音に関する知識を深め、日常会話に役立つ表現を

学ぶことを目的とします。ハングル能力検定5級及び韓国能力試験1級受験相応の知識習得を目的とします。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<人>DP 2、<人>DP 7

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、文字と発音  
文字と発音について学びます。
- 第 2 回 第5課自己紹介 (1)  
第5課の発音と語彙、文法と表現について学びます。
- 第 3 回 第5課自己紹介 (2)  
第5課のまとめ学習をします。
- 第 4 回 第6課～ではありません (1)  
第6課の発音と語彙、文法と表現について学びます。
- 第 5 回 第6課～ではありません (2)  
第6課まとめを学習します。
- 第 6 回 第5～6課のリスニングと会話  
第5～6課のリスニングと会話学習をします。第4課発音規則「4」を学習します。
- 第 7 回 第7課～が好きです。(1)  
第7課の発音と語彙、文法について学びます。第4課発音規則「5」について学びます。
- 第 8 回 第7課～が好きです。(2)  
第7課の重要表現について学びます。第4課発音規則「6」について学びます。
- 第 9 回 第7課～が好きです。(3)  
第7課のまとめ学習をします。第4課発音規則「7」について学びます。
- 第 10 回 第8課お誕生日 (1)  
第8課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。第4課「8」について学びます。
- 第 11 回 第8課お誕生日 (2)  
月と曜日、時を表す語を学ぶ。第4課「9」について学びます。
- 第 12 回 第8課お誕生日 (3)  
へヨ体を学び、第8課のまとめ学習をします。
- 第 13 回 第9課予定と時間  
固有数詞と時刻について学びます。
- 第 14 回 韓国の文化体験  
文化体験を通して韓国語とそれに関わる文化的理解を深めます。
- 第 15 回 全体のまとめ  
第5課から第9課を復習します。

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト「おはよう韓国語 1」著者「崔柄珠」出版社「朝日出版社」

韓国語1で使用したテキストを、継続して使います。「韓国語能力試験TOPIK I 初級完全対策」韓国語評価研究所(著)著 (HANA(インプレス)) ISBN978-4-8443-7664-4C0087

参考文献 適宜お知らせします

### 〔成績評価の方法・基準〕

小テスト：20% 定期試験：40% レポート：10% 授業参加状況：30%

S:授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。

A: 授業の内容を理解しており、成績評価の基準が80%～99%である。

B: 授業の内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70%～79%である。

C: 授業の内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が60%～69%である。

〔課題に対するフィードバック〕

レポートや課題には、採点とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

事前事後に進度に沿って予習と復習をしておくこと。毎回30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

常日頃から韓国のドラマ・映画・歌に興味を持ち、韓国語に親しみましょう。

## 医療・ケア英会話

CF6007

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
3年  
1単位 前期

Mark Cox

〔授業の概要〕

日常生活で頻繁に使われる基本的な会話が英語で話せることを目指す。家で、駅で、お店で、学校で、会社で、レストランで、観光で等、場面ごとによく使われる英単語、基本表現などを学ぶ。英語によるコミュニケーションへの抵抗感をなくすために、簡単な文章から会話演習を繰り返して学ぶ。又、病院や施設などでケアサービスを利用する場面を想定したクライアントとサービスプロバイダとの会話と、サービスの利用手続き等に関わる会話を進める。

〔到達目標〕

The goal of the course is to be able to communicate better with foreign patients in English. Students will be able to complete a health care check in English and also have casual conversation with hospitalized patients.

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 4、<人>DP 2、<人>DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 1: Greeting a patient  
- greeting a new patient  
- conversation skills: pronunciation practice
- 第 2 回 Unit 1: Greeting a patient  
- greeting a new patient  
- conversation skills: pronunciation practice
- 第 3 回 Unit 2: In the patient's room  
- explaining a patient's room and hospital protocol  
- conversation skills: responding

- 第 4 回 Unit 2: In the patient's room  
- explaining a patient's room and hospital protocol  
- conversation skills: responding
- 第 5 回 Unit 3: About the hospital  
- explaining about the hospital  
- discussing health problems and conditions  
- conversation skills: follow-up questions
- 第 6 回 Unit 3: About the hospital  
- explaining about the hospital  
- discussing health problems and conditions  
- conversation skills: follow-up questions
- 第 7 回 Unit 4: Getting a patient's information  
- asking questions to get essential information  
- conversation skills: keeping a conversation
- 第 8 回 Unit 4: Getting a patient's information  
- asking questions to get essential information  
- conversation skills: keeping a conversation
- 第 9 回 Unit 5: Taking a patient's blood pressure  
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure  
- conversation skills: describing an item
- 第 10 回 Unit 5: Taking a patient's blood pressure  
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure  
- conversation skills: describing an item
- 第 11 回 Unit 6: Taking a patient's blood sample  
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure  
- conversation skills: getting a response
- 第 12 回 Unit 6: Taking a patient's blood sample  
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure  
- conversation skills: getting a response
- 第 13 回 Unit 7: Giving a patient their medication  
- explaining how to take medication  
- explaining what the medication is and what it's for
- 第 14 回 Unit 7: Giving a patient their medication  
- explaining how to take medication  
- explaining what the medication is and what it's for
- 第 15 回 Review  
review and speaking challenge assessment
- 〔テキスト・参考書・参考文献〕  
print outs will be provided  
〔成績評価の方法・基準〕  
class participation: 30%  
speaking challenge: 30%  
final exam: 40%  
〔課題に対するフィードバック〕  
Presented in class

〔授業時間外学修〕

Outside of class, students can practice the conversations and strategies from the lesson. 1 hour a week of practice is recommended but not a requirement.

〔オフィスアワー〕

Office hours will be announced in the first lesson

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

医療・ケア中国語

CF6008

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
3年  
1単位 前期

廣橋 雅子

〔授業の概要〕

高齢化社会における中国語圏国家では、使用言語の相違だけでなく、生活文化や福祉政策が異なるため、言語背景に存在する文化探求をする科目である。中国語Ⅰ、Ⅱを終えた学習者を対象に、通訳技法（スラッシュリーディング・シャドーイング）などを利用してケアや生活会話などを学ぶ。また中国・台湾の医療福祉関連資料を読む能力も習得する。

〔到達目標〕

中国語のピンイン、簡単な自己紹介や挨拶をすでに習得していると仮定し、授業を始める。

この授業の到達目標は下記の3点とする。

1. 患者の体調に合わせた簡単な確認ができる会話を習得する
2. 生活習慣、異文化について中国語から読み解く
3. 健康に関する人々の意識の相違について理解する

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP5、<人>DP2、<人>DP7

〔授業計画〕

- 第1回 医療・ケア中国語とは  
第一回は授業の進め方を説明する。また、シャドーイング技法を使って、効率よく中国語の音に慣れることを体験する。
- 第2回 中国語の発音と基本挨拶
- 第3回 大丈夫ですか？（您怎么了？）
- 第4回 お名前を教えてください。（请告诉我您的名字）
- 第5回 具合はいかがですか（今天哪里不舒服？）
- 第6回 ケアでよく使う医療単語
- 第7回 確認小テスト（シャドーイングチェック）
- 第8回 自分で会話文を作ってみよう
- 第9回 病院でよく使用する中国語
- 第10回 気持ち悪くて吐いてしまいました（觉得恶心，我吐出来了）
- 第11回 確認小テスト（シャドーイングチェック）
- 第12回 中国語で演技をしてみる  
※履修人数により、内容を変更する場合あり
- 第13回 中国語にはオノマトペはない!?

第14回 自作スクリプトの練習

第15回 中国語で発表しよう！

〔テキスト・参考書・参考文献〕

教員自作教材を利用する

〔成績評価の方法・基準〕

確認小テスト 30%

平常点 20%（宿題などの確認及び提出）

期末発表 50%

〔課題に対するフィードバック〕

毎回の授業で前回の復習をし、発音をはじめ教員が丁寧に指導をする。

〔授業時間外学修〕

1. 1日10分のシャドーイング時間を確保すること
2. 復習時間を毎日30分を確保すること

〔オフィスアワー〕

・1号館2階、1212研究室

・授業や会議の無い時間帯をオフィスアワーとする

・相談や質問がある時は事前に約束をすることが望ましい  
(m-hirohashi@saku.ac.jp)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

台湾在住20年以上、企業通訳・医療通訳を20年以上経験している。

台湾の華語文教師（中国語教師）の資格を有する。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

過去に中国語初級を学んだことがある人が望ましい。

これまで中国語を学んだことのない学生も履修することは可能だが、基礎がない分自身で学習時間を確保することを期待する。

佐久の医療とケアの歴史/The History of Saku Community Health Care System

CF128

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年  
1単位 前期

講義  
必修

柿澤 美奈子、征矢野 文恵、盛岡 正博、坂戸 千代子

〔授業の概要〕

人々の行動や健康は、周囲の社会環境の影響を受けていることが研究で明らかにされている。佐久地域では、医療機関と住民が協働し、地域医療に取り組んできた。それは人々の健康を疾病や治療という視点を越えて、生活のレベルで捉え、健康増進・リハビリテーションなどを含むトータルな保健システムによる取り組みである。健康をめぐる個人の社会・文化の関わりについて、わが国における事例から説明していく。テーマに沿ってゲストスピーカーを招聘し、講義を行う。

〔到達目標〕

1. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支える医療とケアの歴史について説明できる
2. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支えるケアの現

状について説明できる

3. 人々の健康と暮らしを支える医療福祉職を目指す学生としての学修課題に気づくことができる

4. 人々の健康と暮らしを支えるケアに関する今後の学修課題に気づくことができる

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP5、<人>DP2、<人>DP5

【授業計画】

第1回 コースオリエンテーション（本科目の進め方）：  
柿澤

「現代に生きる若月俊一のことば」を読む（講義・演習）

第2回 佐久地域の医療と保健予防活動の歴史①：盛岡  
若月俊一とその活動を知る（講義）

第3回 佐久地域の医療と保健予防活動の歴史②：征矢  
野・柿澤

佐久地域の医療と保健予防活動を映像から学ぶ  
（講義・演習）

第4回 佐久地域の保健予防活動の歴史：坂戸  
地域保健予防活動の歴史を学ぶ（講義）

第5回 佐久地域の保健予防活動の現状：坂戸  
地域保健予防活動の現状と課題について学ぶ（講  
義）

第6回 佐久地域の福祉活動の歴史と現状：征矢野  
高齢者支援について学ぶ（講義）

第7回 佐久地域の障がい者支援の歴史と現状：特別講  
師 三井  
精神障がい者支援について学ぶ（講義）

第8回 人々の健康と暮らしを支えるケアについて語る：  
柿澤・征矢野  
人々の健康や暮らしを支える保健医療福祉職の役  
割の理解を深める（演習）

【テキスト・参考書・参考文献】

松島松翠編（2014）. 現代に生きる若月俊一のことば. 家の光協会.

南木佳士（1994）. 信州に上医ありー若月俊一と佐久病院ー. 岩波新書.

若月俊一（1971）. 村で病気とたたかう. 岩波新書.

若月俊一（2007）. 若月俊一の遺言. 家の光協会.

若月俊一（2010）. 信州の風の色 地域とともに50年. 旬報社.

他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法・基準】

授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す。

1. 提出課題（90%）

1) 小課題（60%）；2, 3, 4, 5, 6, 7回の授業の学びと感想をmanabaに提出する。各回の評価は10%である。

2) 課題レポート（30%）；授業や文献、ディスカッションから、①人々の健康と暮らしを支えるケア職の役割、②ケア職として人々とかかわる視点について、自身の考えを述べる。

2. 演習におけるチームに対する貢献度（10%）

演習への参加度を自己評価する。

【課題に対するフィードバック】

小課題については、授業内でフィードバックする。

課題レポートは個別にコメントをフィードバックする。

【授業時間外学修】

本授業は1単位15時間の科目であり、30時間の自己学修が求められている。

【予習】

本授業の理解を深めるため、配付資料を計画的に読み進める。

【復習】

毎回の授業後に学びを整理する。

【オフィスアワー】

オフィスアワー

・原則、授業日の授業終了から放課後

・質問は、メールでもよい（常時）

・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である

連絡先

柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako）m-kakizawa@saku.ac.jp  
5号館2階524

【実務経験のある教員等による授業科目】

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

本科目は、8回の授業科目である。欠席が3回以上あった場合、単位の修得ができない。

生命倫理/Bioethics

CF129

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目  
1年 後期  
2単位 講義  
必修

盛岡 正博、廣瀬 健、村島 隆太郎

【授業の概要】

本講座では、生命の尊厳と人間尊重の精神を理解するために、生命に関する倫理原則を多方面での角度から具体的な例を検討しながら学修を行う。その学びの中で、社会背景や歴史、または人間文化のみならず、社会環境によって多様な形で変化して行く価値観の違いや考え方の相違についても確認する。これらの教育は、生命の価値への理解を深め、医療に携わる専門職としての行動基盤を築く機会として意義がある。

【到達目標】

1. 直面した個々の事例に誠実に対応することの大切さを知る。

2. 病気や障害により医療や福祉の支援を必要とする者に具体的な対応を考える。

3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性構築の大切さを理解する。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP3、<人>DP1

【授業計画】

第1回 はじめに～生命倫理学の歴史的背景

- 第 2 回 生命誕生と医学の介入① ～人工授精、体外受精など
- 第 3 回 生命誕生と医学の介入② ～再生医療、iPS細胞の可能性と課題
- 第 4 回 生を絶つことへの医学の介入① ～人工妊娠中絶、女性の自己決定権
- 第 5 回 生を絶つことへの医学の介入② ～選別出産、減数手術など
- 第 6 回 死への医学の介入① ～死とは、脳死と臓器移植問題
- 第 7 回 生と死のケア① ～訪問看護、在宅診療の現場から
- 第 8 回 死への医学の介入② ～自死、殺人、安楽死について
- 第 9 回 死への医学の介入③ ～安楽死、尊厳死、医療と宗教
- 第 10 回 生と死のケア② ～ターミナル・ケアについて
- 第 11 回 生と死のケア③ ～死の受容について
- 第 12 回 インフォームド・コンセント～医師の裁量権とパートナーリズム
- 第 13 回 がんを生きるということ
- 第 14 回 認知症における生命倫理の視点
- 第 15 回 まとめ ～生命が平等足りうる社会か

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：塩野寛・清水恵子『生命倫理への招待』南山堂  
参考書や参考論文は、講義の中で各講師が紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

1.授業参加状況 60%

講義終了後にリアクション・ペーパーの記述内容を評価する。

2.レポート課題 40%

三人の講師から一題ずつ課題（テーマ）を出します。

提出されたレポートやリアクション・ペーパーは、講義終了後に本人に返却する。

〔課題に対するフィードバック〕

レポート内容について全体にフィードバックする必要がある事項については、次回の講義で説明する。個人的な課題についてはmanabaで説明する。

〔授業時間外学修〕

テーマに従って、講義資料を用意するので、事前にテキストを読むか、受講後に復習すること。講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるので、社会的話題にも関心をもつこと。

〔オフィスアワー〕

講義終了後に随時、教室で質問等を受ける。（廣瀬・盛岡）  
執務室（5号館1階理事長室）の扉が開いている時、随時相談を受けます。

メールによる相談及び問い合わせも行っている。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ヒューマンケア概論/ヒューマンケア概論Ⅰ/  
Introduction to Human Care

CF131/CS1101

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目

1年

2単位 後期

講義

青木 紀

〔授業の概要〕

ライフサイクルの「依存とケア」の視点から、動物社会との対比を踏まえつつ、人間社会のケアの特徴をまず理解する。ついでケア行為をめぐる受け手と与え手の関係性の構造を諸側面（二者関係、関係性の転換志向、専門職間関係など）から検討する。最後に関連する制度及び政策をケアレジーム論とともに概観する。初年次学生が現代社会におけるケア関連専門職の位置づけと役割を考えていく契機となる講義である。

〔到達目標〕

当該科目は、初年次学生を対象にした看護学部及び人間福祉学部の理念や目的の根幹にかかわる講義である。したがって、上記のような幅広い講義内容から、学生一人ひとりがヒューマンケアの学びの「おもしろさ」を感じ、関連する基礎的な諸概念を理解し、主体的な学びの動機を強化することをめざす。同時に卒業後、それぞれが就くであろうケア関連専門職の社会的役割—そこではケア専門職間等の連携の重要性も意識しながら—を考える機会の出発点とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP3、<人>DP1、<人>DP3

〔授業計画〕

第 1 回 本講義の方法と内容

第 2 回 ヒトのライフサイクルの特徴—前提（1）—

第 3 回 ヒトのライフサイクルと社会規範・制度—前提（2）—

第 4 回 ライフサイクル上のケアをめぐる葛藤と調整—ケアの基本視角の設定—

第 5 回 個人化と「自立」の支配—フレームワーク（1）—

第 6 回 自立志向と「依存」の解釈変更—フレームワーク（2）—

第 7 回 依存と「ケア」と自立の関係—フレームワーク（3）—

第 8 回 ライフサイクルの不安定とジェネレイショナル・ケア—内部依存—

第 9 回 ライフサイクルとジェネレイショナル・ケア—内部依存+外部依存—

第 10 回 多様なケア論とその生成基盤の構造

第 11 回 相互性と権利性—ケアの二者関係の分析（1）—

第 12 回 変化志向の反映—ケアの二者関係の分析（2-1）—

第 13 回 インフォームド・コンセント—ケアの二者関係の分析（2-2）—

## 第 14 回 「生活世界」への依拠—ケアの二者関係の分析 (3)

—

## 第 15 回 多様な二者関係の重なりとしてのケア—連携の必然性と課題—

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献：青木紀『ケア専門職養成教育の研究』明石書店 2017年。その他のものについては、必要に応じて授業内で適宜紹介する。

### 〔成績評価の方法・基準〕

毎回のリアクションペーパーの提出を前提に、中間課題レポートと学期末課題レポートを提出し、評価する。レポートの評価基準は、与えられた課題の理解と論理的記述性及び内容の独創性などを中心に判定する。比率は授業参加状況（リアクションペーパーの提出）20%、中間課題レポート30%、学期末課題レポート50%とする。

### 〔課題に対するフィードバック〕

課題レポートは、簡単な採点とコメントを付して返却する。

### 〔授業時間外学修〕

各回の授業に関連して、短いものでいいので、とくにリアクション・ペーパーの提出に時間を割いてほしい（30分程度）。その意味では、復習に期待する。なお関連する学術文献などは講義内で紹介する。

### 〔オフィスアワー〕

リモート授業が中心になるので、毎回のリアクションペーパーの中で質問等も受け付けながら、適宜授業時間内にフィードバックする。なお、必要があれば、学内メールでも対応する。o-aoki@saku.ac.jp

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

### 〔アクティブラーニング〕

### 〔その他履修上の留意事項等〕

本科目は基本的にオンラインで行うが、毎回配布資料があるので、所定の教室から受講すること。基本的なことをしっかり学び、通説を知ること大事だが、視点を少しずらす、あるいは反転させるだけで別世界が見えてくることもある。そんな学び方を感じ取り、自らの学びの姿勢とすることを期待する。

## 家族社会学/Family Sociology

CF107P

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
1年  
2単位 後期  
講義

### 元橋 利恵

#### 〔授業の概要〕

家族社会学における基本的な概念やものの見方・考え方を習得するとともに、現代社会における家族の変化が、社会変動や制度とどう関わってきたかを知ることが本講義の第1の目的である。家族とは、受講生の皆さんにとって、身近な存在・対象であるかもしれない。だからこそ自分たちのもつ家族やそのイメージを自明なものとして考えてしまうことも多いのではないだろうか。こうした「家族の当たり

前」を検討・分析する思考を養うことが本講義の第2の目的である。

#### 〔到達目標〕

この授業の目標は、「家族」に関する基本的概念を学ぶとともに、家族をめぐる現状を把握・理解することで、現代社会において生じている様々な家族問題に適切に対処する方法を自身で考えられるようになることである。また、近代家族に関わる諸規範を相対化し、よりよい民主的な家族の在り方への想像力を養うことも目標となる。

授業は講義形式で行う。様々なデータや歴史的資料・映像資料をもとに、日本の家族および家族と社会の変化を説明する。授業計画は、適宜変更することがある。

#### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP3

#### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション 「フツーの家族」ってなんだろう？  
講義内容：近代家族に関わる基礎的な用語の説明と授業全体の内容・進め方の説明をおこなう
- 第 2 回 日本における近代家族の成立と発展（1）その成立  
講義内容：近代化の社会の変化について説明する
- 第 3 回 日本における近代家族の成立と発展（2）その大衆化  
講義内容：戦後日本社会と近代家族の大衆化について説明する
- 第 4 回 近代家族の排他性と諸問題  
講義内容：現代の家族問題について、1970年代以降の社会変化から概観する
- 第 5 回 家族とジェンダー（1）男らしさ、女らしさはどうしてつくられるのか  
講義内容：ジェンダー、セクシュアリティについて基礎的な説明をおこなう
- 第 6 回 家族とジェンダー（2）セクシュアルマイノリティの排除の問題  
講義内容：セクシュアルマイノリティの権利獲得の歴史について
- 第 7 回 家族とジェンダー（3）恋愛と結婚  
講義内容：現代の恋愛観と結婚観の変化、人々の親密性の変容について説明する
- 第 8 回 家族とジェンダー（4）性別役割分業と家事労働  
講義内容：近代家族における性別役割分業についてデータをもとに解説する
- 第 9 回 家族と暴力（1）DV  
講義内容：ドメスティックバイオレンスや児童虐待など家族のなかに暴力の問題化について歴史をふまえ説明する
- 第 10 回 家族とケア（1）ケアの倫理の登場  
講義内容：ケアの倫理の議論の紹介 家族のオルタナティブを考えていく手がかりを学ぶ
- 第 11 回 家族とケア（2）ケアの倫理の議論の発展  
講義内容：ケアの倫理に依拠したフェミニズムの議論を概観し、依存の問題について考える
- 第 12 回 家族とケア（3）国家と家族

- 講義内容：ケアの観点から家族と国家の関係性について考える。ヤングケアラーの問題について
- 第 13 回 家族とケア (4) ケアする人の権利  
講義内容：移民家事労働者の権利問題について
- 第 14 回 家族とケア (5) 男性とケア  
講義内容：「男性」はケアの問題にいかに関与すべきかを考える
- 第 15 回 まとめ  
講義内容：講義全体のまとめと、最終レポートについて説明、アドバイスなど

【テキスト・参考書・参考文献】

教科書：永田夏来、松木洋人編著（2017）『入門家族社会学』新泉社

参考書：適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準】

毎回の小課題40%、筆記試験60%で総合評価する。

毎回の小課題へのフィードバックは基本授業時間内におこなう。個別にmanabaでおこなうこともある。

【課題に対するフィードバック】

授業内で提示する。

【授業時間外学修】

授業内に指示する次回の内容に関する教科書の章を読むこと（30分程度）。

毎回の小課題に取り組むこと（30分程度）。

【オフィスアワー】

随時メールで質問を受け付ける。

メールアドレス regalecus\_russellii331@yahoo.co.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

特になし

【アクティブラーニング】

【その他履修上の留意事項等】

コンピュータの基礎演習/Computer Literacy

CF120W

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

1年

1単位 前期

講義

三池 克明、竹内 美紀

【授業の概要】

大学生活に必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。

【到達目標】

パソコンやインターネット、オープンデータ、AIサービスとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、大学生や社会人として必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP2、<人>DP2、<人>DP4、<人>DP7、<人>DP8

【授業計画】

- 第 1 回 **学内ネットワークの使用方法と大学メールの使い方**  
PC室の利用方法、LMS(manaba・respon)の利用方法、メール(Microsoft 365)の利用方法
- 第 2 回 **情報のデジタル化とAI**  
デジタルとは、AIとは、デジタル社会におけるデータ・AI活用、生成AIとは
- 第 3 回 **情報セキュリティと情報倫理**  
情報やデータを守るには、データやAIを活用する際の注意点、止揚(aufheben)の考え方に基づくシステムの安全性の見極め方
- 第 4 回 **ワープロソフトで文章を入力**  
日本語入力について、ファイルとフォルダ、Wordで文章入力
- 第 5 回 **文章の編集と加工**  
文書の加工、印刷・PDF変換などの出力について
- 第 6 回 **ビジネス文書の作成**  
ビジネス文書の構造、ビジネス文書の作成、AIを用いた文章の作成と添削
- 第 7 回 **文書に表を挿入しデザインする**  
複雑な表の作成、見やすい表のデザイン
- 第 8 回 **表計算ソフトでデータを入力**  
表計算ソフトとは、Excelでの表デザイン、表計算の基礎
- 第 9 回 **表計算処理**  
表計算、相対参照と絶対参照、データの並べ替え
- 第 10 回 **グラフの挿入とデザイン**  
データを説明する手段としてのグラフ、グラフ作成、他のソフトへの貼り付け
- 第 11 回 **オープンデータの取得とデータの整理**  
オープンデータとは、e-Statの活用、データの扱い方・読み方、Excelとの連携
- 第 12 回 **オープンデータから取得・整理したデータをプレゼンにまとめる**  
プレゼンテーションとは、スライド型プレゼンテーションの制作、整理したオープンデータを説明するには、AIによるアウトライン作成支援
- 第 13 回 **プレゼンにアニメーションを付けて視聴者の目を引かせる**  
なぜアニメーションをさせるのか、アニメーションの設定、よいプレゼンテーションとは
- 第 14 回 **オープンキャンパス用プレゼンの制作**  
最終課題「オープンキャンパス用プレゼンの制作」について、評価基準について
- 第 15 回 **オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出**  
最終課題の制作と提出

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：奥村晴彦、森本尚之著『[改訂第5版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

〔成績評価の方法・基準〕

毎回の授業終了時に提出するコメントシート [30%]

提出した課題 [70%]

〔課題に対するフィードバック〕

締切り以降の授業内あるいはmanabaにて動画配信等で解説する。

〔授業時間外学修〕

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

月・水～金の9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

研究室(1号館3F1327研究室)、学生総合支援センター、6103PC室などにいます。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、20年（うち4年は合同会社の業務執行社員として）継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計9年経験している。これらの経験を踏まえ、情報機器を十分に活用し短時間で仕上げる方法を解説する。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の要所所でAIを活用します。本学のルールを確認して正しく活用しましょう。また、とにかく質問する受講生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。

多職種連携/Multidisciplinary collaboration

CF204P

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目  
2年  
1単位 前期  
講義  
必修

八尋 道子、永野 淳子、脇山 園恵

〔授業の概要〕

現在、医療や福祉の現場あるいは、地域では、さまざまな専門職者がチームを組んで、患者や、その家族の支援をすることの重要性が高まっている。多職種が協働するためには、支援する人々について到達すべき目標を共通理解し、お互いの専門性を活かす役割分担が必要である。その過程を実現するために、まずヒューマンケアに関わる様々な職種の定義、役割と、隣り合う又は重なり合うそれらの職種の区分の原理について学び、さらに、他職種の専門性の理解を通して、自分の専門性、役割を自覚することにつなげる。

〔到達目標〕

1. 医療や福祉の現場、地域で連携が求められる多職種を知る。

2. 保健・医療・福祉にかかわる多職種の専門性や役割について考える。

3. チーム学修を通して、多職種が連携することの意味を考える。

4. チーム学修を通して、問題解決能力を高める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 2、<看>DP 6、<看>DP 7、<人>DP 5、<人>DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 コース・オリエンテーション  
「多職種」と「他職種」「連携」「協働」「カンファレンス」とは  
【講義／八尋・永野】
- 第 2 回 保健医療福祉にかかわる職種を知ろう -1  
「社会福祉士」「精神保健福祉士」とは  
職種別チーム学修 中間レポート作成  
【講義・演習／脇山・永野・八尋】
- 第 3 回 保健医療福祉にかかわる職種を知ろう -2  
ヒューマンケアに関わる様々な職種の定義、役割について理解する  
《看護師・保健師・社会福祉士・精神保健福祉士・理学療法士》  
職種別チーム学修をとり入れて進めます。メンバー同士の気づきの共有から、個々の思考を深化させ中間レポートに反映することをめざします。  
事例提示 中間レポート提出  
【講義・演習／八尋・永野・脇山】
- 第 4 回 保健医療福祉にかかわる職種を知ろう -3  
ケース・カンファレンス 事例を通してそれぞれの専門職を理解する  
多職種チーム学修から、自分が調べた以外の職種を知ることができるようにします。【演習／永野・八尋・脇山】
- 第 5 回 多職種カンファレンスを体験しよう -1  
ケース・カンファレンス 事例を通して地域で暮らす人々への支援を考える  
多職種チーム学修 【演習／永野・八尋・脇山】
- 第 6 回 多職種カンファレンスを体験しよう -2  
ケース・カンファレンス  
事例検討・支援計画を現場の専門職者にプレゼンテーションすることで、ケースカンファレンスを実際に体験し思考を深めます。  
多職種チーム学修 【演習／八尋・永野・脇山、保健医療福祉の専門職者】
- 第 7 回 多職種カンファレンスを体験しよう -3  
保健医療福祉の専門職から多職種連携の実際を学ぶ  
【講義・演習／保健医療福祉の専門職者、八尋・永野・脇山】
- 第 8 回 コースサマリー  
ケース・カンファレンスのふりかえりと多職種連携のまとめ

最終レポートについて

【講義・演習／八尋・永野・脇山】

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：指定なし。資料を配付します。

参考文献：必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法・基準】

中間レポート20% 最終レポート40% 多職種カンファレンス（準備・実施）30%

毎回のリアクション（manaba）10%

【課題に対するフィードバック】

毎回のリアクションの内容は、次回講義の冒頭で紹介し共有します。

課題レポートの返却はしませんが、レポートの評価は個別に問い合わせが可能です。

【授業時間外学修】

予習が中心になります。自分が担当する専門職について、図書館にある文献や信頼性のあるインターネットサイトで調べ、仲間に説明できるようにまとめます。また、ほかの専門職についての情報（新聞記事やTVニュース、ドキュメンタリー、ドラマ等）にも目を向け、担当する専門職との具体的な連携について考え、ノートに記述してください。毎回60分の自己学修が必要です。復習は、毎回15分間その日のうちにふりかえり、ノート整理をしながら追加・修正をしましょう。

【オフィスアワー】

授業終了後

八尋：木曜日17時50分～19時（まずはメールをください）  
m-yahiro@saku.ac.jp

永野：火～木曜日，12:20-12:50。ただし、会議等により対応できない場合があります。メール可 j-nagano@saku.ac.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

八尋：医療福祉現場での多職種連携を経験した教員による授業科目です。

永野：訪問介護事業所での多職種連携の経験を踏まえ授業を行います。

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

提出物の期限は厳守してください。

本授業は、チーム学修を重視しています。ワークを進めるにあたってはメンバーシップを発揮し、チームメンバーの考えを尊重しつつ、自らの意見を述べられるように努力してください。

## 英語 I /English I

CF122T

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目

1年

1単位 前期

演習

Mark Cox

【授業の概要】

さまざまなケアの場面で使用される基本的な英語表現を学ぶ。また、関連する医学・看護・福祉でよく用いられる語彙を増やし、発音に焦点を当てて学修する。いくつかの健康問題や社会問題について、英語で話す、聞く、書く、読むことを実践する。これにより、英語を学びながら医療、福祉のボキャブラリーを増やし、ケアに関わる知識やコミュニケーションスキルを高める。

【到達目標】

1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。
2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP 1、<看>DP 2、<人>DP 2、<人>DP 7

【授業計画】

- 第 1 回 Unit 1: Infection  
- discussion questions  
- read case study
- 第 2 回 Unit 1: Infection  
- patient discussion  
- read about and study the disease state
- 第 3 回 Unit 1: Infection  
- discuss the disease as if talking with a patient or client  
- vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 4 回 Unit 2: Fractures  
- discussion questions  
- read case study  
- patient discussion
- 第 5 回 Unit 2: Fractures  
- read about and study the disease state  
- discuss the disease as if talking with a patient or client  
- vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 6 回 Unit 3: Dementia  
- discussion questions  
- read case study  
- patient discussion
- 第 7 回 Unit 3: Dementia  
- read about and study the disease state  
- discuss the disease as if talking with a patient or client  
- vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 8 回 Review and Mid-Term

- review Units 1-3
  - mid-term examination
  - 第 9 回 Unit 4: Allergies
    - discussion questions
    - read case study
    - patient discussion
  - 第 10 回 Unit 4: Allergies
    - read about and study the disease state
    - discuss the disease as if talking with a patient or client
    - vocabulary exercises and vocabulary in use
  - 第 11 回 Unit 5: Food Poisoning
    - discussion questions
    - read case study
    - patient discussion
  - 第 12 回 Unit 5: Food Poisoning
    - read about and study the disease state
    - discuss the disease as if talking with a patient or client
    - vocabulary exercises and vocabulary in use
  - 第 13 回 Unit 6: Burns
    - discussion questions
    - read case study
    - patient discussion
  - 第 14 回 Unit 6: Burns
    - read about and study the disease state
    - discuss the disease as if talking with a patient or client
    - vocabulary exercises and vocabulary in use
  - 第 15 回 Review
    - units 4-6 review and practice
- [テキスト・参考書・参考文献]  
 Hospital English: Nursing Case Studies  
 [成績評価の方法・基準]  
 中間テスト (25%)と期末テスト (25%)  
 課題 (20%)  
 授業参加 (30%)  
 [課題に対するフィードバック]  
 To be announced  
 [授業時間外学修]  
 Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Review the previous lesson for at least 1 hour once for each session.  
 [オフィスアワー]  
 To be announced  
 [実務経験のある教員等による授業科目]  
 [アクティブラーニング]  
 [その他履修上の留意事項等]

## 英語 II /English II

CF123T

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 基盤科目/基盤教育科目 > 養護教諭二種免許状授与申請科目  
 1 年  
 1 単位 後期  
 演習

Mark Cox

### [授業の概要]

英語 I に続き、英語 II でもいくつかの健康問題や社会問題について、英語で話す、聞く、書く、読むことを実践する。これにより、英語を学びながら医療、福祉のポキャブラリーを増やし、ケアに関わる知識やコミュニケーションスキルを高める。とりわけ、短い文章の英作文ができ、メール等による意思伝達できる力をつける。

### [到達目標]

1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。
2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。

### [学位授与方針 (ディプロマポリシー : DP) との関連]

<看>DP 1、<看>DP 2、<人>DP 2、<人>DP 7

### [授業計画]

- 第 1 回 Unit 7: Hypertension
  - discussion questions
  - read case study
- 第 2 回 Unit 7: Hypertension
  - patient discussion
  - read about and study the disease state
- 第 3 回 Unit 7: Hypertension
  - discuss the disease as if talking with a patient or client
  - vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 4 回 Unit 8: Arthritis
  - discussion questions
  - read case study
  - patient discussion
- 第 5 回 Unit 8: Arthritis
  - read about and study the disease state
  - discuss the disease as if talking with a patient or client
  - vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 6 回 Unit 9: Diabetes
  - discussion questions
  - read case study
  - patient discussion
- 第 7 回 Unit 9: Diabetes
  - read about and study the disease state
  - discuss the disease as if talking with a patient or client
  - vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 8 回 Review and Mid-Term
  - review units 7-9
  - mid-term examination

- 第 9 回 Unit 10: Anorexia  
- discussion questions  
- read case study  
- patient discussion
- 第 10 回 Unit 10: Anorexia  
- read about and study the disease state  
- discuss the disease as if talking with a patient or client  
- vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 11 回 Unit 11: Pneumonia  
- discussion questions  
- read case study  
- patient discussion
- 第 12 回 Unit 11: Pneumonia  
- read about and study the disease state  
- discuss the disease as if talking with a patient or client  
- vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 13 回 Unit 12: Obesity  
- discussion questions  
- read case study  
- patient discussion
- 第 14 回 Unit 12: Obesity  
- read about and study the disease state  
- discuss the disease as if talking with a patient or client  
- vocabulary exercises and vocabulary in use
- 第 15 回 Review  
- units 10-12 review

[テキスト・参考書・参考文献]

Hospital English: Nursing Case Studies

[成績評価の方法・基準]

中間テスト (25%)と期末テスト (25%)

課題 (20%)

授業参加 (30%)

[課題に対するフィードバック]

To be announced

[授業時間外学修]

Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Review the previous lesson for at least 1 hour once for each session.

[オフィスアワー]

To be announced

[実務経験のある教員等による授業科目]

[アクティブラーニング]

[その他履修上の留意事項等]

## 法学（日本国憲法含む）/Jurisprudence

CF130T

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目

1年

2単位 後期

講義

選択

関 良徳

### 【授業の概要】

法のしくみと考え方について述べた後に、日本国憲法を柱とする現代日本の法の法体系について概説する。日本国憲法は、基本的人権の規定と統治組織の規定とで構成されている。本講義においては、人権の部分を中心として行うものである。よって、人権の享有主体、各種自由権、社会権、参政権、受益権等について解説していく。個別法の中では、民法を中心に契約の考え方と、親族法における扶養関係他相続について触れる。

### 【到達目標】

私たちの身のまわりの法律問題について理解を深めると同時に、憲法を基軸とする法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP 1、<人>DP 3

### 【授業計画】

- 第 1 回 自己決定と法  
法律的な考え方の基礎にある「自己決定権」について学ぶ。
- 第 2 回 消費生活と法（1）  
消費生活における契約と約款の問題を事例から学ぶ。
- 第 3 回 消費生活と法（2）  
消費者契約法等にかかわる事例から消費者問題を考える。
- 第 4 回 事例検討[1]  
自己決定権に関わる事例の模擬裁判（ディスカッション）を行い、問題点を探る。
- 第 5 回 家族と法  
家族をめぐる法的問題（夫婦別姓など）について説明する。
- 第 6 回 子どもと法（1）  
児童虐待に対する法的対応について学ぶ。
- 第 7 回 子どもと法（2）  
現在の少年法がかかえる諸問題について概説する。
- 第 8 回 事例検討[2]  
家族や子どもに関する事例を裁判形式のディスカッションで検討する。
- 第 9 回 犯罪と法  
犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。
- 第 10 回 裁判員制度  
裁判員制度の意義と問題点について考える。

- 第 11 回 医療と法（１）  
インフォームド・コンセントと安楽死について考  
える。
- 第 12 回 事例検討[3]  
刑事事件を裁判形式のディスカッションで検討  
し、その仕組みを学ぶ。
- 第 13 回 医療と法（２）  
代理出産、臓器移植、医療事故・医療訴訟につ  
いて解説する。
- 第 14 回 労働と法（１）  
採用と退職・解雇に関わる労働法について検討す  
る。
- 第 15 回 労働と法（２）  
就業時間、賃金、職場環境に関する労働法につ  
いて概説する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。

参考文献：適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（50％）

レポート（30％）

授業への取り組み状況（20％）

課題等のフィードバックは授業内で説明する。

〔課題に対するフィードバック〕

授業時間内に課題についての解説を行う。

〔授業時間外学修〕

授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内  
容の復習を行っておくこと。

事例検討の授業では、予習レポートが課される。

1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

随時、メールで質問を受け付ける。

yosseki@shinshu-u.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

法学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この  
授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識  
を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題に  
ついての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評  
価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うよう  
にしてください。

生活習慣と健康/Lifestyle and Health  
Management

CB101

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 専門基礎科目/専門科目

1年

2単位 前期

講義

朴 相俊

〔授業の概要〕

人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮ら  
しを取り巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ね  
は重要な影響因子となる。自己のふり返りを基に、健康の  
回復・維持・増進のための基礎的な知識を深め、心身の健  
康維持に必要とされる食事や運動、思考、生活習慣などに  
ついて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変  
容につながる介入のあり方を理解する。

〔到達目標〕

1. 学生が自己の生活習慣を見つめ、健康とのつながりを理  
解する。
2. 心身の健康管理のあり方を考え、また、支援者としての  
役割を自覚する。
3. 人の多様性を理解し、上手な対人関係のための知識を深  
める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

オリエンテーション（講師紹介、講義の進め方、  
成績評価方法）健康とは WHO の健康の定義・  
公衆衛生と予防の概念・健康づくりと影響因子

第 2 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

命の大切さについて 自殺問題・心の健康問題

第 3 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

ゲートキーパーについて① 自殺問題とゲートキ  
ーパーの役割

第 4 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

ゲートキーパーについて② 自殺する人の心理と  
ゲートキーパーとしての心得

第 5 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

ゲートキーパーについて③ 自殺する人の心理と  
ゲートキーパーとしての心得

第 6 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

自殺に関する偏見について 自殺は合理的な選択  
なのか

第 7 回 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health  
management

心身のセルフケア① 認知行動療法を知る

|        |                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------|
| 第 8 回  | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>心身のセルフケア② 認知行動療法の実践       |
| 第 9 回  | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>心身のセルフケア③ 精神分析の概要         |
| 第 10 回 | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>心身のセルフケア④ ストレス科学分野の研究     |
| 第 11 回 | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>心身のセルフケア⑤ 支援者として自己管理      |
| 第 12 回 | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>人の多様性の理解① 男女の違い           |
| 第 13 回 | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>人の多様性の理解② 人の5つの言語の違い      |
| 第 14 回 | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>コミュニケーションスキル ところに届く言葉の伝え方 |
| 第 15 回 | 生活習慣と健康 / Lifestyle and Health management<br>まとめ 授業のポイントの振りかえり         |

〔テキスト・参考書・参考文献〕

○テキスト：指定しない。

○参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

○授業参加状況（30%）

○授業終了時のミニレポート（20%）

ミニレポートについては、大学メールによりフィードバックする

○課題レポート（50%）

課題レポートについては、大学メールによりフィードバックする

〔課題に対するフィードバック〕

〔授業時間外学修〕

特に指定しない。

〔オフィスアワー〕

原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

認定行動療法士の視点と自殺対策を行ってきた研究者の視点から講義を進めます。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

足と健康（基本） / Foot and Health (Basic)

CB105

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 専門基礎科目/専門科目  
1年 前期  
1単位 講義  
選択

宮原 香里、坂江 千寿子、齋藤 順子、森本 彩

〔授業の概要〕

「歩く」という行為は人間の基本動作であり、足部のクッション機能とポンプ機能は心身の健康に大きく影響している。日本における足と靴の健康に関する取り組みの現状および本学での足育の取り組みを知り、足の健康の重要性を認識する。健康寿命を目指す佐久市に設置されている本学の役割の一つとして自身及び周囲の人々に必要とされる足の健康を守るための基本的な能力を身につける。「歩く」を支える「足」の機能、足のトラブルと「靴」との関係、姿勢や歩行分析の基礎知識と技術を活用して、あらゆる年代の人が健やかに歩くことを支えるためのケア習慣を目指す。

〔到達目標〕

1. 足の健康と心身との関係が説明できる。
2. 歩行を支える足部解剖学（構造と機能）が理解できる。
3. 足部観察のポイントが理解できる。
4. 歩行のメカニズムの理解ができる。
5. フットプリント採寸の目的を理解して、正しい採寸ができる。
6. フットプリントをもとに足部トラブル（骨の変形、皮膚）について基本的な分析ができる。
7. 靴選びの条件と正しい靴の履き方が習得できる。
8. 足部の観察方法、特に角質ケア、足爪ケアの基礎を理解し、セルフケアによって自身および周囲の人々の足部と爪のトラブルを予防できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 6、<人>DP 2、<人>DP 7、<人>DP 8

〔授業計画〕

第 1 回 【講義】足育の定義と必要性、本学における足育活動の紹介、靴の選び方・履き方（担当：宮原香里）

1. 足育の定義と必要性
2. 本学における足育活動の紹介
  - 1) 佐久市足育推進協議会足育サポートセンター
  - 2) 文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究プロジェクト
  - 3) 足裏測定装置の開発
  - 4) 足の保健室
3. 靴選びの条件と正しい靴の履き方

第 2 回 【講義】ドイツと日本の足と靴事情、足と靴に関する基礎知識（担当：ベーレルツ、ベーレ操）

1. ドイツと日本の足と靴事情
 

専門職業的発展の歴史ードイツ整形外科靴マイスター教育制度ー
2. 足と靴に関する基礎知識

- 1) 足部解剖学（構造と機能）：骨格と関節、筋肉と腱、筋肉と靭帯
- 2) 足のアーチ構造
- 3) 歩行のメカニズム
- 第3回 【講義】立位（脚軸）の観察および足部観察のポイント、フットプリント採寸の目的と方法（担当：ベーレルツ、ベーレ操）
- 1.立位（脚軸）の観察および足部観察のポイント
  - 2.フットプリント採寸の目的と方法
- 第4回 【講義／演習】立位（脚軸）の観察および足部観察、フットプリント採寸（担当：ベーレルツ、ベーレ操、宮原香里、森本彩、坂江千寿子）
- 1.立位（脚軸）の観察および足部観察、フットプリント採寸の講義・演習を行う。
  - 2.演習を通して得られた知識、技術について全体共有する。
- 第5回 【講義／演習】立位（脚軸）の観察および足部観察、フットプリント採寸（担当：ベーレルツ、ベーレ操、宮原香里、森本彩、坂江千寿子）
- 1.立位（脚軸）の観察および足部観察、フットプリント採寸の講義・演習を行う。
  - 2.演習を通して得られた知識、技術について全体共有する。
- 第6回 【講義】フットプリント分析（基本編）（担当：ベーレルツ、ベーレ操、宮原香里、森本彩、坂江千寿子）
- 1.フットプリント分析（基本編）  
第4回・第5回で採寸したフットプリントをもとに分析方法を教授する。
- 第7回 【講義】足趾と爪を守るためケア（担当：坂江千寿子）
- 1.基本的な爪の切り方
  - 2.基本的な角質ケア
  - 3.爪のトラブル予防と対策
- 第8回 【講義／演習／実技試験】基本的な角質ケア・爪ケア（担当：坂江千寿子、森本彩、宮原香里、他）
- 1.足趾の爪の切り方の講義・演習および実技試験を行う。
- 【テキスト・参考書・参考文献】  
下記の1について、講義中に紹介します。
1. 日本フットケア・足病医学会学術委員会「子どもの足・靴改革ワーキンググループ」監修  
小児靴の手引き書2023 400円
- 【成績評価の方法・基準】
- 1.筆記試験（30％）授業内で5分程度の小テストを3回行います。実施日とテスト範囲は初回のオリエンテーションで事前に伝えますので、皆さんが主体的に授業に参加することを期待しています。
  - 2.実技試験（30％）自分の手と足の爪切り場面を用いて行います。
  - 3.課題提出（20％）演習後のふりかえりとして、manabaを使用し提出状況を評価します。

4.授業参加状況（20％）授業の取り組みや質問・意見交換の機会を設け評価します。期限外提出は減点となります。

【課題に対するフィードバック】

課題に対するフィードバックは、授業内で行います。

【授業時間外学修】

- 1.配付資料をもとに学びを整理し復習しておきましょう。
- 2.授業1回について1時間程度の復習を要します。
- 3.靴の選び方・履き方は日常生活においても習慣化できるようにしましょう。
- 4.爪と足のケアは、自分の足の観察と爪切り、フットケアの動画視聴を事前課題とします。

【オフィスアワー】

質問は授業終了後に教室で受け付けます。授業日以外の質問はメールで受け付けます。宮原香里：k-miyahara@saku.ac.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

実務経験のある教員等が複数で授業を担当します。（看護師：宮原香里、坂江千寿子、森本彩、ドイツ整形外科靴マイスター：ベーレルツ、日独通訳者・ドイツWMS子供靴規格協会認定アドバイザー：ベーレ操）

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

授業時の持参品や服装に関しては、初回授業で説明します。フットプリントに基づいた足部分析法を学び、足を守る靴に関する基礎知識を学ぶことは、在学中に限らず、卒業後も必ず役立つことでしょう。

---

## 生活学原論/Life Structure

CB110

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 専門基礎科目/専門科目  
2年 後期  
2単位 講義

佐藤 嘉夫

---

【授業の概要】

人間存在の基礎である生命と日々の暮らしの再生産の仕組みについて学び、ソーシャルケアの前提としての生活理解を深める。具体的には、生活の循環・再生産の基本構造、時間・空間および資源的・地理的構成、主体的・客体的（外的・社会的）要素などについて理解を深め、生活の今日的諸相をとらえることでソーシャルケアの基礎となる生活理解の視点と生活把握の仕方について学ぶ。

【到達目標】

- ①生活を規定している要因と構成要素を学び、構造的な理解を深める。
- ②生活の動態的（歴史的、生活史的）理解を深め、ライフサイクルの視点から生活課題を理解する。
- ③生活問題を福祉の枠組みの中で理解し、生活分析と社会福祉との関連性についての理解を深める。
- ④生活把握と生活分析の様々な手法・研究方法を学び、その技法を習得する。
- ⑤福祉的援助（ケア・ワーク、ソーシャルワーク、ケア・

マネジメント)の目標としての生活の基本原理について理解を深める。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連〕

〈看〉DP5、〈人〉DP3、〈人〉DP4

〔授業計画〕

- 第1回 はじめに:ソーシャルケアと生活理解
- 第2回 生活構造の理解-4つの契機・要素をとおして1. 労働・消費・休息・文化活動をとおした狭義の生活の循環・再生産のしくみ
- 第3回 2.家計構造、水準からみた生活の意味
- 第4回 3.生活関係
- 第5回 4.生活の時間軸と生活リズム 生活時間の構成要素、生活時間の進行(生活・家族周期、ライフ・ステージライフサイクル)生活リズム
- 第6回 生活の空間論-居住・資源・社会空間
- 第7回 サザエさんの生活分析
- 第8回 生活の主體的側面-生活価値と生活の営み(生活経営・管理)
- 第9回 生活の日常性と日々の生活行動
- 第10回 生活の非日常性(生活の危機-家族崩壊、震災)
- 第11回 自分・家族の生活分析
- 第12回 生活と社会制度・社会サービス
- 第13回 生活分析への視点1
- 第14回 生活分析への視点2
- 第15回 生活の理解・分析とソーシャルケア

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特定のテキストは用いない。講義時にレジメを配布する。参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

リアクションペーパーやワークシートの提出 30%、小テスト(2~3回) 30%、最終レポート 40%

〔課題に対するフィードバック〕

学生へのフィードバック:manaba上に掲示又は授業内で解説。

〔授業時間外学修〕

新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。(事前学習。目安として1時間)授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。(事後学習。目安として1時間)

〔オフィスアワー〕

授業内で指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

## 食と健康/Food and Health

CB102P

看護学部・人間福祉学部共通科目>専門基礎科目/専門科目>保健師国家試験受験資格取得要件科目

1年  
2単位 後期  
講義  
選択

沖嶋 直子

〔授業の概要〕

人間の生命維持に必要な栄養素とその代謝経路について理解し、疾病の予防、健康保持増進、疾病の治癒、回復に寄与する栄養の働きを学ぶ。特に、医療、福祉の現場に必要な食事療法とその原理を理解し、栄養素の給源である食べ物や食事としての実践方法を学ぶ。また、ライフステージごとの栄養的特徴や問題から、現代における、「人」「地域」「社会」の食生活の課題を明らかにし、その解決に向け連携できる職種や活用できる地域の資源を見つけられるよう、演習を取り入れた学びとする。「食と健康」を学ぶ中で、自分自身の食生活を振り返り、健康な食習慣に向け学んだ知識を実践することで心身の健康や自分らしく生きる力が身につき、命の大切さを深く理解し、擁護する能力の養成につなげていきたい。

〔到達目標〕

1. 人体に必要な栄養素とその消化・吸収・代謝について説明できる。
2. 健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養素の作用機序について理解し、その給源の食物やその調理それを用いた料理が分かる。
3. 近年の各世代の栄養にまつわる問題を理解し、その解決方法について説明でき、健康な食習慣の形成について説明できる。自らの健康的な食生活が実践できる。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連〕

〈看〉DP1、〈看〉DP5、〈看〉DP7、〈人〉DP2、〈人〉DP3、〈人〉DP5

〔授業計画〕

- 第1回 栄養とは(人間栄養学と看護)  
第1章、第10章。保健、医療、福祉における栄養ケアの必要性と現状の栄養施策、医療におけるNST(栄養サポートチーム)について学ぶ。(講義)
- 第2回 栄養ケア・マネジメント  
第6章、第7章。栄養ケア・マネジメントの意義及び構造、アセスメント方法での評価項目、判定基準を学ぶ。(講義)
- 第3回 栄養素の種類とはたらき①:糖質、脂質、たんぱく質  
第2章。種類と働き、互換性、給源となる主な食品について学ぶ。(講義)
- 第4回 栄養素の種類とはたらき②:ビタミン・ミネラル・その他  
第2章。種類と働き、給源となる主な食品、過不足による疾患について学ぶ。食物繊維や水についても学ぶ。(講義)

- 第 5 回 食事と食品  
第4章、第5章、第10章。栄養素の特徴を基にした食品の分類法、機能性を持った食品、表示、エネルギー、調理による変化について学ぶ。(講義)
- 第 6 回 栄養素の消化・吸収  
第3章。消化器官のしくみと働き、吸収経路について学ぶとともに、消化器疾患の食事療法のポイントを理解する。(講義)
- 第 7 回 栄養素の代謝・排泄  
各栄養素の代謝・排泄のしくみを知り、第13回で学ぶ内容の基本を学ぶ。(講義)
- 第 8 回 エネルギー代謝  
第4章、第7章。基礎代謝量、活動時のエネルギー消費量算出を学び、食事におけるPFCバランスについて理解する。(講義)
- 第 9 回 食事摂取基準総論  
第5章。厚生労働省が策定している食事摂取基準について、その理論と応用について学ぶ。(講義)
- 第 10 回 ライフステージと栄養①乳幼児期、学童期、思春期、妊娠授乳期  
第8章。各期の生理学的特徴を踏まえた栄養補給について学ぶとともに、各期の栄養に関する課題やその予防法を学ぶ。(講義)
- 第 11 回 ライフステージと栄養②成人期、更年期、高齢期  
第8章。各期の生理学的特徴を踏まえた栄養補給について学ぶとともに、各期の栄養に関する課題やその予防法を学ぶ。(講義)
- 第 12 回 臨床栄養学総論  
第9章。病院食、栄養補給法、経腸栄養、静脈栄養について学ぶ。(講義)
- 第 13 回 臨床栄養学各論①  
第9章。糖尿病、脂質異常症、高血圧症など生活習慣病における栄養療法について学ぶ。(講義)
- 第 14 回 臨床栄養学各論②  
第9章。食物アレルギーなど生活習慣病以外の疾患での栄養療法について学ぶ。(講義)
- 第 15 回 健康的な食生活の実践にむけて  
第9章、第10章。食のQOLの向上にむけて、サービスや支援方法を検討する。(演習)
- 〔テキスト・参考書・参考文献〕  
テキスト：『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③』小野章史他共著 医学書院  
参考文献：授業内に適宜紹介する
- 〔成績評価の方法・基準〕  
筆記試験 (90%)  
レポート課題 (10%)  
課題等については個々に評価し返却する。また、必要な内容は授業時に扱い共有する。
- 〔課題に対するフィードバック〕  
評価の際に必要なに応じてコメントを付けて返却する。
- 〔授業時間外学修〕  
毎回の授業後、当日学んだ内容について復習し、不明な点等があったら次回講義で質問すること (1時間以上)。レポ

ートが課された回は、レポートの作成を行うこと。予習は不要です。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

また、受講票を持って質問を受け付け、これに返答する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

栄養学は医療・福祉の専門職として、患者や対象者の栄養評価、チーム医療での介入において必要な知識です。栄養評価とそれに基づいた食事指導、栄養管理までの総合的な視点をもった専門職になれるよう、高い意識を持って受講されることを期待します。

栄養学の知識は、学生自身の日常生活においても重要な知識となります。学んだことを生活で実践し、自身の健康管理に役立てて下さい。その経験が、将来の職場での実践に繋がります。

## 保健医療福祉行政論Ⅰ/保健医療福祉制度論/Health and Welfare AdministrationⅠ

CB108P/CS2305S

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

2年

1単位 後期

講義

小山 秀夫

〔授業の概要〕

保健医療制度は、法律体系でもあり、すぐれて実践的な活動体系でもある。例えば、医療法等をはじめとする医療施設法体系によって、医療機関が規定され、病院や診療所などの医療実践が行われている。医療を実践する医療従事者については、医師法、歯科医師法、薬剤師法、保健師・助産師・看護師法等の国家資格が規定されている。保健活動については、保健所や市町村保健センターなどの場があり、社会福祉施設についても、社会福祉各法がある。さらに、介護保険法によって介護保険施設や事業所が規定され、社会福祉士や介護福祉士については、個別の制度があり、その人々の活動がある。これらの制度の現状と活動実践に焦点をあて、全体の仕組みについて理解する。

〔到達目標〕

1. 日本の保健医療制度の枠組みについて、概要を平易に説明できる。
2. 保健医療従事者の国家資格についてどのような職種があるか説明できる。
3. 保健医療提供施設について、根拠法、名称、役割、機能について説明できる。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連〕

<看>DP6、<人>DP3

〔授業計画〕

第 1 回 (講義) わが国の保健医療体系のヒト・モノ・カネの概要と根拠法

9月26日(木)

- 第 2 回 (講義) 保健医療提供施設について、根拠法、名称、役割、機能 (講義)  
10月3日 (木)
- 第 3 回 (講義) わが国の公衆衛生体系と保健所・検疫所等の現状と課題  
10月10日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第1回
- 第 4 回 (講義) 保健医療従事者の具体的活動状況と課題  
10月17日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第2回
- 第 5 回 (講義) 医療法および医療機関の種類と役割及び現状  
10月24日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第3回
- 第 6 回 (講義) 保健医療従事者の国家資格の概要  
10月31日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第4回
- 第 7 回 (講義) 診療報酬と介護報酬の相違点と政策的連動  
11月7日 (木)
- 第 8 回 (講義) わが国の病院の設置主体別運営状況の運営と課題  
11月14日 (木)
- 第 9 回 (講義) 保健医療制度と社会福祉制度との関係  
11月21日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第5回
- 第 10 回 (講義) 保健医療従事者の養成と確保計画  
11月28日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第6回
- 第 11 回 (講義) わが国の診療報酬制度の概況  
12月5日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第7回
- 第 12 回 (講義) わが国の病院の設置主体別役割別種類役割を国際比較  
12月12日 (木)  
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第8回
- 第 13 回 (講義) 保健医療制度の質的評価と評価方法  
12月19日 (木)
- 第 14 回 (講義) 病院の公私問題と経営問題  
1月16日 (木)
- 第 15 回 (講義) 学習の到達点の確認の残された課題の確認  
1月23日 (木)

〔テキスト・参考書・参考文献〕

必携テキストはない。

参考書、参考文献・参考URL等授業中に指示する

〔成績評価の方法・基準〕

レポート 50%、プレゼンテーション 30%、授業参加状況 20%

〔課題に対するフィードバック〕

提出物については、全て添削したものを返却する。

〔授業時間外学修〕

厚生労働白書のweb版や厚生労働省等のHPを多用するので、インターネット環境を確保すること。

授業の時間外学習時間は、1講義に対して平均2時間程度の予習および資料の事前読み込みを求める。

どこを調べれば理解できるのか、どのような検索法があるのかという具体的方法を習得することにある。

〔オフィスアワー〕

授業時に周知する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

人間福祉学部「保健医療福祉行政論」の履修者は全15回の講義を履修してください。

看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」の履修者は第3・4・5・6・9・10・11・12回の計8回の講義を履修してください。

---

## ソーシャルワーク入門/Introduction to Social Work

CB109P/CS1206Q

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

1年

1単位 後期  
講義  
選択

### 上西 一貴

---

#### 〔授業の概要〕

ソーシャルワーク及びソーシャルワーカーについて、その理念と歴史、概要を入門的に学ぶ。日本におけるソーシャルワーカーの専門職として、社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について理解する。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を深く理解することを通し、学部の理念である「豊かな人間性」を修得することをねらいとする。

#### 〔到達目標〕

①社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義を具体的に説明できる。

②SWの基盤となる考え方の意義と問題点を説明できる。

③SWの形成過程を社会背景と関連させて説明できる。

④SWの倫理と倫理的ジレンマの構造を説明することができる。

#### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<人>DP1、<人>DP3

#### 〔授業計画〕

第 1 回 SWの構成

SWという広範で曖昧な概念を捉えるために、実践、専門職、学問の視点を理解する。

第 2 回 SWの専門性 (1) 専門職の意味

「専門職」を「プロフェッション」「スペシャリスト」「ジェネラリスト」「エキスパート」の側面から理解する。

第 3 回 SWの専門性 (2) 社会福祉士

- 社会福祉士及び介護福祉士法と日本のSW専門職の形成過程から、社会福祉士のジェネラリストとしての専門性を理解する。
- 第 4 回 SWの専門性 (3) 精神保健福祉士  
精神保健福祉士法と日本のメンタルヘルスSW専門職の形成過程から、精神保健福祉士のスペシャリストとしての専門性を理解する。
- 第 5 回 SWの概念  
SWの定義の変遷と、SW専門職のグローバル定義の構造を理解する。
- 第 6 回 SWの基盤 (1) 原理と理念  
SW専門職の中核をなす諸原理である社会正義、人権、集団的責任、多様性の尊重と、これらに関連する理念である社会的包摂とノーマライゼーションについて理解する。
- 第 7 回 SWの基盤 (2) 自立支援  
SWの理念である自立支援について、自立と依存の関係性をふまえて理解する。
- 第 8 回 SWの基盤 (3) 当事者主権  
SWの理念である当事者主権を中心に、アドボカシーや尊厳の保持、自己決定が抱える原理的・実践的問題を理解する。
- 第 9 回 SWの形成過程 (1) 2つの源流  
SWの源流とされる慈善組織協会の活動とセトルメント運動、そこから発展したソーシャル・ケース・ワークについて理解する。
- 第 10 回 SWの形成過程 (2) 専門化  
SWの専門職化と理論化が急速に進み、医学モデルが構築されていった経緯と、その社会的背景、医学モデルにおける援助対象と援助関係の捉え方について理解する。
- 第 11 回 SWの形成過程 (3) 統合化  
SWがシステム理論や生態学的視点を取り込み、ライフモデルが構築されていった経緯と、その社会背景、ライフモデルにおける援助対象と援助関係の捉え方について理解する。
- 第 12 回 SWの形成過程 (4) 専門職批判  
SWが社会構築主義を取り込み、ストレングスモデルが構築されていった経緯と、その社会背景、ストレングスモデルにおける援助対象と援助関係の捉え方について理解する。
- 第 13 回 SWの形成過程 (5) 集団と地域  
グループワークやコミュニティワークの形成過程を理解する。
- 第 14 回 SWの倫理 (1) 倫理綱領  
SWの倫理について、日本ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領、日本社会福祉士会の倫理綱領、日本精神保健福祉士協会の倫理綱領をもとに理解する。
- 第 15 回 SWの倫理 (2) 倫理的ジレンマ  
SW専門職が直面する倫理的ジレンマについて、事例をもとに分析し、さまざまなジレンマが生じる実践構造を理解する。

[テキスト・参考書・参考文献]

◆テキスト

使用しません。manabaに資料を掲載しますので印刷物は配布しません。各自PC等を持参するか印刷して持参することを推奨します。

◆参考文献

講義内で提示します。

[成績評価の方法・基準]

次の2つの試験により成績を付与する。

試験A [40%]: 冬期休暇中にmanabaで実施

試験B [60%]: 定期試験として実施

[課題に対するフィードバック]

試験Aについてはmanabaで点数を確認できます。

試験Bについては要望があれば個別に点数をお知らせします。

[授業時間外学修]

予習復習を前提としますので、必ず行ってください。

◆予習 (各回1時間)

事前に講義資料に目を通す。

◆復習 (各回1時間)

講義資料を必ず読みかえす。必要に応じて授業資料で提示されている参考文献を読む。

[オフィスアワー]

個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。

k-jonishi@saku.ac.jp

※メールアドレスの●は@に置き換えて下さい。

[実務経験のある教員等による授業科目]

[アクティブラーニング]

[その他履修上の留意事項等]

運動と健康 I /Exercise and Health I

CB103T/CS1106

看護学部・人間福祉学部共通科目 > 専門基礎科目/専門科目 > 養護教諭二種免許状授与申請科目

1年

2単位 前期

講義・演習

選択

朴 相俊

[授業の概要]

ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。さらに、年代、体力、障がい等の条件に応じて人々が安全に楽しく運動を実践するために、アセスメント方法、環境づくり、安全管理の基礎的な知識を学ぶ。

[到達目標]

1. 健康 (心と身体) と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる
2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる
3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる

4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
オリエンテーション・競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 2 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 3 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 4 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（卓球）
- 第 5 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
ニューススポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 6 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
ニューススポーツ体験（ドッチボール）
- 第 7 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
ニューススポーツ体験（マレットゴルフ・ソフトボール）
- 第 8 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 9 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 10 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 11 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（卓球）
- 第 12 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
ニューススポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 13 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バドミントン・バスケットボール）
- 第 14 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
競技スポーツ体験（バレーボール・スポンジテニス）
- 第 15 回 運動と健康Ⅰ / Exercise and HealthⅠ  
自由種目・まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

○テキスト：指定しない。

○参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

○授業参加状況（70%）

○課題レポート（30%）

〔課題に対するフィードバック〕

〔授業時間外学修〕

週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。

〔オフィスアワー〕

原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

## 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ

CB104T/CS1007

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目

1年  
2単位 後期  
講義・演習  
選択

朴相俊

〔授業の概要〕

子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、心と身体の健康と運動の関係や運動の基本的な知識や理論を理解する。また、自らの健康づくり及び楽しく安全な運動習慣を身につけるために、メッツとエクササイズ概念を理解した上で、日常生活の中で楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。

〔到達目標〕

1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる
2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる
3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる
4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
オリエンテーション・競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 2 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 3 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 4 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（卓球）
- 第 5 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
ニューススポーツ体験（スポンジテニス）
- 第 6 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
ニューススポーツ体験（ドッチボール）
- 第 7 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
ニューススポーツ体験（マレットゴルフ・ソフトボール）
- 第 8 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バドミントン）
- 第 9 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バレーボール）
- 第 10 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バスケットボール）
- 第 11 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（卓球）
- 第 12 回 運動と健康Ⅱ / Exercise and HealthⅡ  
ニューススポーツ体験（スポンジテニス）

第 13 回 運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バドミントン・バスケットボール）

第 14 回 運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ  
競技スポーツ体験（バレーボール・スポンジテニス）

第 15 回 運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ  
自由種目・まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

○テキスト：指定しない。

○参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

○授業参加状況（70%）

○課題レポート（30%）

〔課題に対するフィードバック〕

〔授業時間外学修〕

週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。

〔オフィスアワー〕

原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

## 人間心理と人間行動/Psychology and Human Behavior

NF101

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目  
1年 前期  
2単位 講義

倉田 郁也

### 【授業の概要】

人の心の発達と心の働き（自己や自我、人格形成等）について学ぶ。人々が見せる様々な行動の意味、行動化の原因としての心の働きやメカニズムについて理解を深め、人の行動と心の働きの関連を理解する。これらの学修を通して、多様な人間の多様な心や行動の理解を深めていく。

### 【到達目標】

学生が、

1. “こころ”を科学的に理解しようとする態度を身につける。
2. “無意識”の存在と働きを知り、行動に及ぼす影響を知る。
3. “こころ”についての幾つかのとらえ方・理解の仕方を学び、イメージできるようになる。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP6

### 【授業計画】

全て講義

- 第1回：ガイダンス：人を見る（見る・観る・覧る・視る・診る・看る）、人を理解する
- 第2回：科学的視座・科学の要件、人間学とは、心理学の立場・研究方法・分野
- 第3回：類型論（C.G.ユング、クレッチマー、シェルドンの類型論）
- 第4回：特性論（オルポート、ギルフォード等の特性論）
- 第5回：精神分析学（S.フロイト等）と分析的心理学（C.G.ユング等）
- 第6回：アドラー心理学〔個人心理学〕（A.アドラーによる人間理解とその方法）
- 第7回：人間性心理学〔成長モデル心理学〕（C.ロジャースによる人間理解とその方法）
- 第8回：行動科学としての心理学、臨床心理学、健康心理学、社会心理学
- 第9回：ストレス認知構造（ストレッサー、認知構造、ストレス反応）、ストレスと付き合い
- 第10回：行動変容と心理療法（心理療法の考え方・立場、いくつかの心理療法紹介）
- 第11回：医療・保健・福祉分野の心理学支援（心理相談業務と福祉相談業務の類似点差異）
- 第12回：認知療法、論理療法、行動療法、認知行動療法概説
- 第13回：発達と発達課題（ピアジェ、フロイト、エリクソン等の発達段階区分と発達課題）
- 第14回：高齢者を理解し、支援するということについて、認知症、介護ストレス等について
- 第15回：総括

\*授業時に、教師から質問・投げかけをし、必ず学生に発言・対話を求める。

### 【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：授業中に適宜資料を配布する。

参考書：山崎圭輔『メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法』2022、南山堂

### 【成績評価の方法・基準】

定期試験[50%]、小テスト[50%]

### 【課題に対するフィードバック】

課題に対するフィードバックは、定期試験実施一週間後から、カウンセリングルームにて、個別に行う。

### 【授業時間外学修】

次の授業のテーマをテキスト等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、60分以上確保すること。

### 【オフィスアワー】

火曜日14：00～18：00。カウンセリングルームにて。

### 【実務経験のある教員等による授業科目】

### 【アクティブラーニング】

### 【その他履修上の留意事項等】

専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。

## 人間環境と生物科学/Human Ecology and Biological Science

NF102P

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目  
1年 後期  
1単位 講義

片野 修

### 【授業の概要】

我々人類を取り巻く環境について、地球規模で理解し、環境問題や地球環境保全に関する理解を深める。

環境汚染や環境破壊が人間を含め生物や自然に与える影響について理解する。

### 【到達目標】

1. 環境とは何かをグローバルな視点で理解し、説明ができる。
2. 様々な地球環境の問題について説明ができ、その関連性についても理解ができていく。
3. 水と生命、水環境と保全などについて、現状を理解し、その問題点についても言及できる。
4. 生物多様性を理解し、その保全対策について説明ができる。
5. 化学物質が私達の健康に与える影響について説明ができ、関連内容についても理解ができていく。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP2

### 【授業計画】

第1回（講義）人間と環境との関係を、地球の歴史や公害問題と関連付けて学ぶ。

（第1章 人間と環境、第2章 公害防止と環境保全）

- 第 2 回 (講義) 水の利用と下水処理について、有害物質の除去に着目しながら学ぶ。  
(第3章 水資源と人間活動、第4章 都市の環境問題と自然)
- 第 3 回 (講義) 日本の水環境、森林破壊、生物多様性について学ぶ。  
(第4章 都市の環境問題と自然、第10章 森林破壊と生物多様性)
- 第 4 回 (講義) 生態系の仕組みと自然および生物多様性の保全について学ぶ。  
(第10章 森林破壊と生物多様性)
- 第 5 回 (講義) 日本の水環境と酸性雨、大気汚染について学ぶ。  
(第4章 都市の環境問題と自然、第5章 人間活動による大気汚染)
- 第 6 回 (講義) 化学物質と環境について、有害物質と健康被害に注目して学ぶ。  
(第6章 化学物質と環境、第7章 地球環境問題)
- 第 7 回 (講義) 地球温暖化の影響と対策について、生態系の変化や農林水産業に着目しながら学ぶ。  
(第8章 地球温暖化とCO2、第9章 低炭素社会の構築)
- 第 8 回 (講義) これまでの授業を復習しながら、環境に配慮した循環型社会について学ぶ。  
(第11章 循環型社会の構築)

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：鈴木孝弘著『新版 新しい環境科学』—環境問題の基礎知識をマスターする。 駿河台出版社  
参考文献：必要に応じて授業内で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験 (70%)

レポート提出 (30%)

※レポートは授業中に2回出題する。その結果については、次回授業で総括・評価する。

〔課題に対するフィードバック〕

次回の授業範囲を予習し(指定したテキストは事前に読んでおく)、用語の意味を理解しておくこと。

授業内容を毎回復習しておくこと。

1回の授業について2時間程度予習復習を行うこと。

〔授業時間外学修〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

随時、メールで質問を受け付ける(メールアドレスは別に知らせる)

〔オフィスアワー〕

授業内で提示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

東信地域の環境問題や千曲川の生態系について、教員自身の研究や実地調査の結果を紹介する。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

3回目と7回目の授業時間中に小レポートを書いて提出してもらう。

表現技法 II / Presentation II

NF104

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目  
1年 後期  
1単位 後期  
演習  
必修

田中 信明

〔授業の概要〕

「表現技法 I」の学びを基盤に、大学生として特に重要な「レポート・論文の書き方」について理解する。実際のレポート・論文作成過程にそって、レポート・論文を書くための基本的な知識を理解する。自分の意見を書くために必要となる、他者の論文や文献を正確に「読む」力の基礎を養う。実際に「書き・直す」ことによって、実践能力を身につける。

〔到達目標〕

1. 日本語の表現技法に関する知識を養い、自ら考えて大学生として適切に書くことができるようになる。
2. 日常生活や大学での他の授業、また将来の実習・看護の場面で、適切に事実と自分の考えをまとめて表現できるようになる。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP6

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・第 1 回 話し言葉と書き言葉  
講義・演習・小テスト(力試し)
- 第 2 回 第 2 回 文の組み立て  
講義・演習・小テスト1(漢字の読み方と言葉の意味 難読語1)
- 第 3 回 第 3 回 視点  
講義・演習・小テスト2(漢字の読み方と言葉の意味 難読語2)
- 第 4 回 第 4 回 文のつながり  
講義・演習 小テスト3(漢字の読み方と言葉の意味 文脈での変化)
- 第 5 回 第 5 回 意味の限定  
講義・演習 小テスト4(同音・同訓異義語1)
- 第 6 回 第 6 回 言葉の順序 ・ ビブリオバトル1  
講義・演習(構想タイム) 小テスト5(同音・同訓異義語2)
- 第 7 回 ビブリオバトル2  
演習・グループワーク(小テストはお休み)
- 第 8 回 ビブリオバトル3  
演習・代表発表(小テストはお休み)
- 第 9 回 第 7 回 定義・分類の表現  
講義・演習 小テスト6(同音・同訓異義語3)
- 第 10 回 第 8 回 比較・対照する表現  
講義・演習 小テスト7(類義語)
- 第 11 回 第 9 回 列挙・順序・因果関係の表現  
講義・演習 小テスト8(対義語)
- 第 12 回 第 10 回 引用の表現

- 講義・演習 小テスト9 (言葉の呼応)  
 第13回 第11回 敬語  
 講義・演習 小テスト10 (定型表現・慣用句)  
 第14回 第12回 注意すべき敬語  
 講義・演習 小テスト11 (四字熟語)  
 第15回 ビブリオバトル4  
 演習・グループワーク 小テスト12 (仮名づかい・送り仮名の表現)

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：名古屋大学日本語表現研究会編『書き込み式日本語表現ノート』、三弥井書店、2020 (必ず購入のこと、書き込んだテキストの提出を随時求める)  
 参考文献：授業内で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

授業での取り組み (50%) レポート (30%) プレゼンテーション (20%)

授業での取り組みについては、RESPONやmanabaを活用して課題への取り組み状況 (小テスト含む) を毎回評価する。事前課題・事後課題を課す場合は、それも評価に含める。課題作文の小レポート (2～3回) とプレゼンテーション (ビブリオバトルについての自己評価と学生間の相互評価) により評価する。評価の詳細は最初の講義で説明する。

〔課題に対するフィードバック〕

課題作文の小レポートについては、採点コメントを伏して返却する。各授業での課題の取り組み (小テスト含む) については、次回の授業で解説、もしくはmanabaのコースニュースでフィードバックする。

〔授業時間外学修〕

大学での授業や生活のさまざまな事象において、日常なことや世間の出来事を簡単にまとめ、自分の意見を付け加え、表現技法を意識して「話す・聞く・書く」習慣をつける。授業ごとに1時間程度の予復習を求める (事前課題・事後課題を課す場合あり)。

〔オフィスアワー〕

RESPONやmanabaの機能により、授業中も含めて、できる範囲で質問には随時対応する。

個別には電子メールでも受け付ける (メールアドレスは別に知らせる)。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

・manabaでコースニュースを随時発行する。レポートや授業の準備、事前課題や事後課題について周知するので、必ず閲覧すること。

・RESPONやmanabaを活用するので、スマホ・タブレット・ノートPC等各自使用しやすいツールを持参のこと。ただし、当該授業と関係が無い事柄への利用及び授業の妨げとなっていると判断される場合は、使用の中止を求める。

・課題への取り組みにおいて生成AIやネットからの情報の直接のコピペは認めない (引用の場合はルールに則って実施する：授業で学習予定)。利用する場合はどのように活用したかを必ず明記すること。詳細は最初の講義で周知する予定。

導入基礎演習/Introduction to Learning Methods

NF105

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目  
 1年  
 2単位 前期  
 演習  
 必修

吉田 文子、中嶋 智子、二神 真理子、成田 千春

〔授業の概要〕

高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的として、大学生としての基本的な学修技術・資質の修得を図るとともに、専門教育における学修目標を設定するための動機づけ学修を行う。具体的には個人学修とチーム学修により、保健・医療・生活に関する社会的に重要な特定の主題や現代社会が直面する基本的な諸課題に関するテーマを取り上げて考察し専門教育への興味と関心を高める。

〔到達目標〕

本科目は、プロジェクトチームと個人での活動を並行します。プロジェクトではPBLs (Project-Based Learning, Problem-Based Learning) に則ってチーム学修をします。個人学修では「アカデミックポートフォリオ」の作成・更新を行います。集大成として、学内外公開のプレゼンテーション大会を実施します。

この授業を経て、主体的な学修スキルと生涯にわたって学び続ける力を獲得しましょう。

1. 各自が年間計画を立案でき、その“ふりかえり”ができる。
2. アカデミックポートフォリオを作成することができる。
3. 保健・医療・福祉への関心が持てる。
4. 意見や考えをもつことができる。
5. 意見や考えを他者に表現することができる。
6. 効果的なプレゼンテーションをすることができる。
7. VTR視聴、講義内容をノートテイキングできる。

〔学位授与方針 (ディプロマポリシー：DP) との関係〕

<看>DP2

〔授業計画〕

1. 科目の概要と進め方の説明、チーム編成、プロジェクトの立ち上げ、プロジェクト共通課題
2. 看護学教育を履修する上で大切なこと、VTR視聴ノートテイキング

GPA制度について、アカデミックポートフォリオの作成

3. チームプロジェクトの進め方
4. ビジュアルマインドマップを用いた演習
5. プレゼンテーション評価について
- 6.-7. チームプロジェクト
8. 引用文献について
- 9.-13. プロジェクト
14. アカデミックポートフォリオの作成 (ふりかえりシートの記載)  
プロジェクトの中間報告会
- 15.-16. プロジェクト
17. 効果的なプレゼンテーション  
発表準備 (発表順の決定、プロジェクト課題名一覧表の作成)

- 18.-22. プロジェクト  
 23.-26. プロジェクトプレゼンテーションとその評価（表彰式、学長賞） 公開授業  
 27.-28. Myプロジェクトラインの作成  
 プロジェクトの解散  
 29.-30. アカデミックポートフォリオの作成  
 評価

〔テキスト・参考書・参考文献〕

- アメリカ心理学会(2019)/ 前田樹海, 江藤裕之(2023). APA論文作成マニュアル第3版. 医学書院.  
 ○世界思想社編集部(2024). 大学生 学びのハンドブック[6訂版]. 世界思想社.

〔成績評価の方法・基準〕

科目終了時には、以下規準についての点数を個別返却します。

- 授業進度に応じた課題提出状況（30%）  
 各項目の配点は、初回授業でお知らせします。  
 ■アカデミックポートフォリオ作成（40%）  
 科目独自のルーブリックを提示しますので、受講生全員の合意のもと最終決定とし、使用していきます。  
 ■チームプロジェクトの発表（30%）  
 科目独自の評価票を使用し、相互評価を行います。

〔課題に対するフィードバック〕

- 課題のフィードバックは授業の中で行います。  
 ■アカデミックポートフォリオのフィードバックは、提出後にルーブリック項目で採点し、学修成果を可視化できるよう、個々人に個票を用いて行います。  
 ■チームプロジェクトのフィードバックは、発表当日に講評として行います。さらに、発表の次の授業内で、採点結果の詳細を公表（講評）します。

〔授業時間外学修〕

本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学修時間は22.5時間となります。

- ★ポートフォリオ作成は個人で計画的に進めてください。  
 全ての授業終了後に作成するのではなく、毎回授業で使用したシート類に記述、追加していきます。自己学修は約10時間以上を要します。

- ★プロジェクトテーマに沿った学修時間を各自確保し、チーム学修を進めてください。

チーム活動を円滑に行うための文献検索、発表準備に時間を要します。約12.5時間

なお、効果的な学修の進め方は、授業内で説明します。

〔オフィスアワー〕

木曜日17時～18時（予約順で行いますので、まずfy200●saku.ac.jpメールをください。

その内容に合わせて、他の教員から連絡をします。）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

本科目を担当する教員は、教員養成を修了、あるいは看護職としての継続教育にかかわった実務経験を持ちます。実践知を活かした授業を行い、学生の皆さん自身によって学修の可視化ができるよう配慮しています。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

授業初回時に、必ず、次の3つを持参してください。

- ① A4サイズのDリング2穴ファイル（厚さ3～4cm程度、色は各自の好みで構いません。）  
 ② A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業で使用します。注意！B5サイズのルーズリーフは使用不可。）  
 ③ 学生便覧

地域生活者交流実習Ⅰ（生活者交流）/Community-Based Learning Ⅰ（Interaction with Residents）

NF106

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目  
 1年  
 1単位 通年  
 実習  
 必修

二神 真理子、成田 千春、阿藤 幸子、黒澤 佳代

〔授業の概要〕

地域で暮らす人々の生活の場に出向き、日常生活の様子や健康に対する思い、家族や近隣の人々とのつながりについて考えることができる。また、地域で暮らす人々がよりよく生活するためのさまざまな保健・医療・福祉に関する社会資源を知り、さまざまな場における看護職の役割について理解を深める。

〔到達目標〕

1. 対象地域の特性（地理、気候、人口構成、産業、交通、風土）を調べ、説明できる。
2. 地域で暮らす人々が生活や健康をまもるためにどのように行動しているのか、家族や近隣の人々とのどのように助け合い生活しているのかを知り、説明できる。
3. 地域で暮らす人々の健康に関わる社会資源・風習や行事等を知ることができる。
4. 各チームの実習先において、どのような職種の人が協働しているのかを知る。
5. 地域で暮らす人々と自分から対話することができ、相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる。
6. 地域で暮らす人々が健康的な生活を継続するための取り組みや健康課題をチームで考察できる。
7. 今後の学修課題及び地域生活者として自身の課題を考えることができる。
8. 実習で学んだ内容から、地域で暮らす人々がよりよく生活するための看護職の役割について考え、説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP2、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

1.実習方法

- ・実習グループは学籍番号下一桁が同じ数字のチューターグループとする。
- ・チューターグループ毎に実習テーマが設定される。
- ・学生は、実習テーマに関連した情報収集を行い、各チームで課題を明確にして地域に赴く。
- ・実習では積極的に行動し、実習目標達成にむけて努力する。
- ・各チームの学修内容をポスターにまとめ、報告会で共有

する。

2.実習期間：2024年4月～12月

3.実習場所：佐久市内公民館等、まちの縁側なから、平尾の森、ヘルシーパークかわかみ、野辺山ステーション など

※詳細はオリエンテーションで配布される実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

・指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

・地域生活者交流実習ルーブリックに従う。

〔課題に対するフィードバック〕

・実習準備、臨地実習、報告会の過程で実習担当教員が助言する。提出した実習記録についてはコメントを入れて返却する。

〔授業時間外学修〕

・各チームで臨地実習日程が異なるため、計画的に準備していく。実習テーマに関する情報収集では、個人もしくはチームで調べ学習を行い、事前学修シートにまとめる（2時間程度）。

〔オフィスアワー〕

・全体に関することは、随時、二神真理子宛にメールで質問を受け付ける。(m-futagami@saku.ac.jp)

・各チームの担当教員のオフィスアワーについては、担当別オリエンテーションで周知する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

・全チューター（指導教員）が実習担当教員として関わる。  
・看護師・保健師・助産師等として健康の保持・増進、疾病の予防にかかわってきた経験のある教員が、その実務経験を活かした実習指導を行う。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

・実習開始前にオリエンテーションを行う。詳細はmanabaで確認する。

・佐久地域の特性を知る上で、選択科目「信州・佐久学」の履修を勧める。

## 統計分析の基礎/Basics of Statistical Analysis

NF103P

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
1年 後期  
1単位 演習

朴 相俊

〔授業の概要〕

統計学の基礎的な知識を学ぶことにより、看護におけるアセスメントや問題解決に応用できるようなデータの収集・整理・処理・判断の仕方の基本を修得する。

〔到達目標〕

統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、Microsoft Excelを活用することで身に付けていく。また各自でアンケ

ート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他

統計解析の基礎：医療・看護における統計学の役割や活用方法などについて学ぶ

第 2 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを読む：「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ

第 3 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを読む：「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ

第 4 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを扱う：「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」 統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ I  
「平均値の差の検定（t検定）」「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2検定」

第 5 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを扱う：「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」 統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ I  
「平均値の差の検定（t検定）」「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2検定」

第 6 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを扱う：統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ II  
「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」

第 7 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを扱う：統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ II  
「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」

第 8 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを扱う：調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ

第 9 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを扱う：調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ

第 10 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを説明する：「研究について（科学的とは、量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」

第 11 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

データを説明する：「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」

第 12 回 統計分析の基礎／Basics of statistical analysis  
データを説明する：調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施  
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」

第 13 回 統計分析の基礎／Basics of statistical analysis  
データを説明する：調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施  
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」

第 14 回 統計分析の基礎／Basics of statistical analysis  
データを説明する：調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施  
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」

第 15 回 統計分析の基礎／Basics of statistical analysis  
調査結果発表会

【テキスト・参考書・参考文献】  
テキスト：このとおりやればすぐできる ナースのためのデータ処理，技術評論社  
【成績評価の方法・基準】  
調査課題に関するレポート（70%）  
授業参加状況（30%）  
【課題に対するフィードバック】  
【授業時間外学修】  
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。  
\*1回の授業について1時間程度予習復習を行うこと。  
【オフィスアワー】  
授業終了後に教室で質問を受け付ける  
授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメールで受け付ける。  
(s-park●saku.ac.jp)  
【実務経験のある教員等による授業科目】  
【アクティブラーニング】  
【その他履修上の留意事項等】

## 形態機能学Ⅰ（身体の基盤）/Anatomy and PhysiologyⅠ (Foundations of the Body)

NB101

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
1年  
2単位 前期  
講義  
必修

川野 道宏

### 【授業の概要】

まず、身体を構成する様々なレベル（細胞・組織・器官等）の特徴について理解する。その後、器官（骨格系・筋系・神経系等）を主として学習し、人が日常生活を営むにあたり、これらの器官が相互作用しながら機能していることを理解する。

### 【到達目標】

- 1.細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について理解する
- 2.細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる
- 3.自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について理解する
- 4.自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について自分の言葉で説明できる
- 5.形態機能学の知識が、質の高い看護実践につながることを知る

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4

### 【授業計画】

- 1回 人体のオリエンテーション1  
器官系の外観、ホメオスタシス、人体の部位、人体とエネルギー
- 2回 人体のオリエンテーション2  
元素、水、酸・塩基、塩
- 3回 人体のオリエンテーション3  
有機化合物（糖質、脂質、タンパク質、核酸）
- 4回 医学・解剖学・生理学の歴史と人々  
紀元前1万年から現代まで、医学系の学問の発展を各時代のトピックをもとに概説
- 5回 細胞1  
細胞の構造、細胞膜、核、細胞質、細胞内小器官、輸送・拡散
- 6回 細胞2  
浸透、浸透圧、濾過、輸送、細胞周期、タンパク質の合成
- 7回 人体の組織  
上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織
- 8回 皮膚と膜

皮膚、粘膜、漿膜、胸膜

#### 9回 骨格系 1

骨の分類、骨の機能、骨の構造、骨組織

#### 10回 骨格系 2

軸骨格

#### 11回 骨格系 3

付属肢骨格

#### 12回 骨格系 4

関節、骨の成長と老化

#### 13回 筋系 1

筋の構造、筋収縮機構

#### 14回 筋系 2

骨格筋の動き、頭部体幹の筋 1

#### 15回 筋系 3

体幹の筋 2、四肢の筋

#### 16回 中間復習

#### 17回 神経系のしくみ

概要、脳とこころ、脳機能局在論

#### 18回 神経組織の構造と機能

神経細胞、神経膠細胞、神経インパルス、シナプス情報伝達、反射

#### 19回 中枢神経系 1

大脳皮質

#### 20回 中枢神経系 2

大脳辺縁系、大脳基底核、間脳

#### 21回 中枢神経系 3

脳幹、小脳、脊髄

#### 22回 末端神経系

脳神経、脊髄神経、体性神経系、自律神経系

#### 23回 中枢神経系を保護する組織

髄膜、脳脊髄液、脳を栄養する血管

#### 24回 神経系の発生・発達・老化

脳の発達、心の発達、知能

#### 25回 特殊感覚 1

眼の構造、視覚のしくみ

#### 26回 特殊感覚 2

耳の構造、平衡覚、聴覚のメカニズム

#### 27回 特殊感覚 3

嗅覚、味覚

#### 28回 特殊感覚 4

感覚器の発生・発達・老化

#### 29回 形態機能学と脳科学の看護への応用

運動学習、報酬系賦活

#### 30回 まとめ・復習

[テキスト・参考書・参考文献]

テキスト：エレイン・N.マリープ著, 人体の構造と機能 第4版, 医学書院

参考文献：病気が見える (各シリーズ) メディックメディア (図書館にあります)

トートラ人体の構造と機能 第4版, 丸善出版

坂井建雄 監訳, プロメテウス解剖学コア アトラス, 第1版, 医学書院 (図書館にあります)

塩田浩平 訳, グレイ解剖学, 原著第2版, ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)

岡田泰伸 監訳, ギャノン生理学, 原書23版, 丸善出版 (原著22版が図書館にあります)

岡田忠 監訳, コスタンゾ明解生理学, 第1版(原著第3版), ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)

[成績評価の方法・基準]

授業参加状況 (5%)

・遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。

・出席確認はmanabaのresponを使用し確認します。

・講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。

・質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は答えられるようにサポートしましょう。

・授業後に授業範囲からの作問を受け付けます。これは学生自身がテスト問題を作成することで、復習を促すためです。提出された作問は精選し、次回授業の開始時にクラスで解答を考えます。

小テスト (20%)

manabaの小テスト機能を用いて実施します。スマートフォン、タブレットなどを持っていない学生は、教務課あるいは図書館から借りうけてください。

定期試験 (75%)

学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します。

最終評価

授業参加状況 + 小テスト + 定期試験 の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。

〔課題に対するフィードバック〕

授業後、作問を受け付けます。採用された問題は、次回の講義の前に皆さんに出題されます。

また、その問題に対しての答え合わせと解説を行います。

〔授業時間外学修〕

予習(最低30分は必要です)

テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのものの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明かし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。

復習(最低30分は必要です)

・テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。

・また、授業後に授業範囲の内容から、国家試験形式の問題を自身で作ってみましょう。mailで送ってもらえれば添削をします。採用されれば、次回の授業時間内に出題されます。

図示に関して

テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が見やすいように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。

〔オフィスアワー〕

講義終了後30分間、教室または研究室で質問を受けます。研究室：5号館3階303

それ以外をご希望の方は、m-kawano@saku.ac.jpまでメールをください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

該当なし

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。

看護師が対象者に看護を提供する際、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキの位置と役割を知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。

以下の点に注意すること

・この講義を録音したい場合、担当教員に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。

・この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。

・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に担当教員のところまで来てください。

形態機能学Ⅱ(成長・維持機能) /Anatomy and PhysiologyⅡ(Growth and Maintenance Functions)

NB102

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
1年 後期  
2単位 講義  
必修

川野 道宏

〔授業の概要〕

さまざまな器官系(呼吸系・心臓血管系・リンパ系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・生殖器系)の学習を通し、人が日常生活を営む際、どのように身体の構造・機能が働いているのかを理解する。さらに、これらの構造・機能の異常が、人間の健康障害や疾病、病態生理とどのように関連しているかを理解する。

〔到達目標〕

- 1.呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について理解する
- 2.呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる
- 3.健康障害時に見られる徴候や症状と身体構造や機能障害との関連を理解するための基礎的知識を習得する
- 4.形態機能学Ⅰで学んだ知識との関連を図示し、自分の言葉で説明ができる

〔学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4

〔授業計画〕

- 1回 心臓の構造  
位置と大きさ、皮膜と心臓壁、心房・心室、弁、心臓の血管
- 2回 心臓の機能  
刺激伝導系、心周期、心拍、心電図、前負荷・後負荷
- 3回 血管系の構造  
血管壁、毛細血管、全身の血管分布
- 4回 血管系の機能  
血管の役割、脈拍、血圧、循環血液量
- 5回 血液1  
血漿、血清、赤血球、白血球、血小板
- 6回 血液2  
造血、止血、血液型

7回 リンパ系と生体防御1  
リンパ管、リンパ節、リンパ器官

8回 リンパ系と生体防御2  
自然免疫、獲得免疫、抗体

9回 呼吸器の構造1  
上気道、下気道、肺

10回 呼吸器の構造2  
呼吸筋、呼吸運動、肺循環

11回 呼吸器の機能1  
換気、肺気量分画、呼吸音、異常呼吸音

12回 呼吸器の機能2  
外呼吸、内呼吸、動脈血液ガス、酸塩基平衡

13回 消化器系1  
全体像、歯・口腔・唾液腺、咽頭・喉頭

14回 消化器系2  
咀嚼・嚥下、食道、胃

15回 消化器系3  
十二指腸、空腸・回腸

16回 消化器系4  
結腸・虫垂、直腸・肛門、腸の免疫機能

17回 消化器系5  
肝臓、胆道、膵臓

18回 消化器系6  
栄養素

19回 消化器系7  
栄養素の代謝（炭水化物、脂質）

20回 消化器系8  
栄養素の代謝（タンパク質）、ビリルビンの代謝、栄養所要量

21回 腎・泌尿器系の構造1  
腎臓、ネフロン、尿細管、糸球体濾過

22回 腎・泌尿器系の構造2  
尿管、膀胱、尿道

23回 腎・泌尿器系の機能  
水・電解質の維持、酸塩基平衡

24回 いままでのQ&A

25回 内分泌系1

ホルモン概要、下垂体

26回 内分泌系2  
甲状腺、副腎皮質

27回 内分泌系3  
副腎髄質、膵臓、性腺、松果体

28回 生殖器系  
男性生殖器、女性生殖器

29回 妊娠・出産  
受精、胎児の発育、胎盤、妊娠による生理学的変化、分娩

30回 復習  
再度復習したいところを確認し解説を行う  
〔テキスト・参考書・参考文献〕  
テキスト：エレイン.N.マリー著、人体の構造と機能 第4版、  
医学書院  
参考文献：病気が見える（各シリーズ）メディックメディア  
（図書館にあります）

トートラ人体の構造と機能 第4版、丸善出版  
坂井建雄 監訳、プロメテウス解剖学コア アトラス、  
第1版、医学書院（図書館にあります）

塩田浩平 訳、グレイ解剖学、原著第2版、ELSEVIER  
JAPAN（図書館にあります）

岡田泰伸 監訳、ギャノン生理学、原書23版、丸善  
出版（原著22版が図書館にあります）

岡田忠 監訳、コスタンゾ明解生理学、第1版（原著第  
3版）、ELSEVIER JAPAN（図書館にあります）

〔成績評価の方法・基準〕

授業参加状況 (5%)

・遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。

・出席確認はmanabaのresponを使用し確認します。

・講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。

・質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は答えられるようにサポートしましょう。

・授業後に授業範囲からの作問を受け付けます。これは学生自身がテスト問題を作成することで、復習を促すためです。提出された作問は精選し、次回授業の開始時にクラスで解答を考えます。

小テスト (20%)

manabaの小テスト機能を用いて実施します。スマートフォン、タブレットを持っていない学生は、教務課あるいは図書館から借りうけてください。

定期試験 (75%)

学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します。

最終評価

授業参加状況 + 小テスト + 定期試験の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。

#### 〔課題に対するフィードバック〕

授業後、作問を受け付けます。採用された問題は、次回の講義の前に皆さんに出題されます。

また、その問題に対しての答え合わせと解説を行います。

#### 〔授業時間外学修〕

##### 予習(最低30分は必要です)

テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明らかにし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。

##### 復習(最低30分は必要です)

・テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。

・また、授業後に授業範囲の内容から、国家試験形式の問題を自身で作ってみましょう。mailで送ってもらえれば添削をします。採用されれば、次回の授業時間内に出題されます。

#### 図示に関して

テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分ができるように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。

#### 〔オフィスパワー〕

講義終了後30分間、教室または研究室で質問を受けます。

研究室：5号館3階303

それ以外をご希望の方は、m-kawano@saku.ac.jpまでメールをください。

#### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

該当なし

#### 〔アクティブラーニング〕

○

#### 〔その他履修上の留意事項等〕

この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。

看護師が対象者に看護を提供する際、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキの位置と役割を知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。

#### 以下の点に注意すること

・この講義を録音したい場合、担当教員に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。

・この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。

・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に担当教員のところまで来てください。

## 感染・免疫学/Infection and Immunology

NB103

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目

1年

2単位 後期

講義

必修

### 今福 裕司

#### 〔授業の概要〕

人体における感染の原理、微生物に対する生体の免疫・防御システム、感染性微生物の種類・特徴と感染性疾患発症のメカニズムについて理解する。感染拡大の原理や防御方法、感染対策、さらに近年の国際的感染症とその管理・予防についての知識を学ぶ。

#### 〔到達目標〕

感染症の原因となる病原体の構造、機能、発育環境、伝搬経路を理解したうえで、臨床上重要な感染症の病態と治療、予防策を学ぶことにより、自信を持って自分を守りながら感染症患者に寄り添うケアができるようになる。

#### 〔学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連〕

<看>DP3

#### 〔授業計画〕

第1回 微生物と微生物学

講義

第2回 細菌の性質

講義

第3回 真菌・原虫・ウイルスの性質

講義

第4回 微生物感染の成立メカニズム

講義

第5回 感染に対する免疫・防御機構

講義

第6回 感染源・感染経路と感染症の予防

講義

第7回 感染症の診断と治療・感染症治療の現状と対策

講義

第8回 細菌感染症

講義

第9回 細菌感染症

講義

第10回 細菌感染症・真菌・原虫感染症

講義

第11回 ウイルス感染症

講義

第12回 ウイルス感染症

講義

第 13 回 ウイルスとプリオン病

講義

第 14 回 院内感染対策と職業感染対策

講義

第 15 回 主な国際感染症とその対策

講義

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：『系統看護学講座 微生物学』南嶋 洋一他 医学書院

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（90％）

授業参加状況（10％）

〔課題に対するフィードバック〕

毎回授業終了時にmanabaにて、授業の質問アンケート実施しています。

〔授業時間外学修〕

毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示します。

1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

臨床検査専門医である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

病態生理学/Pathophysiology

NB104

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
1 年  
2単位 後期  
講義  
必修

齋藤 文護

〔授業の概要〕

疾病の原因と成り立ちに関する基本を学び、疾病をもつ人を理解し看護を検討するために基本となる知識を理解する。臓器や組織・細胞における形態機能の変化を学び、基本的な病因と病態について理解する。

〔到達目標〕

病における形態と機能及び代謝の変化を理解し、病気や症状の機序について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP4

〔授業計画〕

第 1 回 病理学とは、病理検査とは

第 2 回 細胞障害と老化について

第 3 回 遺伝子、染色体と先天異常について

第 4 回 循環障害について

第 5 回 循環障害について

第 6 回 炎症について

第 7 回 炎症について

第 8 回 免疫異常とアレルギーについて

第 9 回 免疫異常とアレルギーについて

第 10 回 感染症について

第 11 回 感染症について

第 12 回 腫瘍について

第 13 回 腫瘍について

第 14 回 代謝異常について

第 15 回 まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：クイックマスター『病理学』第2版 堤寛著 サイオ出版

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（90％）授業参加状況（10％）

課題、試験問題については、講義中に問題を解き、その場で解説を行いません。

定期試験については点数を示し、質問があればその都度解説します。

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示します。

〔授業時間外学修〕

講義後に30分程度、テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理してください。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

病理学の大学院で学び、内科医師として勤務してきた経験を活かして、実臨床でも役に立つ講義を心がけています。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

不明な点は積極的に質問するように。

薬理薬剤学/Pharmaceutics

NB105

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
2 年  
2単位 前期  
講義  
必修

栗林 正彦

〔授業の概要〕

薬物が生体におよぼす作用について理解し、その化学構造に由来する作用機序の類似性を学ぶ。薬物の投与経路・投与方法の利害による作用の違い、薬物の吸収・分布・代謝・排泄の違いを学ぶ。看護の場で注意すべき薬物の取り扱い方法（容量、投与方法、投与速度等）を学ぶ。実際にヒトに投与された医薬品の効果・有害作用と薬物が本来持っている薬理作用との間にある乖離の原因を学ぶ。

〔到達目標〕

1. 基本的な薬理学的系統名を理解し、その特徴的な作用・効果・副作用などを理解する。

2. 使用目的により、剤形や用法・用量が異なることを理解する。

3. 薬の危険性を理解し、安全な薬物治療が行えるようになる。

4. web上に存在する良質な医薬品情報を理解し、必要な場合に自分で利用できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1

〔授業計画〕

授業計画

△ 第1回目

薬理学総論(1) 薬理学を学ぶにあたって

△ 第2回目

薬理学総論(2) 薬理学の基礎知識

△ 第3回目

薬理学各論(1) 抗感染症薬

△ 第4回目

薬理学各論(2) 抗がん薬

△ 第5回目

薬理学各論(3) 免疫治療薬

△ 第6回目

薬理学各論(4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬

△ 第7回目

薬理学各論(5) 末梢での神経活動に作用する薬物

△ 第8回目

薬理学各論(6) 中枢神経系に作用する薬物

△ 第9回目

薬理学各論(7) 心臓・血管系に作用する薬物

△ 第10回目

薬理学各論(8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物

△ 第11回目

薬理学各論(9) 物質代謝に作用する薬物

△ 第12回目

薬理学各論(10) 皮膚科用薬・眼科用薬

△ 第13回目

薬理学各論(11) 救急の際に使用される薬物

△ 第14回目

薬理学各論(12) 漢方薬

△ 第15回目

薬理学各論(13) 消毒薬、輸液製剤・輸血剤

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：吉岡充弘他『系統看護学講座 専門基礎分野薬理学』医学書院

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（80％）

授業参加状況（20％）

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。

1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

薬剤師である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

正しい薬の知識は、看護業務で利用するだけではない。自分自身のみならず、親、子、家族や周りの人たちに対しても必要な知識であることを認識して、正しく理解・判断できるようにすることを望む。また、薬物治療が持つ危険性について理解をし、安全な薬物治療の提供を進めて頂きたい。

健康障害と治療 I /Health Disorders and Treatments I

NB201

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
2年  
前期  
2単位  
講義  
必修

今福 裕司

〔授業の概要〕

健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。成人期・老年期に多い疾患のうち、血液疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝・栄養不全の疾患、膠原病・アレルギー疾患について、疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚症状、検査所見、治療、予後を学ぶ。

〔到達目標〕

成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 3

〔授業計画〕

第 1 回 循環器疾患（講義）

虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧

第 2 回 循環器疾患（講義）

虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧

第 3 回 循環器疾患（講義）

虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧

第 4 回 循環器疾患

虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧

第 5 回 呼吸器疾患（講義）

肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 肺がん 気胸 肺結核肺梗塞

第 6 回 呼吸器疾患（講義）

肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 肺がん 気胸 肺結核肺梗塞

- 第 7 回 呼吸器疾患（講義）  
肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患  
肺がん 気胸 肺結核肺梗塞
- 第 8 回 呼吸器疾患（講義）  
肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患  
肺がん 気胸 肺結核肺梗塞
- 第 9 回 消化器疾患Ⅰ（講義）  
逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃  
がん 大腸がん イレウス  
炎症性腸疾患
- 第 10 回 消化器疾患Ⅰ（講義）  
逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃  
がん 大腸がん イレウス  
炎症性腸疾患
- 第 11 回 消化器疾患Ⅰ（講義）  
逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃  
がん 大腸がん イレウス  
炎症性腸疾患
- 第 12 回 消化器疾患Ⅰ（講義）  
逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃  
がん 大腸がん イレウス  
炎症性腸疾患
- 第 13 回 消化器疾患Ⅱ（講義）  
肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎  
胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん
- 第 14 回 消化器疾患Ⅱ（講義）  
肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎  
胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん
- 第 15 回 消化器疾患Ⅱ（講義）  
肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎  
胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん
- 第 16 回 消化器疾患Ⅱ（講義）  
肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎  
胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん
- 第 17 回 内分泌・代謝疾患Ⅰ（講義）  
糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症
- 第 18 回 内分泌・代謝疾患Ⅰ（講義）  
糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症
- 第 19 回 内分泌・代謝疾患Ⅰ（講義）  
糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症
- 第 20 回 内分泌・代謝疾患Ⅰ（講義）  
糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症
- 第 21 回 内分泌・代謝疾患Ⅱ（講義）  
下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患
- 第 22 回 内分泌・代謝疾患Ⅱ（講義）  
下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患
- 第 23 回 内分泌・代謝疾患Ⅱ（講義）  
下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患
- 第 24 回 内分泌・代謝疾患Ⅱ（講義）  
下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患
- 第 25 回 血液疾患（講義）  
血友病 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 播種  
性血管内凝固症候群
- 第 26 回 血液疾患（講義）

- 血友病 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 播種  
性血管内凝固症候群
- 第 27 回 血液疾患（講義）  
血友病 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 播種  
性血管内凝固症候群
- 第 28 回 腎・泌尿器疾患（講義）  
腎炎 腎不全 ネフローゼ症候群 腎盂腎炎 尿路感  
染症 排尿障害  
前立腺肥大症 前立腺がん
- 第 29 回 腎・泌尿器疾患（講義）  
腎炎 腎不全 ネフローゼ症候群 腎盂腎炎 尿路感  
染症 排尿障害  
前立腺肥大症 前立腺がん
- 第 30 回 腎・泌尿器疾患（講義）  
腎炎 腎不全 ネフローゼ症候群 腎盂腎炎 尿路感  
染症 排尿障害  
前立腺肥大症 前立腺がん

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：『病気がみえる vol.1 消化器』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア  
『病気がみえる vol.2 循環器』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア  
『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア  
『病気がみえる vol.4 呼吸器』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア

『病気がみえる vol.5 血液』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア  
『病気がみえる vol.8 腎・泌尿器』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア  
『病態・治療論 [1] 病態・治療総論』石松伸一/林直子/鈴木久美編集 南江堂  
参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（90％）

授業参加状況（10％）

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。

テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。

1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。

学習を深めることは将来の看護につながるため頑張りましょう。

## 健康障害と治療Ⅱ/Health Disorders and Treatments II

NB202

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
2年  
2単位 通年  
講義  
必修

穂吉 真、天田 大輔、今福 裕司

### 【授業の概要】

健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎

的な知識について学習する。成人期・老年期に多い疾患のうち、泌尿器疾患、骨・筋・皮膚疾患、生殖器疾患、内分泌疾患、感覚器疾患、神経疾患について、疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚症状、検査所見、治療、予後を学ぶ。

### 【到達目標】

成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP3

### 【授業計画】

1-16(前期)

#### ①感覚器疾患-1

(白内障 緑内障 網膜剥離 屈折・調節異常 結膜炎など)

#### ②感覚器疾患-2

(難聴 耳鳴 鼻出血 味覚異常 中耳炎 メニエール病 顔面神経麻痺など)

#### ③皮膚疾患

(皮膚炎 蕁麻疹 膿疱症 熱傷 褥瘡 皮膚腫瘍 蜂窩織炎 白癬 帯状疱疹など)

#### ④自己免疫・アレルギー疾患-1

(関節リウマチ SLE その他の膠原病)

#### ⑤自己免疫・アレルギー疾患-2

(花粉症 HIV と免疫不全)

17-30(後期)

#### ①脳神経疾患-1

(脳血管疾患、頭部外傷、認知症、パーキンソン病、ALS など)

#### ②脳神経疾患-2

(筋ジストロフィー、重症筋無力症、脳腫瘍、てんかん、髄膜炎など)

#### ③運動器疾患-1

(骨折・脱臼、脊椎疾患、上肢・手の疾患、下肢・足の疾患、末梢神経麻痺など)

#### ④運動器疾患-2

(運動器感染症、関節リウマチ、小児の整形外科、骨軟部腫瘍、骨粗鬆症など)

※詳細な授業計画は、初回授業時に提示する。

### 【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア

『病気がみえる vol.7 脳・神経』医療情報科学研究所(編集)メディックメディア

『病態・治療論 [9] 運動器疾患』土井田稔/秋山智弥 南江堂

『病態・治療論 [11] 皮膚/耳鼻咽喉/眼/歯/口腔疾患』片山一朗他 南江堂

『これならわかる！整形外科の看護ケア』松本 守雄【総監修】瀬戸 美奈子【監修】ナツメ社

『病態・治療論 [1] 病態・治療総論』石松伸一他 南江堂

参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社

### 【成績評価の方法・基準】

筆記試験 (90%)

授業参加状況 (10%)

### 【課題に対するフィードバック】

授業内で提示する。

### 【授業時間外学修】

講義前にテキストの該当する箇所を熟読し、必要なら図書館で資料を参照すること。

テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。

1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

### 【オフィスアワー】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

### 【実務経験のある教員等による授業科目】

### 【アクティブラーニング】

### 【その他履修上の留意事項等】

疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。

学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。

詳細な授業計画は、初回授業時に提示します。

## 健康障害と治療Ⅲ/Health Disorders and Treatments III

NB203

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
2年  
2単位 後期  
講義  
必修

奥山 秀樹、小口 治、今井 幸充、小諸高原病院 精神科医、佐久総合病院佐久医療センター 小児科医、佐久総合病院佐久医療センター 放射線診断科・放射線治療科医

### 【授業の概要】

健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識を修得する。本科目では、歯科・口腔疾患、精神疾患（認知症含む）、小児疾患、女性生殖器疾患について、疫学、成因、病態生理、自覚症状・他覚症状、検査所見、治療、予後を学ぶ。さらに、放射線による診断と治療、その影響について学ぶ。

### 〔到達目標〕

歯科・口腔疾患、認知症、精神疾患、小児・女性特有の疾患の症状・病因・診断・治療・予防及び放射線による診断と治療について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〈看〉DP3

### 〔授業計画〕

成人1～4回：歯・口腔疾患の症状、診断、治療〔講義／奥山〕

老年1～2回：認知症の病態の理解と治療（薬物療法を含む）〔講義／今井〕

精神1～7回：精神疾患の基本的症状と診断、治療〔講義／小諸高原病院 精神科医〕

小児1～10回：小児特有の症候と疾患、検査、治療〔講義／佐久総合病院 佐久医療センター小児科医〕

院 佐久医療センター小児科医

母性1～3回：女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療〔講義／小口〕

放射線1～4回：放射線による診断とその治療〔講義／佐久総合病院佐久医療センター 放射線診断科・放射線治療科医〕

※全30回をオムニバス方式で行う。

詳細な授業計画は初回授業時に提示する。

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：『疾病と治療Ⅳ 運動器系／皮膚／眼／耳鼻咽喉／歯・口腔』松田輝他 南江堂

『新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』岩崎 弥生他 メヂカルフレンド社

『系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論』奈良間 美保他 医学書院

『系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器』末岡浩他 医学書院

『疾病と検査』松田輝他編集 南江堂

その他、必要に応じて資料を配布する

### 〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（90％）

授業参加状況（10％）

### 〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

### 〔授業時間外学修〕

講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。

テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。

1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

### 〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

### 〔アクティブラーニング〕

### 〔その他履修上の留意事項等〕

患者を理解し、看護を実践するために、疾患と治療の学習は重要です。

学習を深めることは将来の看護につながります。しっかり学習してください。

## 遺伝と健康/Genetics and Health

NB204

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
2年 後期  
2単位 講義  
選択

今福 裕司

### 〔授業の概要〕

生物学を復習し、それを基本に、人間における遺伝の仕組み、病気や健康の問題に遺伝はどう関わるのか。DNA、ゲノム、染色体とは何か、その発現の仕組みについて学習する。遺伝病から生活習慣病まで、病気と遺伝との関わりについて理解し、家族性の疾患や遺伝に関わる諸問題について理解する。

### 〔到達目標〕

1. メンデル遺伝学を説明できるようになる。
2. 染色体及び遺伝子の異常による疾患についての理解を深めることができる。
3. 病院・地域で健康支援を推進する際に必要な「遺伝と健康の関係」についての知識を習得できる。
4. 生物学の基礎について理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〈看〉DP3

### 〔授業計画〕

第1回 遺伝概説、代謝総論  
講義

第2回 栄養素の構造（1）  
講義

第3回 栄養素の構造（2）  
講義

第4回 糖質代謝  
講義

第5回 脂質代謝  
講義

第6回 核酸、ヌクレオチド代謝  
講義

第7回 エネルギー代謝の統合と制御  
講義

第8回 遺伝子  
講義

第9回 遺伝病と遺伝形式  
講義

第10回 常染色体劣性遺伝病  
講義

第11回 常染色体優性遺伝病  
講義

第12回 X染色体連鎖劣性遺伝病  
講義

第13回 癌、生活習慣病と遺伝子

講義  
 第14回 遺伝子診断、治療、カウンセリング  
 講義  
 第15回 まとめ  
 講義  
 [テキスト・参考書・参考文献]  
 テキスト：『ナーシンググラフィカ 臨床生化学』宮澤恵二メ  
 ディカ出版  
 [成績評価の方法・基準]  
 筆記試験（70%）  
 授業参加状況（30%）  
 [課題に対するフィードバック]  
 毎回授業終了時にmanabaにて授業の質問アンケートを実施  
 しています。  
 [授業時間外学修]  
 テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず  
 復習しておくこと。  
 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。  
 [オフィスアワー]  
 授業終了後に教室で質問を受け付ける。  
 [実務経験のある教員等による授業科目]  
 臨床検査専門医である教員が、その実務経験を活かした授  
 業を行います。  
 [アクティブラーニング]  
 [その他履修上の留意事項等]

## 足と健康（応用）/Foot and Health (Application)

NB205

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目  
 4年  
 1単位 前期  
 講義・演習  
 選択

坂江 千寿子、宮原 香里、齋藤 順子、森本 彩

### [授業の概要]

小児看護学、老年看護学での実習経験を基に、乳児・幼  
 児のための靴選び、健やかに歩く足を守るための老年期ま  
 での足に特化した基本的な内容を学ぶ。また、糖尿病やリ  
 ウマチなど、安全に安楽に歩くための援助が必要な健康障  
 害を持つ人々への靴の選択等の基本的知識を習得する。さら  
 に、障害児、高齢者において歩行に支障をきたしている  
 人々の足と靴の観察、アセスメント、必要なケアが選択で  
 きるための基礎的方法を学ぶ。卒業後に会おう施設や在宅  
 で生活する高齢者の足部トラブルを軽減し、歩きやすさに  
 寄与できるようなフットケアの知識と技術の基礎を身につ  
 けることを目指す。

### [到達目標]

足と靴の構造と機能を理解し、小児の歩行の発達を基礎  
 としたファーストシューズ、幼児期の靴選びができる能力  
 を養う。

子どもの先天性異常や後天的な足部疾患の把握と治療に  
 関する理解を深める。

足部の観察、特に、扁平足や凹足、胼胝、巻き爪、外反

母趾等、日常的に起きやすい足部トラブルの把握と対応策  
 に関する基礎的知識を身につける。

健康障害、特に罹患者が多い糖尿病足病変のアセスメン  
 トやフットケア、関節リウマチなどの足部の特徴を理解  
 し、卒業後の現場で、人々の歩行を維持するために必要と  
 なる知識とスキルを身につける。

[学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連]

<看>DP2、<看>DP4

### [授業計画]

第1回 足の状態と心身の関係① 【講義】(坂江)

足育の必要性 足部トラブルと靴

第2回 総合的足部問題のアセスメントとケア 【講義・演  
 習】(ペーレルッツ)

第3回 \*足部変形理論 \*小児足部変形理論

第4回 \*RA足部変形 \*DM足病変

第5回 小テスト①

足部を守る観察とケア 1

皮膚の構造 清潔セルフケア 角質ケア 【講義演  
 習】(宮原)

第6回 足部を守る観察とケア 2

爪の構造と観察 基本的な爪切り \*巻爪嵌  
 入爪ケア 【演習】(坂江)

第7回 足部を守る観察とケア 3 爪トラブルの原因、他  
 者の爪切り【実技試験】

(坂江 宮原 森本 ほか)

第8回 歩行に関わる諸問題 正しい靴選び、遊びと運動  
 まとめ

小テスト② (坂江)

授業終了後に学修内容に関する課題レポートを提出する。  
 形式、字数、期限は後日説明

### [テキスト・参考書・参考文献]

初回授業時に紹介します

日本フットケア・足病医学会学術委員会「子どもの足・靴  
 改革ワーキンググループ」監修

小児靴の手引き書2023 400円

[成績評価の方法・基準]

小テスト[50%]，最終課題レポート提出[30%]，実技試験  
 [20%]

### [課題に対するフィードバック]

レポートのコメントほか、manabaへの質問は、講義中にフ  
 ィードバックします。

### [授業時間外学修]

1. 1年次に受講しなかった学生の事前学習

初回授業前に自主練習を設定します。内容は、足部の解剖、  
 靴の機能、足の観察とフットプリントの採取です。時間は  
 数分ずつ分けて実施しますので、時間帯は相談に応じます。  
 受講済みであっても、1年次の履修内容を復習する意味で、  
 ぜひ、参加して下さい。

2. 前期授業期間中に、足の保健室でのフットケア見学実

習をうけつけます。実践現場を体験できる機会ですので、積極的な参加をお勧めします。

〔オフィシアワー〕

足や靴の悩み、家族の相談に応じます。MANABAの授業後のアンケート、メールまたは授業後に相談してください。巻き爪や外反母趾などのケアも体験できます。chi-sakae●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

ドイツ式フットケアのフースプレーガー資格を有し、地域住民へ向けた「足の保健室」において角質ケアや非侵襲的な巻き爪矯正ケア等を実践中です。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

フットプリント採取時は青や黒色系の着衣で、裸足になれるようにして参加してください。

足の爪切りのため、6週間程度は、最終日の実技試験に備えて、爪を切らずに伸ばしておいてください。

---

## 公衆衛生学/Public Health

NB106P

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
2年  
2単位 前期  
講義  
必修

坂戸 千代子、芳賀 博、細谷 たき子、佐藤 園美、小林 良清、小池 渉

〔授業の概要〕

社会・環境と健康の関連を理解し、集団に対する疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を学ぶ。また、人々の健康を守るための国の対策や制度、組織や機関および医療従事者の役割を学ぶ。

〔到達目標〕

1. 健康と生活、それを取り巻く環境について理解できる。
2. 公衆衛生に関連した制度、施策、その基盤になる考え方が理解できる。
3. 現在、社会で注目されている健康問題について考えられる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP5

〔授業計画〕

- |       |                                         |
|-------|-----------------------------------------|
| 第 1 回 | 序章 公衆衛生を学ぶにあたって、第 1 章 公衆衛生のエッセンス【講義／芳賀】 |
| 第 2 回 | 第 2 章 公衆衛生の活動対象【講義／芳賀】                  |
| 第 3 回 | 第 3 章 公衆衛生のしくみ【講義／芳賀】                   |
| 第 4 回 | 第 4 章 集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計【講義／芳賀】    |
| 第 5 回 | 第 8 章 地域における公衆衛生の実践 成人保健【講義／芳賀】         |
| 第 6 回 | 第 8 章 地域における公衆衛生の実践 高齢者保健【講義／芳賀】        |
| 第 7 回 | 第 5 章 環境と健康【講義／小林】                      |

第 8 回 第 6 章 感染症とその予防対策【講義／小林】

第 9 回 第 7 章 国際保健【講義／細谷】

第 10 回 第 8 章 地域における公衆衛生の実践 母子保健【講義／坂戸】

第 11 回 第 8 章 地域における公衆衛生の実践 精神保健【講義／佐藤（園）】

第 12 回 第 8 章 地域における公衆衛生の実践 歯科保健 9 章 学校と健康【講義／依田】

第 13 回 第 10 章 職場と健康【講義／小池】

第 14 回 第 8 章 地域における公衆衛生の実践 障害者保健・難病保健【講義／小林】

第 15 回 第 11 章 健康危機管理・災害保健【講義／小林】  
〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：神馬征峰ほか著 『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生』 医学書院

『国民衛生の動向』 厚生労働統計協会

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（80％）

授業参加状況（20％）

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

1回の授業について2時間程度の予習・復習を行うこと

〔オフィシアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

結核研究所、国際協力機関で保健師としての実務経験のある教員が講義・指導します。（細谷たき子）

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

公衆衛生の対象は臨床場面とは異なり、地域社会（集団）のなかで普通に生活している人びとです。その意味で、皆さんにとって必ずしもとっつきやすい科目ではないかもしれませんが、授業で取り上げる内容の多くは、『国民衛生の動向』に最新のデータとして掲載されています。そこに示されているデータの意味を読み解くことで、公衆衛生がより身近なものとなり、面白くなります。

---

## 社会福祉の基礎/Introduction to Social Welfare

NB107P

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
1年  
1単位 前期  
講義  
必修

長谷川 武史

〔授業の概要〕

現代における社会福祉への理解を深めることを目的として、社会福祉の概念と歴史的な変遷について学習するとともに、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、日常生活における社会福祉の果たす役割と今後の方向性について考察する。また、DVDやビデオを多用し、格差社会、派

遺労働、ドメスティックバイオレンス、児童虐待、若者のドラッグ問題など、学生にとって身近な問題も考察する。

〔到達目標〕

- ① 社会福祉が国の制度として成立した流れを理解する。
- ② 今日の社会で社会福祉が、なぜ必要不可欠であるかについて説明することができる。
- ③ 社会福祉と関連する分野の役割や福祉の方法について説明することができる。
- ④ 社会福祉援助の方法と、求められる価値、態度について説明することができる。
- ⑤ ケア重視の社会が進んでいく中で、社会福祉にはどんな役割が期待されているか、自分の考えを述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP7

〔授業計画〕

- 第 1 回 生活と社会福祉
- ・社会福祉の意義について理解する。
  - ・生活基盤とそれを支える社会福祉の役割について理解する。
  - ・社会福祉実践としてのソーシャルワークの基本的考え方を理解する。
- 第 2 回 社会保障制度と社会福祉
- ・社会保障の理念について理解する。
  - ・社会保障制度の現状について理解する。
- 第 3 回 社会保険制度の理解
- ・保険制度の基本的仕組みを理解する。
  - ・各種社会保険制度（医療、年金、介護、労働）の概要を理解する。
- 第 4 回 社会福祉の歴史
- ・戦前から戦後にかけての社会福祉の概観について理解する。
  - ・今日の社会福祉の課題について理解する。
- 第 5 回 社会福祉の諸制度理解①（生活保護、障害者福祉）
- ・生活保護制度に関する歴史と現状について概要を理解する。
  - ・障害者福祉制度に関する歴史と現状について概要を理解する。
- 第 6 回 社会福祉の諸制度理解②（児童福祉、高齢者福祉）
- ・児童福祉制度に関する歴史と現状について概要を理解する。
  - ・高齢者福祉制度に関する歴史と現状について概要を理解する。
  - ・これまでの講義に関しての学びを振り返る（ミニレポート）
- 第 7 回 福祉行政のしくみと民間活動
- ・社会福祉における行政、専門職、民間組織（NPO・ボランティア等）の関係性について理解する。
- 第 8 回 医療・看護・福祉の連携
- ・医療分野における社会福祉の役割について理解する（事例検討）。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト

・西村淳(編集)「健康支援と社会保障制度③ 社会福祉」第16版 メヂカルフレンド社 2023年

その他必要に応じて資料を配布する。

参考書については授業中に提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

リアクションペーパーの内容：20%

ミニレポート：20%

定期試験：60%

〔課題に対するフィードバック〕

各評価物の評価については、manabaにて個別周知する。

各種提出物へのコメントについては、講義内で適宜行う。

〔授業時間外学修〕

① 講義内容に該当するテキストページの講義前後での読み込み(2.0時間)

② 新聞、テレビのニュース等で報道された具体例をみて、社会福祉の課題をメモしてみる(0.5時間)

③ 配布資料の確認(0.5時間)

④ 現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なのか考えてみる。(ミニレポート)

その他

・看護師国家試験過去問ドリル（manaba上に設定）を各自取り組んでおくこと。

〔オフィスアワー〕

質問や問合せについては、メールまたはmanaba上での連絡に随時対応するほか、講義内でオフィスアワー時間を周知します。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

リアクションペーパーなどの内容は、次回講義冒頭で紹介し、受講生全体で共有します。

日頃より、生活の中で、社会福祉の役割・期待を考えられるようにしましょう。

---

保健医療福祉行政論 II /Health and Welfare Administration II

NB301P

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
4年  
1単位 後期  
講義  
自由

小林 恵子、細谷 たき子、征矢野 文恵、藤田 利恵子

〔授業の概要〕

実習市町村の地域診断により抽出した地域の健康課題の解決に向けた事業のアセスメント、目標設定、計画、実施、

評価の過程の学びを通して、多様な職種や地域住民との協働による事業化、施策化の基本的技術を習得する。

【到達目標】

1. 実習市町村のデータをもとに、地域の健康課題の解決に向けた事業のアセスメント、目標設定、計画、実施、評価の過程を検討することによって、施策化・事業化のプロセスを理解する。
2. 施策化、事業化の過程において、多様な職種や地域住民との協働の在り方、方法について理解する。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

【授業計画】

- 第 1 回 科目ガイダンス、保健福祉行政における施策・事業化のプロセス  
講義：小林（恵）
- 第 2 回 施策化・事業化における住民との協働・多職種連携の方法  
講義・演習：小林（恵）
- 第 3 回 保健計画の立案・保健事業の企画書の作成①  
①健康課題とその要因、②目標、③実施されていた事業、④必要な事業とその根拠、⑤事業内容、⑥評価指標・評価方法、⑦計画学習を通しての学び  
演習：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑
- 第 4 回 保健計画の立案・保健事業の企画書の作成②  
①健康課題とその要因、②目標、③実施されていた事業、④必要な事業とその根拠、⑤事業内容、⑥評価指標・評価方法、⑦計画学習を通しての学び  
演習：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑
- 第 5 回 保健計画の立案・保健事業の企画書の作成③  
①健康課題とその要因、②目標、③実施されていた事業、④必要な事業とその根拠、⑤事業内容、⑥評価指標・評価方法、⑦計画学習を通しての学び  
演習：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑
- 第 6 回 保健計画の立案・保健事業の企画書の作成④  
①健康課題とその要因、②目標、③実施されていた事業、④必要な事業とその根拠、⑤事業内容、⑥評価指標・評価方法、⑦計画学習を通しての学び  
演習：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑
- 第 7 回 保健計画の立案・保健事業の企画書の作成：発表①  
作成した企画書の発表を行い、意見交換する。  
演習：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑
- 第 8 回 保健計画の立案・保健事業の企画書の作成：発表②  
作成した企画書の発表を行い、意見交換する。  
演習：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑

【テキスト・参考書・参考文献】

荒賀直子他 編著：第5版 データ更新版 公衆衛生看護学 JP、インターメディカル（2022）

【成績評価の方法・基準】

レポート80点、授業参加態度20点で評価する。

【課題に対するフィードバック】

発表時にコメントし、フィードバックする。

【授業時間外学修】

3～8回は総合実習の資料や学習内容を用いた演習となります。

毎回、学習課題とした資料の作成に60分～120分は必要となりますので積極的に取り組んでください。

【オフィスアワー】

授業終了後に対応します。

小林恵子（科目責任者） k-kobayashi@saku.ac.jp

細谷たき子、征矢野文恵、藤田利恵子

【実務経験のある教員等による授業科目】

県、市町村、地域包括支援センター、健診機関、研究所等における保健師の経験が豊富な教員が担当します。

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

---

疫学・保健統計 /Epidemiology and Health Statistics

NB206P

看護学部 > 看護学科 > 専門基礎科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

2年

2単位

前期

講義

必修

今村 晴彦、岡田 真平、那須野 順子、朴 相俊

---

【授業の概要】

集団としての健康の指標に関する基本的な知識を学び、数量的な分析とその意味について理解する。また、保健統計を活用し、人間集団を対象に疾病の発生状況と発生要因を解明する過程を理解し、予防対策に結び付けていく疫学の基本的な原理、方法論を学ぶ。

【到達目標】

1. 疫学的調査研究の成果と保健統計の意味を理解できる。
2. 集団の健康事象及びその要因を考察できる。
3. 疫学的調査研究を組み立てられる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 5

【授業計画】

- 第 1 回 疫学の概念とその歴史（今村晴彦）  
疫学の概念とその歴史
- 第 2 回 疾病頻度の指標（今村晴彦）  
疾病頻度の指標
- 第 3 回 疫学的研究とその考え方（1）（今村晴彦）  
（1）観察研究 i 記述研究・生態学的研究・横断研究
- 第 4 回 疫学的研究とその考え方（2）（今村晴彦）  
（2）観察研究 ii コホート研究
- 第 5 回 疫学的研究とその考え方（3）（今村晴彦）  
（3）観察研究 iii 症例対照研究
- 第 6 回 疫学的研究とその考え方（4）（今村晴彦）

- (4) 介入研究
- 第 7 回 疫学的研究とその考え方 (5) (今村晴彦)  
(5) 因果関係・バイアス・交絡
- 第 8 回 スクリーニング (今村晴彦)  
スクリーニング
- 第 9 回 保健統計調査 (岡田真平)  
保健統計調査
- 第 10 回 主な疾患の疫学 (1) (岡田真平)  
(1) 感染症の疫学
- 第 11 回 主な疾患の疫学 (2) (岡田真平)  
(2) 慢性疾患、悪性新生物、生活習慣病の疫学
- 第 12 回 主な疾患の疫学 (3) (朴相俊)  
(3) 精神疾患の疫学
- 第 13 回 保健統計学 (統計学と疫学) (岡田真平)  
保健統計学 (統計学と疫学)
- 第 14 回 保健統計と保健師業務の実際 (那須野順子)  
保健統計と保健師業務の実際
- 第 15 回 授業のまとめ (岡田真平)  
授業のまとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：①浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計 (改訂4版)』南山堂

②『国民衛生の動向』厚生労働統計協会

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験 (80%)

授業参加状況 (リアクションペーパー) (20%)

〔課題に対するフィードバック〕

定期試験後にmanabaで解答の解説を行う。

〔授業時間外学修〕

この授業で扱う内容は、継続的な復習がもっとも大切です。予習は特に求めません (必要な場合は適宜指示します)。毎回の授業後、テキストで該当する章の練習問題を解いて、理解できていない箇所がないか確認してください。

1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業日の授業終了後から放課後。

授業日以外の日はメールで受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

1. 疫学的研究の「楽しさ」と「必要性」について理解を深めてもらうための授業内課題をいくつか予定しています。積極的に参加してください。

2. アクティブラーニングとして、毎回の授業開始時にリアクションペーパーのフィードバックを行います。

看護基礎理論/Introduction to Nursing Science

NS101

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
1 年  
1 単位 前期  
講義  
必修

八尋 道子、吉田 文子

〔授業の概要〕

看護の科学を支える理論的基盤として、「人間」「環境」「健康」「看護」の捉え方・考え方を学び、看護への学問的な関心を持つことを目指す。また、健康と保健行動、環境や文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働、看護師の倫理綱領などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野のもとで考えることができるようになるとともに、日本における看護の歴史と看護学の発展の経緯を学び、将来の看護活動やキャリアの展望に繋げる。

〔到達目標〕

修了時に、以下の4つの学修成果を得ることを目標とします

1. 看護の科学を支える理論的基盤として、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の捉え方・考え方を学び、看護への学問的な関心を持つことができる

2. 人が暮らす環境や地域、文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野のもとで考えることができる

3. 日本における看護の歴史と看護学の発展の経緯を学び、将来の看護活動や看護キャリアの展望につなげて説明することができる

4. 看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、多様な見方や考え方を継続的に検討することによって、問題解決型 (PBL) の学修態度を身につけることができる

〔学位授与方針 (ディプロマポリシー: DP) との関連〕

<看>DP4

〔授業計画〕

第 1 回 看護のさまざまな定義

授業科目のオリエンテーション

イントロダクション 環境 健康 看護

フローレンス・ナイチンゲール 【講義/八尋】

第 2 回 看護の対象

人間の捉え方 ニード 発達段階 健康の段階

ヴァージニア・ヘンダーソン 【講義/八尋】

第 3 回 患者-看護師関係

看護とコミュニケーション 人間関係論

ヒルデガード・ペプロウ ジョイス・トラベルビー 【講義/八尋】

第 4 回 人間の持つ力

セルフケア不足理論

ドロセア・オレム 【講義/八尋】

第 5 回 日本の看護学教育の歴史

【講義/吉田】

第 6 回 看護学教育の現在と展望

自身のキャリア形成【講義/吉田】

第 7 回 専門職としての看護

専門職 組織における看護職の役割

パトリシア・ベナー【講義／八尋】

## 第 8 回 看護の動向と倫理的課題

人権と尊厳を守るケア 看護師の倫理綱領  
多職種協働

授業科目のサマリー【講義／八尋】

【テキスト・参考書・参考文献】

- ① 竹尾恵子監修 (2007). 超入門:事例でまなぶ看護理論. 学習メディカル秀潤社.
- ② 厚生労働統計協会編集 (2023). 国民衛生の動向2023/2024. 厚生労働統計協会.
- ③ 手島 恵 監修 (2024). 看護職の基本的責務 2024年版. 日本看護協会出版会.

その他、予習ができるよう授業資料を事前に配付します  
自己学修に役に立つURLや推薦図書を、第1回授業のオリエンテーションで紹介いたします

【成績評価の方法・基準】

総合成績でよい成績が得られるように、下記の基準を参考にしてください

1. 課題レポート (20%) 看護理論に関するレポート
2. 筆記試験 (70%) 定期試験期間に実施
3. 授業貢献度 (10%) 質問や意見交換の機会を設けて皆さんの参加状況を評価に含めます。授業を欠席・遅刻・早退した場合は、授業貢献度の得点から2~3%のマイナスになります

【課題に対するフィードバック】

メールやmanabaで問い合わせると、次の授業までにフィードバックを受けることができます

定期試験と課題レポートは返却しませんが、結果は個別に問い合わせが可能です。

【授業時間外学修】

予習を重視します。指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回30分程度の予習をしましょう。

復習は、15分程度、その日のうちにすませましょう。

その他、総合成績の評価対象となっている課題レポート作成のために、90分程度の時間が必要です。課題の詳細は、授業内で説明します。

【オフィスアワー】

○ 八尋道子 毎週木曜日6時限 (まずはメールをしてください)

○ 吉田文子 メールをしてください

【実務経験のある教員等による授業科目】

教員は看護師国家資格を持ち臨床看護師として病院で働いた経験を有していますので、実務経験を活かして理論を実践に応用するノウハウを授業内容に反映します

【アクティブラーニング】

【その他履修上の留意事項等】

教育支援システムmanabaを利用しますので、毎回の授業にスマートフォンを持参してください

## 生活援助論 I (日常生活援助) /Fundamental Nursing Skills I (Caring Science)

NS102

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

1 年

2単位 後期

講義・演習

必修

二神 真理子、八尋 道子、宮原 香里、森本 彩、黒澤 佳代

【授業の概要】

日常生活と結びつけて人間の基本的ニーズを理解し、生活援助の基本について学修する。また、健康問題を持つ人間の生活援助に必要な基礎的看護技術を修得する。EBNを踏まえ、患者のニーズを捉え、判断し、安全に看護技術を提供する方法と意義について講義と演習を通して学修する。

【到達目標】

1. 看護の視点から人間について総合的に捉え、看護技術を提供する方法と意義について述べることができる。
2. 健康状態の観察、生活環境の調整・整備、活動と休息の援助、衣生活・身体の清潔、食事、排泄等の援助について科学的根拠に基づいた原理・原則が述べることができる。
3. 対象の健康状態や個性性を考慮し、安全、安楽かつ効率的に目的を達成する援助を考え、実施することができる。
4. 対象の立場に立って、援助方法を考えることができる。
5. 学生同士や教員と対話することによって、新たな知見や結論を創生し、創造的な関係を構築することができる。

【学位授与方針 (ディプロマポリシー: DP) との関連】

<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 6

【授業計画】

第 1 回 看護技術とは、感染防止の技術【講義／二神】

1)生活援助論 I コースオリエンテーション

2)看護技術とは

3)感染の予防の基礎知識

第 2 回 技術：標準予防策 (スタンダードプリコーション)【演習／二神】

・グループ対話

第 3 回 活動を支援し、睡眠・休息を促す援助技術【講義／宮原】

1)基本的活動援助の基礎知識 (ボディメカニクス)

2)体位、移動

3)睡眠・休息の援助の基礎知識

小テスト①

第 4 回 技術：ボディメカニクス、体位変換、移乗・移送

①【演習／宮原】

第 5 回 技術：ボディメカニクス、体位変換、移乗・移送

②【演習／宮原】

・グループ対話

第 6 回 快適な環境を整える技術【講義／黒澤・二神】

1)療養環境の基礎知識

2)ベッド周囲の環境整備

3)ベッドメーカー、シーツ交換

小テスト②

- 第 7 回 技術：環境整備・ベッドメイキング、シーツ交換  
①【演習／黒澤・二神】
- 第 8 回 技術：環境整備・ベッドメイキング、シーツ交換  
②【演習／黒澤・二神】  
・グループ対話
- 第 9 回 食事・栄養摂取を促す援助技術、口腔ケア【講義／二神】  
1)食事援助の基礎知識  
2)食事摂取の介助  
小テスト③
- 第 10 回 技術：食事摂取の介助、口腔ケア①【演習／二神】
- 第 11 回 技術：食事摂取の介助、口腔ケア②【演習／二神】  
・グループ対話
- 第 12 回 病床での衣生活の援助【講義／森本・二神】  
1)病床での衣生活援助の基礎知識  
2)病衣・寝衣の交換  
小テスト④
- 第 13 回 技術：寝衣交換、複合援助技術①【演習／森本・二神】
- 第 14 回 技術：寝衣交換、複合援助技術②【演習／森本・二神】  
・グループ対話
- 第 15 回 清潔の援助技術 1：部分浴、爪切り【講義／二神】  
1)清潔援助の基礎知識  
2)部分浴（足浴、手浴）  
3)爪切り  
小テスト⑤
- 第 16 回 技術：足浴①【演習／二神】
- 第 17 回 技術：足浴②【演習／二神】  
・グループ対話
- 第 18 回 清潔の援助技術 2：入浴・清拭【講義／二神】  
1)入浴・シャワー浴  
2)全身清拭  
小テスト⑥
- 第 19 回 技術：全身清拭①【演習／二神】
- 第 20 回 技術：全身清拭②【演習／二神】  
・グループ対話
- 第 21 回 清潔の援助技術 3：洗髪、整容【講義／森本・二神】  
1)洗髪  
2)整容  
小テスト⑦
- 第 22 回 技術：洗髪①【演習／森本・二神】
- 第 23 回 技術：洗髪②【演習／森本・二神】  
・グループ対話
- 第 24 回 死の看取りの援助【講義／二神】  
1)死にゆく人と周囲の人々へのケア  
2)死後の処置  
小テスト⑧
- 第 25 回 技術：上記授業内容の技術項目確認①【演習／担当教員全員】

- 小テスト⑨
- 第 26 回 技術：上記授業内容の技術項目確認②【演習／担当教員全員】
- 第 27 回 実技試験【試験／担当教員全員】
- 第 28 回 排泄の援助技術【講義／宮原】  
1)自然排尿および自然排便の基礎知識  
2)自然排尿および自然排便の介助の実際（トイレ、床上排泄、おむつ）
- 第 29 回 技術：床上排泄援助、おむつの装着、陰部洗浄①【演習／宮原】
- 第 30 回 技術：床上排泄援助、おむつの装着、陰部洗浄②【演習／宮原】  
・グループ対話  
小テスト⑩

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〔テキスト〕

茂野香おる(2023). 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I. 医学書院

任和子(2021). 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3]

基礎看護技術 II. 医学書院

〔成績評価の方法・基準〕

1. 筆記試験（40％）

2. 実技試験（30％）

3. 小テスト（20％）

講義・演習内容毎に10点満点テストを計10回実施し、その合計点の20％分を評価に加えます。授業出席者のみ受験可能です。

4. 演習課題（10％）

演習時の事前学習課題を評価します。

〔課題に対するフィードバック〕

演習課題については、各演習時に教員が内容を確認し、コメントします。

授業終了後に全演習課題をまとめて採点して返却します。

〔授業時間外学修〕

1. 【予習】

テキスト、参考文献を用いて授業に関連する箇所を読んで学修して下さい。理解できないところは付箋を付けるなどして、疑問を解決する準備を行って、授業に臨んでください。30分程度の時間を要します。

2. 【授業の復習と演習前学習】

事前に演習事例と課題を提示しますので、講義内容やテキストなどから手順や留意点を復習し、課題に応じた援助計画を立てて下さい。具体的な技術のイメージには、佐久大学図書館のビジュアルクラウドなどの配信映像サービスやテキストのQRコードから読み取る動画を活用して下さい。配信映像は、学内だけではなくスマートフォン等の利用で自宅でも見ることができます。30分～1時間程度の時間を要します。

3. 【技術試験前練習】

授業のない時間などを利用し、基礎看護学実習室で練習ができます。実施した演習内容を想起し、その技術ができるようになるまで練習をして下さい。練習してもうまくできない時や疑問は、教員に相談するなどして解決し、練習するようにして下さい。練習時は、各自感染予防と安全に留

意してください。

〔オフィスアワー〕

全教員共通：授業終了後、教室で質問を受けます。  
質問は、メールでも可能です（随時）。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として臨床経験のある教員が講義・演習を行います。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

この授業では、講義後、自己学修をしてから演習に取り組みます（反転授業）。また、演習では、他の学生の実施する援助を観察して学ぶ観察学習を行なうことで、学びを深めていきます。自己学修した内容を演習で行ってみて、うまくいったこと、失敗したこと、わからないこと、他の学生からの学びを学生同士や教員と対話し、Step Upしましょう。

出席・小テストにはmanabaを使用しますので、授業・演習時にはスマートフォンなどの端末を持参してください。

演習の際は、ユニフォーム・ナースシューズを着用し、不織布マスクを装着して基礎看護実習室に集合してください。初回授業もユニフォーム・ナースシューズ着用して参加してください。また、ユニフォーム着用時は、靴下は白（柄なし）、髪の毛長い人はネットを使用してまとめ髪にし、指輪・ネックレス・イヤリング・ピアス（シリコンピアスを含む）などのアクセサリはつけないようにしましょう。爪は短く、マニキュアはしないなど、身だしなみを整えて臨んでください。

生活援助論Ⅱ（診療の補助技術）/Fundamental Nursing Skills II (Clinical Care)

NS103

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年 前期  
2単位 前期  
講義・演習  
必修

宮原 香里、八尋 道子、二神 真理子、森本 彩、黒澤 佳代

〔授業の概要〕

健康問題を持つ人間の基本的ニーズを理解し、診療の補助技術について学修する。具体的には、健康問題を持つ対象者の診断、検査、治療に関する必要な基本的看護技術を修得する。EBNを踏まえ、患者のニーズを捉え、判断し、安全に看護技術を提供する方法と意義について講義と演習を通して学修する。

〔到達目標〕

1. 健康課題を持つ人間の、診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸、罨法、酸素療法、口腔鼻腔内吸引等に関する技術について、科学的根拠を理解することができる。
2. 上記1で取り上げる看護技術を、安全や安楽に配慮して

シミュレータで実施できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3、<看>DP4

〔授業計画〕

第1回 【講義】オリエンテーション、診療の補助、苦痛の緩和・安楽確保の技術（担当：宮原）

- 1.オリエンテーション
- 2.診療の補助
- 3.罨法（温罨法、冷罨法）
- 4.小テスト①

第2回 【講義】感染予防を推進する技術（担当：宮原）

- 1.感染症を予防するためのプロセス：洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、滅菌物の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い
- 2.小テスト②

第3回 【演習】感染予防を推進する技術（担当：宮原）

- 1.滅菌手袋の着け方・外し方、滅菌物の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い
- 2.演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第4回 【講義】皮膚・創傷を管理する技術（担当：森本・宮原）

- 1.創傷の管理：創傷処置、包帯法
- 2.褥瘡の管理：褥瘡発生の予測と評価、褥瘡の分類
- 3.小テスト③

第5回 【演習】皮膚・創傷を管理する技術（担当：森本・宮原）

- 1.創傷処置、包帯法
- 2.演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第6回 【講義】与薬を安全かつ正確に行う技術（その1）（担当：宮原）

- 1.与薬における法的根拠
- 2.与薬のための基礎知識
- 3.与薬のための援助技術
- 4.注射のための援助技術
- 5.与薬における安全管理
- 6.小テスト④

第7回 【演習】与薬を安全かつ正確に行う技術（その1）（担当：宮原）

- 1.注射の準備
- 2.演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第8回 【演習】与薬を安全かつ正確に行う技術（その1）（担当：宮原）

- 1.筋肉内注射
- 2.演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

- 第 9 回 【演習】与薬を安全かつ正確に行う技術（その 1）  
（担当：宮原）  
1. 筋肉内注射  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 10 回 【講義】検査・治療を安全かつ正確に行う技術（担当：宮原）  
1. 検査における看護師の役割  
2. 検査の種類（生体検査、検体検査）と実施時の注意点  
3. 小テスト⑤
- 第 11 回 【演習】検査・治療を安全かつ正確に行う技術（担当：宮原）  
1. 静脈血採血  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 12 回 【演習】検査・治療を安全かつ正確に行う技術（担当：宮原）  
1. 静脈血採血  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 13 回 【講義】与薬を安全かつ正確に行う技術（その 2）  
（担当：宮原）  
1. 注射のための援助技術：静脈内注射、点滴静脈内注射  
2. 小テスト⑥\*第16回の内容も含め同日に実施
- 第 14 回 【演習】与薬を安全かつ正確に行う技術（その 2）  
（担当：宮原）  
1. 点滴静脈内注射（翼状針）  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 15 回 【演習】与薬を安全かつ正確に行う技術（その 2）  
（担当：宮原）  
1. 点滴静脈内注射（翼状針）  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 16 回 【講義】輸血を安全かつ正確に行う技術（担当：宮原）  
1. 輸血のための援助技術  
2. 小テスト⑥\*第13回の内容も含め同日に実施
- 第 17 回 【講義】呼吸を整える技術（担当：二神）  
1. 呼吸の生理学的メカニズム  
2. 呼吸のニーズに関するアセスメント  
3. 呼吸を整える援助：酸素療法、排痰法、口腔内・鼻腔内吸引  
4. 小テスト⑦
- 第 18 回 【演習】呼吸を整える技術（担当：二神）  
1. 酸素療法、口腔内・鼻腔内吸引  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 19 回 【演習】呼吸を整える技術（担当：二神）  
1. 酸素療法、口腔内・鼻腔内吸引  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 20 回 【講義】食事・栄養摂取を促す技術（担当：黒澤・宮原）  
1. 食事・栄養に関する援助の実際：経管栄養法（経鼻胃カテーテル法、瘻管栄養法）、非経腸栄養法（中心静脈栄養法）  
2. 小テスト⑧
- 第 21 回 【演習】食事・栄養摂取を促す技術（担当：黒澤・宮原）  
1. 経管栄養法（経鼻胃カテーテル法）  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 22 回 【演習】食事・栄養摂取を促す技術（担当：黒澤・宮原）  
1. 経管栄養法（経鼻胃カテーテル法）  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 23 回 【講義】排泄を促す技術（担当：二神）  
1. 排便の援助：浣腸、摘便  
2. 小テスト⑨
- 第 24 回 【演習】排泄を促す技術（担当：二神）  
1. グリセリン浣腸  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 25 回 【演習】排泄を促す技術（担当：二神）  
1. グリセリン浣腸  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 26 回 【講義】排泄を促す技術（担当：宮原）  
1. 排尿の援助：導尿（一時的・持続的）  
2. 小テスト⑩
- 第 27 回 【演習】排泄を促す技術（担当：宮原）  
1. 一時的導尿  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 28 回 【演習】排泄を促す技術（担当：宮原）  
1. 一時的導尿  
2. 演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。
- 第 29 回 【講義／演習】上記授業内容の技術項目確認前課題（担当：宮原）

実技試験オリエンテーション  
上記授業内容の技術項目確認前課題

第 30 回 【実技試験】上記授業内容の技術項目確認(担当:  
教員全員)

上記授業内容の技術項目確認

〔テキスト・参考書・参考文献〕

茂野香おる(2021).系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]  
基礎看護技術Ⅰ. 医学書院.

任和子(2021).系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎  
看護技術Ⅱ. 医学書院.

〔成績評価の方法・基準〕

- 1.筆記試験(40%)定期試験で評価します。
- 2.実技試験(30%)技術の到達度を確認します。試験前にオリエンテーションを行います。
- 3.小テスト(20%)授業出席者対象に授業内で5分程度の小テストをmanabaにて全10回行います。実施日とテスト範囲は初回のオリエンテーションで事前に伝えますので、皆さんが主体的に授業に参加することを期待しています。
- 4.授業参加状況(10%)演習課題の提出状況を評価します。

〔課題に対するフィードバック〕

課題に対するフィードバックは、講義・演習内で行います。

〔授業時間外学修〕

1. 授業に関連する内容は、毎回テキストや指定したオンラインツールを事前活用してください(30分程度)。
2. 事前に事例を提示する場合があります。その場合は、テキスト等を用いながら援助のイメージをつかみ、授業に臨んでください(60分程度)。
3. 本授業では、多くの医療用物品を使用します。実習室にある物品には高価なもの、操作を誤ると事故につながる恐れのあるものが含まれていますので、丁寧に、かつ確実な手順で取り扱うようにしてください。また、室外への持ち出しを禁じる物品もあります。詳細は、随時お伝えします。

〔オフィスアワー〕

月曜日授業終了後～17時00分

質問は随時メールやmanabaでも受け付けます。オフィスアワー以外の面談はメールで予約をしてください。宮原 香里(k-miyahara@saku.ac.jp)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として病院等での勤務経験のある教員がその実務経験を活かした授業を行います。

(宮原 香里、二神 真理子、黒澤 佳代、森本 彩、八尋道子)

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

実技試験は1回とします。皆さんが安心して臨めるように、試験前にオリエンテーションを行います。

演習の際はユニフォームとナースシューズを着用し身だしなみを整えて基礎成人看護学実習室に集合してください。

EBN実習Ⅰ(看護職の役割)/Evidence-Based  
Nursing PracticumⅠ:Practicum with Role Models

NS104

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

2年  
1単位 前期  
実習  
必修

宮原 香里、八尋 道子、二神 真理子、森本 彩、黒澤 佳代、  
岩崎 春江、辻 晃、竹内 美紀

〔授業の概要〕

本実習は臨地実習における学修の仕方の習得をめざす。具体的には対象者を中心とした看護について、事前学修をもとにテーマを決めて新たな自身の学修解題を明確にし追求する。臨地では、医療施設や介護サービス施設において、さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護について理解を深め、EBNについて考察する。

〔到達目標〕

1. 臨地実習における学修の仕方を習得することができる。自律性のある学修：経験のふりかえりから課題を出して、それを調べ、経験と統合させる。その内容を相手に説明することができる。
2. 看護職の役割をチームメンバーと協働しながら追求することができる。
3. 健康課題を持つ人々や看護職と対話することができる。
4. 相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる。
5. 自分の考えや思いを他者に表現することができる。
6. 課題に沿って実習をふりかえることができる。

(reflection)

〔学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連〕

<看>DP2、<看>DP4、<看>DP6

〔授業計画〕

1. 実習方法

- 1) 実習1日目：看護の定義をもとにEBNについて事前学修をし、学修課題を明確にする。
- 2) 実習2日目：病院長・看護部長の講義と病院見学を通して、看護の場を知る。
- 3) 実習3～4日目：さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護職の役割について理解を深める。
- 4) 実習5日目：提示されたクリティカルシンキングの課題について学びを共有する。EBN実践に向けての課題を明らかにする。

2. 実習期間

2024年5月13日(月)～5月17日(金)5日間

3. 実習施設

佐久市立国保浅間総合病院、JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター、JA長野厚生連佐久総合病院(本院)、JA長野厚生連小海分院

※詳細は実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特になし

〔成績評価の方法・基準〕

EBN I ルーブリックに従う。

〔課題に対するフィードバック〕

課題に対するフィードバックは、実習期間中に行います。

〔授業時間外学修〕

本実習はチームで学修課題を明確にして実習に臨む。そのため、実習開始前までに「事前学修シート（個人）」を記載し、看護について知りたいこと、疑問に思ったことを書き出す。さらに、看護の定義をもとにEBNについて、チームと共有したい学修課題を明らかにする（60分程度）。詳細は、実習開始前のオリエンテーションで説明する。

〔オフィスアワー〕

宮原 香里 / k-miyahara@saku.ac.jp

実習開始前のオリエンテーション終了後に教室で質問を受け付ける。随時メールで質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として病院等での勤務経験のある教員がその実務経験を活かした実習指導を行う。

（宮原 香里、八尋 道子、二神 真理子、黒澤 佳代、森本 彩）

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

実習開始前にオリエンテーションを行います。日程などの詳細はmanabaで確認してください。COVID-19等の感染拡大の影響により実習内容の一部を変更する場合があります。その際は実習開始前のオリエンテーションやmanabaにて周知します。

**EBN実習Ⅱ（看護の展開）/Evidence-Based Nursing PracticumⅡ:Practicum on EBN**

NS105

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
2単位 通年  
実習  
必修

二神 真理子、八尋 道子、宮原 香里、森本 彩、黒澤 佳代、  
岩崎 春江、辻 晃、竹内 美紀

〔授業の概要〕

実習病院において患者を一人担当し、患者とその家族から生活者としての視点で系統的に得た情報のもつ意味を追求し、その患者にとって最善のエビデンスを用いて看護を行う。より良い看護実践になるよう提示される「EBN実習用ルーブリック」を指標にしながらか知識・技術・態度の統合をはかる。

〔到達目標〕

1. 患者に関心を持ち、相手の立場に立ってコミュニケーションをとる。
2. 系統的に情報収集し、アセスメントに繋げられる。

3. 患者の個性を配慮した看護計画を立案する。
3. 患者の反応を観察しながら、安全で安楽な援助を実践する。
4. 自身が実践した看護について、患者の反応をもとに分析・記録する。
5. 看護実践のふりかえりを通して、自己の行動特徴を洞察する。
6. 実習体験から看護の独自性や役割について意見を持つ。
7. 必要な知識を探索し、記録上で活用する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 6、<看>DP 7

〔授業計画〕

1. 実習方法：

成人・老年期で日常生活援助（特に清潔の援助）を必要とする患者1名を担当する。

2. 実習期間：

・EBN実習ⅡはEBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②で構成され、①は6月の5日間、②は2月の5日間である。

・学生は前半・後半に分かれる。6月に前半だった学生は実習時期の公平性を保つため、2月の実習では後半となる。

EBN実習Ⅱ① 前半 2024年6月6日（木）～6月12日（水）の5日間

① 後半 2024年6月13日（木）～6月19日（水）の5日間

EBN実習Ⅱ② 前半 2025年2月12日（水）～2月18日（火）の5日間

② 後半 2025年2月19日（水）～2月26日（水）の5日間

3. 実習施設：

佐久市立国保浅間総合病院、JA長野厚生連佐久総合病院、東御市民病院、日本赤十字社川西赤十字病院など

※詳細は実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

必要時に指示する

〔成績評価の方法・基準〕

・EBNⅡルーブリックに従う（EBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②の配点が異なるため、必ず確認すること）。

〔課題に対するフィードバック〕

・学生は日々の実習計画を立案し、指導者や実習担当教員が毎朝内容を確認しその場でフィードバックをする。毎日提出する実習日誌への教員からのフィードバックは、口頭もしくは記録上へのコメント、面接等で行う。そのため、毎日の実習日誌は、当日の実習開始時に教員へ提出すること。

〔授業時間外学修〕

・実習前までに、フィジカルアセスメントおよび生活援助論Ⅰの看護技術について患者に実践できるレベルまで練習しておく。また、看護展開論で学んだ内容についても十分復習しておく。学生配置発表後は、実習病棟の特徴に合わせた事前学修をすすめておく。

・実習中は、担当患者の主な疾病に関する形態機能、病態

生理、主要症状・検査・治療とその一般的な看護について学修するとともに、患者にとっての最善のエビデンスを調べ、計画を立てる（毎日1～2時間程度）。

・実習後は、提出期限までに文献を用いて最終レポートをまとめる。実習で明らかとなった自身の課題に対し、目標を定め、計画的に行動をする。

【オフィスアワー】

二神 真理子 / m-futagami@saku.ac.jp

・実習開始前のオリエンテーション終了後に教室で質問を受け付ける。

・随時メールで質問を受け付ける。

【実務経験のある教員等による授業科目】

・看護師として病院に勤務経験のある教員がその実務経験を活かした臨地実習指導を行います。

（二神 真理子、八尋 道子、宮原 香里、黒澤 佳代、森本 彩ほか）

【アクティブラーニング】

【その他履修上の留意事項等】

・実習にあたり、各自で実習前5日間からの健康観察を行い、記録してください。

・できるかぎり、新型コロナウイルスワクチンやインフルエンザワクチン、その他のワクチンを接種してください。

・実習開始前にオリエンテーションを行います。実習施設に入る上での諸注意等を説明します。詳細はmanabaで確認してください。

・感染症の流行により実習内容の一部を変更する場合があります。その際はオリエンテーションやmanabaにて周知します。

## 看護展開論/Nursing Professional Development: Role Responsibility

NS106

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
1年  
2単位 後期  
講義・演習  
必修

吉田 文子、宮原 香里、二神 真理子、森本 彩、黒澤 佳代

【授業の概要】

看護のあり方は、国内外の社会情勢の変化に対応する方向で、考え方においても具体的な展開方法においても変革を遂げてきている。本科目では、その変革の状況を看護の基盤となる「知識・技術・態度（資質）」の各側面から学修する。具体的には、①看護の対象者を主体とした看護実践（Evidence-based nursing）②看護の対象者を医療のメンバーとみなすチーム医療 ③専門職としての看護職のあり方・資質（プロフェッショナルリズム）について、個人学習とチーム学習により理解を深める。本科目は、1年次前期の「導入基礎演習」（大学生としての学び方を学ぶ）に続く科目として1年次後期に開講している。

【到達目標】

Course Outcomesとして以下のことを目指します。

1. Evidence-Based Nursing (EBN) の構成要素を説明することができる。
2. 系統的思考プロセスを用いてクリティカルシンキングし、事例展開できる（思考力）（記述力）。
3. 今日のチーム医療の考え方とその課題について説明することができる。
4. 事例においてプロフェッショナルリズムとは何かを追求し、考察することができる（観察力）（説明力）。
5. ディスカッション場面に有効なコミュニケーションスキルを高めることができる（対話力）。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP4

【授業計画】

授業の形態は、講義・演習で行います。

1・2. コースガイド 【個人学修、チーム学修の2つの柱を同時進行】

・個人学修（看護実習では「1人の患者」を担当するので、個人で看護を展開する力を身につける機会とする）

・チーム学修（課題解決型に向けた学修を行い、人の話を聞いてから自身の考えを伝える対話力を身につける機会とする）

★チームは固定せず、できる限り多くの人と組めるように編成されます。

3. 看護過程の意義と構成要素

4. TBL (Team-Based Learning) /チームナーシング

5・6. Evidence-Based Nursing

・看護診断

・臨床的判断

・グローバルヘルスとチーム医療

7～12. 変革するための中核となる専門職の資質について

・プロフェッショナルリズム、Change Agency、コアマネジメント（自己認識力、思考力、対話力）

13～21. 系統的思考/看護過程の事例展開

・看護過程展開方法

看護実践例から看護を考える①②

・看護実践例（教員等）

患者安全と看護

事例の関連図の作成

22～24. 事例の全体討論会

25～27. 援助計画の作成

・フォーカスチャータリング（F-DAR）

28～30. クリティカルシンキング課題の提示

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：任和子編（2020）. 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド第2版. 照林社.

リンダ J. カルペニート＝モイエ. 黒江ゆり子訳（2018）. 看護診断ハンドブック（第11版）. 医学書院.

参考文献：日本国際保健医療学会（2013）. 国際保健医療学第3版. 杏林書院.

【成績評価の方法・基準】

■筆記試験（小テスト4回 40%）

授業内で、10分程度のテストを受けます。

フィードバック:結果とその概要を授業内でお知らせします。

■ レポート (課題1回 20%)

課題について、所定の書式でレポート作成をします。

フィードバック:提出後の授業内で講評をします。

■ パフォーマンス評価 (20%)

クリティカルシンキング問題について思考し、発言します。

フィードバック:クリティカルシンキングの授業終了時に、「発言内容」をもとに採点し、結果をお返しします。

■ 授業参加状況 (20%)

授業内作成物の不備や期限外提出は減点になります。

演習科目の為、提出物が多くなります。そのため、授業内で評価対象物の提出時期を初回にお知らせします。

〔課題に対するフィードバック〕

■ 筆記試験

フィードバック:結果とその概要を授業内でお知らせします。

■ レポート

フィードバック:提出後の授業内で講評をします。

■ パフォーマンス評価

フィードバック:クリティカルシンキングの授業終了時に、「発言内容」をもとに採点し、結果をお返しします。

〔授業時間外学修〕

本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学修時間は22.5時間となります。

★初回授業で、詳細な学修進度をお知らせします。

特に課題によるレポート作成には、文献検索を含めた自己学修が必要となります。小テスト実施日を提示しますので、予習復習の時間を充てるとよいでしょう。

〔オフィスアワー〕

授業終了後～19時としています。まずはメールをください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

本科目を担当する教員は、看護職としての実務経験を持ちます。実践知を活かした授業を行い、学生の皆さんが看護学や看護実践について追究しやすいよう配慮しています。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

初回の授業で、授業概要を詳細に説明し、学生とともに授業進度を最終決定します。

本授業の構成はマスタリーラーニングを基盤に行い、何度か修得状況を確認・評価し、全員が科目目標を達成できるようにしています。難しい内容もステップを踏めば簡単に、そして面白く学修できると思います。

## 感染看護論/Infection Control

NS107

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
1単位 前期  
講義  
必修

坂木 晴世

〔授業の概要〕

感染を予防するための看護活動並びに病院や施設における感染防御のあり方を学習する。国内外における感染症の変遷や現代の感染症の特徴を理解して、感染防止のための知識、技術、感染管理のための知識、技術を習得する。

〔到達目標〕

感染看護の基礎及び根拠に基づいた感染防止技術を理解し、臨床での看護実践の基盤とする。

1. 感染看護の基礎を理解できる。
2. 感染防止技術の基本を理解できる。
3. 根拠に基づいた感染防止技術による看護を理解できる。
4. さまざまな臨床場面における感染看護を理解できる。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連〕

<看>DP4

〔授業計画〕

第1回 感染症と感染制御における歴史と最近の動向 感染症と倫理【講義/坂木】

4月12日(金)3限

第2回 感染防止技術:標準予防策:手指衛生、個人防護具、職業感染予防、洗浄・消毒・滅菌【講義・演習/宮田・窪田】

4月26日(金)3限

第3回 感染防止技術:感染経路別予防策【講義/宮田・窪田】

4月26日(金)4限

第4回 医療器具/医療処置関連感染の予防【講義/武田】

6月28日(金)3限

第5回 感染対策における多職種連携【講義/武田】

6月28日(金)4限

第6回 地域における感染対策【講義/和田】

7月19日(金)3限

第7回 感染看護の実際:EBPの実践、ケース・スタディ【講義/坂木】

4月12日(金)4限

第8回 感染看護の実際【浅間南麓こもろ医療センター看護師】

日程:調整中

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト:指定しない

参考文献:操華子編.感染看護学.南山堂.2022

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験(70%)

授業参加状況(30%)

〔課題に対するフィードバック〕

定期試験後にmanabaで解答の解説を行う。

〔授業時間外学修〕

講義資料を基に必ず復習しておくこと。

なお、1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業内容の質問・相談は、原則各担当教員の授業終了後に対応します。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

感染症看護専門看護師として実践している教員が、その経験を生かした授業を行います。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

他の関連基礎科目（感染・免疫学、病態生理学、生活援助論Ⅰ（日常生活援助）、フィジカルアセスメント等）の復習をして授業に臨んでください。

フィジカルアセスメント/Nursing Physical Assessment

NS108

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
1年 後期  
1単位 演習  
必修

宮原 香里、川野 道宏、森本 彩、黒澤 佳代

〔授業の概要〕

対象者のからだの状態を把握するための身体診査技術（問診・視診・触診・打診・聴診など）の手技とアセスメントの方法について学習する。講義、演習、グループワークを通して、看護の視点をもちながら、対象者の身体上の問題について系統的にアセスメントするための基礎的な知識・技術・態度を修得する。

〔到達目標〕

1. フィジカルアセスメントの意義と目的を説明できる。
2. フィジカルアセスメントに必要な基本的知識・技術について説明できる。
3. 対象者のアセスメントに必要な情報とフィジカルイグザミネーションの方法を考え、説明できる。
4. 得られた情報をもとに対象者のからだの状態をアセスメントすることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3、<看>DP4

〔授業計画〕

第 1 回 1

【オリエンテーション／宮原】

科目の到達目標・授業内容・学習方法について理解する

看護におけるフィジカルアセスメントの概要について学ぶ

身体計測

第 2 回 2

【講義／川野】

頭頸部・神経系のフィジカルアセスメントについて学ぶ

第 3 回 3

【講義／川野】

感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系のフィジカルアセスメントについて学ぶ

第 4 回 4

【演習／全員】

頭頸部・神経系・感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ。演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第 5 回 5

【講義／川野】

運動器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ

第 6 回 6

【演習／全員】

運動器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ。演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第 7 回 7

【講義／森本・宮原】

胸部（呼吸器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ

第 8 回 8

【講義／宮原】

胸部（循環器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ

第 9 回 9

【演習／全員】

胸部（呼吸器系・循環器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ。演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第 10 回 10

【講義／宮原】

腹部（消化器系・泌尿器・生殖器）のフィジカルアセスメントについて学ぶ

第 11 回 11

【演習／全員】

腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ。演習を通して得られた知識、技術、態度について、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第 12 回 12

【講義／宮原】

バイタルサイン測定について学ぶ

第 13 回 13

【演習／全員】

バイタルサイン測定について演習を通して学ぶ。演習を通して得られた知識、技術、態度について

て、グループワークを通しメンバー間で共有する。

第 14 回 14

【総合演習／宮原・川野】

事例からフィジカルアセスメントを学ぶ①

第 15 回 15

【総合演習／宮原・川野】

事例からフィジカルアセスメントを学ぶ②

課題のフィードバック

【テキスト・参考書・参考文献】

【テキスト】

医療情報科学研究所編(2019). 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント. メディックメディア.

【参考図書】

菱沼典子(2017). 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版. 日本看護協会出版会.

Bickley.L.S.(2022). ベイツ診察法 第3版. メディカル・サイエンス・インターナショナル.

【成績評価の方法・基準】

・筆記試験 60%

・課題レポート 40% 総合演習で取り組む事例のフィジカルアセスメントに関する課題レポートを評価する。

【課題に対するフィードバック】

課題に関するフィードバックは授業時間内に行う。

【授業時間外学修】

・授業の関連内容について指定図書やオンラインツールで事前学習を必ず行ってください。(30分程度)

・授業内容に関連した事前課題に取り組んだうえで講義・演習に参加してください。(30分程度)

・講義・演習で修得した知識・技術が活用できるように事後課題に取り組んでください。(30分程度)

・形態機能学Ⅰ・Ⅱで修得した知識が必要になります。随時、復習を行ってください。

【オフィスアワー】

授業終了後に教室で質問を受け付ける

随時、メールで質問を受け付ける

宮原：k-miyahara@saku.ac.jp

川野：m-kawano@saku.ac.jp

黒澤：k-kurosawa@saku.ac.jp

森本：a-morimoto@saku.ac.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

看護師として病院等での勤務経験のある教員がその実務経験を活かした授業を行います。

(宮原 香里、川野 道宏、黒澤佳代、森本 彩)

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

対象の身体は今のどのような状態にあるのか、今後どのように変化するのか、についてアセスメントすることは看護ケアを展開するうえでとても重要です。さまざまな手技を用いて対象の身体状態をアセスメントするための知識・技術を習得していきましょう。

## リハビリテーション看護論/Rehabilitation Nursing

NS109

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

2年

1単位 後期

講義

必修

齋藤 順子、太田 浩和、丸山 陽一

【授業の概要】

リハビリテーションの概念と体系について学ぶ。リハビリテーションを必要とする対象及びその家族の状況と、看護を提供するために必要な知識・技術の基本を学ぶ。

【到達目標】

1. リハビリテーション看護の考え方を理解する。
2. リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護援助を考えることができる。
3. 現場におけるチームアプローチ及び看護師の役割を理解する。
4. 演習を通し、ボディメカニクスを考慮したADL訓練の実際を学び看護提供時に役立てることができる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP4、<看>DP6、<看>DP7

【授業計画】

第 1 回 リハビリテーション総論

**授業内容：**リハビリテーションの理念・定義・法律、生活機能分類

**授業方法：**講義

**担当教員：**齋藤

第 2 回 リハビリテーション医療に必要なチームアプローチ

**授業内容：**チームアプローチとメンバーに求められるもの、経過別リハビリテーション

**授業方法：**講義

**担当教員：**齋藤

第 3 回 リハビリテーション看護の専門性

**授業内容：**リハビリテーション看護の機能と役割、協働的パートナーシップ

**授業方法：**講義

**担当教員：**太田

第 4 回 リハビリテーションの目的と方法

**授業内容：**不活動・低活動の予防、移乗・移動

**授業方法：**講義

**担当教員：**太田

第 5 回 リハビリテーション看護の実際Ⅰ

**授業内容：**基本動作の実際

**授業方法：**演習(実習室にて基本動作について理学療法士から指導を受ける)

**担当教員：**太田、丸山、齋藤

第 6 回 リハビリテーション看護の実際Ⅱ

**授業内容：**生活動作の実際

**授業方法：**演習(実習室にて生活動作について理学療法士から指導を受ける)

**担当教員：**太田、丸山、齋藤

- 第 7 回 生活機能障害とリハビリテーション看護Ⅰ  
**授業内容**：運動障害のある人（脳卒中）の看護、高次脳機能障害  
**授業方法**：講義  
**担当教員**：齋藤
- 第 8 回 生活機能障害とリハビリテーション看護Ⅱ  
**授業内容**：摂食嚥下障害、排泄機能障害のある人の看護  
**授業方法**：講義  
**担当教員**：齋藤
- 第 9 回 生活機能障害とリハビリテーション看護Ⅲ  
**授業内容**：生活機能障害のある人のリハビリテーション看護の実際  
**授業方法**：演習(実習室にて生活障害者の支援方法について理学療法士から指導を受ける)  
**担当教員**：太田、丸山、齋藤
- 第 10 回 生活機能障害別リハビリテーション看護Ⅳ  
**授業内容**：生活機能障害のある人のリハビリテーション看護の実際  
**授業方法**：演習(実習室にて生活障害者の支援方法について理学療法士から指導を受ける)  
**担当教員**：太田、丸山、齋藤
- 第 11 回 生活機能障害別リハビリテーション看護Ⅴ  
**授業内容**：運動障害のある人（脊髄損傷、大腿骨近位部骨折等）の看護  
**授業方法**：講義  
**担当教員**：齋藤
- 第 12 回 生活機能障害別リハビリテーション看護Ⅵ  
**授業内容**：神経疾患、呼吸器疾患、心疾患のリハビリテーション看護の実際  
**授業方法**：講義  
**担当教員**：齋藤
- 第 13 回 リハビリテーション看護における倫理・諸問題  
**授業内容**：看護倫理、諸問題  
**授業方法**：講義  
**担当教員**：太田
- 第 14 回 地域包括・社会資源の活用  
**授業内容**：地域社会で生きていくために  
**授業方法**：演習（グループワーク）  
**担当教員**：太田、齋藤
- 第 15 回 まとめ  
**授業内容**：これからのリハビリテーション看護について  
**授業方法**：演習（グループワーク）、発表  
**担当教員**：太田、齋藤

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：酒井郁子、金城利雄、深堀浩紀（2021）.リハビリテーション看護改訂第3版,南江堂.

参考書：中西純子,石川ふみよ編(2018).リハビリテーション看護論 第3版,ヌーヴェルヒロカワ.

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（80％）

授業・演習参加状況（教員の質問に対する発言や演習での積極的参加を評価します、20％）

〔課題に対するフィードバック〕

- ・グループワークでの発表について評価を伝えます。
- ・理学療法士からの指導への参加を評価します。

〔授業時間外学修〕

テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、1回の授業につき1時間程度復習を行うこと。また、指示された内容について事前学習を1時間程度行うこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で受け付けます。質問や面談の予約はメールで受け付けます。

○齋藤順子（SAITO,Yoriko）

y-saito@saku.ac.jp(研究室 5号館2階202)

太田浩和（OHTA,Hirokazu）

hungry.hiro.0905@kyj.biglobe.ne.jp

丸山陽一（MARUYAMA,Youichi） pt-c@kakeyu-hp.com

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

リハビリテーション病院に20年以上勤務している脳卒中リハビリテーション看護認定看護師と、30年以上勤務している理学療法士と、36年間リハビリテーション看護に従事した看護師が講師のため、実務経験をもとにリハビリテーションと看護の専門的な知識を学ぶことができます。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

演習の際は実習着を着用の上、基礎看護実習室へ集合してください。

超高齢社会となりさらに障害者の方も増加しているため、介護が必要になった方への介護に役立つ授業です。また、リハビリテーションの知識や多職種連携など学びが多い授業ですので、積極的に知識・技術を習得してください。

## 成人看護学概論/Introduction to Adult Nursing

NS209

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

2年

2単位 前期

講義

必修

水野 照美、武田 貴美子、吉岡 恵、阿藤 幸子、塩入 とも子、岩崎 春江、松下 由美子

〔授業の概要〕

成人期にある対象の身体・精神・社会的な健康上の特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の主要な健康上の諸問題を学び、援助のあり方、健康的な生活習慣の理解など成人に対する看護活動の基本について学ぶ。

〔到達目標〕

1. 成人の発達段階における特徴および健康問題の特徴を説明できるようになる
2. 成人の健康レベル（急性期、慢性期、終末期）の特徴と必要な看護の概要を説明できるようになる
3. 成人の健康上の問題解決に活用できる理論やモデルの概要がわかる

4. 健康障害による生活調整が必要な成人の体験と反応を説明でき、看護について考察できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〈看〉DP4、〈看〉DP5

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、発達段階における成人期の  
特徴  
〈講義、水野〉  
respon課題
- 第 2 回 成人期の健康問題の特徴と看護の概要  
〈講義、松下〉  
小テスト
- 第 3 回 成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論  
やモデル1. ストレスコーピング、危機理論  
〈講義、水野〉  
小テスト
- 第 4 回 成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論  
やモデル2. セルフケア、自己効力  
〈講義、水野〉  
小テスト
- 第 5 回 成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論  
やモデル3. 成人教育学、エンパワメント  
〈講義、水野〉  
小テスト
- 第 6 回 急性期1：健康状態が急激に変化する／した成人  
とその家族の状況と看護  
〈講義、水野〉
- 第 7 回 急性期2：健康状態が急激に変化する／した成人  
とその家族の状況と看護  
〈講義、水野〉  
小テスト
- 第 8 回 慢性期1：健康状態の変化に伴う生活の調整を必  
要とする成人とその家族の状況と看護  
〈講義、武田〉
- 第 9 回 慢性期2：健康状態の変化に伴う生活の調整を必  
要とする成人とその家族の状況と看護  
〈講義、吉岡〉  
小テスト
- 第 10 回 終末期1：健康状態の維持回復が困難な成人とそ  
の家族の状況と看護  
〈講義、水野〉  
responコメント
- 第 11 回 終末期2：健康状態の維持回復が困難な成人とそ  
の家族の状況と看護  
〈講義、特別招聘講師〉  
コメントシートへの対応
- 第 12 回 成人の暮らしと生活習慣1  
〈演習、成人教員〉  
生活習慣の振り返り、少人数討議、全体で気づきの共有
- 第 13 回 成人の暮らしと生活習慣2  
〈演習、成人教員〉  
生活習慣の振り返りを提出、模擬体験、少人数討議、全体で気づきの共有

第 14 回 成人の暮らしと生活習慣3

〈演習、成人教員〉

模擬体験の振り返り、少人数討議、全体で気づきの共有

第 15 回 成人の暮らしと生活習慣4

〈演習、成人教員〉

少人数討議、全体で気づきの共有

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：小松浩子（2022）. 系統看護学講座 成人看護学総論. 医学書院

香川明夫（2022）. なにをどれだけ食べたいの？第5版. 女子栄養大学出版社

参考文献：授業内で紹介

〔成績評価の方法・基準〕

■筆記試験（55%）と■その他（小テストまたは課題30%）は、到達目標1, 2, 3について確認します。

■レポート（15%）は、到達目標3, 4について確認します。

〔課題に対するフィードバック〕

・小テスト終了後に解答を公開します。解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います。

・紙面提出の課題2つとレポートは、コメントをつけて返却します。

〔授業時間外学修〕

看護の学習は、単に暗記ではなく、既習の科目とのつながりをつけて理解し、将来は実際に活用する必要があります。たとえば実習において、患者さんや看護師さんに根拠や理由を伝えられなければ、学生の皆さんへの理解や信頼は得られません。このため、選択式で正答したとしても、根拠や理由を自分の言葉で説明できるように意識して取り組みましょう。

・予習・復習：テキストの当該範囲、紹介された参考文献に目を通す（1時間×15回＝15時間）

・小テストまたは課題：（2時間×5回＝10時間）

・模擬体験前：事前に、既習科目（「健康障害と治療」「食と健康」）・高校までの「家庭科」等を振り返る。サブテキスト「なにをどれだけ食べたいの？」や、生活習慣・食事に関する図書や資料を確認する（10時間）

・模擬体験：指定の日数継続。実施した内容を記録し、「大人の健康」について考察する。サブテキスト参照。（10時間）

・レポート作成：構成を検討する。一度論述する。読み直してわかりにくい部分を書き直す×2回。（15時間）

〔オフィスアワー〕

講義の後、教室で質問を受けます／別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。

水野（5号館2階203）：t-mizuno、武田（5号館3階310）：k-takeda、吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka、阿藤（5号館2階209）：s-ato、塩入（5号館2階208）：t-shioiri、岩崎（1号館3階1321）：h-iwasaki、松下（5号館3階教員室）：y-matsushita  
メールアドレスは、上記の後ろに、@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

全員が看護師としての臨床経験に基づき、実務経験を活かして講義演習に携わります。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

・講義と演習を組み合わせるため、学習の順序と日程は初回授業にて説明します。

・成人看護学は、看護学実習や国家試験準備の基盤となる領域です。この「概論」では、成人看護学へのイントロダクションとして、身近な題材をきっかけにして「成人（おとな）の暮らし」と健康とのつながりを考えましょう。

## 成人看護援助論Ⅰ（急性期）/Methods in Adult NursingⅠ (Acute and Critical Care)

NS210

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
2単位 後期  
講義・演習  
必修

吉岡 恵、水野 照美、武田 貴美子、阿藤 幸子、塩入 とも子、岩崎 春江

〔授業の概要〕

急激な健康破綻をきたした成人期の人々に必要な看護を展開するために、生命維持のための生体機能ならびに主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・心理社会的反応を理解する。また、急激な健康破綻からの回復過程にある成人期の人々に対しては、成人期の発達課題を踏まえ、より個性をとらえた看護を展開するための知識、技術を学び、実践へつなげていく力を養う。

〔到達目標〕

1. 各種機能障害(呼吸・循環・代謝・消化など)、及び侵襲的治療(主に手術侵襲)による身体機能の変化のメカニズム、生命や生活に及ぼす影響や心理社会的反応を考え、理解し説明できる。
2. 各種機能障害をもつ急性期(周手術期)の成人の生命と生活を支える看護について、看護過程を用いて考察し、必要な援助を述べるができる。
3. 演習と事前事後の学習を通して、機能障害を抱え侵襲的治療(主に手術侵襲)を受ける患者に必要な看護技術の一部ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5

〔授業計画〕

- 第1回 授業ガイダンス・侵襲的治療(手術)を受ける患者の看護(講義:吉岡)
- 第2回 侵襲的治療(手術)を受ける成人の抱える呼吸機能障害(閉塞性換気障害)(講義:吉岡)  
小テスト
- 第3回 侵襲的治療(手術)を受ける成人の抱える循環機能障害(HT・MI)(講義:阿藤)  
小テスト
- 第4回 侵襲的治療(手術)を受ける成人の抱える循環機能障害(心不全)(講義:外部講師)

- 第5回 侵襲的治療を受ける患者の看護(術前)(講義:水野)
  - 第6回 大腸切除術を受ける患者の看護(講義:水野)  
小テスト
  - 第7回 侵襲的治療を受ける患者の看護(術中:)(講義:吉岡)  
小テスト
  - 第8回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(情報の整理)(演習:全員)
  - 第9回 侵襲的治療を受ける患者の看護(術中)(講義:外部講師)
  - 第10回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(情報の整理)(演習:全員)
  - 第11回 手術侵襲と生体反応(疼痛・呼吸・循環・創傷治療など)(講義:吉岡)  
小テスト
  - 第12回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(関連図)(演習:全員)
  - 第13回 侵襲的治療を受ける患者の看護(術後)(講義:吉岡)  
小テスト
  - 第14回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(関連図)(演習:全員)
  - 第15回 周手術期演習(術後患者の環境・体位の工夫)(演習:全員)
  - 第16回 周手術期演習(術後患者の観察)(演習:全員)
  - 第17回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(経過記録)(演習:全員)
  - 第18回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(看護計画)(演習:全員)
  - 第19回 救急救命処置が必要な対象とその家族への看護(概論)(講義:外部講師)
  - 第20回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(看護計画)(演習:全員)
  - 第21回 救急救命処置が必要な対象とその家族への看護(BLS)(講義:外部講師)
  - 第22回 手術を受ける患者とその家族への看護過程(看護計画)(演習:全員)
  - 第23回 急性期演習(BLS)(演習:全員)
  - 第24回 周手術期演習(術後患者の観察・アセスメント)(演習:全員)
  - 第25回 乳房切除術を受ける患者の看護(講義:水野)
  - 第26回 抗がん剤・放射線治療を受ける患者の看護(講義:水野)  
小テスト
  - 第27回 急性呼吸不全のある患者の看護(講義:外部講師)
  - 第28回 急性循環不全のある患者の看護(講義:外部講師)
  - 第29回 肺切除術を受ける患者の看護(講義:塩入)  
小テスト
  - 第30回 急性の免疫・感覚機能障害をもつ患者の看護(講義:水野)
- 〔テキスト・参考書・参考文献〕
- 佐藤まゆみら編(2023). 成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア 改訂第4版. 南江堂.
- 林直子ら編(2023). 成人看護学Ⅰ 概論 周手術期看護 改訂第4版. 南江堂.
- 参考文献

鎌倉やよいら(2023). 周術期の臨床判断を磨く I 第2版. 医学書院.

深田順子ら(2021). 周術期の臨床判断を磨く II. 医学書院.

北島泰子ら(2020). 急性期実習に使える周術期看護ぜんぶガイド. 照林社.

武田知子編(2022). New はじめての手術看護. メディカ出版.  
〔成績評価の方法・基準〕

定期試験：50% 目標1について、小テスト・課題と定期試験で確認します

小テストまたは課題：20%

看護過程：20% 目標2について確認します

演習課題：10% 目標3について確認します

〔課題に対するフィードバック〕

協同学習や提出課題のフィードバックは授業時間内で行います。

例えば、看護過程は、演習時に質問し指導を受けながら作成していきます。

また、課題を中間提出し、そのフィードバックを演習時間内に行います。

〔授業時間外学修〕

授業時間内のみでの学習で講義内容を理解するのは難しいです。

講義内容に関する既習科目(形態機能学、感染・免疫学、病態生理学、健康障害と治療、薬理薬剤学)で学んだことを復習(30分～1時間)しておきましょう。

既習科目で学んだことを看護で活用する知識にするためには、理解して自分の言葉で説明できることが必要です。例えば、疾患や治療に伴い起こる症状や徴候は、なぜそのような症状や徴候が起きるのかといったメカニズムを理解する必要があります。

各自、学修してから講義・演習に参加してください。

〔オフィスアワー〕

実習学内日または、メールで問い合わせください。

吉岡恵 m-yoshioka●saku.ac.jp 5号館2階210

水野照美 t-mizuno●saku.ac.jp 5号館2階203

武田貴美子 k-takeda●saku.ac.jp 5号館3階310

阿藤幸子 s-ato●saku.ac.jp 5号館2階209

塩入とも子 t-shioiri●saku.ac.jp 5号館2階208

岩崎春江 h-iwasaki●saku.ac.jp 1号館3階1321

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

長年、臨地での勤務や臨地での実習指導をしている教員により担当します

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

小テストまたは課題では、問われた内容の理解度を深めて、ケアの根拠につなぎましょう。

解答理由を理解するために、既習科目の教科書なども活用して、学修を積み重ねましょう。

既習科目の知識をつなぎ、自分の言葉で説明できるようにすることで、領域別実習で患者の反応に気づくことができ、さらに国家試験、臨地実践の準備になります。

講義、看護過程、演習を組み合わせるためですので、オリエンテーションで学習順序を説明します。

## 老年看護学概論/Introduction to Gerontological Nursing

NS214

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

2年

2単位 後期

講義

必修

諏訪 達彦、堀内 ふき、成田 千春、辻 晃

〔授業の概要〕

それぞれに歴史をもつ高齢者の個性と多様性に対する理解を深めるとともに、日本の高齢社会の課題を学び、老年看護実践へとつなげる基盤をつくる。

〔到達目標〕

1. 老年期を生きる高齢者の生活史を知る意味を説明できる。
2. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。
3. 地域包括ケアシステムについて説明できる。
4. 高齢者の権利擁護を説明できる。
5. 高齢者に対する看護の役割を説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 科目ガイダンス 高齢者の理解：高齢者とは①（演習 / 全員）  
自身の持つ高齢者のイメージについて考える。
- 第 2 回 老年看護学の歩みと未来（講義 / 堀内）  
人口の高齢化に伴う社会の変化に伴う高齢者の保健医療福祉制度の変遷、老年看護学の誕生とその歩み、また未来について学ぶ。
- 第 3 回 高齢者の理解：高齢者の精神的・社会的特徴（講義 / 諏訪）  
老いの自覚、喪失体験などをきっかけとする高齢者の心理、認知機能の加齢変化、および高齢者の就労、社会参加について学ぶ。
- 第 4 回 高齢者の理解：高齢者の身体的特徴に関する演習①（演習 / 全員）  
高齢者体験から身体機能の加齢変化について考える。
- 第 5 回 高齢者の理解：高齢者の身体的特徴に関する演習②（演習 / 全員）  
高齢者体験から身体機能の加齢変化について考える。グループワークを行う。
- 第 6 回 高齢者の理解：高齢者の身体的特徴（講義 / 諏訪）  
加齢と老化、特に身体機能の加齢変化について学ぶ。
- 第 7 回 生活を支える看護：高齢者の住まい（講義 / 特別講師）  
高齢者の心身社会機能に応じた住環境のあり方、高齢者向けの多様な住宅について学ぶ。
- 第 8 回 生活を支える看護：高齢者とのコミュニケーション（講義 / 成田）

- コミュニケーションを促す要素と阻害要因、コミュニケーション技術について学ぶ。
- 第 9 回 海外の高齢者看護事情（講義 / 特別講師）  
海外での高齢者を対象とした看護について学ぶ。
- 第 10 回 高齢者看護の基本：高齢者の権利擁護（講義 / 成田）  
エイジズム、高齢者虐待、身体拘束、高齢者虐待防止法、成年後見制度について学ぶ。
- 第 11 回 高齢者理解のための演習①：倫理的な課題（演習 / 全員）  
倫理的ジレンマを生じやすい事例について考える。
- 第 12 回 高齢者理解のための演習②：倫理的な課題（演習 / 全員）  
倫理的ジレンマを生じやすい事例について考える。グループワークを行う。
- 第 13 回 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護（講義 / 諏訪）  
介護保険制度、社会資源、地域包括ケアシステム、多職種連携について学ぶ。
- 第 14 回 高齢者の理解：高齢者とは②（演習 / 全員）  
講義・演習を通して得た高齢者観について振り返る。グループワークを行う。
- 第 15 回 まとめ（講義 / 諏訪）  
これまで学んだことを振り返る。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〈テキスト〉

堀内ふき他(2023). 高齢者の健康と障害. 第7版. メディカ出版  
堀内ふき他(2023). 高齢者看護の実践. 第6版. メディカ出版  
〈参考書〉

国民衛生の動向. 厚生労働統計協会

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験、レポート、小テスト、授業への参加状況により総合的に評価する。

・筆記試験（60％）

・レポート、小テスト、授業への参加状況、事前課題の取り組み状況（40％）

〔課題に対するフィードバック〕

筆記試験の結果は、成績確定後、希望者に対して面接し説明します。

取り組んだ課題について講義中にフィードバックします。

〔授業時間外学修〕

予習：毎回30分は確保し、テキストの関連箇所を精読する。  
復習：毎回45分は確保し、授業内の資料や、テキストの関連箇所を精読し、ノートにまとめ整理する。不明な点はその都度確認する。

〔オフィスアワー〕

授業日の12:10-12:50、17:00-17:50

他の時間も歓迎します。事前にメール等で確認ください。

t-suwa●saku.ac.jp c-narita●saku.ac.jp h-tsuji●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

該当なし

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

この科目は卒業要件となる必修単位です。

この科目は3年次老年看護学実習の先修科目となっています。

小児看護学概論/Introduction to Pediatric Nursing

NS217

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

2年

2単位 後期

講義

必修

鈴木 千衣、小林 睦、塚原 美穂

〔授業の概要〕

子どもの概念及び子ども観、小児医療や小児看護の歴史の変遷を学び、社会の変化に伴う子どもと家族の暮らしが子どもの成長発達や健康に及ぼす影響を多角的に捉えることができるようにする。子ども各期の成長発達の特徴に応じた生活と養護について理解を深める。さらに保健医療における小児看護の役割を理解し、小児保健及び小児看護に関する知識や理論を学ぶ。

〔到達目標〕

1. 小児看護の対象としての「子ども」とはどのような存在か、自分の考えを表現できる
2. 小児看護の理念を理解し、小児看護の役割と対象について説明できる
3. 小児保健医療及び小児看護の変遷を踏まえ、これからの小児看護における課題について考察できる。
4. 子どもの成長発達と成長発達の評価方法を理解し、実施できる。
5. 各発達段階における子どもに必要な養護を理解し、子どもと家族に対して必要な援助を考察できる
6. 最近の子どもの日常生活と健康にかかわる課題について検討できる
7. 学修課題に自主的に取り組むことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〈看〉DP1、〈看〉DP2、〈看〉DP3、〈看〉DP4、〈看〉DP6、〈看〉DP7

〔授業計画〕

- 第 1 回 小児看護の理念と役割（担当：鈴木）  
小児看護学概論をはじめのあたり、小児医療のイメージをつける目的で、動画を視聴する。
- 第 2 回 コースオリエンテーション/小児看護の理念と役割（担当：鈴木）  
子どもとはどういった存在かを考え、小児看護における理念と役割を理解する。
- 第 3 回 母子保健医療及び小児看護の変遷（担当：鈴木）  
子どもや家族への健康支援がどのように行われてきたのかを学ぶとともに、現在の母子保健施策と小児医療の現状を理解する。

- 第 4 回 子どもの成長発達と評価 (担当: 小林)  
子どもがどのように成長発達をしていくのかを理解し、その成長評価の意味と評価方法を理解する。
- 第 5 回 子どもの成長発達と健康生活 乳児期① (担当: 小林)  
乳児期の子どもの成長発達状況を理解し、乳児が健康に成長発達できるような支援を考える。さらに、この時期に見られる健康問題を学び、その予防と対応を理解する
- 第 6 回 子どもの成長発達と健康生活 乳児期② (担当: 小林)  
乳児期の子どもの成長発達状況を理解し、乳児が健康に成長発達できるような支援を考える。さらに、この時期に見られる健康問題を学び、その予防と対応を理解する
- 第 7 回 演習「子どもと生活GW①」(担当: 鈴木)  
自分が取り上げた子どもの生活上の問題について調べ整理したうえで、グループワークに参加し、情報交換を行う。そのうえで、グループで深めていくテーマを1つ決定する。
- 第 8 回 子どもの成長発達と健康生活 幼児期① (鈴木)  
幼児期の子どもの成長発達状況を理解し、幼児が健康に成長発達できるような支援を考える。さらに、この時期に見られる健康問題を学び、その予防と対応を理解する
- 第 9 回 子どもの成長発達と健康生活 幼児期② (担当: 鈴木)  
幼児期の子どもの成長発達状況を理解し、幼児が健康に成長発達できるような支援を考える。さらに、この時期に見られる健康問題を学び、その予防と対応を理解する
- 第 10 回 子どもとあそび (特別講師)
- 第 11 回 子どもの成長発達と健康生活 学童期① (担当: 小林)  
学童期の子どもの成長発達状況を理解し、学童が健康に成長発達できるような支援を考える。さらに、この時期に見られる健康問題を学び、その予防と対応を理解する
- 第 12 回 子どもの成長発達と健康生活 学童期② (担当: 小林)  
学童期の子どもの成長発達状況を理解し、学童が健康に成長発達できるような支援を考える。さらに、この時期に見られる健康問題を学び、その予防と対応を理解する
- 第 13 回 子どもの健康問題 (事故・虐待)  
子どもに多く見られる事故と増加傾向にある虐待について解説し、これらの問題の予防と対策を考える。
- 第 14 回 演習「子どもと生活」GW② (担当: 鈴木)  
グループテーマについて、それぞれが調べてきたことを整理して、発表準備を行う。
- 第 15 回 まとめ「子どもと生活」発表 (担当: 鈴木他)

これまで2回のグループワークでまとめたことについて、発表を行い、ほかのグループと情報を共有する

〔テキスト・参考書・参考文献〕

未定

初回の授業で、文献リストを配付する。

〔成績評価の方法・基準〕

1. 試験50% (小テスト10%+最終試験40%)、
2. 課題 40%
3. グループ発表自己評価(10%)

〔課題に対するフィードバック〕

課題レポートには、コメントをして返します。

〔授業時間外学修〕

1. 事前学修や授業後の最低30分の自己学修が必須です。教書を読んで予習をしておくとともに、授業後にも、レジュメ、教科書等を読んで、知識を整理する。
2. 課題のGWについては、授業時間内にも時間を設けます。しかし、それだけでは時間は十分ではありませんので、グループメンバーで時間を調整し、課題に取り組んでおいください。

〔オフィスアワー〕

3年生の実習期間中につき、質問等があるときには、メールでアポイントメントをとってください。

鈴木千衣 c-suzuki@saku.ac.jp

小林睦 m-kobayashi@saku.ac.jp

塚原美穂 m-tsukahara@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

鈴木: 小児専門病院でのハイリスク児、小児がんなどの慢性疾患児の看護経験を有する。

小林: 総合病院において、NICUおよび小児科病棟での看護経験を有する。

塚原: 総合病院での看護経験を有する。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

1. 30分以上の遅刻は、欠席とみなす。また、30分未満の遅刻3回で、1回の欠席と換算する。
2. 授業の初日のオリエンテーションで「学修内容・手引き」を配付するので、それを熟読し、学修を進めてください。進め方でわからないことがあるときには、メール等で質問してください。
3. 授業で用いるPPT・資料は、許可なく授業・実習以外の使用を禁止します。
4. 授業中のPPTを写真で撮影することは禁止します。
5. レポート等の提出期限に遅れる場合は、必ず事前に教員に連絡してください。連絡がなく遅れた場合は、評価の対象とはなりません。
6. 大学からのオクレンジャー・manabaによるお知らせは必ず目を通してください。

## 母性看護学概論/Introduction to Maternal-Newborn Nursing

NS220

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年 後期  
2単位 講義  
必修

櫻井 綾香、湯本 敦子、竹内 美紀

### 〔授業の概要〕

母性看護学の基盤となる概念およびプロダクティブヘルスに関する基礎知識を学修する。女性のライフサイクル各期の健康課題・健康問題と看護、およびプロダクティブヘルスケアについて理解し、健全な次世代育成のための母性看護について学ぶ。

### 〔到達目標〕

1. 母性看護の対象・目的・役割・意義について説明できる。
2. 母性看護の中心となる概念、およびプロダクティブ・ヘルスについて説明できる。
3. 我が国における母性看護の対象を取り巻く社会の変化、母子保健統計および母性看護に関する法律や施策について説明できる。
4. 各ライフステージにおけるプロダクティブヘルスに関する健康課題・健康問題と看護について説明できる。
5. ひとの生殖に関する形態・機能的特徴、妊娠の成立・胎児の発育とその付随物・性分化について説明できる。
6. 母性看護にかかわる倫理的課題を説明でき、考察することができる。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション、母性看護とは  
(講義/櫻井)  
※コミュニケーションカード（第1回～第15回の授業時 毎回実施）
- 第 2 回 生殖の形態と機能 1 男・女生殖器の形態、性ホルモン  
(講義/湯本)
- 第 3 回 生殖の形態と機能 2 女性の月経周期  
(講義/湯本)
- 第 4 回 性と生殖の健康問題 1 月経障害  
(講義/湯本)
- 第 5 回 性と生殖の健康問題 2 女性のがん、更年期～老年期  
(講義/湯本)
- 第 6 回 性と生殖の健康問題 3 性感染症・ヒューマンセクシュアリティ  
(講義/櫻井)
- 第 7 回 性と生殖の健康問題 4 女性・子どもと暴力  
(講義/櫻井)
- 第 8 回 わが国の母子の健康と母子保健統計  
(講義/櫻井)
- 第 9 回 わが国の母子の健康と母子保健施策(法律を含む)

(講義/櫻井)

- 第 10 回 生殖の形態と機能 3 受精・妊娠の成立、胎児の発育  
(講義/櫻井)
- 第 11 回 生殖の形態と機能 4 配偶子の形成・遺伝・性分化  
(講義/櫻井)
- 第 12 回 性と生殖の健康問題 5 家族計画・不妊  
(講義/湯本)
- 第 13 回 不妊カップルの理解と看護  
(講義/宮澤香代子)
- 第 14 回 ペリネイタルロスと看護  
(講義/櫻井)
- 第 15 回 母性看護領域における倫理的課題  
(講義/湯本)

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：看護学テキストNiceシリーズ母性看護学I 概論・ライフサイクル改訂第3版。南江堂  
看護学テキストNiceシリーズ母性看護学II マタニティサイクル [Web動画付] 改訂第3版。南江堂  
系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑨女性生殖器(第15版)。医学書院。

### 〔成績評価の方法・基準〕

1. 筆記試験80% 課題レポート20%
2. 課題レポート：初回授業時に提示する

### 〔課題に対するフィードバック〕

質問についてはできる限り次回授業時にフィードバックします。

課題レポートは返却します。

### 〔授業時間外学修〕

- ・毎回、初回ガイダンスで示すテキストの該当ページについて読み、疑問点があれば明らかにしておくこと。授業後ノートにまとめるなどして復習すること。(1時間)
- ・授業によってmanaba小テスト機能を利用しホームワークを課すので、自己学習し解答すること。
- ・ワークブックを初回ガイダンス時に配布するので、計画的にワークブックの課題を完成すること。
- ・課題レポートについて、自主的、計画的に進めること。

### 〔オフィスアワー〕

授業終了時あるいは放課後。質問はメールでも可能です(随時)。面談の希望は事前にメールで連絡ください

櫻井 a-sakurai@saku.ac.jp (研究室) 5号館2階207

湯本 a-yumoto@saku.ac.jp (研究室) 5号館3階301

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

助産師として産科病棟に5年以上勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした授業を行います。

### 〔アクティブラーニング〕

○

### 〔その他履修上の留意事項等〕

- ・ひとの生涯を通しての性と生殖に関する健康課題や健康問題を扱います。男性女性を問わず、実はみなさんも母性看護学の対象になります。看護職の基本的知識として学ぶ内容ですが、患者さんのこととしてだけではなく、皆さん

自身の今とこれから一生に亘る自分自身のからだ、こころ、性の健康問題としても、じっくり考えてほしいと思っています。

- ・毎回の授業における20分以上の遅刻、早退は欠席とします。
- ・本科目の課題作成において、生成AIを使用することは禁止します。

## 精神看護学概論/Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing

NS223

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
2単位 後期  
講義  
必修

柿澤 美奈子、坂江 千寿子

### 【授業の概要】

精神的健康の保持増進及び精神的疾病の予防に関する要因や、行動に示される心の表れを理解し、看護に必要な相互作用とコミュニケーション技法の理解を深める。また、精神医療福祉に関する国内外の歴史を概観し、精神障がい者を取りまく様々な課題、精神に障害のある方の人権や福祉、地域での生活のあり方等を含めて看護の役割を学ぶ。

### 【到達目標】

1. 生涯にわたるこころの発達過程、心を理解するための諸理論を説明できる。
2. 精神保健看護の理念、現代における社会的問題を精神看護の視点から理解できる。
3. 自己を活用したコミュニケーション方法を理解できる。
4. 心の健康、ストレス、危機のメカニズムを基に、セルフマネジメントについて理解できる。
5. 精神障がい者の歴史の変遷を学び、多角的な視点から課題を検討できる。
6. あらゆる疾患患者の治療過程に関与する精神看護の役割と専門性を理解できる。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP3、<看>DP4、<看>DP6

### 【授業計画】

- 第1回 精神の健康を保持増進するための看護  
こころとは、こころの健康とは、精神看護の目的、対象、役割を考える。講義 柿澤
- 第2回 現代社会におけるメンタルヘルスの重要性を学ぶ  
新聞記事を用いて、現代社会の出来事を、精神看護の視点から説明できる。演習 柿澤
- 第3回 ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ①  
フロイトの精神分析学を基に心の構造仮説とは何か、防衛機制/適応機制を説明できる。講義 柿澤
- 第4回 ライフサイクルと発達過程を学ぶ②  
乳幼児期から成人期までの人間のこころの発達を説明できる。講義 柿澤
- 第5回 ライフサイクルと発達過程を学ぶ③

児童期から思春期のこころの発達を説明できる  
一児童思春期病棟で展開されるこころの問題とケアー 講義 柿澤

- 第6回 精神看護における対人コミュニケーションの重要性と方法を学ぶ  
コミュニケーションの重要性、看護におけるカウンセリングの活用、主要な技法について説明できる。講義・演習 柿澤
- 第7回 ライフサイクルと発達過程を学ぶ④  
青年期から老年期までの発達、精神的な危機について説明できる。講義 柿澤
- 第8回 こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ①  
こころの危機状態の種類と過程、介入方法について説明できる。講義 柿澤
- 第9回 こころの健康を保つための理論と技術②  
心身相関に関する理論、こころの働きをセルフチェックする方法が説明できる。講義 柿澤
- 第10回 こころの健康を保つための理論と技術③  
自己を振り返るリフレクションの方法を説明できる。講義・演習 柿澤
- 第11回 こころの健康を保つための理論と技術④  
心の健康と運動の関係を理解し、自律訓練法、リラクゼーションの方法を用いてセルフケアができる。講義・演習 柿澤
- 第12回 精神看護における看護師の役割と課題 ①  
諸外国（欧米）と日本の精神医療・看護の歴史の変遷から精神看護の課題が説明できる。講義 柿澤
- 第13回 精神看護における看護師の役割と課題 ②  
1) 精神科病院、精神科病棟の治療  
2) 当事者や家族の状態を考える  
講義 柿澤
- 第14回 精神看護における看護師の役割と課題 ③  
精神障がい者の権利を擁護する看護者の役割と責任を説明できる。  
講義・演習 弁護士 外部講師
- 第15回 精神看護における専門性を学ぶ  
精神専門看護師、リエゾン精神看護の役割と機能について説明できる。  
講義 CNS 東 外部講師

### 【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト

岩崎弥生 編(2021). 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健. メヂカルフレンド社.

岩崎弥生 編(2021). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.

参考文献は、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法・基準】

1. 筆記試験 (90%) 定期試験1回。
2. 提出課題 (10%) 新聞記事のレポート課題。当日は、討議後に学びを加筆して提出する。

### 【課題に対するフィードバック】

提出されたレポート課題に関しては、内容を確認し返却します。

### 〔授業時間外学修〕

〔予習〕 予定授業範囲のテキストを読み、知らない用語等を調べるなどの準備が大切です。

授業2回目の事前課題は、2024年1月1日～授業日までの新聞掲載記事を対象とします。事前にmanabaにて周知します。

〔復習〕 授業をふりかえり、重要事項を自分で分かりやすいようにまとめて、疑問を整理し、解決するようにしましょう。これらの学修に毎回1時間程度を要します。

### 〔オフィスアワー〕

#### 1. オフィスアワー

- ・原則、授業日の授業終了から放課後
- ・質問は、メールでもよい（常時）
- ・オフィスアワー以外の面談はメールで予約する

#### 2. 連絡先

柿澤美奈子 (KAKIZAWA, Minako) m-kakizawa@saku.ac.jp  
(●を@に変えてください。)

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として精神科病棟に勤務。実務経験をもとに精神看護について講義演習を行う。

### 〔アクティブラーニング〕

○

### 〔その他履修上の留意事項等〕

こころの健康は、誰にとっても、いつでも大きな問題です。自分自身や身近な人のことなどでも結構です。メール等で、授業への疑問や質問だけでなく、遠慮なく相談してください。

## 看護倫理学/Nursing Ethics

NS226

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
2単位 後期  
講義  
必修

八尋 道子、二神 真理子、宮原 香里

### 〔授業の概要〕

本科目では、看護職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みについて学びます。まず「看護は専門職である」とことと既習の「プロフェッショナルリズム」を確認する。さらに、看護を実践する状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその諸価値のもつ意味を考察することにより、倫理的能力の促進を目指す。はじめて臨地実習を体験している履修生の倫理的感受性育成のために、医療の現場に生じる倫理的課題について同時進行で学ぶことができるよう、多くの生きた事例を教材として使用する。

### 〔到達目標〕

修了時に以下の5つの学修成果を得ることを目標とします

1. 看護倫理の基礎知識と看護実践に関わる基本的な法律を学び、これらの知識が看護師になぜ必要かを述べるができる（**倫理的に「知ること」**を学ぶ）
2. 倫理的感受性を高め、多くの生きた事例から看護実践における現代の倫理的課題を認識することができる（**倫理的**

に「**見る**」ことを学ぶ）

3. 倫理的意思決定を行うための枠組みを理解し、倫理課題に直面したとき専門職としてどう対応するかを自分の問題として捉え看護実践に活かしていく基本的な考え方を「4ステップ事例検討用紙」に記述することができる（**倫理的に「行うこと」**を学ぶ）

4. よい看護とは何か、よい看護師とはどのような人かについて、自分自身の考えを言葉と行為で表現することができる（**倫理的に「あること」**を学ぶ）

5. 他者の声に積極的に耳を傾け、継続的な対話の姿勢を持つことができる（**倫理的に「ふりかえること」**を学ぶ）

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3

### 〔授業計画〕

第1回 大切なものは何ですか？

コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方  
自分の価値を知ろう【ピーターのケース】

第2回 看護倫理のアプローチ（1）

徳の倫理 なぜ看護師に倫理の知識が必要か？

第3回 専門職の責務と倫理綱領（1）

アドボカシー アドバンス・ケア・プランニング  
【曜一のケースとリスボン宣言 もしバナゲーム】

第4回 専門職の責務と倫理綱領（2）

インフォームドコンセントとアカウントビリティ  
【ICN看護師の倫理綱領・JNA看護職の倫理綱領】

第5回 看護倫理のアプローチ（2）

倫理原則（原則の倫理） 倫理的ジレンマ

第6回 専門職の責務と倫理綱領（3）

個人情報保護 コンフィデンシャリティ  
【嵐のケースと実習記録の取り扱い】

第7回 看護倫理のアプローチ（3）

ケアの倫理

第8回 ナラティブでみる看護倫理

【実習で遭遇したケースを描く】

第9回 チーム学修・ケーススタディの準備

「4ステップ事例検討用紙」に記述する

第10回 チーム学修・実習のケースをふりかえる（1）

EBN実習IIチームで事例検討と発表準備

第11回 チーム学修・実習のケースをふりかえる（2）

EBN実習IIチームで事例検討と発表準備

第12回 よい看護へのアプローチ（1）

チーム学修の成果・事例検討の発表と討論会

第13回 よい看護へのアプローチ（2）

チーム学修の成果・事例検討の発表と討論会

第14回 よい看護へのアプローチ（3）

チーム学修の成果・事例検討の発表と討論会

第15回 よい看護へのアプローチ（4）

チーム学修の成果・事例検討の発表と討論会

コースサマリー

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

小西恵美子 編 (2021). 看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ, 改訂第3版. 南江堂.

1年次「看護基礎理論」で購入してもらったテキストをこの

授業でも使います

※そのほか参考書などは、授業内で紹介します

〔成績評価の方法・基準〕

総合成績でA以上が得られるように、下記の基準を参考にしてください

1. 授業貢献度 (10%)

①出席状況を respon で確認します

②自発的な発言や提出物の成果を評価します

2. 筆記試験 (小テスト4回 40%)

授業の中で小テストを行い成績評価します

テキストの指定範囲から出題します

3. チーム学修の発表と討論会 (20%)

課題のケースに基づき、チームで学修し発表します

4. 4. 定期試験 (30%)

後定期試験期間中に「テキスト・配付資料持ち込み可、90分」の筆記試験を実施します

詳細は授業内、および manaba で通知します

プレゼンテーションでは、それぞれの発表に対して各チームの投票が得点化されます。

〔課題に対するフィードバック〕

小テスト①②③④は、その日の授業内で結果がわかります。課題レポートの結果は、個別に問い合わせが可能です。

〔授業時間外学修〕

**予習**：予習を重視します。指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回30分程度の予習をしましょう

**復習**：その日のうちにノート整理をしながらふりかえりをしてください

**チーム学修**：授業外でも必要になります。メンバーとの時間調整もチームワークの実践の一つです

〔オフィスアワー〕

まずはメールで連絡をください

八尋 道子：m-yahiro@saku.ac.jp 研究室 5号館2階R205

宮原 香里：k-miyahara@saku.ac.jp 研究室 5号館2階R209

二神真理子：m-futagami@saku.ac.jp 研究室 5号館2階R210

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

教員は3人とも、医療現場での実務経験を有しています

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

・この授業では間違った答えはありません。自由な対話の場所としての教室を皆で作ります

・メールやmanabaで質問ができます。ただし疑問や不明な点は全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業で解決しましょう

## 地域生活者交流実習Ⅱ（支援の実際）/Community-Based Learning Ⅱ（Practical Training）

NS301

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

4年  
1単位 通年  
実習  
選択

柿澤 美奈子、成田 千春、阿藤 幸子、黒澤 佳代

〔授業の概要〕

地域で暮らす人々の生活の場に向き、日常生活の様子や健康に対する思い、家族や近隣の人々とのつながりについて考えることができる。また、地域で暮らす人々がよりよく生活するためのさまざまな保健・医療・福祉に関する社会資源を知り、さまざまな場における看護職の役割について理解を深める。

〔到達目標〕

1. 対象地域の特性（地理、気候、人口構成、産業、交通、風土）を調べ、説明できる
2. 地域で暮らす人々が生活や健康をまもるためにどのように行動しているのか、家族や近隣の人々とのように助け合い生活しているのかを知り、説明できる
3. 地域で暮らす人々の健康をまもるための社会資源、伝統や行事等を知ることができる
4. 各チームの実習先において、現場ではどのような職種の人が協働しているのかを知る
5. 地域で暮らす人々と自分から対話することができ、相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる
6. 地域で暮らす人々が健康的な生活を継続するための取り組みや健康課題をチームで考察し、リーダーシップを發揮しながら、チームで一部実施できる
7. 今後の学修課題及び地域生活者として自身の課題を考えることができる
8. 実習で学んだ内容から、地域で暮らす人々がよりよく生活するための看護職の役割について考え、説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP2、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

1. 実習方法

・実習グループは学籍番号下一桁が同じ数字のチューターグループとする。

・チューターグループ毎に実習テーマが設定される。

・学生は、実習テーマに関連した情報収集を行い、各チームで課題を明確にして地域に赴く。

・実習では、積極的に行動し実習目標達成に向けて努力する。

・各チームは学修内容をまとめ、対話により学びを広げ深める。

2. 実習期間：2024年4月～12月

3. 実習場所：佐久市内公民館等、まちの縁側なから、平尾の森、ヘルシーパークかわかみ、野辺山ステーション など

\*詳細はオリエンテーションで配布される実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

指定しない

〔成績評価の方法・基準〕

地域生活者交流実習ルーブリックに従う。

〔課題に対するフィードバック〕

実習準備、臨地実習、報告会の過程で実習担当教員が助言する。提出された実習記録については、コメントを入れて返却する。

〔授業時間外学修〕

・各チームで実習日が異なるため、計画的に準備していく。

〔オフィスアワー〕

・実習全体に関することは、随時、柿澤 (m-kakizawa@saku.ac.jp)宛のメールで受け付ける。(●を@に変えてください。)

・各チームの担当教員のオフィスアワーについては、担当別オリエンテーションで周知する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

・全チューター(教員)が実習担当教員として関わる。  
・看護師・保健師・助産師等として健康の保持増進、疾病の予防に関わってきた経験のある教員が、その実務経験を生かした実習指導を行う。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

・実習初回にオリエンテーションを行う。詳細はmanabaで確認する。

・地域生活者交流実習Ⅱは地域生活者交流実習Ⅰ(先修科目)の積み重ねの実習である。地域生活者交流実習Ⅰのふりかえりをし、支援の実際について考えをまとめておく。

・地域生活者交流実習に関する文献を熟読する。

二神真理子, 柿澤美奈子(2023). 新カリキュラムにおける地域生活者交流実習Ⅰの展開: 学生の学びと今後の課題. 佐久大学看護・福祉研究1(1), 91-97.

## 看護研究方法Ⅰ(基本)/Introduction to Nursing Research

NS110P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
2単位 後期  
講義  
必修

武田 貴美子、二神 真理子、櫻井 綾香

〔授業の概要〕

看護研究の意義を理解し、看護研究論文を今後の学修活動や看護活動に生かすための基礎的能力(看護文献の検索方法の理解、文献を正しく読み取る力)を養う。さらに、看護研究のプロセス(テーマの抽出、研究方法、分析、まとめ、発表方法)の基本を学ぶ。学生自身の関心事をもとに、文献検討し、テーマ抽出を行い、看護研究計画書立案を体験する。

〔到達目標〕

1. 看護研究の意義を理解し、看護研究論文の活用の重要性がわかる。

2. 文献活用の基本的な能力として、文献の検索方法を理解するとともに、文献を正しく読み取る(目的、意義、方法、結果、結論、強調点、長所、短所)ことができる。

3. レポートの記載にあたって、文献の用い方を正しく理解できる。

4. 看護研究の一連のプロセスがわかる。

5. これまでの学習において興味を持った看護現象から、明らかにしたい疑問を抽出し、さらに文献検討を通してresearch questionを導き出す。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連〕

<看>DP3、<看>DP5

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション/研究とは、看護研究とは、看護研究の必要性と意義/研究論文の構成【講義/武田】

第2回 文献活用: 文献と親しくなろう(文献の活用の意義、文献の種類/文献の整理方法)【講義/櫻井】

第3回 文献活用: 文献を読もう①(クリティークの方法)【講義/二神】

第4回 看護研究の実際: research questionを考えてみよう①【演習: 全員】

第5回 文献活用: 文献を探してみよう①【講義: 佐藤】

第6回 文献活用: 文献を読もう②(クリティークの実際)【講義/二神】

第7回 文献活用: 文献を検索してみよう②(文献の検索)【演習/佐藤】

第8回 看護研究の実際: 看護研究のプロセスを理解しよう(研究のプロセス、研究疑問と研究方法)【講義/武田】

第9回 看護研究の実際: 看護研究の方法-事例研究を中心に-【講義/武田】

第10回 看護研究の実際: research questionを考えてみよう②【演習: 全員】

第11回 看護研究の実際: 研究計画書の書き方①【講義/武田】

第12回 看護研究の実際: 研究計画書の書き方②【講義/武田】

第13回 看護研究と倫理: 研究における倫理的配慮【講義/二神】

第14回 看護研究の実際: 研究計画書を書いてみよう①【演習/全員】

第15回 看護研究の実際: 研究計画書を書いてみよう②【演習/全員】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〔テキスト〕

坂下玲子, 宮芝智子, 小野博史(2023). 系統看護学講座別巻 看護研究. 医学書院.

〔参考図書〕

操華子, 松本直子編(2006). 臨床看護研究の道しるべ. 日本看護協会出版会.

佐久大学看護・福祉研究 2巻1号

## 〔成績評価の方法・基準〕

課題レポート

- ①文献クリティーク 10%
- ②研究計画書 70%

演習課題（research questionなど） 20%

〔課題に対するフィードバック〕

課題レポートにはコメントを付して返却します。

〔授業時間外学修〕

- ・授業の関連内容についてテキストで事前学習を行ってください。（毎回30分程度）
- ・授業後は講義資料およびテキストの関連項目を読み返し、重要事項をノートに整理してください。（毎回30分程度）

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

随時、メールで質問を受け付ける。

- 武田：k-takeda@saku.ac.jp
- 二神：m-futagami@saku.ac.jp
- 櫻井：a-sakurai@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。文献を読むことは、これからの学修において基本となります。文献の活用のしかたを学んで、他の授業にも活用できるようにしましょう。さらに、看護研究のプロセスを理解し、4年次の「看護学研究」に繋げていきましょう。

## 看護研究方法Ⅱ（応用）

NS229P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
4年 前期  
1単位 講義  
選択

武田 貴美子、中田 覚子、吉岡 恵

〔授業の概要〕

看護研究の意義と目的に関する理解を深め、看護研究に必要な基本的能力を養う。具体的には看護研究のプロセスとして、研究課題の設定、文献検討、研究デザインと研究方法、データの分析、論文の書き方、発表方法について学修する。

〔到達目標〕

1. 看護研究の意義と目的が理解できる
2. 研究プロセスが理解できる
3. 量的研究・質的研究の特徴と種類および方法が理解できる
4. 量的研究・質的研究論文のクリティークができる
5. 論文の書き方と発表方法が理解できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3、<看>DP5

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション／看護研究の意義と目的、研究プロセス 【講義：武田】
- 第2回 文献検討Ⅰ：文献検討の意義とクリティークの視点 【講義：吉岡】
- 第3回 質的研究方法の理解Ⅰ：質的研究方法の特徴、研究課題の設定、データ収集方法 【講義：武田】
- 第4回 質的研究方法の理解Ⅱ：質的研究におけるデータの分析方法、倫理的配慮 【講義：武田】
- 第5回 量的研究方法の理解Ⅰ：量的研究方法の特徴、研究課題の設定、データ収集方法 【講義：吉田】
- 第6回 量的研究方法の理解Ⅱ：量的研究におけるデータの分析方法、倫理的配慮 【講義：吉田】
- 第7回 文献検討Ⅱ：質的研究論文・量的研究論文のクリティーク 【演習：全員】
- 第8回 論文の書き方・発表の仕方 【講義：武田】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：坂下玲子、宮芝智子、小野博史（2016）. 系統看護学講座別巻 看護研究. 医学書院.（「看護研究方法Ⅰ」で使用したもの）

参考図書：川口孝泰（2020）. 看護研究ミニマムエッセンシャルズ. 医学書院.

〔成績評価の方法・基準〕

1. 小テスト・課題 30%
2. 課題レポート 70%
  - ①文献カードの作成
  - ②文献クリティーク\*質的研究論文・量的研究論文それぞれ1件ずつ

〔課題に対するフィードバック〕

- ・小テスト・課題については授業時間内にフィードバックします。
- ・レポートにはコメントを付して返却します。

〔授業時間外学修〕

- ・授業の関連内容についてテキストで事前学習を行ってください。（毎回30分程度）
- ・授業後は講義資料およびテキストの関連項目を読み返し、重要事項をノートに整理してください。（毎回30分程度）

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

随時、メールで質問を受け付ける。

- 武田：k-takeda@saku.ac.jp
- 吉田：saku.ac.jp
- 吉岡：m-yoshioka@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

2年次の「看護研究方法Ⅰ（基本）」に続く科目ですので、復習をしたうえで授業に臨んでください。また、「看護学研究」で活用できる研究方法について具体的に学びます。自分の研究疑問（research question）を考えながら講義・演習に参加し、研究計画書の作成に繋げていきましょう。

多文化看護論Ⅰ（多様性理解と看護）/Multicultural NursingⅠ（Understanding of Diversity and Nursing）

NS232

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
2年  
1単位 後期  
講義  
必修

長松 康子、湯本 敦子

〔授業の概要〕

文化とは何か、文化が人々の健康や生活、そして実践する看護ケアにどのように影響を及ぼすのかを学び、対象の多様な文化的背景を考慮した看護実践を行う必要性を理解する。また、多文化共生の理念と異文化看護を実践するための理論・モデルの概要について学ぶ。さらに、多様な文化をもつ在日外国人（在留資格のない者を含む）への看護の実状と、国外で提供する異文化看護の実際について学ぶ。自文化との違い（異文化）を認め、互いに尊重し相互に理解し、文化の多様性（多文化）を考慮した看護を実践するための知識と態度を養う。

〔到達目標〕

1. 文化の定義や特徴について説明できる。
2. 文化と人々の健康がどのように結びついているのか説明できる。
3. 文化を考慮した看護を実践するために必要な理論を理解できる。
4. 事例をもとに文化的背景を考慮した看護を考えることができる。
5. 看護の実践において文化の理解が必要な理由を説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP5

〔授業計画〕

- 第1回 文化と女性の健康  
担当：長松
- 第2回 感染症と安全な渡航  
担当：長松
- 第3回 世界の健康政策  
担当：長松
- 第4回 宗教・在日外国人の健康  
担当：長松
- 第5回 インドにおける助産師活動  
担当：下田
- 第6回 オーストラリアでのケア経験  
担当：フィッツギボン
- 第7回 海外協力隊経験のある日本人看護師・助産師  
担当：湯本
- 第8回 テスト

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定しない

参考書：適宜授業で紹介する

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験

〔課題に対するフィードバック〕

授業内で提示する。

〔授業時間外学修〕

授業で用いた資料を復習し、学びを深めてから次の回に取り組むこと。

〔オフィスアワー〕

質問は随時受け付ける。

アドレス：

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

特になし

成人看護援助論Ⅱ（回復・慢性期）/Methods in Adult NursingⅡ（Chronic Care）

NS211

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
2単位 前期  
講義・演習  
必修

武田 貴美子、水野 照美、吉岡 恵、阿藤 幸子、塩入 ともし、岩崎 春江

〔授業の概要〕

健康障害をもつ成人期の対象とその家族の生活への影響を、病態や症状・徴候、治療、経過、個別性を考慮して理解し、回復や進行の過程に応じた効果的な看護をするための知識、技術を看護過程や演習から学び、実習での基本的な実践能力を養う。

〔到達目標〕

1. 各種機能障害(呼吸・循環・代謝・腎・消化・運動・脳神経・感覚・生体防御・造血)、及び治療が生命や生活に及ぼす影響と、回復・慢性期の成人とその家族の身体的及び心理・社会的反応を理解し、説明できる。
2. 各種機能障害をもつ回復・慢性期の成人の生命と生活を支える看護について、看護過程を用いて考察し、必要な援助を述べるができる。
3. 演習と事前事後の学習を通して、機能障害をもち治療を受ける患者に必要な看護技術の一部ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP3、<看>DP4

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション／看護過程：事例紹介 <講義；武田>
- 第2回 呼吸機能障害(慢性閉塞性肺疾患)をもつ患者とその家族への看護 <講義；塩入>
- 第3回 循環機能障害(心不全)をもつ患者とその家族への看護 <講義；吉岡>
- 第4回 循環機能障害(心不全)をもつ患者とその家族への看護 <講義；外部講師>
- 第5回 看護過程；アセスメント・関連図① <演習；全員>

- 第 6 回 看護過程；アセスメント・関連図② <演習；全員>
- 第 7 回 呼吸機能障害(慢性閉塞性肺疾患)をもつ患者とその家族への看護 <講義；外部講師>
- 第 8 回 看護過程；アセスメント・関連図③ <演習；全員>
- 第 9 回 代謝機能障害(糖尿病)をもつ患者とその家族への看護 <講義；武田>
- 第 10 回 看護過程；アセスメント・関連図④ <演習；全員>
- 第 11 回 代謝機能障害(糖尿病)をもつ患者とその家族への看護 <講義；外部講師>
- 第 12 回 看護過程；アセスメント・関連図⑤ <演習；全員>
- 第 13 回 腎機能障害(慢性腎臓病)をもつ患者とその家族への看護 <講義；武田>
- 第 14 回 腎機能障害(慢性腎臓病)をもつ患者とその家族への看護 <講義；武田>
- 第 15 回 機能障害(腎臓病など)とともに生きる成人の生活と看護 <講義；外部講師>
- 第 16 回 運動機能障害(変形性関節症)をもつ患者とその家族への看護 <講義；阿藤>
- 第 17 回 運動機能障害をもつ患者とその家族への看護 <演習；全員>
- 第 18 回 造血機能障害(白血病)をもつ患者とその家族への看護 <講義；水野>
- 第 19 回 看護過程：看護問題と期待される成果 <演習；全員>
- 第 20 回 消化機能障害(肝硬変)をもつ患者とその家族への看護 <講義；吉岡>
- 第 21 回 感覚・生体防御機能障害をもつ患者とその家族への看護 <講義；水野>
- 第 22 回 看護過程：看護計画① <演習；全員>
- 第 23 回 看護過程：看護計画② <演習；全員>
- 第 24 回 脳神経(脳梗塞)をもつ患者とその家族への看護 <講義；水野>
- 第 25 回 脳神経(脳梗塞)をもつ患者とその家族への看護 <講義；吉岡>
- 第 26 回 慢性疾患患者へのセルフケア支援：呼吸／食事／服薬／血糖自己測定 <演習；全員>
- 第 27 回 慢性疾患患者へのセルフケア支援：呼吸／食事／服薬／血糖自己測定 <演習；全員>
- 第 28 回 慢性疾患患者へのセルフケア支援：呼吸／食事／服薬／血糖自己測定 <演習；全員>
- 第 29 回 慢性疾患患者へのセルフケア支援：呼吸／食事／服薬／血糖自己測定 <演習；全員>
- 第 30 回 看護過程：まとめ <演習 全員>

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：鈴木久美他(2023). 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 改訂4版. 南江堂.

参考文献：朝倉啓介ら(2024). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器. 医学書院.

吉田俊子ら(2024). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器. 医学書院.

〔成績評価の方法・基準〕

1. 定期試験：50%
2. 小テストまたは課題：20%
3. 看護過程の個人レポート：20%
4. 演習(事前課題・実践・振り返り)：10%。

〔課題に対するフィードバック〕

・看護過程に関する課題は中間提出では内容を確認して授業時間にフィードバックをします。また、最終的に提出された課題にはコメントを付して返却します。

・演習に関する課題はコメントを付して返却します。

〔授業時間外学修〕

1. 到達目標1への対応(各機能障害)(1時間×10回)

各機能障害に関連した形態機能学や健康障害と治療、フィジカルアセスメントなどの既習内容を予習しておく、小テストや課題に役立ち、授業内容の理解が深まります。

2. 到達目標2への対応(看護過程演習)(14時間程度)

各機能障害では、情報の整理、関連図、看護計画に焦点を当てた事例解説をします。この事例解説は、個人レポート作成や実習で活用できます。予習や復習として既習科目で用いた看護過程のテキストを読み、病態と治療からどんな生活への影響が及ぶかを復習しましょう。

3. 到達目標3への対応(技術演習)(6時間程度)

事前課題に取り組み、技術演習へのシミュレーションをしておきましょう。

演習では、領域別実習において必要な事前学習を振り返り、実習で指導のもと実践することを意識して取り組みましょう。

〔オフィスアワー〕

授業終了後などで、講義室または、各教員の研究室などで面談。メールで予約をして下さい。

武田貴美子 k-takeda●saku.ac.jp 5号館3階310

水野照美 t-mizuno●saku.ac.jp 5号館2階203

吉岡恵 m-yoshioka●saku.ac.jp 5号館2階210

阿藤幸子 s-ato●saku.ac.jp 5号館2階209

塩入とも子 t-shioiri●saku.ac.jp 5号館2階208

岩崎春江 h-iwasaki●saku.ac.jp 1号館3階1321

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

領域別実習・国家試験・将来の臨地実践に関わる科目です。臨地では、応用的思考が必要ですので、既習内容の目的、基礎知識、関連する知識を意識して学びましょう。

実習において、基礎知識を活用して患者の反応に気づき、必要なケアを考えて、実践できるように準備しましょう。

成人看護学実習Ⅰ（急性期）/Adult Nursing PracticumⅠ (Acute and Critical Care)

NS212

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

3年

3単位 後期

講義・演習

必修

塩入 とも子、水野 照美、武田 貴美子、吉岡 恵、阿藤 幸子、岩崎 春江

〔授業の概要〕

急激な健康破綻と回復過程にある成人期の人々に対して、批判的思考や分析的方法を用いて看護上の問題を整理し、看護計画を立案し、看護を展開（実践）する。また、自分自身で課題を見出して取り組むために、日々の自己の看護を振り返り、看護専門職者としての自身を内省し洞察する力を養う。

〔到達目標〕

急性期にある成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の病状や経過にあった看護を実践する以下の基本5つを修得する。

1. 急性期にある患者とその家族の理解に基づく看護
2. 急性期の患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護
3. 医療チームの一員である自覚
4. 急性期患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度
5. 健康状態が急激に変化する患者とその家族の看護を探索する態度

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

実習方法：急性期（主に周手術期）の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。

カンファレンスを活用し、相互に学ぶ。

病棟、手術室、術後集中管理病棟等（予定）において看護の継続性を学ぶ。

原則として、実習期間中は受け持ち患者1名を決める。

継続して受け持つことができない場合は、複数名の患者を受け持つことがある。

実習期間：2週間

実習施設：佐久医療センター、浅間総合病院、浅間南麓こもろ医療センター

※詳細は、実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考書：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱで活用した図書。加えて下記。

深田順子（2021）周術期の臨床判断を磨くⅡ．医学書院  
北島泰子（2020）急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド．照林社

武田知子（2022）NEWはじめての手術看護．メディカ出版

〔成績評価の方法・基準〕

実習要項に記載する方法・基準による

〔課題に対するフィードバック〕

事前課題に関しては、オリエンテーションの中で確認を行う予定です。

実習中は、臨地実習指導者・担当教員からの助言、実習記録やカンファレンスでのやりとりを通して、気づいたことや必要なことをその都度伝えていきます。

実習終了後は、実習記録にコメントをして返却します。

〔授業時間外学修〕

事前：実習では、受け持ち患者が決まった当日または翌日、手術となることがほとんどですので、7月にお伝えする事前課題を実習前までに仕上げておきましょう。2年次後期の成人看護援助論Ⅰから1年空くので、思い出す時間のゆとりをもって課題に取り組んでください。

実習中：受け持ち患者が決まったら、疾患名、既往歴、治療内容（主に術式）を調べ、患者さんの生命と生活への影響を考えましょう。実習中は、「日々の実習記録」で実践内容を振り返ります。実習記録を書き、思い出しや考えの整理が進むことで、患者さんに必要な看護や自分の次の課題が見えてきます。

〔オフィスアワー〕

実習前・中・後どの時期でも対応します。対面またはメールで連絡してください。

塩入 t-shioiri（5号館2階208）、水野 t-mizuno（5号館2階203）、武田 k-takeda（5号館3階310）、吉岡 m-yoshioka（5号館2階210）、阿藤 s-ato（5号館2階209）、岩崎 h-iwasaki（1号館3階1321）

メールを送る際は、後ろに@saku.ac.jpをつけてください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として、病院で様々な臨床経験のある教員たちが、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

・この実習は、急性期にある患者とその家族が、学生実習を受け入れてくださることで初めて成り立つものです。

・急性期で状態が変化する患者のための看護を実践するには、実習前からの準備が必要です。特に周手術期の看護に必要な基本的知識を整理・理解しておいてください。

・心身両面の健康管理と、集中して実習に臨める環境を整えてください。

・状況に応じて、実習内容を変更する場合があります。オクレンジャーやmanaba、メールでの連絡を各自で確認してください。

成人看護学実習Ⅱ（回復・慢性期）/Adult Nursing Practicum II (Chronic care)

NS213

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
3単位 後期  
実習  
必修

吉岡 恵、水野 照美、武田 貴美子、阿藤 幸子、塩入 とも子、  
岩崎 春江

〔授業の概要〕

慢性疾患をもつ成人期にある人の特性を理解し、生活背景をふまえて、健康障害に伴う生活の調整に応じた適切な看護を提供できる基本的知識、技術、態度を学ぶ。また、保健医療福祉チームの役割を理解し、継続看護における看護の役割を学ぶ。

〔到達目標〕

治療を受ける成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の健康状態や生活に合った看護を実践する以下の基本5つを修得する。

1. 治療を受ける患者とその家族の理解に基づく看護
2. 治療を受ける患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護
3. 医療チームの一員である自覚
4. 治療を受ける患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度
5. 健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする患者とその家族の看護

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

実習方法：

成人期の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。

カンファレンスを活用し、相互に学ぶ。

病棟・外来・リハビリテーションにおいて看護の継続性を学ぶ。

原則として、実習期間中は受け持ち患者1名を決める。

実習中は、臨地指導者・教員からの助言や実習記録のコメントを受けながら、受け持ち患者に看護を展開し実践していきます。

実習期間：2週間

実習施設：浅間総合病院、佐久総合病院、佐久医療センター、浅間南麓こころ医療センター

※詳細は実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定しない

参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱなど既習科目で活用した文献・資料

〔成績評価の方法・基準〕

その他：実習要項に記載する方法・基準による

〔課題に対するフィードバック〕

行動計画や看護過程といった実習記録は、実習時間内に確認し、フィードバックをします。

〔授業時間外学修〕

事前：患者を受け持ち看護展開ができるように担当教員からオリエンテーションを受け、事前学習を行いましょう。既習科目の形態機能学、健康障害と治療、フィジカルアセスメント、生活援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習します。

事後：受け持ち患者に行った看護を実習記録に整理し、理解を深め、対象にふさわしい看護を検討します。

〔オフィスアワー〕

実習終了後および学内日、またはメール

吉岡恵 m-yoshioka@saku.ac.jp 5号館2階210

水野照美 t-mizuno@saku.ac.jp 5号館2階203

武田貴美子 k-takeda@saku.ac.jp 5号館3階310

阿藤幸子 s-ato@saku.ac.jp 5号館2階209

塩入とも子 t-shioiri@saku.ac.jp 5号館2階208

岩崎春江 h-iwasaki@saku.ac.jp 1号館3階1321

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として病院での実務経験のある教員が実習指導を担当します。

(吉岡恵 水野照美 武田貴美子 阿藤幸子 塩入とも子 岩崎春江)

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

1. 患者を受け持って看護学実習を行うため、実習に集中できる環境を整えておきましょう。
2. 2週間、医療施設にて実習を行うため、十分な健康管理をしましょう。

老年看護援助論/Methods in Gerontological Nursing

NS215

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年

2単位 前期

講義・演習

必修

諏訪 達彦、成田 千春、辻 晃

〔授業の概要〕

老年期にある人の加齢変化や特徴的な疾病・症候を学ぶとともに、さまざまな健康課題をもつ高齢者および家族の生活を再構築するための看護について学ぶ。また、最期までその人らしく生ききることを支える看護の役割について考える。

〔到達目標〕

1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化および老年期に多い疾患や症候、治療・看護を説明できる。
2. 高齢者および家族の「もてる力(強み)」に着目し、その人らしく生ききることを支える看護過程を展開できる。
3. 高齢者の治療・療養の場の特徴、その場における看護の

役割について説明できる。

4. 高齢者の尊厳と意思を尊重した「人生の最終段階におけるケア」について、自分の考えを説明できる。

5. 高齢者とその家族を取り巻く環境および倫理的課題について検討することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〈看〉DP 1、〈看〉DP 2、〈看〉DP 3、〈看〉DP 4、〈看〉DP 6、〈看〉DP 7

〔授業計画〕

第 1 回 科目ガイダンス 高齢者の理解：加齢に伴う変化（講義 / 諏訪）

身体機能、認知機能、心理・社会的変化による生活への影響について復習する

老年看護の展開における考え方について学ぶ

第 2 回 高齢者の生活を支える看護：食生活（講義 / 諏訪）

食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養や食生活のケアについて学ぶ

第 3 回 高齢者の生活を支える看護：清潔・皮膚 / 感染症（講義 / 成田）

皮膚の加齢変化、褥瘡、感染症の原因とそのケアについて学ぶ

第 4 回 高齢者の生活を支える看護：排泄（講義 / 成田）

排泄機能について復習し、高齢者の排泄機能の特徴とケアについて学ぶ

第 5 回 高齢者の生活を支える看護：活動と休息 / 睡眠（講義 / 成田）

活動と休息、視覚・聴覚の障害、睡眠障害とそのケアについて学ぶ

第 6 回 高齢者の生活を支える看護：歩行・移動・呼吸・循環機能障害（講義 / 諏訪）

運動機能の変化、骨粗鬆症、骨折、廃用症候群、呼吸機能障害、循環機能障害の原因とそのケアについて学ぶ

第 7 回 高齢者の生活を支える看護：歩行・移動①（演習 / 全員）

福祉用具を用いた歩行・移動について学ぶ

第 8 回 高齢者の生活を支える看護：歩行・移動②（演習 / 全員）

ポジショニングについて学ぶ

第 9 回 高齢者の生活を支える看護：その他高齢者に特徴的な疾患・症状（講義 / 諏訪）

パーキンソン病の病態や症状、その他高齢者に特有な疾患・症状のケアについて学ぶ

第 10 回 高齢者に特有な疾患と看護：認知症・うつ病・せん妄（講義 / 諏訪）

認知症の病態や症状、ケアについて学ぶ。うつ病やせん妄とケアについて学ぶ

第 11 回 高齢者に特有な疾患と看護：認知症（講義 / 特別講師）

臨地における認知症高齢者へのケアと認知症看護認定看護師の役割について学ぶ

第 12 回 高齢者に特有な疾患と看護：認知症（演習 / 全員）  
認知症のケアについて考える

第 13 回 治療を受ける高齢者の看護：薬物療法・手術療法（講義 / 成田）

薬物動態、各種療法の有害事象と治療に伴う安全安楽なケアについて学ぶ

診察・検査・手術を受ける高齢者のケア、合併症予防について学ぶ

第 14 回 高齢者の生活を支える看護：介護保険施設・地域密着型サービス（講義 / 諏訪）

各施設やサービスの特徴や多職種連携、看護の役割について学ぶ

第 15 回 高齢者の生活を支える看護：家族への看護・倫理的課題（講義 / 成田）

高齢者と介護する家族を包括的に捉える支援について学ぶ

第 16 回 終末期の看護：人生の最終段階におけるケア（演習 / 全員）

臨死期にある高齢者とその家族への介護、看取りについて考える

第 17 回 老年看護過程の展開①（講義・演習 / 全員）  
生活機能からみた老年看護過程

個人ワークおよびグループワークを行う

第 18 回 老年看護過程の展開②（講義・演習 / 全員）

第 19 回 老年看護過程の展開③（講義・演習 / 全員）

第 20 回 老年看護過程の展開④（講義・演習 / 全員）

第 21 回 老年看護過程の展開⑤（講義・演習 / 全員）

第 22 回 老年看護過程の展開⑥（講義・演習 / 全員）

第 23 回 老年看護過程の展開⑦（講義・演習 / 全員）

第 24 回 老年看護過程の展開⑧（講義・演習 / 全員）

第 25 回 老年看護過程の展開⑨（講義・演習 / 全員）

第 26 回 老年看護過程の展開⑩（講義・演習 / 全員）

第 27 回 老年看護過程の展開⑪（講義・演習 / 全員）

第 28 回 老年看護過程の展開⑫（講義・演習 / 全員）

第 29 回 老年看護過程の展開⑬（講義・演習 / 全員）

第 30 回 老年看護過程の展開⑭（講義・演習 / 全員）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〈テキスト〉

堀内ふき他(2023). 高齢者の健康と障害. 第7版. メディカ出版

堀内ふき他(2023). 高齢者看護の実践. 第6版. メディカ出版

山田律子他(2020). 生活機能からみた老年看護過程. 第4版.

医学書院

〈参考書〉

奥宮暁子他(2019). ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程. 第2版. 医歯薬出版

日本老年医学会編(2019). 改訂版 健康長寿診療ハンドブック. 第2版. メジカルビュー社

鈴木みずえ(2017). 認知症の看護・介護に役立つよくわかる

パーソン・センタード・ケア. 池田書店

本田美和子他(2014). ユマニチュード入門. 医学書院

水野裕(2008). 実践パーソンセンタードケア. ワールドプラン

ニング

岩田充永(2010). 高齢者救急—急変予防&対応ガイドマップ.

医学書院

〔成績評価の方法・基準〕

- 1) 筆記試験（60%）
- 2) 看護過程（20%）
- 3) 小テスト・授業レポート（20%）

〔課題に対するフィードバック〕

筆記試験の結果は、成績確定後、希望者に対して面接し説明します。

取り組んだ課題について講義中にフィードバックします。

〔授業時間外学修〕

予習：各授業内容の該当箇所について、教科書を精読し、重要なところはマーカーで印をつけ、疑問や意見は付箋をつけて授業に臨む。（30分）

復習：授業内で配布したレジュメ・資料をもとに、教科書を精読したうえで、重要事項をノートにまとめ整理する。さらに、予習時の疑問は解決したのかを確認する。新たな疑問やわからないことは、オフィスアワーを活用して質問する。（45分）

〔オフィスアワー〕

質問ならびに面談の予約は、随時メールにてご連絡ください。（t-suwa@saku.ac.jp, c-narita@saku.ac.jp, h-tsuji@saku.ac.jp）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

この科目は卒業要件となる必修単位です。

この科目は3年次老年看護学実習の先修科目となっています。

老年看護学実習/Gerontological Nursing Practicum

NS216

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
後期  
2単位  
実習  
必修

成田 千春、諏訪 達彦、辻 晃

〔授業の概要〕

老年期にある対象の特性を理解し看護実践を通して、高齢者とその家族の生活を支援するために必要な看護の技術、能力、態度を養う。

〔到達目標〕

- 1. 加齢変化や疾病に伴う健康課題をもつ高齢者の看護過程を展開できる。
- 2. 受け持ち高齢者のもてる力を活かし、療養の場における生活の支援や看護ケアの実践ができる。
- 3. 保健医療福祉チームの中で高齢者とその家族へのケアと看護の役割を説明できる。
- 4. 自己の洞察を深め、課題を明確にする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

〔授業計画〕

実習方法：

- ・高齢者施設で生活している高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。
- ・高齢者の残存機能やもてる力、ニーズを活かした、日常生活支援、看護ケアを実践する。
- ・レクリエーション（個別・集団）を通して多くの高齢者と関わり、高齢者の生活環境を理解する。
- ・多職種の役割を理解し、施設での職種間の連携の必要性と看護の役割について多職種カンファレンスの同席を通じて理解する。
- ・カンファレンスを通じて、高齢者とその家族への看護についての見識をひろげる。

実習期間：2週間

実習施設：4施設のうち1施設で実習する

- ・佐久総合病院老人保健施設
- ・佐久総合病院老人保健施設こうみ
- ・浅間南麓こもろ医療センター老人保健施設こまくさ
- ・介護老人保健施設 安寿苑

※詳細は実習要項参照

〔テキスト・参考書・参考文献〕

老年看護学概論、老年看護援助論で使用・紹介したテキストや資料等。

〔成績評価の方法・基準〕

実習要項に記載する方法・基準による。

〔課題に対するフィードバック〕

事前課題については、実習期間中に担当教員からコメントをつけて返却いたします。

〔授業時間外学修〕

事前学習：

- テキスト・授業資料等をもとに、実習施設の設置基準・特徴について調べる。
- 病態、症状、疾患による日常生活への影響、加齢変化について調べ、ノート等にまとめる。

※詳細は実習要項参照

〔オフィスアワー〕

学内日および個別にメールで対応する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として総合病院・介護老人保健施設等に勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

\*先修科目：EBN実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論

## 精神看護援助論/Methods in Psychiatric and Mental Health Nursing

NS224

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

3年

2単位 前期

講義・演習

必修

柿澤 美奈子

### 【授業の概要】

精神疾患の病態や症状、経過、治療を理解した上で、それらが当事者とその家族の生活に及ぼす影響とその支援について学ぶ。また、最善の看護のためのスキルを修得し、実践へつなげる。当事者のリカバリー（回復）を、健康レベルや強み（ストレングス）に着目して支援するために必要な思考過程とチーム医療を学び、生活を支える看護の実践につなげていく。

### 【到達目標】

1. 精神科看護における看護師の役割を理解し説明できる。
2. 精神科看護におけるコミュニケーション技術を理解し説明できる。
3. 精神症状による患者の状態をセルフケアの視点からアセスメントし、その人の生きる力を支える援助について理解できる。
4. 患者家族が受ける影響を理解し、家族支援について説明できる。
5. 事例を用いて対象者の看護過程を展開できる。
6. 対象者が地域で生活するために必要とされる支援と課題について説明できる。
7. 精神科医療保健福祉に関連する法的根拠を基に、精神科看護におけるマネジメントの視点を説明できる。
8. 倫理的な思考を基に、精神科看護における課題を検討することができる。

### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP3、<看>DP4、<看>DP6

### 【授業計画】

- 第1回 コースオリエンテーション、こころの働きと精神症状・状態像：柿澤  
こころの働き（自我意識・自我機能含む）と精神症状・状態像について学ぶ【講義】
- 第2回 精神疾患・障害をもつ患者の看護①統合失調症：柿澤  
統合失調症をもつ患者の看護を学ぶ【講義】
- 第3回 精神疾患・障害をもつ患者の看護①統合失調症：全員  
統合失調症をもつ患者の看護を学ぶ【演習】
- 第4回 精神疾患・障害をもつ患者の看護②気分障害：柿澤  
気分障害をもつ患者の看護を学ぶ【講義】
- 第5回 精神疾患・障害をもつ患者の看護②気分障害：全員  
気分障害をもつ患者の看護を学ぶ【演習】
- 第6回 精神障害をもつ人の看護過程の展開①：柿澤

精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ【講義】精神科看護における理論、精神状態のアセスメント

- 第7回 精神障害をもつ人の看護過程の展開②：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】情報の整理
- 第8回 精神障害をもつ人の看護過程の展開③：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【講義】セルフケアのアセスメント
- 第9回 精神障害をもつ人の看護過程の展開④：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】セルフケアのアセスメント
- 第10回 「患者－看護師関係」の構築：全員  
精神障害をもつ人と「患者－看護師関係」の構築について学ぶ【講義・演習】
- 第11回 SSTの体験：特別講師；土屋  
SSTについて学ぶ【講義】
- 第12回 SSTの体験：特別講師；土屋  
SSTについて学ぶ【演習】
- 第13回 SSTの体験：特別講師；土屋  
SSTについて学ぶ【演習】
- 第14回 精神障害をもつ人の看護過程の展開⑤：全員  
精神障害をもつ人への看護援助の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】関連図
- 第15回 精神障害をもつ人の看護過程の展開⑥：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】関連図
- 第16回 精神障害をもつ人の看護過程の展開⑦：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】看護問題や課題の明確化
- 第17回 精神障害をもつ人の看護過程の展開⑧：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】看護問題や課題の明確化
- 第18回 精神障害をもつ人の看護過程の展開⑨：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する【演習】看護計画の立案
- 第19回 精神障害をもつ人の看護過程の展開⑩：全員  
精神障害をもつ人の看護過程の展開を学ぶ：【演習】看護計画の実施
- 第20回 精神科看護と倫理的課題：柿澤  
精神科看護と倫理的課題について学ぶ【講義】
- 第21回 精神科看護と倫理的課題：全員  
精神科看護と倫理的課題について学ぶ【演習】
- 第22回 精神疾患・障害をもつ患者の看護③強迫性障害・摂食障害・パーソナリティ障害・強度行動障害：柿澤  
強迫性障害・摂食障害・パーソナリティ障害・強度行動障害をもつ患者の看護を学ぶ【講義】

- 第 23 回 精神疾患・障害をもつ患者の看護③強迫性障害・摂食障害・パーソナリティ障害・強度行動障害：全員  
強迫性障害・摂食障害・パーソナリティ障害・強度行動障害をもつ患者の看護を学ぶ【演習】
- 第 24 回 精神疾患・障害をもつ患者の看護④物質関連障害および嗜癮性障害群：講義；柿澤、演習；全員  
物質関連障害および嗜癮性障害をもつ患者の看護を学ぶ【講義・演習】
- 第 25 回 精神障害をもつ人とともに生活する家族とその支援：柿澤  
精神障害をもつ人とともに生活する家族とその支援について学ぶ【講義】
- 第 26 回 当事者からのメッセージ：特別講師；当事者  
精神に障害をもつ人の理解を深める【講義】
- 第 27 回 精神障害をもつ人の地域における生活への支援①：柿澤  
精神障害をもつ人の地域における生活への支援を学ぶ；入院と地域をつなぐ【講義】
- 第 28 回 精神障害をもつ人の地域における生活への支援②：特別講師；南方  
精神障害をもつ人の地域における生活への支援を学ぶ；精神科訪問看護【講義】
- 第 29 回 精神科看護と精神看護学実習：柿澤  
精神看護学実習の概要を理解する【講義】
- 第 30 回 災害時のこころのケア：特別講師；南方  
災害時のこころのケアについて学ぶ【講義】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

岩崎弥生 編(2021). 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健. メヂカルフレンド社.

岩崎弥生 編(2021). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.

参考書：

浅香山病院看護部 編(2020). 改定2版 はじめての精神科看護ーカラービジュアルで見てわかる！. メディカ出版.

〔成績評価の方法・基準〕

1) 筆記試験 (50%)

manabaを用いて小テストを5回行う。(配点は、各回10点)  
実施時期は、初回授業で示す。  
定期試験・追試験は原則実施しない。

2) 提出課題 (45%)

(1)看護過程の展開 (40%)；授業内で課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。

(2)倫理的課題の検討 (5%)；授業内で課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。

3) 演習におけるチームに対する貢献度 (5%)

チームへの貢献度をピア評価する。チーム学修の最終回に評価表に基づき各自、評価する。

授業内で評価方法(評価表)、提出期限、提出先を示す。

〔課題に対するフィードバック〕

提出課題については、原則コメントを記述して返却する。

〔授業時間外学修〕

本授業は2単位30時間の科目であり、以下の内容で60時間の自己学修をしてください。

〔予習〕

・テキストの当該授業の関連箇所を読み、重要などころにはマーカーをし、理解できないところには付箋を付け、授業内で疑問を解決する。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用し疑問の積み残しをしない。

・演習はチーム学習やディスカッションの時間である。各自が責任を持って課題に取り組み、積極的に授業に参加する。

・初回授業のコースオリエンテーションにて、授業毎の課題は別途提示する。

〔復習〕

・授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫してまとめる。また、課題等を加筆修正する。

〔オフィスアワー〕

1. オフィスアワー

・原則、授業日の授業終了から放課後

・質問は、メールでもよい(常時)

・オフィスアワー以外の面談はメールで予約する

2. 連絡先

柿澤美奈子 ( KAKIZAWA,Minako ) m-kakizawa ●  
saku.ac.jp 5号館2階204

(●を@に置き換えてください。)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として、精神科病棟等に勤務。実務経験をもとに実践的な精神科看護について講義演習を行う。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

既習の知識を活用し、特に「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」「社会福祉の基礎」「健康障害と治療Ⅲ」「看護展開論」「精神看護学概論」をベースに、知識をより深め、看護実践能力を身につけましょう。演習では、事例を用いて、チームで対応やかかわりについて深めます。積極的な授業参加を求めます。

精神看護学実習/Psychiatric and Mental Health Nursing Practicum

NS225

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年 後期  
2単位 実習  
必修

柿澤 美奈子

〔授業の概要〕

精神看護(心のケア)の知識・スキル・態度の統合を図り、心のケアの実際を学ぶ。ケア対象者(当事者およびその家族)との関係形成やチーム医療における対人関係力、倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己をふりかえる力を身につける。

### 〔到達目標〕

1. 患者—看護師関係の成立過程を理解し、治療的コミュニケーションの基礎的能力を養う。
2. 急性期・回復期あるいは慢性期にある患者を受け持ち、精神症状によって影響されているセルフケア能力や生活上の困難に視点をあて、対象に応じた看護の展開とケアの実際を学ぶ。
3. 地域で暮らす精神に障がいを持つ方の理解を深めるとともに、保健医療福祉チームの一員としての協働を学ぶ。
4. 看護場面で生じる倫理的な課題を患者中心の視点から認識し、自己の倫理観を育成する。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

### 〔授業計画〕

実習方法：

#### 〈病棟〉

1. 看護過程を用いて受け持ち患者の看護を実践する。
2. 治療プログラムに参加し働きかけの実際を学ぶ。
3. 看護場面の再構成を記述し、コミュニケーションの傾向を自己評価する。
4. 看護場面における倫理的な課題をとりあげアサーションを意識しながら検討する。

#### 〈精神科デイケアまたは就労継続支援B型事業所等〉

1. 精神科デイケア等のプログラムに参加し、当事者が地域生活を維持するための支援や課題を考察する。

実習期間：2週間

実習施設：

〈病棟〉 小諸高原病院、千曲荘病院

〈精神科デイケアおよび就労継続支援B型事業所等〉 精神科デイケア（小諸高原病院・佐久総合病院・千曲荘病院）、佐久の泉共同作業センター、ワークポート野岸の丘

※詳細は実習要項参照

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

○テキスト：

岩崎弥生 編(2021). 精神看護学①精神看護学概論／精神保健. メヂカルフレンド社.

岩崎弥生 編(2021). 精神看護学②精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.

○参考文献：

精神看護学概論、精神看護援助論で使用した資料等  
浅香山病院看護部編. 成績評価の方法・基準はじめての精神科看護—カラービジュアルで見てわかる！. メディカ出版  
〔成績評価の方法・基準〕

実習要項に記載する方法・基準による。

### 〔課題に対するフィードバック〕

実習記録へコメントする。事前課題やレポート、記録等  
は実習評価後、コメントして返却する。

### 〔授業時間外学修〕

実習要項に記載する事前学習を中心に進める。実習中は、カンファレンスを含め、口頭で指導者・教員から助言する。毎日、実習のふりかえりや記録の記載等、学習が必要です。

### 〔オフィスアワー〕

実習やそれ以外のことで教員に遠慮なく相談ください。相談日時等は事前にメールで一報お入れください。

柿澤美奈子 m-kakizawa@saku.ac.jp 5号館2階204

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として精神科に勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。

### 〔アクティブラーニング〕

### 〔その他履修上の留意事項等〕

既習の知識を活用し、特に「EBN実習Ⅱ」、「精神看護学概論」、「精神看護援助論」をベースに知識を深め、看護実践能力を身につけましょう。

## 小児看護援助論/Methods in Pediatric Nursing

NS218

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

3年

2単位 前期

講義・演習

必修

小林 睦、鈴木 千衣、塚原 美穂

### 〔授業の概要〕

健康な小児各期の特徴に応じた生活と養護について理解した上で、健康障害が子どもの成長発達や家族に及ぼす影響を学ぶ。さらに、健康障害をもつ子どもの健康上の問題をアセスメントし、子どもと家族を援助するために必要な知識・技術を修得する。さらに、最近の小児医療の現状を鑑み、健康で暮らす子どもたちの健康維持増進や、慢性的な疾患、障害を持つ子どもたちへの支援について学ぶ。

### 〔到達目標〕

1. 子どもや家族がおかれた状況（苦痛を伴う処置や入院）を考慮し、子どもや家族の反応からその思いを理解できる。
2. 子どもと家族のもっている力を引き出すための援助方法を理解できる。

1) 子どもと家族の状況を把握するための情報収集の方法が理解できる。さらに、それを基に収集した情報をアセスメントして援助方法が考えられる。

2) 子どもと家族が自身の思いや考えを表出することができるような方法を理解できる。

3. 子どもと家族の力を育てるために、健康教育や治療への参加などの援助方法を理解できる。

4. 医療における子どもや家族の権利を考え、擁護する重要性と方法が考えられる。

5. 自主的に学修する態度を身につける。

6. 学生同志グループとなって、自己の役割を理解し、協働しながら学修が進められる。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 6、<看>DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション／講義①：子どもの健康障害【小林】
- 第 2 回 講義②：子どもと入院【鈴木】
- 第 3 回 講義③：子どもと外来看護①【小林】
- 第 4 回 講義④：症状と子どもの看護①【小林】
- 第 5 回 講義⑤：症状と子どもの看護②【小林】  
第4回の授業を基に、子どもの症状に対する看護の調べ学修を行う。
- 第 6 回 講義⑥：病気とともに生活する子どもの看護【鈴木】
- 第 7 回 講義⑦：治療・検査を受ける子どもの看護【小林】
- 第 8 回 講義⑧：小児のアセスメント①【鈴木】
- 第 9 回 講義⑨：病児と遊び【特別講師】
- 第 10 回 講義⑩：病児と遊び【特別講師】
- 第 11 回 講義⑪：手術を受ける子どもの看護【小林】
- 第 12 回 演習①：小児のアセスメント②【小林他】  
提示された事例のアセスメントを行う。
- 第 13 回 演習②：A班小児の看護技術【塚原他】／B班小児のアセスメント【小林他】  
A班B班の2班に分かれて、A班は小児の看護技術を母性小児看護実習室で演習する。B班は課題のアセスメントを自己学修する。
- 第 14 回 演習③：A班小児の看護技術【塚原他】／B班小児のアセスメント【小林他】  
第13回授業と同様
- 第 15 回 演習④：A班小児のアセスメント【小林他】／B班小児の看護技術【塚原他】  
A班B班の2班に分かれて、A班は課題のアセスメントを自己学修する。B班は小児の看護技術を母性小児看護実習室で演習する。
- 第 16 回 演習⑤：A班小児のアセスメント【小林他】／B班小児の看護技術【塚原他】  
第15回授業と同様
- 第 17 回 演習⑥：子どものアセスメント③【小林他】  
割り当てられた事例のアセスメントの自己学修を持ち寄り、3つの事例に分かれディスカッションする。
- 第 18 回 講義⑫：プレパレーションオリエンテーション／子どもの外来看護②【小林】
- 第 19 回 講義⑬：ハイリスク児の看護【小林】
- 第 20 回 講義⑭：障害児と看護【塚原】
- 第 21 回 演習⑦：子どもと外来看護③【小林他】  
第18回授業で、「子どもと外来看護」演習のオリエンテーションを行う。各自事例の自己学修後、グループで外来のトリアージについて検討する。演習は、各グループに教員1名で外来での問診とアセスメント、トリアージをシミュレーション演習する。演習以外の時間は、プレパレーションの課題を自己学修する。
- 第 22 回 演習⑧：子どもと外来看護④【小林他】  
第21回授業と同様

- 第 23 回 演習⑦：子どもの外来看護まとめ④／実習オリエンテーション【小林】
- 第 24 回 講義⑮：小児看護の動向と課題【特別講師】
- 第 25 回 講義⑯：小児の救急【小林】
- 第 26 回 講義⑰：障害児の在宅支援【特別講師】
- 第 27 回 発表①：プレパレーションと患者・家族への指導【小林他】  
第18回授業で「プレパレーションと患児・家族への指導」のオリエンテーションをする。提示された事例の中から1事例を決定し、発表日までに「プレパレーションと患児・家族への指導」のツールを検討する。その結果を発表しディスカッションする。
- 第 28 回 発表②：プレパレーションと患者・家族への指導【小林他】  
第27回授業と同様
- 第 29 回 講義⑱：子どもと死【鈴木】
- 第 30 回 講義⑲：障害児と教育【特別講師】
- 〔テキスト・参考書・参考文献〕  
奈良間美保 系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院  
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院  
参考文献は、小児看護学概論で配付した「文献リスト」を参考に、自分が使いやすいものを準備する。
- 〔成績評価の方法・基準〕
1. 筆記試験 (65%) 全範囲から出題する。
  2. 課題 (25%) 2課題  
看護過程の展開 (10%)  
プレパレーション (10%)、自己評価 (5%)
  3. 外来看護課題とパフォーマンス (10%)  
記録物 (事前学習、デブリーフィング)
- 〔課題に対するフィードバック〕  
課題などのレポートについては、教員がコメントを付けて返却する。
- 〔授業時間外学修〕
- ・当該授業とテキストの関連箇所を読み、30分～1時間は予習する。
  - ・配付する2種類のワークブックを授業と合わせて活用し、個人学修を進める。
  - ・課題レポートに取り組むときは、学術的な論文や資料を読み参考にまとめる。
- 〔オフィスアワー〕  
授業終了後から放課後、教室あるいは研究室で受ける。オフィスアワー以外の面談は、事前に予約をメールで受ける。  
小林：m-kobayashi@saku.ac.jp  
鈴木：c-suzuki@saku.ac.jp  
塚原：m-thukahara@saku.ac.jp  
●を@に置き換えてください。
- 〔実務経験のある教員等による授業科目〕  
本科目を担当する教員は、小児看護の臨床経験を有しており、実践を活かした授業を行う。

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明する。

小児看護学概論の内容を良く復習しておく。

本科目は「講義」と「演習」で授業をすすめる。「演習」では、個人の自己学習を基にグループでのディスカッションや技術演習を行う。学習者は授業を受講するにあたり、自主的・積極的に行動し、理解を深めてください。

小児看護学実習/Pediatric Nursing Practicum

NS219

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
2単位 後期  
実習  
必修

小林 睦、鈴木 千衣、塚原 美穂

【授業の概要】

健康障害を持つ子どもと家族のおかれている状況を理解し、個々の発達段階と健康レベルに応じた看護実践に必要な基礎的能力を養う。子ども（対象者）が医療およびケアを受けているそれぞれの場で、子どもやその家族および支援者と積極的にかかわりながら、援助ができるための能力を育む。さらに、それぞれの相互作用を通して自己の成長を目指す。

【到達目標】

1. 子どもの日常生活を理解し、健やかな成長発達への支援を考える。
2. 子ども（対象者）との相互作用を通して、個々の子ども（対象者）の理解を深める。
3. 子ども（対象者）の健康障害や医療が子どもと家族の生活におよぼす影響を理解する。
4. 健康障害をもつ子ども（対象者）や家族に必要なケアを表現できる。
5. 子ども（対象者）や家族を取り巻く人々（支援者）の役割を理解する。
6. 子どもや家族の看護を倫理的視点で考察し、必要な援助を考える。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP6、<看>DP7

【授業計画】

【幼稚園・保育園実習】

1) 実習方法：幼稚園・保育園の各クラスの保育活動に参加する。子どもたちと積極的にコミュニケーションをとりながら、子どもや保育士の関わりを観察し、子どもの成長発達の特徴や日常生活を理解し、健やかな成長発達への支援を考える。

2) 実習期間：2024年9月5日（木）～9月6日（金）

3) 実習施設：佐久幼稚園  
佐久南幼稚園  
小雀保育園

【病棟実習、総合病院小児科外来、クリニック、特別支援学校実習】

病棟、総合病院小児科外来、クリニック、特別支援学校のうちの一か所に分かれて、実習生2～4名で実習を行う。小児看護学実習のオリエンテーション終了後、希望する実習施設のアンケートを実施し、実習生の希望と実習施設受け入れ状況を合わせて、実習施設を決定する。

実習期間：2024年9月17日（火）～2025年1月24日（金）のうち2週間

1) 病棟実習

一人の子ども（対象者）を受け持ち、看護過程を展開しながら、成長発達・健康レベルに応じた看護を指導を受けながら実践する。

実習施設：小諸高原病院 7東・7西病棟  
東長野病院 A・B病棟

2) 総合病院小児科外来・クリニック

外来受診する子ども・家族の看護課題に対し、指導を受けながら看護を実践する。

実習施設：佐久総合病院本院小児科外来  
佐久医療センター小児科外来  
浅間総合病院小児科外来  
信州上田医療センター小児科外来  
佐久中央医院

3) 特別支援学校

特別支援学校に通学する児童生徒の学校生活を観察したり、指導を受けながら関わる。

実習施設：小諸養護学校

※詳細は実習要項参照

【テキスト・参考書・参考文献】

小児看護学概論・小児看護援助論で使用したテキスト  
授業で配付した資料、その他、適宜提示する。

【成績評価の方法・基準】

実習要項に記載する方法・基準による。

【課題に対するフィードバック】

提出された実習記録には、コメントをつけて返却する。

【授業時間外学修】

・実習オリエンテーションを聞き、各自が必要と考える事前学習をする。

・実習中は日々の振りかえりを行い、教員の助言を受けて翌日の計画につなげる。

【オフィスアワー】

・実習期間内の学内日

・相談があるときは実習要項のアドレスを参照ください。

【実務経験のある教員等による授業科目】

総合病院の小児病棟や小児専門病院等での勤務経験のある教員が、その経験を活かして、実践に即した臨地実習指導をします。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・実習目標を明確にして実習に臨んでください。
- ・不明点等は速やかに教員と相談して解決しましょう。
- ・感染症に罹患しないように、体調管理・感染予防行動をきちんととってください。
- ・実習施設によっては、大学より遠方となるため宿泊が必要となる場合があります。

## 母性看護援助論/Methods in Maternal-Newborn Nursing

NS221

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
2単位 前期  
講義・演習  
必修

櫻井 綾香、竹内 美紀、湯本 敦子

〔授業の概要〕

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の身体的・心理社会的・生理的变化、及びこの時期に起こりうる正常からの逸脱、その病態と治療を理解する。また、母性看護に必要な基本的な看護援助方法及び援助技術を学ぶ。基本的な知識・技術に基づき、母子とその家族を対象とした看護過程の展開方法を学修し、効果的な支援につなげていく力を養う。

〔到達目標〕

1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の身体的、心理社会的・生理的变化を説明できる
  2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の正常経過からの逸脱時の診断・治療・看護について説明できる
  3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に特有の基礎的な看護技術を習得できる
  4. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族の変化を全体像を捉えてアセスメント・計画立案できる
- 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕  
<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 6

〔授業計画〕

第1回～第3回 【講義／櫻井】

オリエンテーション、母性看護の特徴  
妊娠の基本知識と妊娠の維持・胎児発育のための生理的变化

妊娠経過に伴う母体の心身の変化  
家族の変化、妊娠に伴う社会的役割の調整  
妊婦および胎児の健康状態をアセスメントの視点と看護

第4回～第5回 【講義／櫻井】

妊娠期に起こりうる正常からの逸脱と看護

第6回～第7回 【講義／湯本】

産婦・胎児の健康状態のアセスメントの視点と看護  
正常分娩の経過と看護

分娩期に起こりうる正常経過からの逸脱と看護

第8回～第11回 【講義／櫻井】

〔中間試験（妊娠期・分娩期）：出題範囲...第1回～第7回講義内容〕

...第9回目に実施予定

産褥期・新生児期とは【反転授業】

第12回～第14回 【講義／櫻井】

産褥期の健康状態のアセスメントの視点と看護

産褥期に起こりうる正常からの逸脱と看護

第15回 【講義／豊岡】

妊娠期・産褥期のフィジカルアセスメントと看護技術

第16回～第17回 【講義／櫻井】

新生児の健康状態のアセスメントの視点と看護

第18回 【講義／湯本】

帝王切開を受ける女性の看護・低出生体重児の看護

第19回 【講義・演習／櫻井】

産褥・新生児期 事例を用いた看護過程の展開 【課題あり】

第20回～第22回 【講義・演習／櫻井】

産褥期・新生児期 事例を用いた看護過程の展開

第23回～第25回 【演習／湯本、竹内 他】

産褥期・新生児期の看護技術演習

第26回 【講義／櫻井】

産褥期・新生児期の看護計画および評価方法

第27回～第28回 【演習／櫻井】

産褥期・新生児期の看護計画の立案（GW）

第29回～第30回 【講義・演習／担当：櫻井、湯本、竹内】

産褥期・新生児期の看護計画発表会

実習オリエンテーション

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〔テキスト〕

大平光子.母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 改訂第3版, 南江堂.

荒木奈緒, 中込さと子, 小林康江編. ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術, メディカ出版.

〔参考文献〕

井上裕美, 竹内正人, 木村正, 他. 病気がみえる Vol.10 産科, MEDIC MEDICA.

有森直子編.母性看護学Ⅱ, 医歯薬出版株式会社.

森恵美編. 系統看護学講座 母性看護学各論, 医学書院.

〔成績評価の方法・基準〕

1. 筆記試験 70%

①中間試験は再試験を実施しない。

2. 課題評価 30%

①指定された提出時間を厳守すること。やむを得ない事情により提出が遅れる場合は、事前に教員に相談すること。事前の連絡なく、課題の提出が遅れた場合は評価の対象としない。

②指定された用紙を使用すること（必要な用紙は、該当する授業日に配布する）

③表紙（科目名、課題名、提出日、学籍番号、氏名）をつけて提出する。ただし、教務課の表紙は不要。

④課題の最後には使用した文献（引用文献、参考文献）を必ず明記すること。

⑤課題A「産褥期・新生児とはどのような時期か」はワープロ書きを許可する。

⑥課題B「産褥期・新生児期の看護過程」はすべて手書きとする。(PCの使用不可)

#### 〔課題に対するフィードバック〕

課題A および課題Bは、ルーブリック評価表で評価し返却する。

課題Cは記入内容を確認し、返却する。

#### 〔授業時間外学修〕

毎回の授業内容について、テキストの該当箇所を予習・復習すること(1時間～2時間)。

そのほか、以下の課題を課すので、計画的に学習すること。課題については初回に提示する。

#### 〈産褥期・新生児期〉

課題A) 産褥期・新生児期とはどのような時期か(4時間)

課題B) 産褥期・新生児期の看護過程(4時間)

#### 〈看護技術演習〉

課題C) 演習前に、指定するテキストの該当箇所を熟読し、技術手順書に必要な事項を書き入れ、技術ができるように予習する。(1時間)

#### 〔オフィスアワー〕

授業終了後、教室で質問を受け付ける。\*オフィスアワー以外の面談予約はメールで可能。

#### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

助産師として産科病棟に5年以上勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした授業を行います。

#### 〔アクティブラーニング〕

○

#### 〔その他履修上の留意事項等〕

・学習内容が多岐にわたりますので、必ず予習・復習を行ってください。

・本科目で妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の一連の流れが分かると、実習での学びが深まります。

・実習へ向けて、計画的に学習しましょう。

・本科目の課題作成において、生成AIを使用することは禁止します。

## 母性看護学実習/Maternal-Newborn Nursing Practicum

NS222

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
後期  
2単位  
実習  
必修

櫻井 綾香、竹内 美紀

#### 〔授業の概要〕

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象と家族の特性を理解し、対象に合った

適切な看護を展開できる知識・技術・態度を養う。また、実習を通じて、生命の尊さ

を学び、自己の親性観・自己の将来像に対する考えを深める。

#### 〔到達目標〕

1. 妊娠期・分娩期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴と生理的变化について理解し、説明できる。

2. 産褥期・新生児期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴と生理的变化について理解し、アセスメントできる。

3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族に必要な看護を科学的根拠に基づき計画、実施、評価できる。

4. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族に対する看護の実際から、看護者の姿勢・役割を考察できる。

5. 看護学生として適切かつ責任のある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。

6. 母性看護学実習を通して、生命の尊さ・親になることとはどういうことかについて考察できる。

#### 〔学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP6

#### 〔授業計画〕

実習方法: 以下の通りである

#### <学内>

1. 実習オリエンテーション

2. シミュレーション演習(褥婦の全身状態の観察、授乳時の観察)

3. 妊娠期の産前学級の立案・実施・評価(保健指導含む)、妊娠期の看護技術

4. 分娩期に関する内容の産前学級の立案・実施・評価(分娩進行、産痛緩和含む)

#### <施設>

1. 褥婦と新生児の一組を担当し、一連の看護過程を展開する

2. 保健指導(授乳指導、沐浴指導、退院指導等)の見学を通して、看護者の姿勢を学ぶ

実習期間: 2週間

実習施設: 浅間総合病院 佐久医療センター 信州上田医療センター

※詳細は実習要項参照

#### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

母性看護学概論・母性看護援助論で使用したテキストおよび講義資料

#### 〔成績評価の方法・基準〕

・母性看護学実習評価表に基づき評価する(母性看護学実習評価表は実習オリエンテーション時に配付予定)

#### 〔課題に対するフィードバック〕

・実習期間内に随時個別指導を行う

#### 〔授業時間外学修〕

・事前学習① 身近な人の妊娠・出産・育児体験談のインタビュー(2時間)

・事前学習② 妊娠期カレンダー、産褥期・新生児期カレンダーの作成(8時間)

・事前学習③ 標準看護計画の作成(3時間)

・事前学習④ 実習用マイノートの作成(5時間)

・事前学習⑤ 基礎的な母性看護技術の修得に向けた自己練習(2時間)

※詳細は事前学習の手引き参照(母性看護援助論の初回講義時に説明予定)

[オフィスアワー]

実習期間中の学内日および実習終了後(その他の時間についてはメールで相談)

メールアドレス:

櫻井 a-sakurai@saku.ac.jp

竹内(美) m-takeuchi@saku.ac.jp

[実務経験のある教員等による授業科目]

助産師として産科病棟に5年以上勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。(櫻井綾香、竹内美紀、他)

[アクティブラーニング]

○

[その他履修上の留意事項等]

・母性看護に関する看護技術の練習を十分に行い、基礎的看護技術を修得して実習に臨んでください。

・健康管理に努め、健康上問題がある場合には早急に相談してください。

・実習に関する諸連絡はmanabaで行います。必ず確認してください。

・貴重なライフイベントの場面に関わらせて頂く実習となります。対象への感謝の気持ちを忘れず、積極的に学ぶ態度で実習に臨んでくれることを期待しています。

・本科目の課題作成において、生成AIの使用は禁止します。

## 看護管理論/Nursing Management

NS227

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
4年  
2単位 前期  
講義  
必修

齋藤 順子

[授業の概要]

看護活動を効果的に進めるための管理的視点を修得する。医療制度の中で看護が担う役割を理解し、看護ケアを効果的に提供するためのシステムやケアの経済的効果などについての理解を深める。また、看護活動を組織、運営していくために必要な組織論、リーダーシップ論、チームワークのあり方などについて理解し、リスク感性についての理解と技術についても学修し、最終的に看護管理にかかわる今日の課題について考察する。

[到達目標]

- 1.良質な看護サービスを提供するために、必要な管理の役割・機能を理解することができる。
- 2.医療チームの一員として良好な人間関係を構築するために必要な知識・スキルについて説明することができる。
- 3.近年の保健医療福祉政策の動向を踏まえた看護政策や看護経営のありかたを理解することができる。
- 4.事例検討を通して既習の知識を統合し、自らの看護管理的視点を説明することができる。

[学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連]

<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP7

[授業計画]

- 第1回 オリエンテーション、社会の変化と看護職の役割  
**授業内容:**人々の生活と看護のかかわり、看護職の活動の変遷、これからの社会と看護の役割  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第2回 看護マネジメントとは、医療専門職とチームで働く  
**授業内容:**マネジメント、看護マネジメント、チーム医療、医療専門職  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第3回 協働・他者とともに活動すること  
**授業内容:**多職種協働、チームを効果的に機能させる、看護補助者との協働  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第4回 組織で取り組む看護活動  
**授業内容:**組織と構造・機能、看護提供方式、看護サービスのマネジメント  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第5回 組織で取り組む看護活動  
**授業内容:**働く人を生かすマネジメント、看護遂行のためのマネジメント・資源の活用  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第6回 組織で取り組む看護活動  
**授業内容:**看護遂行のためのマネジメント・資源の活用、リーダーシップ  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第7回 リーダーシップ、業務のマネジメント  
**授業内容:**リーダーシップ理論、業務計画の立案、多重課題における対処  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第8回 業務のマネジメント、セルフマネジメント  
**授業内容:**夜間における業務マネジメント、情報管理、健康な働き方、ヘルスリテラシー、メンタルヘルス、時間管理  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第9回 看護の質向上の取り組み  
**授業内容:**看護倫理、医療安全・感染管理、医療の質保証・評価  
**授業方法:**講義  
**担当教員:**齋藤
- 第10回 看護専門職とキャリア  
**授業内容:**社会人になること、看護専門職としてはキャリア、看護職の生涯教育

- 授業方法：**講義  
**担当教員：**齋藤
- 第 11 回 看護と経営  
**授業内容：**看護活動と経営  
**授業方法：**講義  
**担当教員：**齋藤
- 第 12 回 看護現場に影響を与える制度と法律  
**授業内容：**看護マネジメントに係る主な法律、看護に関わる医療・介護制度、看護の関連機関と団体  
**授業方法：**講義  
**担当教員：**齋藤
- 第 13 回 看護の場における管理課題と対策-1  
**授業内容：**講義や実習等で学んだ知識やスキルを効果的に活用し課題に取り組む  
**授業方法：**看護管理についてグループワーク（演習）  
**担当教員：**齋藤
- 第 14 回 看護の場における管理課題と対策-2  
**授業内容：**講義や実習等で学んだ知識やスキルを効果的に活用し課題に取り組む  
**授業方法：**看護管理についてグループワーク（演習）  
**担当教員：**齋藤
- 第 15 回 看護の場における管理課題と対策-3、まとめ  
**授業内容：**グループワークで検討した内容を、プレゼンテーションをする  
**授業方法：**看護管理についてグループ発表  
**担当教員：**齋藤

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：吉田千文, 志田京子, 手島恵, 武村雪絵 (2024) .ナースینگ・グラフィカ『看護管理 第5版』メディカ出版.

参考文献：必要時プリント配布

【成績評価の方法・基準】

- 1.筆記試験(70%)：期末試験においては70%の換算をします。
- 2.グループワークの貢献度(20%)：グループワークでの発言、成果物、全体での発表などを評価します。
- 3.レポート(10%)：中間レポートは提出でき、内容が課題に沿っているかどうかなどを評価します。

【課題に対するフィードバック】

- ・グループワークの発表時にはコメントをします。
- ・レポートはコメントを付記します。

【授業時間外学修】

1.授業開講中

近年の保健医療福祉政策は激しく変化しています。各自で、どのような変化があるのか、それは何ゆえか、そして今後どのような課題が発生する可能性があるのかを、新聞やニュースで考察しておいてください。また、これまでの既習学習や既習実習で気づいた看護管理に関する疑問をノートにまとめておいてください。授業中に活発に発言することを期待しています。

毎回の授業終了後は、授業内容とテキストを活用し理解を深めてください。テキストは毎回単元に合わせた内容部分を読解し、復習してください。毎回30分以上は自己学修の

時間を確保してください。

2.中間レポート

「私が実習中に興味を持った看護管理」または「リサーチしたい看護管理とその理由」と題して、レポートA4・1枚(表紙不要)を提出してください。課題名と学籍番号、氏名はヘッダーに記載してください。レポートは授業の途中で教員が提出日を指定しますので提出してください。

【オフィスアワー】

○齋藤順子 SAITO, Yoriko y-saito@saku.ac.jp 5号館2階202

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

随時メールで質問を受け付ける

【実務経験のある教員等による授業科目】

看護師としてリハビリテーション病院に36年勤務し、そのうち23年間は看護管理者（看護師長から看護部長）として勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした看護管理の授業を行います。

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

【授業や課題について】

1. 毎回の授業に関することは、授業後やオフィスアワーやメールで問い合わせてください。次の授業でフィードバックします。
2. 中間レポートについては教員が確認後に各自に返却します。それをグループワークで活用してください。
3. グループワークの発表に対しては、その場で教員から評価を伝えます。

【担当教員からのメッセージ】

看護管理は、看護師が対象者に最適・最良の看護が提供できるように資源を効果的に活用し、成果を出すよう調整を図ります。そのためには、まず皆さんが「看護とは何か」を明確にしておく必要がありますので、文章化しておくことで授業が理解しやすくなります。そして自分たちが目指す看護をどのようにすれば、効果的かつ効率的に達成できるのかを主体的に発言してください。一緒に考えていきましょう。

看護リスクマネジメント/Risk Management in Nursing

NS228

看護学部 > 看護学科 > 専門科目

4年  
1単位 後期  
講義  
必修

内山 明子、齋藤 順子

【授業の概要】

ヒューマンエラーの定義を学び、人がなぜ間違いを犯すのかを理解し医療安全を学ぶことの意義を認識する。「安全」については、患者の安全と同時に医療を提供する者や施設を利用する人全ての安全について理解する。また、事故防止の考え方を学ぶために、リスクの回避方法の原則について

て理解を深め、医療現場で起きている事故事例から看護におけるリスクマネジメントについて考察する。

#### 【到達目標】

- 1.医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を理解することができる。
- 2.医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を理解することができる。
- 3.ヒューマンエラーについて理解し、看護業務における事故対策について説明することができる。
- 4.チームで安全文化の醸成に取り組むことの意義とその方法について説明することができる。
- 5.事例をもとに事故を分析し、発生要因と防止対策について述べるることができる。

#### 【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP 1、<看>DP 3、<看>DP 5、<看>DP 6

#### 【授業計画】

- 第 1 回 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を学ぶ 【講義】
- 1)コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方
  - 2)法律と医療安全
  - 3)国内における医療事故の概要
- 第 2 回 医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を学ぶ 【講義】
- 1)医療安全に関する国の取り組み
  - 2)看護職能団体の取り組み
  - 3)医療安全管理者とその役割
  - 4)医療事故の報告制度
- 第 3 回 医療事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 【講義】
- 1)医療事故発生のメカニズム
  - 2)医療事故対策の考え方
- 第 4 回 看護業務における事故対策を学ぶ 【講義】
- 1)看護業務と医療事故発生要因
  - 2)医療事故の種類、分析と対策
  - 3)在宅における医療事故と安全対策
  - 4)専門職としての個々の備え（看護職賠償責任保険制度）
- 第 5 回 チームで取り組む安全文化の醸成・医療事故後の対応と紛争化の防止対策を学ぶ 【講義】
- 1)チームSTEPPSとその活用
  - 2)医療事故調査制度
  - 3)医療事故紛争化の防止
- 第 6 回 危険予知力を身につける 【講義・演習】
- 1)KYTとは
  - 2)イラストを使用したリスクセンストレーニング
  - 3)動画を用いたKYT
- 第 7 回 事故事例の分析を学ぶ 【講義】
- 1)事故の構造
  - 2)事故分析に重要なこと
  - 3)具体的な分析手法の特徴
- 第 8 回 事故事例の分析 【演習】
- 1)課題レポート事例を用いた事故分析（グループワーク）
  - 2)事故分析結果のプレゼンテーション

#### 【テキスト・参考書・参考文献】

【テキスト】 松下由美子, 杉山良子, 小林美雪編(2023). ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 第5版. メディカ出版

#### 【成績評価の方法・基準】

##### 1.筆記試験（70％）

授業終了後試験1回で評価します。全範囲から出題します。

##### 2.課題レポート（15％）と演習成果発表（グループ）（15％）

具体的な内容は授業で説明します。提出された課題レポートは、内容を評価し、最終回の授業前に返却します。

#### 【課題に対するフィードバック】

課題レポートは、事故分析の演習に用います。レポートを活用し分析を実施後、グループ毎にプレゼンテーションをしてもらいます。その時に、フィードバックを行います。

#### 【授業時間外学修】

##### 【予習】

1.授業開始前にニュースや文献を参考に、近年の医療事故について概観しておきます。（30分程度）

2.テキストの関連箇所を読み、理解できない箇所には付箋等を付けておき、授業中に解決できるようにしてください。（30分程度）

##### 【復習】

授業で配付した資料と、テキストの関連箇所を読み直して、理解できているかどうかを確認してください。（30分程度）国家試験の過去問を解いてみるなどして、知識の定着を確認してください。

##### 【オフィスアワー】

授業終了後、教室で質問を受けます。質問はメールでも可能です。

#### 【実務経験のある教員等による授業科目】

医療機関でのゼネラル・リスクマネージャーとしての実務経験をもとに、医療安全について講義する。

#### 【アクティブラーニング】

○

#### 【その他履修上の留意事項等】

看護専門職として、現場での看護業務に就く直前の授業になります。「どんな人間でも、間違いからは逃れられない」ことを意識し、患者と医療者の安全について真剣に学修を進めていきましょう。臨地実習での経験も役に立ちます。また、日ごろからニュースなどを見て、医療事故に関心を持ちましょう。

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
3年  
1単位 前期  
講義  
選択

櫻井 綾香、鈴木 千衣、柿澤 美奈子、征矢野 文恵、  
塚原 美穂

〔授業の概要〕

家族の定義や特性を踏まえ、看護における家族の捉え方や家族を理解するための理論を学ぶ。さらに、家族を単位としたアセスメントおよび家族機能を高めるための援助方法の基礎を習得する。

〔到達目標〕

1. 家族とは何かを考え、自分の家族に対する価値観を認識するとともに、多様な捉え方があることを理解する。
2. 家族看護学の考え方を学び、家族を援助することの意義を理解する。
3. 家族看護に用いられる理論とアセスメントモデルを理解する。
4. 各期における家族の健康課題や問題とその支援について考えることができる。
5. 家族支援専門看護師の役割を理解し、活動の実際がわかる。
6. 多様な家族のあり様を理解し、自らの家族観を再考する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP2、<看>DP3

〔授業計画〕

- 第 1 回 コースオリエンテーション（本科目の進め方）  
家族看護学とは ジェノグラム・エコマップの描き方：櫻井  
家族看護とは  
ジェノグラム・エコマップについて学ぶ【講義・演習】
- 第 2 回 家族について考える（家族とは 家族の機能 家族の健康とは）：櫻井  
【講義・演習】
- 第 3 回 家族看護論総論  
理論・家族支援とは【講義】
- 第 4 回 各期における家族の健康課題と支援 ①（家族のはじまりにおける課題）：櫻井  
【講義・演習】
- 第 5 回 各期における家族の健康問題と支援 ②（病児とともに生活する家族）：鈴木  
【講義・演習】
- 第 6 回 各期における家族の健康問題と支援 ③（精神障害者とともに生活する家族）：柿澤  
【講義・演習】
- 第 7 回 各期における家族の健康問題と支援 ④（高齢者介護を行っている家族）：征矢野  
【講義・演習】

第 8 回 家族看護における理論・アセスメントモデル：特別講師 今井

CNSとしての実践を事例を基に学ぶ【講義】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献

鈴木和子, 渡辺裕子, 佐藤律子(2019). 家族看護学 理論と実践 第5版, 日本看護協会出版会.

山崎あけみ(2015). 家族看護学 (改訂第3版)の臨床場面と事例から考える. 南江堂.

上別府圭子, 他 (2018). 家族看護学. 医学書院.

参考DVD

藤村真弓監: 拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～, 秀行企画.

〔成績評価の方法・基準〕

1. GW参加度(10%)

GW毎、manabaアンケートで自己評価票に沿って自己評価する。

2. 小課題 (Assignment) (30%)

Assignmentを5題出します。manaba等に、期限厳守で提出すること。初回の授業で評価基準を示します。

3. 最終レポート (60%)

8回の授業および自己学習を通して、あらためて家族について考え、自分の家族観を見つめなおし、あなたの家族観を1200字にまとめる。初回の授業で評価基準を示します。

〔課題に対するフィードバック〕

毎回の授業に関することは直接（オフィスアワー利用）、あるいはメールで問い合わせると、直接またはメールでフィードバックを受けることができます。

〔授業時間外学修〕

本授業は1単位15時間の科目であり、30時間の自己学修が求められています。

各回の授業計画の予習・復習については、初回のオリエンテーション時に具体的に示します。

〔オフィスアワー〕

オフィスアワー

授業終了後、教室にて質問等に対応します。他の時間も歓迎します。事前にメールにてご連絡ください。

連絡先

櫻井綾香 a-sakurai@saku.ac.jp(5号館2階207)●を@に変えてください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

家族のとらえ方、家族への思いは十人十色です。この科目を通して、様々な家族観、看護観があることを知り、臨床の場で出会う患者・家族を理解し援助できるようにしましょう。

なお、本科目の課題作成において、生成AIを使用することは禁止します。

## 看護教育論※/Introduction to Nursing Education

NS234

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
4年  
1単位 前期  
講義  
選択

吉田 文子

### 〔授業の概要〕

看護学教育と看護専門職の現状と課題を考察し、これからのあり方についての見識を持ち、看護専門職の価値と専門性をさらに発展させるその基礎・基本の力量を養うとともに一人の社会人として自己への期待値と自己教育力を高める。

### 〔到達目標〕

以下の5つのCourse outcomesを目標とします。

1. 看護職者における継続教育の意義を述べることができる。
2. これまでの大学生活をふりかえり、自己教育力を高める方法を実践することができる
3. 将来のキャリア開発に役立つキャリアビジョンを描くことができる。
4. 新人看護師・保健師教育の実態と課題・展望についてディスカッションをすることができる。
5. 4年間で各自が抱えてきた課題を明らかにし、それについてプレゼンテーションをすることができる。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP6

### 〔授業計画〕

- 第1回 授業目的と学修動機の確認からプロジェクトを考える  
授業の概説と目標設定
- 第2回 自身が受けている教育：カリキュラムの変遷を通して考える
- 第3回 人はなぜ学ぶのか：教育と学習の観点から考える
- 第4回 キャリア開発1：対象理解と自己理解を作業を通して知覚する  
演習
- 第5回 キャリア開発2：看護職者の学習ニーズを学び、自身のありかたを考える
- 第6回 新人看護師への教育：複数の医療施設教育プログラムから自身の将来をイメージ化する
- 第7回 テーマプロジェクトのプレゼンテーション
- 第8回 テーマプロジェクトのプレゼンテーション

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定なし

参考文献：授業内で提示する

### 〔成績評価の方法・基準〕

#### ■ アサインメント（20%）

アサインメントシートを配付します。

結果は授業内でフィードバックします。

#### ■ プレゼンテーション（40%）

科目独自の評価票を用いて相互評価をします。

発表後に全体講評、個別講評をフィードバックします。

#### ■ ポートフォリオ（40%）

課題に沿って作成していきます。

提出されたポートフォリオをルーブリック評価し、個別にフィードバックします。

### 〔課題に対するフィードバック〕

#### ■ アサインメント

結果は授業内でフィードバックします。

#### ■ プレゼンテーション

発表後に全体講評、個別講評をフィードバックします。

#### ■ ポートフォリオ

提出されたポートフォリオをルーブリック評価し、個別にフィードバックします。

### 〔授業時間外学修〕

授業での疑問をもとにしたアサインメント（宿題）を課しますので、事前学習（2時間程度）が必要です。その詳細は初回授業で提示します。

### 〔オフィスアワー〕

授業後～18時（直接研究室306へ訪問可）

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

本科目を担当する教員は、看護教育学修士号の後、教育実務経験、ならびに看護師としての臨床経験をもっています。実践知を活かした授業を行い、学生の皆さんが看護学や看護実践について追究しやすいよう配慮しています。

### 〔アクティブラーニング〕

○

### 〔その他履修上の留意事項等〕

この授業では、自身が受けてきた看護学教育をふりかえり、そこで課題を見出し、解決できることを目標としています。この授業で扱うことを通して、新人看護師・保健師など入職1年目の不安の解消にもなるかもしれません。受講するか迷った場合は、受講されることをお勧めできません。

## 多文化看護論Ⅱ（海外演習）/Multicultural Nursing II（Overseas Practicum） 国際看護論

NS304

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
4年  
2単位 前期  
演習  
選択

束田 吉子、成田 千春

### 〔授業の概要〕

歴史や文化の異なる国に身をおき、文化理解とアサーティブなコミュニケーション能力を高め、その国の文化・歴史に基づく人々の暮らし、健康問題・課題、保健・医療・福祉制度（看護教育システム含む）を理解する。多様な文化、価値観、習慣や伝統のあるところで、国際的な視野を持ち看護援助をどのように効果的に進めるべきかを考察し、国際的な看護協力のあり方を理解する。

### 〔到達目標〕

演習地は、タイ王国、チョンブリ県バンセン市に位置する国立ブラパ大学看護学部である。また、2024年度に佐久大学を訪問する看護職と交流し、他国の看護事情について理解する。

事前学習の到達目標：

1. 日本の看護教育システムについて、説明できる。
2. 日本社会の特徴である少子高齢化の課題について、説明できる。
3. 日本の保健医療を取り巻く文化的な背景について理解し、説明できる。
4. タイ王国以外の国の保健医療、看護教育システムについても交流や文献により理解する。

現地訪問による到達目標：

1. 日本とタイ王国の類似点について理解し国際的な視野を広げる。
2. 看護学部学生との交流、プレゼンテーションを通してお互いに学ぶ。
3. 海外へ出て（国外）から日本の看護事情を見直す機会を得て国際的に活動できる看護職に成長する一助とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 1) コースガイダンス：授業の進め方
  - 2) 国際交流の機会とタイ王国への渡航について7月までの事前準備について
  - 3) 8月の集中講義・演習について 4) ブラパ大学看護学部学生との情報交換（第1回）
- 第 2 回 ブラパ大学看護学部生と情報交換
- 1) タイ王国の社会事情—動画をを通して学ぶ
  - 2) 来日中のブラパ大学の看護学部生と情報交換する（第2回）
- 第 3 回 タイ王国の看護を取り巻く状況について学ぶ
- 1) ブラパ大学看護学部生との情報交換で得た学び、自身の課題について協議する。
  - 2) タイ王国の公衆衛生、保健、看護の状況について理解する
- 第 4 回 タイ王国で、発表する課題について討議する
- 1) ブラパ大学看護学部で発表する課題についてグループで討議する
  - 2) 課題発表のために佐久地域の伝統文化についてお互いに学ぶ
- 第 5 回 日本の看護事情について整理する
- 1) ブラパ大学看護学部生から日本の看護についての質問に回答できるように準備する
  - 2) 課題発表の準備計画を作成する 3) エジプトの看護について情報収集を行う
- 第 6 回 エジプトの看護事情について理解する
- 来日しているエジプトの看護職から看護学部生の動向、教育事情を得る

- 第 7 回 タイ王国、ブラパ大学での課題発表準備
- 1) 各人の資料、日本語を読み合わせ準備する（テーマ案、大学・学生生活、文化と看護等等）、2) 課題を英訳し、発表の準備をする
- 第 8 回 タイ王国、ブラパ大学での課題発表準備
- 佐久大学学生の課題別発表（テーマ案、大学・学生生活、文化と看護等）
- コミュニケーションツールの1つとして文化的余興プログラムを行う（動画併用）
- 第 9 回 タイ王国、ブラパ大学での課題発表準備
- グループ別に発表を行う。他のグループからコメントを得て修正する。
- 第 10 回 タイとの課題別発表準備
- 佐久大学学生の課題別発表（テーマ案、大学・学生生活、実習状況、国家試験、文化と看護、日本の食事等）を見直し準備する
- 第 11 回 タイにおける演習（1日目）
- 1) タイにおける演習についてオリエンテーション（環境の違いを認識）
  - 2) 国立ブラパ大学看護学部見学（講義室、保育園、看護実習室、図書館、AI模擬人形によるシミュレーションルーム等）
  - 3) パディ（お世話をしてくれる学生）との対面
- 第 12 回 タイにおける演習（2日目）
- 1) 講義：タイの保健医療システム、高齢者の状況
  - 2) ブラパ大学病院見学（外来、小児、産科、高齢者病棟、救急等）第二次医療
- 第 13 回 タイにおける演習（3日目）
- 1) 講義：タイの母子保健の状況、伝統医療
  - 2) Sub-district Hospital見学（第一次医療を提供、住民が最初に訪れる医療機関）
  - 3) 母子、高齢者への在宅支援同行
- 第 14 回 タイにおける演習（4日目）
- 土曜日は、タイの歴史、文化理解の日とする
- 早朝の公設市場、早朝高齢者体操参加、お坊さんの托鉢の様子等を見学
- 第 15 回 タイにおける演習（5日目）
- 日曜日は、タイの歴史、文化理解の日とする
- 王朝の遺跡や15世紀に栄えた日本人村跡地等を見学し、現在に至る日本の関係について知る
- 第 16 回 タイにおける演習（6日目）
- 1) HIV/AIDS ホスピス、子どもセンター見学
  - 2) 私立病院（日本式病棟併設）見学
- 第 17 回 タイにおける演習（7日目）
- 1) 第三次医療施設、タイ赤十字病院見学
  - 2) 国立高齢者施設、又は、障害者カレッジ見学
- 第 18 回 タイにおける演習（8日目）
- 1) 地域の公的福祉センター及び地域の高齢者活動に参加
  - 2) 研修のまとめ、評価会
- 第 19 回 演習のまとめ（9日目）
- 1) 事前学習の振り返り
  - 2) オンライン交流振り返り
  - 3) タイ現地訪問について振り返り

[テキスト・参考書・参考文献]

講師が資料を配布

[成績評価の方法・基準]

事前学習・オンライン講義・演習時の参加状況：60%

レポート：40%

[課題に対するフィードバック]

日々の実習の記録等について適宜フィードバックをします

[授業時間外学修]

日本の保健・看護事情のまとめ、タイ王国の保健・看護状況について

事前学習、日本の看護についてプレゼンテーションを準備のため約10時間の学修

[オフィスアワー]

随時、メールで質問を受け付け。授業終了時に教室で質問を受け付け。

E-mail: y-tsukada@saku.ac.jp c-narita@saku.ac.jp

[実務経験のある教員等による授業科目]

佐久大学において国際看護論を2013年より担当。アジア、アフリカ、中近東で看護の国際協力プロジェクトに参画、特に、2015 - 2024年2月までタイにおいて地域包括システムにおける高齢者ケアプロジェクトを実施した。海外看護職の日本国内での研修プログラムを30年間に亘り担当した経験により、日本の看護との違いを学生へ分かりやすく説明する。海外演習時における安全対策に十分配慮できる。

[アクティブラーニング]

○

[その他履修上の留意事項等]

## がん看護論/Oncology Nursing

NS235

看護学部 > 看護学科 > 専門科目  
4年  
1単位 前期  
講義  
選択

水野 照美、吉岡 恵

[授業の概要]

がん医療の現状、がん罹患及びがん治療に向き合う患者・家族の状況、サバイバーシップ、苦痛症状の緩和、終末期における状況について学び、がん患者及び家族の生活を支える看護について理解する。がんの予防から診断及び治療に関しては、がん薬物療法・放射線療法等について学び、がん看護の専門性について理解を深める。

[到達目標]

1. がん患者とその家族のおかれた状況を多面的（身体的・心理社会的・経済的等）に説明できる
2. 癌の特徴、がん治療の特徴、がん罹患とがん治療に伴う症状の特徴、がん患者の生活状況の特徴等の理解を通して、必要な看護の内容と方法について考えを述べるができる
3. 既習の看護学実習や講義・演習科目などを統合してがん看護における関心領域を探究し、将来の看護実践における課題について述べるができる

[学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連]

<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

[授業計画]

- 第 1 回 オリエンテーション がん医療・がん看護の基礎  
<講義、水野>  
時間外学修課題
- 第 2 回 病名・病状・治療選択に向き合う患者・家族の反応と看護  
<講義・演習、吉岡>  
時間外学修課題、少人数討議・気づきの全体共有
- 第 3 回 がん医療を受ける患者とその家族への看護・コミュニケーション  
<講義・演習、水野>  
時間外学修課題、少人数討議・気づきの全体共有
- 第 4 回 がん治療に臨む患者とその家族への看護 1 がん薬物療法  
<講義・特別招聘講師>  
時間外学修課題、コメントへの対応
- 第 5 回 がん治療に臨む患者とその家族への看護 2 放射線療法  
<講義>  
時間外学修課題
- 第 6 回 がん罹患・がん治療に伴う苦痛症状とその緩和  
がん性疼痛  
<講義、水野>  
時間外学修課題
- 第 7 回 がん患者・がん体験者の日常生活を支える看護、サバイバーシップ  
<講義、水野>  
時間外学修課題、少人数討議・気づきの全体共有
- 第 8 回 がん患者への緩和ケア、ターミナルケア  
<講義、水野>  
時間外学修課題、少人数討議・気づきの全体共有

[テキスト・参考書・参考文献]

テキスト：指定しません（積極的に学びたい場合、下記がお勧めです）

参考文献：小松浩子（2022）. 系統看護学講座 別巻 がん看護学. 医学書院

鈴木久美（2021）. 看護学テキストNice がん看護. 南江堂  
ほか、授業内で紹介

[成績評価の方法・基準]

■ 課題（50%） 到達目標 1, 2 に該当 「時間外学修」として、課題を複数回課します。内容は、国試準備と臨床実践に直結するものです。

■ レポート（50%） 到達目標 2, 3 に該当 講義終了後に期日を定めて提出する最終レポートです。各自の関心のあ内容でテーマを自由に設定できます。

評価基準 1：形式（例 期限内提出、課された課題への応答、文献の引用、など）

評価基準 2：丁寧な論述（例 導入部がある、文章が分かり良い、論理的な展開、剽窃がない）

評価基準 3：がん看護を探究（例 探究した結果がある、結果に基づく考察である、多面的に考察している、看護の役割が述べられている、トピックに独創性がある）

〔課題に対するフィードバック〕

- ・時間外学修課題は、確認して返却します。
- ・レポートはコメントを付して返却します。

〔授業時間外学修〕

- ・授業資料や参考文献を確認して課題に取り組む。(14時間)
- ・既習の講義や実習記録の振り返り、読書・TVやネット記事などを通して、がん看護における関心事をつかむ。(5時間)
- ・がん看護における関心事について詳しく調べ、がん看護の役割についてレポートで論述する。推敲・修正する。(11時間)

〔オフィスアワー〕

講義の後、教室で質問を受けます / 別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。

水野 (5号館2階203) : t-mizuno、吉岡 (5号館2階210) : m-yoshioka

メールアドレスは、上記の後ろに、@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師としてがん看護領域の実践経験に基づき講義します。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・日程と学習の順序は初回授業にて説明します。
- ・「看護総合実習」「看護学研究」において、がん看護に関わる方はぜひ受講してください。
- ・看護師国家試験では、領域を超えて広く「がん看護」が出題されますので、準備につながります。
- ・将来、ほとんどの方が、がん患者さんやそのご家族とかわりをもつと思いますのでぜひどうぞ。

在宅看護概論Ⅰ (療養者の生活) /Introduction to Home

NS201P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
 2年 前期  
 2単位 講義  
 必修

征矢野 文恵、喜多村 定子、大淵 律子、河原 加代子

〔授業の概要〕

地域で生活するあらゆる健康段階の人々とその家族を看護の対象として捉え、在宅看護が求められる背景と対象者ニーズを理解するとともに、在宅療養者と家族の健康維持に大きく関連する生活や暮らしについて学ぶ。また、保健・医療・福祉システムと制度について学ぶ。

〔到達目標〕

1. 在宅看護が必要とされる社会背景、歴史、変遷について説明できる。
2. 在宅療養者・家族の生活と健康との関係、生活に影響を与える要因について理解し、在宅療養者・家族の生活を支える看護の必要性について説明できる。
3. 地域における生活と健康を支える地域包括ケアシステムについて説明できる。その中で、療養生活を支える家族関係や地域住民、地域ケアサービスに携わる人々との関係に

ついて説明することができる。

4. 在宅看護の対象・活動の場・看護活動の特徴を踏まえ、佐久地域の地域ケアの歴史を理解する。

5. 在宅療養者と介護する家族の現状および家族介護者への支援について説明できる。

6. 地域・在宅看護の基本となる倫理について説明できる。

〔学位授与方針 (ディプロマポリシー : DP) との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

〔授業計画〕

第 1 回 科目ガイダンス在宅看護とは (征矢野)

在宅療養における「生活」と「健康」支援について、地域の人々の生活と健康を踏まえ、在宅療養における「地域」と「生活」のなかで在宅療養者が営んでいる「生活」に影響を与える様々な要因から学ぶ (講義)

第 2 回 在宅看護が求められる社会背景 (河原)

日本の在宅看護が推進されている社会的背景、日本の在宅看護の変遷、課題について学ぶ (講義)

第 3 回 在宅看護の活躍の場と看護活動の特徴 (河原)

在宅看護の対象である療養者、家族を地域で生活している人として捉え、在宅看護の目的、在宅看護の役割、在宅看護活動の特徴について、施設内看護との違いから学ぶ (講義)

第 4 回 在宅療養を支える地域包括ケアシステム (征矢野)

地域包括ケア理念を踏まえた、地域包括ケアシステムの概要と、在宅療養生活を地域で支えるサービス提供機関について学ぶ。佐久地域の包括ケアシステムにおける地域ケアの実際を学ぶ (講義)

第 5 回 佐久地域の保健・医療・福祉における看護活動の実際 (征矢野)

佐久地域の保健・医療・福祉活動の歴史および、佐久地域の地域医療・保健・福祉活動の実際について学ぶ (講義)

第 6 回 療養環境と健康を支えるケア (征矢野)

療養者の居住地域を踏まえた療養環境と健康との関連に目を向け、生活不活潑病予防に向けた在宅看護の支援について学ぶ (講義)

第 7 回 在宅看護で大切にすべき姿勢と倫理 (大淵)

療養者・家族の価値観の尊重し、療養者・家族との信頼関係の築く上での、倫理的配慮について学ぶ (講義)

第 8 回 まとめ (征矢野)

在宅看護の実践例から、在宅看護の基本理念に基づいて提供されている看護活動の特徴と看護職の役割について学ぶ。また、在宅看護の実践例から、療養者の価値観や生きがいを踏まえ、対象者の望みを尊重した在宅看護の支援の大切さについて学ぶ (演習・講義)

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〔テキスト〕

尾崎章子、佐野けさ美(2022).地域・在宅看護論, 医歯薬出版.  
〔参考文献〕

中村順子編(2022).地域・在宅看護論第6版,日本看護協会出版会,他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法・基準】

- ・筆記試験：70%
- ・課題レポート：20%
- ・授業参加態度：10%

【課題に対するフィードバック】

- ・試験範囲はすべての講義内容とする。
- ・課題レポートは、評価後、コメントをつけて後期の科目ガイダンス時に返却する。

課題は、「在宅療養者・家族の生活を支える在宅看護活動で大切なこと」

11ポイント MS明朝 40文字×40行 A41枚以上 1600字～2000字 manaba上で提出

生成AIやネットからの情報の直接のコピペは認めない(引用文はルールに則って明記する)。

【授業時間外学修】

1. 授業内容に合わせて、事前にテキストの該当箇所を読み予習をする(1時間)。
2. 授業後、レジュメや資料、テキストを基に、授業内容について復習する。重要事項をノートに工夫して整理する(1時間)。
3. 課題レポートは、構成・内容を検討して一度記述し、読み直してわかりにくい箇所を書き直す(10時間)。

【オフィスアワー】

授業終了後、教室または研究室

質問はmanabaで受け付ける他、メール・面談にも対応します。面談の場合は、事前にメールで予約してください。

f-soyano@saku.ac.jp1号館3階1324、r-obuchi@saku.ac.jp1号館社会連携研究支援センター

【実務経験のある教員等による授業科目】

病院・訪問看護ステーション・在宅介護支援センターや在宅ケアサービス事業所での勤務経験をもつ教員が、その実務経験を活かした授業を展開します。

【アクティブラーニング】

【その他履修上の留意事項等】

- ・本科目では、在宅看護における基本的知識と態度を学びます。
- ・在宅看護の対象は「患者」でなく「生活者」です。疾病や障がいもちながら在宅療養生活をしている「生活者」としての対象の捉え方を一緒に学びましょう。

在宅看護概論Ⅱ(支援制度と多職種連携) / Introduction to Home Care Nursing II (Support System and Multidisciplinary Collaboration)

NS202P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

2年  
1単位 後期  
講義  
必修

菊池 真弓、喜多村 定子

【授業の概要】

在宅看護の基盤となる介護保険と訪問看護の制度を理解し、在宅療養者と家族を支えるサービスについて学ぶ。また、在宅療養者と家族のQOLを維持・向上するために、社会資源を活用し、保健医療福祉サービスの継続性を保障する多職種・多機関と連携・協働(チームケア)し、切れ目なく展開する在宅看護活動や看護職の役割について学ぶ。

【到達目標】

1. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割について説明できる。
2. 在宅看護における介護保険制度とケアマネジメントおよびケアマネジャーの役割について説明できる。
3. 地域・施設への療養移行の際の継続看護について説明できる。
4. 介護保険制度における訪問看護制度と、訪問看護ステーションの管理・運営について説明できる
5. 在宅看護における倫理的な視点と、療養者および家族の意思決定支援について説明できる。
6. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。
7. 在宅看護で求められる多職種連携・協働の必要性と意義について説明できる。

【学位授与方針(ディプロマポリシー:DP)との関連】

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP7

【授業計画】

- 第1回 科目ガイダンス、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割とは(菊池)  
在宅看護が求められる社会背景から地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割について学ぶ(講義)
- 第2回 在宅療養を支える制度・法律(菊池)  
在宅療養者を支える制度・法律や社会資源について学ぶ(講義)
- 第3回 在宅看護における介護保険制度(菊池)  
介護保険制度におけるケアマネジメントとケアマネジャーの役割と機能について学ぶ(講義)
- 第4回 在宅看護を支える継続看護(療養移行支援)の視点(菊池)  
継続看護の視点から、療養の場の移行に伴う退院支援・退院調整について学ぶ(講義)
- 第5回 訪問看護制度と訪問看護ステーションの管理・運営(菊池)

在宅療養を支える訪問看護制度を理解し、訪問看護ステーションの設置基準、管理、運営、課題について学ぶ(講義)

第 6 回 在宅看護における倫理的な課題(菊池)  
在宅という環境で生じる倫理的課題の特色について理解し、療養者と家族の意思決定支援について学ぶ(講義)

第 7 回 在宅看護におけるリスクマネジメント(菊池)  
在宅で起こる様々な事態への予防と対策について学ぶ(講義)

第 8 回 在宅看護で求められる多職種連携・協働(菊池)  
地域包括ケア支援センターの役割・機能や地域支援事業について、地域ケア会議、医療連携会議等による多職種連携を学ぶ(講義)

[テキスト・参考書・参考文献]

[テキスト]

尾崎章子, 佐野けさ美(2021). 地域・在宅看護論, 医歯薬出版.

[参考文献]

中村順子編(2022). 地域・在宅看護論 第6版, 日本看護協会出版会.

他、授業内で紹介する。

[成績評価の方法・基準]

- ・筆記試験: 70%
- ・小テスト: 10%
- ・課題レポート: 10%
- ・授業・演習参加態度: 10%

[課題に対するフィードバック]

- ・小テストの結果は、次の授業に返却する。
- ・課題レポートは、評価確定後に返却する。
- ・試験範囲はすべての講義内容とする。

[授業時間外学修]

1. 授業内容に合わせて、事前にテキストの該当箇所を読み予習をする。また、前期の在宅看護概論 I で学修した関連箇所を復習する(1時間)。

2. 授業後、レジュメや資料・テキストを基に、授業内容について復習する。重要事項をノートに工夫して整理する(1時間)。

3. manabaの小テスト機能を利用した小テストを実施する。自己学習を行い(1時間)、小テストに臨む。小テストは、授業内容の理解を深めるための1つのツールとして活用しましょう。

[オフィスアワー]

授業終了後、教室または研究室

質問はmanabaで受け付ける他、メール・面談にも対応します。面談の場合は、事前にメールで予約してください。

菊池真弓 m-kikuchih@saku.ac.jp 5号館3階309、喜多村定子 s-kitamura@saku.ac.jp 5号館2階207

[実務経験のある教員等による授業科目]

看護師、介護支援専門員として、医療機関および在宅ケア施設の勤務経験をもつ教員が、その実務経験を活かした授業を展開します。

[アクティブラーニング]

○

[その他履修上の留意事項等]

本科目では、疾病や障がいをもちながら在宅療養をしている対象とその家族の生活を支える制度やシステム、看護の役割について学びます。3年次前期に履修する「在宅看護援助論」につながりますので、予習復習を入念に行い理解を深めていきましょう。

## 公衆衛生看護学概論/Introduction to Public Health Nursing

NS203P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

2年

2単位 後期

講義

必修

小林 恵子、細谷 たき子、征矢野 文恵、藤田 利恵子

[授業の概要]

公衆衛生看護の概念及び歴史と公衆衛生看護活動における活動対象、活動の場、それらに対応する看護職の役割を学ぶ。地域住民の健康を支えるための地域診断、行政における保健計画と保健師活動の実際、社会環境と健康課題、疾病予防と感染症等の危機管理健康管理、障害者支援の考え方等について概要を学び、公衆衛生看護への導入を図る。

[到達目標]

1. 公衆衛生看護の概念、活動モデル、歴史的経過を説明できる。
2. 人々の健康とライフステージ、生活の場、保健福祉サービスとの関連を理解できる。
3. 地域の人々の健康を維持し疾病や障害の発症や悪化を予防するための援助の方法を理解できる。
4. 地域ケアシステムを説明できる。
5. 公衆衛生看護活動の場である、行政、学校、産業における看護活動を理解できる。
6. 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の必要性、定義、実施方法を説明できる。

[学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連]

<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

[授業計画]

第 1 回 公衆衛生看護学とは(講義: 小林(恵))

- ① 公衆衛生看護とは(概念、コミュニティの定義、ソーシャルキャピタル)
- ② 地域看護と公衆衛生看護
- ③ 公衆衛生看護の対象(個人・家族・集団・地域)

第 2 回 ヘルスプロモーションと公衆衛生看護(講義: 小林(恵))

- ① プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション
- ② ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ
- ③ 健康格差とナッジ理論

第 3 回 公衆衛生看護活動の歴史と発展(講義: 細谷)

- ① 公衆衛生看護の歴史を学ぶ意義
- ② イギリス・アメリカの初期と現在の公衆衛生看護

- 護制度  
③日本の公衆衛生看護の歴史
- 第4回 日本の保健福祉サービスと保健師の活動（講義：細谷）  
①日本の社会保障制度 基本的人権、公的責任、権利擁護  
②県と市町村の保健福祉サービスと保健師の活動  
③行政保健師と職業倫理
- 第5回 地域の生活と健康を支える社会資源と組織活動（講義：細谷）  
①地域の組織活動：民生（児童）委員、食生活改善推進員、母子保健推進員、愛育会、保健補導員（長野県独自の組織）  
②地域の資源とネットワーク
- 第6回 公衆衛生看護の場Ⅰ（市町村における公衆衛生看護活動）（佐久市役所 保健師）  
佐久市の保健師活動の実際
- 第7回 公衆衛生看護の場Ⅰ（都道府県）（講義：小林（恵））  
都道府県における公衆衛生看護活動（ミニテスト）
- 第8回 地域診断と健康課題の把握（地元を知ろう）（講義：小林（恵））  
①地域診断の必要性  
②地域診断の定義と目的  
③地域診断の方法
- 第9回 公衆衛生看護の場Ⅱ（産業における公衆衛生看護活動）（講義：細谷）  
労働安全衛生法と産業保健活動
- 第10回 公衆衛生看護の場Ⅱ（産業保健）（講義：産業保健師）  
事業所における産業保健活動の実際
- 第11回 公衆衛生看護の場Ⅲ（学校における公衆衛生看護活動）（講義：小林（恵））  
①教育基本法、学校教育法、学校安全保健法等にもとづく学校保健活動
- 第12回 公衆衛生看護の場Ⅲ（学校保健）（講義：養護教諭）  
学校保健活動の実際と養護教諭の役割
- 第13回 わたしの住んでいる市・町・村の地域診断（グループワーク）  
地域診断課題の発表：地域の課題、強みのアセスメント  
（グループ担当：小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第14回 地方自治体の保健計画と保健事業における保健師の役割（講義：小林（恵））  
①保健計画策定プロセス  
②保健計画の評価
- 第15回 最終試験及び解説、まとめ（小林（恵）、征矢野、藤田）

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト 鳩野洋子他編著「第6版 公衆衛生看護学.JP」  
インターメディカル社

参考文献 「国民衛生の動向」2023/2024 厚生労働統計協会  
「国民の福祉と介護の動向」2023/2024 厚生労働統計協会

【成績評価の方法・基準】

筆記試験 (70%)

レポート (20%)

授業参加態度 (10%)

【課題に対するフィードバック】

授業中に発表し、その場でフィードバックを受けます。

【授業時間外学修】

・公衆衛生看護学に関連する公衆衛生学、社会福祉の基礎、保健福祉行政論等、すでに授業で学習した事項は確認してから授業に臨みましょう。

・シラバスを確認し、授業前には授業内容で該当する内容について、必ず教科書に目を通し、授業に臨みましょう。個人差はありますが、概ね30分程度は確保しましょう。

・地域アセスメントの作成は授業時間外に個人で取り組みます。8時間程度はかかります。

【オフィスアワー】

水曜日12:30-13:00

小林（恵）：k-kobayashi@saku.ac.jp 細谷：t-hosoya@saku.ac.jp

征矢野：f-soyano@saku.ac.jp

藤田：r-fujita@saku.ac.jp

藤田：r-fujita@saku.ac.jp

藤田：r-fujita@saku.ac.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

県や市町村、地域包括支援センター等で行政保健師として、また健診機関等において保健活動の経験が豊富な教員が担当します。

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

・公衆衛生看護の学習をきっかけに、ご自分やご家族の健康や暮らし、そして、住んでいる地域の環境や社会制度に関心を高めていただきたい。

・12月～1月にご自分の実家、もしくは現在住んでいる地域の特性について、地域診断を実施するので各市町村の公式HPや行政から各世帯に配布されている広報誌（人口構成、予算、行政方針、地域の社会資源が掲載されている）やパンフレットなどは情報源として役立つので活用してほしい。

在宅看護援助論  
地域看護援助論Ⅰ

NS204P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

3年

2単位 前期

講義・演習

必修

喜多村 定子、諏訪 達彦、成田 千春、辻 晃

【授業の概要】

長期療養者（脳血管疾患、難病、精神、小児、終末期）の生活実態を踏まえ、住み慣れた地域でその人らしい療養生活を支援していく方法論を、意思決定、自立・自律、家庭

にある物品の活用、医療と介護・福祉の連携・協働の橋渡しなどの観点から学修する。また、多職種・多機関と連携・協働（チームケア）しながら訪問看護における在宅療養者の看護過程の展開を通して、療養生活上の課題を家族全体の問題として捉え、家族や生活環境も視野に入れた看護計画の立案の仕方について学ぶ。

【到達目標】

1. 在宅看護が必要とされる背景、歴史、基盤となる制度、ケアシステムについて説明できる。
2. 在宅看護の対象である療養者とその家族の特徴について理解し、生活の場で行われる看護の役割について説明できる。
3. 保健・医療・福祉を中心とした多職種との連携・協働および看護の役割と継続性について説明できる。
4. 在宅看護の展開に必要な看護技術を理解し、在宅療養者とその家族に対する適切な看護援助の基本を修得する。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

【授業計画】

- 第 1 回 I. 在宅看護の基本（喜多村）  
1. 在宅看護が必要とされる背景（講義）
- 第 2 回 I. 在宅看護の基本（喜多村）  
2. 療養者の理解
- 第 3 回 I. 在宅看護の基本（喜多村）  
3. 訪問看護の利用について（講義）  
4. 訪問看護の役割
- 第 4 回 I. 在宅看護の基本（喜多村）  
5. 在宅療養者の状態・状況に合わせた看護
- 第 5 回 II. 在宅看護の実際（喜多村）  
1. 訪問時のマナー（講義・演習）
- 第 6 回 II. 在宅看護の実際（喜多村）  
2. 健康管理（講義・演習）
- 第 7 回 II. 在宅看護の実際（喜多村）  
3. 生活を支える在宅看護（講義）  
1) 食事・栄養の援助
- 第 8 回 II. 在宅看護の実際（喜多村）  
3. 生活を支える在宅看護（講義）  
2) 排泄の援助
- 第 9 回 II. 在宅看護の実際（喜多村）  
3. 生活を支える在宅看護（講義）  
3) 清潔の援助
- 第 10 回 II. 在宅看護の実際（喜多村）  
3. 生活を支える在宅看護（講義）  
4) 移動の援助
- 第 11 回 III. 在宅における医療的ケア（喜多村）  
1. 薬物療法  
2. 酸素療法、非侵襲的換気療法  
3. 膀胱留置カテーテル  
4. 腎臓・膀胱

- 第 12 回 III. 在宅における医療的ケア（喜多村）  
5. 中心静脈栄養法  
6. 褥瘡管理
- 第 13 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
1. 対象の理解（講義・演習）
- 第 14 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
1. 対象の理解（講義・演習 協同学習）
- 第 15 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
1. 対象の理解（講義・演習 協同学習）
- 第 16 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
1. 対象の理解（講義・演習 協同学習）
- 第 17 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
2. 情報に対するアセスメント（講義・演習 協同学習）
- 第 18 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
2. 情報に対するアセスメント（講義・演習 協同学習）
- 第 19 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
2. 情報に対するアセスメント（講義・演習 協同学習）
- 第 20 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
2. 情報に対するアセスメント（講義・演習 協同学習）
- 第 21 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
2. 情報に対するアセスメント（講義・演習 協同学習）
- 第 22 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
2. 情報に対するアセスメント（講義・演習 協同学習）
- 第 23 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
3. 看護計画（講義・演習 協同学習）
- 第 24 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
3. 看護計画（講義・演習 協同学習）
- 第 25 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
3. 看護計画（講義・演習 協同学習）
- 第 26 回 IV. 在宅看護過程（喜多村他）  
3. 看護計画（講義・演習 協同学習）
- 第 27 回 V. 訪問看護演習（喜多村他）  
1. 訪問マナー  
2. 健康チェック  
3. 看護過程事例療養者の訪問看護計画の実施・評価
- 第 28 回 V. 訪問看護演習（喜多村他）  
1. 訪問マナー  
2. 健康チェック  
3. 看護過程事例療養者の訪問看護計画の実施・評価
- 第 29 回 V. 訪問看護演習（喜多村他）  
1. 訪問マナー  
2. 健康チェック  
3. 看護過程事例療養者の訪問看護計画の実施・評価
- 第 30 回 領域別実習オリエンテーション（喜多村）

## 在宅看護援助論のまとめ

### 在宅看護論実習の概要

【テキスト・参考書・参考文献】

【テキスト】

尾崎章子, 佐野けさ美(2021). 地域・在宅看護論. 医歯薬出版株式会社.

尾崎章子. (2021). 地域・在宅看護実習ハンドブック. 中央法規.

【参考文献】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法・基準】

・筆記試験：70%

・看護事例の展開：30%

コメントを付して返却する。

【課題に対するフィードバック】

課題に対しては提出物の確認を行い、授業の中で学生にフィードバックしていく。

【授業時間外学修】

・授業内容に合わせて、事前にテキストの該当箇所を読み予習する。他科目で学修した事項は確認しておく。毎回60分は確保すること。

・授業後、復習をして重要事項をノートに工夫して整理する。毎回30分は確保すること。

・演習内容は在宅看護実習で必要な看護技術であるため、根拠を踏まえて実施できるように準備しておく。

【オフィスアワー】

授業終了後30分間、教室または研究室で質問等を受け付ける。

質問および面談の予約はメールで受け付けます。

喜多村定子 s-kitamura@saku.ac.jp 5号館2階207

【実務経験のある教員等による授業科目】

行政保健師あるいは看護師として、市町村保健センター、総合病院、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター等での勤務経験をもつ教員が、その実務経験を活かし授業を展開します。

【アクティブラーニング】

○

【その他履修上の留意事項等】

・本科目では、在宅看護に関する基礎的知識・技術・態度を学びます。在宅看護概論Ⅰ・Ⅱを含む他科目で学んだ知識・技術をもとに学修を進めていきますので、修得した知識を十分に活用していけるように予習・復習に力を入れましょう。

・在宅看護の対象は「生活者」です。疾病や障がいを持ちながら療養生活をしている「生活者」に提供する看護とはどのようなものか、看護を展開していくために何が必要かを一緒に学んでいきましょう。

## 公衆衛生看護活動展開論

### 地域看護援助論Ⅱ（地域健康支援）

NS205P

看護学部＞看護学科＞専門科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

3年

2単位 前期

講義・演習

自由

小林 恵子、細谷 たき子、征矢野 文恵、藤田 利恵子

【授業の概要】

対象者のライフサイクル、疾病・障害の特性、健康課題を理解し、地域で生活する人々の生活と健康を支援する保健師の役割と活動を学ぶ。また、人々の主体的な健康課題の解決を支援するため、個人／家族、小集団／地区組織、地域を対象とした公衆衛生看護過程の展開に必要な専門基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

1. 地域で暮らす個人・家族・集団の健康問題（課題）と生活、環境との関連を理解することができる。
2. 対象別（ライフステージ別、健康課題別）の保健の動向と公衆衛生看護活動について説明できる。
3. 公衆衛生看護活動における個人・家族・集団・地域への健康支援の方法と個人・家族・集団・地域的支援を連動させながら地域全体の健康水準を高めていく公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。
4. 公衆衛生看護活動の展開過程を理解し、地域診断や公衆衛生看護活動の評価方法を理解できる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

【授業計画】

- |        |                                                    |
|--------|----------------------------------------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス・公衆衛生看護活動の概念、特徴<br>講義 小林（恵）                   |
| 第 2 回  | 公衆衛生看護学に関連する理論<br>講義 小林（恵）                         |
| 第 3 回  | 個別的支援(1)家庭訪問<br>講義 小林（恵）                           |
| 第 4 回  | 個別的支援(2)新生児訪問①（アセスメント）<br>講義 小林（恵）<br>演習 征矢野、藤田、古畑 |
| 第 5 回  | 個別的支援(3)新生児訪問②（アセスメント）<br>講義 小林（恵）<br>演習 征矢野、藤田、古畑 |
| 第 6 回  | 健康相談<br>講義 征矢野                                     |
| 第 7 回  | 集団的支援(1)健康教育<br>講義 征矢野                             |
| 第 8 回  | 集団的支援(2)グループ・地域組織活動<br>講義 征矢野                      |
| 第 9 回  | 地域的支援(1)地域診断①<br>講義 小林（恵）<br>演習 小林（恵）、征矢野、藤田、古畑    |
| 第 10 回 | 地域的支援(2)地域診断②（アセスメント）                              |

- 講義 小林(恵)  
演習 征矢野、藤田、古畑
- 第 11 回 地域的支援(3)地域診断③(アセスメント)  
講義 小林(恵)  
演習 征矢野、藤田、古畑
- 第 12 回 母子保健活動(1)母子保健概論(理念・変遷・施策)  
講義 小林(恵)
- 第 13 回 母子保健活動(2)母子保健活動の実際(障害児)  
講義:小林(恵)
- 第 14 回 母子保健活動(3)児童虐待防止の取り組み  
講義:小林(恵)
- 第 15 回 成人保健活動(1)成人保健概論(理念・変遷・施策)  
講義 細谷
- 第 16 回 成人保健活動(2)成人保健活動の実際(特定保健指導、重症化予防)  
講義 古畑
- 第 17 回 成人保健活動(3)グループワーク(事例検討等)  
講義 古畑
- 第 18 回 高齢者保健活動(1)高齢者保健概論(理念・変遷・施策)  
講義 細谷
- 第 19 回 高齢者保健活動(2)介護予防活動  
講義 古畑 藤田
- 第 20 回 健康増進活動の実際(1)(栄養)  
講義 特別講師(佐久市健康づくり推進課)
- 第 21 回 健康増進活動の実際(2)(運動)  
講義 小林(恵)
- 第 22 回 国際保健活動  
講義 細谷
- 第 23 回 精神保健活動(1)概論(理念・変遷・施策)  
講義 細谷
- 第 24 回 精神保健活動(2)精神保健活動の実際  
講義 特別講師(長野県佐久保健所)
- 第 25 回 感染症保健活動(1)感染症保健活動(理念・変遷・施策)  
講義 細谷
- 第 26 回 感染症保健活動(2)感染症保健活動の実際  
講義 特別講師(長野県佐久保健所)
- 第 27 回 歯科保健活動  
講義 特別講師(佐久市健康づくり推進課)
- 第 28 回 難病保健活動  
講義 特別講師(長野県佐久保健所)
- 第 29 回 最終試験 解説  
小林(恵)、征矢野、藤田
- 第 30 回 地域診断・健康教育の実際(4年生発表) まとめ  
講義・演習:小林(恵)、征矢野、藤田

〔テキスト・参考書・参考文献〕

〔テキスト〕

荒賀直子他編著(2022).第5版 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル

厚生労働統計協会.国民衛生の動向

〔参考図書〕

E.T.アンダーソン他金川克子、早川和生監訳(2008).コミュ

ニティ・アズ・パートナー

松本千明.医療・保健スタッフのため健康行動理論の基礎(2002).医歯薬出版

行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践(2008).医歯薬出版

〔成績評価の方法・基準〕

1. 筆記試験(70%):内訳 授業での知識習得40%+国試問題30%

2. レポート(20%):家庭訪問、地域診断の演習で取り組む課題(授業中フィードバック)

3. 授業参加態度(10%):グループワークなど演習の参加態度、リアクションペーパー

〔課題に対するフィードバック〕

授業中にフィードバックを受ける。

〔授業時間外学修〕

授業の内容を事前にシラバスで確認し、テキストを読んできてください(個人差はあるが、毎回概ね30~60分程度)。公衆衛生学、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、健康管理と生活習慣などすでに他科目の授業で学習した事項を復習してから授業に臨んでください。

〔オフィスアワー〕

○小林恵子/随時、メールやmanabaでも質問を受けます。

小林恵子:k-kobayashi@saku.ac.jp、

細谷たき子:t-hosoya@saku.ac.jp、征矢野文恵:f-soyano@saku.ac.jp、

藤田利恵子:r-fujita@saku.ac.jp、古畑洋子:y-furuhata@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

本科目を担当する教員は行政、地域包括支援センター、健診機関における公衆衛生看護の実務経験があり、その経験を活かし、理論と実践を結びつけながら授業を行う。また、現在、実務に携わっている特別講師からは実践的な授業を行う。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

地域包括ケア論

地域看護システム論(看護のみ)

CS301P

看護学部>看護学科>専門科目>保健師国家試験受験資格取得要件科目  
4年

1単位 前期

講義

必修

征矢野 文恵、細谷 たき子、藤田 利恵子

〔授業の概要〕

日本における地域包括ケアシステムの理念、背景、動向、歴史および諸外国におけるコミュニティケアの理念や政策について理解をする。地域医療の先進地域である佐久地域における地域包括ケアシステムの事例を通して、人々の健康の保持増進、疾病の予防、療養、病気からの回復、在宅での看取り、誕生と成長を支援するために、多職種や住民

と連携・協働して住民の健康と生活を支えるケアマネジメントおよび地域の課題解決に向けた取り組みについて学び、住民の自助と互助を基盤とした地域共生社会の実現に向けた看護・保健・福祉の専門職の役割を考える。

〔到達目標〕

1. 地域包括システムの理念、背景、動向、歴史について説明することができる。
2. 外国におけるコミュニティケアの理念や政策について説明できる。
3. ケアマネジメントの理念、目的、について説明できる。
4. 地域包括ケアシステムにおける地域の課題解決の方法について理解できる。
5. 地域包括ケアシステムにおける多職種や住民と連携・協働による包括的支援体制と看護・保健・福祉の専門職の役割について理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 日本における地域包括システムの理念、背景、動向、歴史および諸外国におけるコミュニティケアの理念や政策（野口）  
地域包括ケアシステムの理念、構造、背景、動向、歴史、諸外国におけるコミュニティケアについて学ぶ（講義）
- 第 2 回 介護保険制度に基づく地域包括ケアシステムと地域ケア会議（征矢野）  
①介護保険制度に基づく地域包括ケアシステムについて学ぶ  
②介護予防対策のケアシステムの理念と、地域包括支援センターの役割を学ぶ  
③佐久地域の地域包括ケアの実践事例から学ぶ（講義）
- 第 3 回 精神障害者に対する地域包括ケアシステムとケアマネジメント（細谷）  
①精神障害者に対する地域包括ケアシステムについて学ぶ  
②認知症者に対する地域包括ケアシステムについて学ぶ  
③佐久地域の実践事例から学ぶ（講義）
- 第 4 回 さまざまな障害と生活困窮を抱える人に対する地域包括ケアシステムとケアマネジメント（脇山）  
①地域で生活する障害のある人と家族への支援システムについて学ぶ  
②生活困窮者に対する地域生活支援システムについて学ぶ  
③地域包括システムにおける地域の課題解決に向けた視点・方法について学ぶ（地域づくり、資源開発、政策形成）（講義）
- 第 5 回 地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントとは（征矢野）

生活と健康を支える個別支援計画やケアプランを通して、地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントについて学ぶ（講義）

第 6 回 地域包括ケアシステムとケアマネジメント（征矢野/藤田/木下）

①事例検討を行う（演習）

・介護予防、退院調整、認知症、精神障害者、障害児、生活困窮者等

②演習の進め方、検討書式等についてオリエンテーション

③グループ分け（司会者、記録者）

第 7 回 地域包括ケアシステムとケアマネジメント（征矢野/藤田/木下）

事例について情報を共有し事例検討を行う（演習）  
話し合いの視点

①多職種連携や住民との連携・協働どのようにされているか

②本人・家族・地域に対してどのような課題、問題があるか

③看護・保健・福祉の専門職はどのような関わりや役割をしているか

第 8 回 まとめ・発表（征矢野/藤田/木下）

・各グループ発表および質問

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考書：『国民衛生の動向2023/2024』厚生労働統計協会、『国民の福祉と介護の動向2023/2024』厚生労働統計協会、他、購入は義務付けない。授業内で必要に応じて参考資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

・定期試験：70％ ・課題レポート：20％ 事例検討参加態度：10％

〔課題に対するフィードバック〕

1. レポートは事例検討演習および授業を通して以下の2課題について自身の考えを述べる。

1) 課題

① 地域包括ケアシステムにおける多職種や住民と連携・協働による包括的支援体制と看護・保健・福祉の専門職の役割について

② 地域包括ケアシステムにおける地域の課題解決に向けた支援について

2) レポートの書き方

① 11ポイント、40文字×40行 A41枚以上 1600字～2000字

② 題をつける

③ 生成AIやネットからの情報の直接コピペは認めない（引用文はルールに則って明記する）。

④ manaba上で提出する。

3) 課題レポートはコメントをして定期試験終了時に返却する。

2. 定期試験の範囲はすべての講義内容とする。

〔授業時間外学修〕

1. 授業時間内のグループワークが必要となります。

・グループは看護学部と人間福祉学部の混成グループ

2. これまでに学習した医療・保健・福祉制度サービスや多職種連携に関する知識を積み上げていくため、授業内容に

合わせて、地域包括ケアに関する事前学習をする。(1時間)  
3. 授業後、レジュメや資料を基に、授業内容について復習し、特に、重要事項をノートに工夫して整理する。(1時間)  
〔オフィスアワー〕

授業終了後、教室またはメール・面談にも対応します。面談の場合は、事前にメールで予約してください。

征矢野：f-soyano●saku.ac.jp 藤田：r-fujita●saku.ac.jp 木下：a-kinoshita●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

地域包括支援センターや在宅ケアサービス事業所、病院、行政を経験した教員が、その実務経験を活かした授業を展開します。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

1. これまでの学びを統合・発展させるために事例演習を実施します。諸外国・日本の地域の支援システムの理解を深めることを期待します。

## 公衆衛生看護援助・管理論 地域看護援助論Ⅲ（地域健康支援システム）

NS206P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
4年  
2単位 通年  
講義・演習  
選択必修

小林 恵子、細谷 たき子、征矢野 文恵、藤田 利恵子

〔授業の概要〕

実習市町村の地域診断を通して、地域診断の実践に必要な基本的技術を学ぶ。家庭訪問、集団健康教育の演習を通して、公衆衛生看護活動における基本的支援技術を習得する。地域の健康水準を高めるための公衆衛生看護管理の目的・構造・機能を学ぶ。事例検討を通して公衆衛生看護活動の方法と保健師の役割を学ぶ。

〔到達目標〕

1. 既存資料や地区視診による地域のアセスメント、健康課題の抽出、対策の検討を通して、実習市町村の特性や健康施策の理解を深めるとともに、保健事業の施策化のプロセスを理解する。
2. 地域特性を踏まえた健康教育、健康相談、家庭訪問の技法と基礎的实践力を身につける。
3. 保健師に必要な組織運営・管理、人事管理、情報管理、予算管理、業務管理など、保健師が専門職としての必要な公衆衛生看護管理、および健康危機管理について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション／公衆衛生看護活動とその展開方法  
オリエンテーション、自己紹介：授業の進め方、内容、スケジュール、実習との連動（ガイダンス）

- 公衆衛生看護活動とその展開方法（講義）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 2 回 地域アセスメント①  
地域アセスメントの必要性、方法について（講義・演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 3 回 地域アセスメント②  
地域アセスメントの実際（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 4 回 地域アセスメント③  
健康データの分析（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 5 回 地域アセスメント④  
地区踏査の計画（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 6 回 地域アセスメント⑤  
地区踏査のまとめ（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 7 回 地域アセスメント⑥  
健康データの分析・地域診断のまとめ（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 8 回 地域アセスメント⑦  
地域診断発表資料の作成（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 9 回 地域アセスメント⑧  
地域診断の発表・修正（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 10 回 健康教育①  
健康教育の企画書、指導案作成（講義、演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 11 回 健康教育②  
健康教育シナリオ、教材作成（講義、演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 12 回 健康教育③  
健康教育シナリオ、教材作成（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 13 回 健康教育④  
健康教育シナリオ、教材作成（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 14 回 健康教育⑤  
健康教育シナリオ、教材作成（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 15 回 健康教育⑥  
健康教育発表（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 16 回 健康教育⑦  
健康教育：評価・修正②（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 17 回 特定保健指導①  
特定保健指導 指導計画作成とロールプレイ（演習）  
（小林（恵）、細谷、征矢野、藤田、古畑）
- 第 18 回 特定保健指導②

- 特定保健指導 ロールプレイ、振り返り(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第19回 家庭訪問①  
家庭訪問計画の立案(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第20回 家庭訪問②  
乳児発育発達測定(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第21回 家庭訪問③  
家庭訪問ロールプレイ(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第22回 家庭訪問④  
家庭訪問ロールプレイ、振り返り、まとめ(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第23回 家庭訪問⑤：精神障害者の家庭訪問事例検討  
精神障害者の家庭訪問事例検討(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第24回 家庭訪問⑥：精神障害者の家庭訪問事例検討  
精神障害者の家庭訪問事例検討(演習)  
(小林(恵)、細谷、征矢野、藤田、古畑)
- 第25回 公衆衛生看護管理①：公衆衛生看護管理とは(後期)  
小林(恵)(講義)
- 第26回 公衆衛生看護管理②：保健師の人材育成、キャリアラダー(後期)  
小林(恵)(講義)
- 第27回 健康危機管理(災害保健活動)①(後期)  
小林(恵)(講義)
- 第28回 健康危機管理(災害保健活動)②(後期)  
小林(恵)(講義)
- 第29回 公衆衛生看護学(まとめ)①(後期)  
(小林(恵)、細谷、征矢野)(講義)
- 第30回 公衆衛生看護学(試験・まとめ)②(後期)  
(小林(恵)、細谷、征矢野)(講義)

[テキスト・参考書・参考文献]

テキスト：

- ・荒賀直子他，編著(2022).公衆衛生看護学.Jp 第5版データ更新版.インターメディカル社
- ・厚生労働統計協会.国民衛生の動向2022/2023

参考文献：

- ・公衆衛生看護学概論及び公衆衛生看護活動展開論で使用した参考書、各市町村のホームページ

[成績評価の方法・基準]

1. 筆記試験(50%)
2. 家庭訪問演習(10%)：家庭訪問計画書
3. 健康教育演習(15%)：①健康教育企画書、②媒体、③健康教育の発表
4. 地域診断演習(15%)：①地域診断の各様式、②地域診

断の発表

5. 授業参加態度(10%)：演習の参加態度

[課題に対するフィードバック]

健康教育、地域診断の発表については、授業内でフィードバックを受ける。

提出物についてはコメントが付され返却を受ける。

[授業時間外学修]

1. 公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動展開論を中心に関連する内容を復習しておくこと。(1時間)
2. 地域診断：地域診断に必要な資料検索・収集、演習の事前・事後課題に取り組む。(16時間)
3. 保健指導・家庭訪問：演習に必要な知識の学習、演習に向けて事例のアセスメント・計画の作成に取り組む。(4時間)
4. 健康教育：担当するテーマ(疾患等)についての事前学習、発表に向けた準備(シナリオ作成、媒体準備、デモンストレーション等)を行う。(16時間)
5. 復習：教科書の該当ページを読み、要点を整理する。(4時間)

[オフィスアワー]

メールやmanabaでは随時質問を受けます。時間予約をして研究室来訪による質問も可能です。

[実務経験のある教員等による授業科目]

行政(県・市町村)、地域包括支援センター、健診機関において、公衆衛生看護の実務経験が豊富な教員が実践を生かした授業を行う。

[アクティブラーニング]

○

[その他履修上の留意事項等]

在宅看護論実習

在宅・地域看護学実習

NS207P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

3年

2単位 後期

実習

必修

喜多村 定子、大淵 律子、征矢野 文恵、藤田 利恵子

[授業の概要]

疾病や障がいもちながら(あるいは介護予防、重症化予防しながら)地域で暮らす療養者と家族の特性を理解するとともに、両者のニーズを見出し、意向を尊重して展開する訪問看護の知識と態度を養う。また、地域包括ケアシステムや地域共生社会、継続看護の視点から、多職種連携・協働(チームケア)し機能する看護職の役割を学ぶ。

[到達目標]

1. 在宅療養者とその家族について、多面的及び統合的に理解することができる。
2. 療養者とその家族の自己決定権を尊重し、その人らしい生活を支援するための訪問看護活動の実践ができる。

3. 療養者とその家族の生活を支える地域包括ケアシステムや保健医療福祉チームにおける看護

師の役割を理解できる。

4. 看護学生としての責任を自覚し、在宅看護論実習に臨むことができる。

[学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連]

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

[授業計画]

[実習方法]

在宅療養者を1名受持ち、看護過程を用いて受持ち療養者の訪問看護計画を立案する。

立案した訪問看護計画は、臨地指導者の下実施し振り返る。

[実習場所 実習日数 学びの内容]

①訪問看護ステーション（6.5日）

・訪問看護師に同行し、地域・在宅療養者に対する在宅看護の実際を学ぶ。

・訪問や施設でのミーティング、サービス担当者会議などへの参加を通して

看護師の役割について学ぶ。

②地域包括支援センター（1日）

・地域包括支援センターの組織や機能、在宅ケアとの連携の実際を体験する。

・地域住民が健康で尊厳のある生活を送るための活動を理解し、保健師・看護師の

役割と多職種協働について学ぶ。

③訪問診療部門（0.5日）

・訪問診療へ同行し、在宅ケアチームにおける多職種連携・協働の実際を体験する。

・訪問診療における看護師の役割を学ぶ。

<学内実習>（2日）

・実習への準備

・受持ち療養者の訪問看護計画の立案

・実習のまとめ

[実習期間] 2週間

[実習施設] 2024年度 在宅看護論実習要項 参照

[テキスト・参考書・参考文献]

テキスト：地域・在宅看護論．尾崎章子，佐野けさ美，医歯薬出版株式会社，2021．

地域・在宅看護実習ハンドブック．尾崎章子，中央法規，2021．

[成績評価の方法・基準]

2023年度 在宅看護論実習要項 参照

[課題に対するフィードバック]

提出された課題に対しては、コメントを記入して各学生にフィードバックする。

[授業時間外学修]

関連科目の講義内容を復習するとともに、在宅・地域看護論実習の事前学習課題について

十分に学修する。実習中の自己学修の時間は1時間、翌日の実習準備時間は30分は確保することが望ましい。

[オフィスアワー]

学内日・随時メールで対応します。

[実務経験のある教員等による授業科目]

行政保健師あるいは看護師として、市町村保健センター、保健所、総合病院、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター等での勤務経験をもつ教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。

（喜多村定子他）

[アクティブラーニング]

[その他履修上の留意事項等]

・本実習では、様々な健康状態やそれぞれの環境で生活する在宅療養者とその家族に関わり、対象者を主体としたケアのあり方を学びましょう。また、在宅ケアを支えるケアシステムも理解しましょう。

・様々な保健医療福祉の場で活躍する看護職（保健師、看護師）と在宅ケアチームとの連携のあり方を現場から積極的に学びましょう。

---

## 公衆衛生看護学実習 地域看護学実習

NS208P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

4年

3単位 後期

実習

選択必修

小林 恵子、細谷 たき子、征矢野 文恵、藤田 利恵子

---

[授業の概要]

公衆衛生看護が展開される保健所、学校、産業の場の特性と公衆衛生看護活動の特徴、それぞれの場における保健師や養護教諭の役割を学ぶ。また、広域的な保健システムと機関レベルで行われる連携を学び、多様な専門職、関係機関、地域の人々と協働できる基本的能力を培う。

[到達目標]

1. 広域のかつ専門的な保健福祉の専門機関としての保健所、精神保健福祉センター、児童相談所が実施する保健福祉事業・活動と広域的な保健福祉システム、そこでの保健師の役割を説明できる。

2. 感染症、難病、災害などの健康危機の予防と対応など、専門的な対応が必要な健康課題について、保健所が国や市町村と連携して行う活動の内容と保健師の役割を説明できる。

3. 学校における保健活動の特徴や健康支援方法と養護教諭の役割について理解する。

4. 産業における保健活動の特徴や健康支援方法と保健師の役割を理解する。

[学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連]

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 6、<看>DP 7

### 〔授業計画〕

実習方法：

- 1) 保健所、児童相談所、精神保健福祉センターでの保健事業の参加・見学
- 2) 産業保健・学校保健の現場での実習・見学
- 3) 学校保健の現場での実習・見学

実習施設：

- 1) 佐久保健所、上田保健所、長野県中央児童相談所、長野県精神保健福祉センター
- 2) ミネベアミツミ軽井沢工場
- 3) 佐久市内小中学校

実習期間：2024年9月17日（月）～10月18日（金）のうちの2週間

※詳細は実習要項参照

### 〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト・参考文献：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動展開論、公衆衛生看護援助・管理論、公衆衛生学、保健医療福祉行政論で使用したテキストや資料

### 〔成績評価の方法・基準〕

実習における主体的な態度 35%

実習記録 50%

課題レポート 15%

### 〔課題に対するフィードバック〕

実習記録、レポートにコメントを入れて返却し、フィードバックを行う。

### 〔授業時間外学修〕

授業内で指示する。

### 〔オフィスアワー〕

学内実習日、実習終了後、または随時メール、manabaにて受け付ける。

### 〔実務経験のある教員等による授業科目〕

県庁・保健所、市町村、地域包括支援センター等で行政保健師としての実務経験をもとに、感染症、難病、精神保健等の保健活動、健康危機管理、広域的な保健福祉システム等の実習での学びを授業での知識と統合できるよう指導する。

(小林恵子、細谷たき子、征矢野文恵、藤田利恵子)

### 〔アクティブラーニング〕

○

### 〔その他履修上の留意事項等〕

## 看護総合実習/Comprehensive Nursing Practicum 看護総合実習/Comprehensive Nursing Practicum

NS302P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

4年  
4単位 前期  
実習  
必修

成田 千春

### 〔授業の概要〕

これまでの履修科目での学びを統合した実習を行う。授業や実習で学んだ看護の知識と技術を総合的に応用し、臨地に即した看護実践能力を高める。多様な健康レベルの地域生活者に対して、援助活動を継続する際の看護の役割を探究し、多職種と協働できる基本的な実践能力を養う。

### 〔到達目標〕

1. 看護専門職者としてのプロフェッショナルリズムを身につけることができる。
2. 臨地の看護状況の特徴を把握し、問題解決に向けた看護が実践できる。
3. 看護実践の場において、各専門職と連携・協働における看護職の役割が理解できる。
4. 人々が地域で自分らしく生活するための支援を提案できる。

### 〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP1、<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP5、<看>DP6、<看>DP7

### 〔授業計画〕

#### 1. 実習方法

基礎総合看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学のいずれかの実践の場において、実習目標を総合的に達成する実習課題と実習計画を学生が主体的に設定して実習する。

具体的には、3年次2月の看護総合実習全体オリエンテーションで、各領域から提示される実習要項をもとに、希望領域でどのような実習を行いたいかを考え、第4希望までを所定の用紙に記入し期日までに提出する。学生の希望をもとに実習施設に関する配置等を決定し、各学生に実習領域を発表する。学生は配属になった領域担当教員と相談し、各自の実習計画に沿って主体的な学習をする。

但し、保健師国家試験受験資格取得要件科目履修者は、公衆衛生看護学（市町村における地域健康支援実習）とする。

#### 2. 実習期間

2024年7月1日～8月2日までの間で各領域が定める4週間

#### 3. 実習施設

各看護学実習施設及び関連施設

※詳細は看護総合実習全体オリエンテーションで配付される各領域の実習要項を参照のこと。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：使用しない。

参考文献：領域の専任教員が紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

実習要項に記載する方法・基準で、2024年度看護総合実習評価表を用いて評価する。

〔課題に対するフィードバック〕

提出された実習に関する記録物は、担当した教員がコメントをして返却する。

〔授業時間外学修〕

既習科目及び実習についてふりかえり、必要な知識や看護技術について十分復習しておくこと。

実習する領域ごとに実習方法や実習期間が異なるので、事前に掲示される連絡事項や各領域の実習前オリエンテーションの内容には細心の注意をして実習準備をすること。

〔オフィスアワー〕

領域ごとのオリエンテーションで知らせる。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

各領域の全専任教員が実習指導を担当する。

保健師・看護師としての臨地での実務経験のある教員が実習指導を担当する。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

関心のあるテーマを選んで取り組む4週間の実習です。既に学んだ知識や技術を統合して臨むことが求められるこの実習は、少人数のグループに分かれて実施します。看護に携わるプロフェッショナルとして社会に一步踏み出す前の実習として、担当教員に相談しながら、どのような実習にしたいか・何ができるか等、自分自身の課題を具体的に考え、目的と目標を明確にして臨みましょう。

看護学研究/Nursing Research  
看護学研究/Nursing Research

NS303P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
4年  
2単位 通年  
演習  
必修

吉岡 恵、武田 貴美子、櫻井 綾香

〔授業の概要〕

これまでの学修や実習、自身の経験の中で、疑問に思ったことと関心のあることについて、看護の視点から問題を分析、探求し、論理的に考え、説得力のある説明や改善案を示すことができる基礎的能力を身につける。また、この過程を通して、自律的に学修する態度を身につけ、より良い看護を探求し、課題解決の能力を向上させ、将来的な看護研究活動の基盤をつくる。

〔到達目標〕

- 1. 関心のある看護現象から研究テーマを決めることができる(研究の動機)。
- 2. 研究テーマに関連する文献を収集し、クリティークがで

きる(文献検討)。

3. クリティークをもとに、研究テーマの背景を述べることができる(研究背景)。

4. 研究の必要性について述べることができる(研究の意義)。

5. 研究目的と課題(リサーチクエスション)を明確に表現できる。

6. 研究目的に沿った研究方法を考えられる(研究方法)。

7. 研究を進めるうえでの倫理的配慮を考えられる。

8. 看護研究の意義とプロセスを理解することができる。

〔学位授与方針(ディプロマポリシー: DP)との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 2、<看>DP 3、<看>DP 4、<看>DP 5、<看>DP 7

〔授業計画〕

1-28回

各領域、担当教員の指導のもと、研究計画書を作成する。それぞれの領域、担当教員の指導のもと、ゼミナール形式で進めていきます。

配置される看護領域および担当教員によって、看護学研究の進め方は若干異なります。

関心のある看護現象の明確化

研究テーマの設定

文献検討

※図書館司書による「文献検索の方法」を開催予定です。

研究方法

倫理的配慮

研究計画書および研究計画概要の作成

29～30回

プレゼンテーション

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：2年次「看護研究方法」で使用したもの

参考文献：担当教員にお尋ねください。

〔成績評価の方法・基準〕

研究計画書作成までの各ステップにおける取り組み状況と自主的かつ自律的な学修行動について、ルーブリックを用いて評価します。

学生が自己評価をした結果を考慮し、担当教員が最終評価をします。

〔課題に対するフィードバック〕

ゼミでは、各自が学修してきた内容をもとに担当教員からフィードバックがなされ、課題が課されます。

〔授業時間外学修〕

自律的に学修を進めていくことが求められます。

この科目は、2単位30時間の内容です。

ゼミナール(授業)と自己学習時間として、週に2コマ(3時間)の学習が求められます。

研究計画書の作成に向けて、具体的に計画を立てて、進めてください。

〔オフィスアワー〕

吉岡恵 m-yoshioka@saku.ac.jp 5号館2階210

櫻井綾香 a-sakurai@saku.ac.jp 5号館2階207

成田千春 c-narita@saku.ac.jp 5号館2階209

石坂俊也 t-ishizaka@saku.ac.jp 1号館3階1334

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護学で研究や実務経験のある教員が担当します。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

基本、個人またはグループでのゼミナール形式で展開します。2年次の看護研究方法をよく復習しておきましょう。

研究計画書(6枚)と研究計画概要(1枚)をまとめて、期日までに提出してください。

その内容は、発表会でプレゼンテーションします。

4月のガイダンスに「看護学研究の手引き」を配布し、オリエンテーションをします。

各自、看護学研究の進め方、計画書の書き方、提出方法をよく読み、手引きにしたがって進めてください。

研究計画書の提出や発表会については、前期終了時期にオリエンテーションをします。

オリエンテーションには、必ず出席してください。

進め方、執筆方法、提出方法、発表方法など困ったときには、科目責任者、科目担当者、担当教員にお尋ねください。

災害看護論/Disaster Nursing

NS230P

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
4年  
1単位 前期  
講義  
必修

喜多村 定子、辻 晃、岩崎 春江

〔授業の概要〕

災害が人々の日常生活と健康に及ぼす影響について学び、災害時に人の尊厳を確保して命や健康をまもり、身体的、社会的、心理的側面から支援する看護の役割を理解する。さらに将来、災害看護を实践できる看護者として、地域防災における看護の役割についても学ぶ。

〔到達目標〕

1.災害時に発生する人々のニーズと健康問題を理解し、災害サイクルに伴い被災者にもたらす

急性期、中・長期における身体的、心理的、社会的な影響と看護職が果たす役割について

説明できる。

2.災害への備えとして、自助・共助・公助の意味と具体策について説明できる。

3.災害発生時、複合災害への医療対応及び避難生活の特性について説明できる。

4.コロナ禍での病院および地域における看護の役割について学ぶ。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP2、<看>DP3、<看>DP4、<看>DP6、<看>DP7

〔授業計画〕

第 1 回 1. 災害の基本（講義/喜多村）

1) 災害看護とは

(1) 災害看護の定義 (2) 災害と倫理

第 2 回 2. 災害の種類と健康被害（講義/喜多村）

1) 災害の種類と被害・疾病の特徴

2) 災害関連死

第 3 回 3. 災害時の支援体制（講義/喜多村）

1) 災害時の情報収集と伝達

2) 災害医療体制

第 4 回 4. 配慮を必要とする人への看護 5. 被災者と支援者の心理の理解と援助（講義/喜多村）

第 5 回 6. 災害医療活動（講義・演習/喜多村）

1) 災害サイクル

第 6 回 6. 災害医療活動（講義・演習/喜多村）

2) 体系的対応の基本原則

(1) トリアージ (2) 応急処置・治療 (3) 感染対策

第 7 回 6. 災害医療活動（講義・演習/喜多村）

2) 体系的対応の基本原則

(1) トリアージ (2) 応急処置・治療 (3) 感染対策

第 8 回 6. 災害医療活動（講義・演習/喜多村）

2) 体系的対応の基本原則

(1) トリアージ (2) 応急処置・治療 (3) 感染対策

第 9 回 6. 災害医療活動（演習/喜多村他）

地震災害時のトリアージ

第 10 回 6. 災害医療活動（演習/喜多村他）

地震災害時のトリアージ

第 11 回 7. 避難所での看護活動（講義/喜多村）

1) 避難所の定義と課題

2) 避難所における看護職者の役割と看護活動の実際

第 12 回 8. 災害時の備えと看護の役割 9. 災害に関する法律

第 13 回 ○発災直後の看護支援（講義/外部講師）

第 14 回 ○病院における防災対策と災害発生時の体系的対応について（講義/外部講師）

第 15 回 10. こころのケア（講義・演習/喜多村）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：酒井明子，増野園恵（2023）. 災害看護 改定第4版. 南江堂.

その他、プリント教材を使用

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験：50%

演習レポート：30%

課題レポート：20%

〔課題に対するフィードバック〕

演習レポートおよび課題レポートには、コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

テキスト及び講義資料を用いて、学習したことを整理し復習しておくこと。毎回30分確保すること。

次回授業の章を必ず読んで理解しておく。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受けつける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として総合病院に勤務。医療機関での防災活動、災害時の活動、災害時の心のケア研修などの実務経験をもとに災害看護について講義する。

〔アクティブラーニング〕

〔その他履修上の留意事項等〕

将来、看護職者として災害医療に携わることを意識し、本授業に取り組めることを期待する。

看護情報論/Nursing Informatics

NS233W

看護学部 > 看護学科 > 専門科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目

3年  
1単位 前期  
講義  
選択

中嶋 智子、小林 恵子

〔授業の概要〕

AIなど急速に進展する情報社会の中で、保健医療分野を支える多職種が産み出す情報が、共有・集約・活用されている現状について理解する。看護に必要な情報を適正・適切に扱うための方法や倫理を学び、情報管理の原則を理解する。また、信頼性ある情報源を選択し活用する手法を学修するとともに、看護場面でコミュニケーションを深めるための情報通信技術（ICT）の基礎力を養う。

〔到達目標〕

医療で扱う情報を倫理的、法的、社会的課題（ELSI）の視点も含めて幅広く理解できる

- (1) 情報の特性について理解でき、信頼性の高い情報を取捨選択できる。
- (2) 情報の受け手に配慮した情報発信の必要性が理解できる。
- (3) 多職種連携における看護情報の発信者としての自覚ができる。
- (4) 患者の個人情報扱う看護職の責務と倫理的課題がわかる。また、情報漏洩時の社会的影響について考えられる。
- (5) 災害時における情報管理の要点がわかる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

<看>DP 1、<看>DP 3、<看>DP 6

〔授業計画〕

- 第 1 回 コースガイダンス/情報とは何か（中嶋）
- 第 2 回 看護におけるデータや情報の特徴（中嶋）
- 第 3 回 保健師が活用する統計とデータの可視化（小林）
- 第 4 回 看護に必要な情報リテラシー（中嶋）  
インターネット検索演習あり  
小課題：e-statを活用した医療・保健・介護に関するデータのグラフ化
- 第 5 回 看護職に求められる情報倫理：プライシーと守秘義務（中嶋）  
グループワーク：臨地実習における患者情報の取り扱い
- 第 6 回 看護用語の標準化と多職種連携（中嶋）

第 7 回 医療情報システムと遠隔医療（中嶋）

第 8 回 災害等の健康危機における情報管理（中嶋）/まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：太田勝正,前田樹海編. エッセンシャル看護情報学 2024年度版. 医歯薬出版

参考文献：

嶋野洋子,神庭純子編. 公衆衛生看護学第6版. インターメディカル(2024)

厚生労働省.医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス.(2017,2023一部改正) <https://www.mhlw.go.jp/content/001120905.pdf>

〔成績評価の方法・基準〕

授業資料の事前読了（ダウンロード）10%

小課題 25%

毎授業後のRespon 25%

課題レポート 40%

〔課題に対するフィードバック〕

質問や課題に関して授業内でコメントを返します。

希望があれば個別にフィードバックします。

〔授業時間外学修〕

次の授業範囲に該当する章を必ず読み理解しておいてください。

毎授業につき、30分～1時間程度の予習復習を要します。

〔オフィスアワー〕

授業終了後の教室または下記のメールで受けつけます。

t-nakajima@saku.ac.jp（●を@に変えてください）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

臨床現場の看護管理職として、病院総合情報システム管理と教育に従事した経験があります。

〔アクティブラーニング〕

○

〔その他履修上の留意事項等〕

授業資料は印刷しませんので、manabaから事前にダウンロードして下さい。